

科目名	北河内を知る	科目名 (英文)	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也, 小林 基
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: A○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01453a1, L科: LL01355a1, D科・S科: IL01362a1, P科: YL01418a2, J科: JL01364a1, W科: WL01343a1, N科: NL01344a1		

授業概要・目的	<p>摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の市町村の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から、地方自治体の現状と課題をグループディスカッションを行いながら学び、地域との関わり方を考える。</p> <p>授業では、自らが問題意識や疑問をもちながら地域の現状を分析し、多くの疑問点（質問）をだすこと。さらに疑問点（質問）に優先順位をつけ、それに基づいた学修・調査・研究を行うことのトレーニングを行う。</p> <p>またグループワークで互いに議論しながら、ひとつの方向性を見出す大切さを経験する。</p> <p>この授業は授業担当者として、北河内7市の「行政実務者」が担当する。</p>
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、まちづくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。さらに地域における課題を発見し解決できる能力に必要な「考える力、判断する力、表現する力」を身につける。
授業方法と留意点	北河内地域の市町村の行政実務者を学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「質疑」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。
科目学習の効果（資格）	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 9月10日(土) 1限	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ	事前課題: 北河内について調べる(30分) 事後課題: 授業の進め方について確認する(30分)
2	チームビルディング 9月10日(土) 2, 3限	チームをつくり、相互理解を深める。	事前課題: チームでの取組が円滑に行くにはどのようなことが大切か考える。 事後課題: チームビルディングの成果をまとめる(30分)
3	北河内地域に関する講演 9月24日(土) 1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
4	北河内地域に関する講演 9月24日(土) 2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
5	グループワーク・プレゼンテーション 9月24日(土) 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
6	北河内地域に関する講演 10月1日(土) 1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
7	北河内地域に関する講演 10月1日(土) 2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
8	グループワーク・プレゼンテーション 10月1日(土) 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
9	北河内地域に関する講演 10月22日(土) 1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
10	北河内地域に関する講演 10月22日(土) 2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
11	グループワーク・プレゼンテーション 10月22日(土) 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する。	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
12	北河内地域に関する講演 11月19日(土) 1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
13	グループワーク・プレゼンテーション 最終発表会について 11月19日(土) 2限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する。 また、最終発表会についての説明を行う。	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
14	最終発表会 12月3日(土) 1限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う(10時間)
15	最終発表会 12月3日(土) 2限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う(10時間)

関連科目 ソーシャルイノベーション副専攻科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	個人レポートの評価(40%)、グループごとの聴講および討議の態度のルーブリック評価(30%)、グループワークの成果物(30%)。欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「0」とする。			
学生への メッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？			
担当者の 研究室等	増田知也(法学部・法律学科) 11号館10階			
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。			

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名 (英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: A○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01454a1, L科: LL01356a1, D科・S科: IL01363a1, P科: YL01419a2, J科: JL01365a1, W科: WL01344a1, N科: NL01345a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、以下の4点のようになることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。 2) ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことを理解する。 3) グローバル社会において必要とされるビジネス実務ならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。 4) 変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを發揮する自らの職業観を確立する。 <p>なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO法人での業務及び高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs-9</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身につける必要性を学ぶ。 2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化 (多様性) を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。 			
授業方法と留意点	<p>第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。</p> <p>また、座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行うこともある。</p>			
科目学習の効果 (資格)	<p>2019年度以前の入学生においては、「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。</p>			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 自己紹介の原案を考えること (2時間) ・事後学修: 「ビジネスのイメージは?」というテーマでルールを守って自由に書くこと (2時間)
	2	ビジネスの定義	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返される理由について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること (2時間) ・事後学修: ソーシャルイノベーションカンパニーの実例を調べる (2時間)
	3	組織の種類 - 営利組織と非営利組織 -	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: NPOについて調べる (2時間) ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること (2時間)
	4	ビジネス環境をとらえる① - 経済のグローバル化と高度情報化 -	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化の明暗について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること (2時間) ・事後学修: 日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること (2時間)
	5	ビジネス環境をとらえる② - 地球環境問題と少子高齢社会 -	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題とジェンダーエンパワメント指数について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ジェンダーエンパワメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること (2時間) ・事後学修: 地球市民として考えたことをまとめること (2時間)
	6	ビジネス現場をとらえる - オフィスからワークプレイスへ -	<ul style="list-style-type: none"> ・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 将来の働き方をイメージし、まとめること (2時間) ・事後学修: グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること (2時間)
	7	ビジネス実務能力	<ul style="list-style-type: none"> ・「働くために必要な能力とは」、というテーマで考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかを自身の優先順位、番号をつけた 個条書きにすること (2時間) ・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をノートにまとめること (2時間)
	8	ビジネス実務の基本① - 仕事の進め方 -	<ul style="list-style-type: none"> ・企業等のビジネス組織が必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。 ・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかをまとめること。問題プリント①を解くこと (2時間) ・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること。問題プリント②を解くこと (2時間)
	9	ビジネス実務の基本② - ビジネスと諸活動 -	<ul style="list-style-type: none"> ・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: CSRについて調べ、まとめること (2時間) ・事後学修: 一企業のCSRを選び、レポートを作成すること (2時間)
	10	ビジネス実務の基本③ - ビジネスと経営資源 -	<ul style="list-style-type: none"> ・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 男女共同参画社会に関して調べ、まとめること (2時間) ・事後学修: 人的資源としてのヒト、あなたの目標を書いてみる (2時間)
	11	自己実現とキャリアプランニング - セルフマネジメントと自己啓発 -	<ul style="list-style-type: none"> ・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: テキストの指定箇所 (pp. 164-174) を熟読し、ノートにまとめること (2時間) ・事後学修: 再度自己振り返りシートを作成し直し、職業を通じた自己意識をレポートにまとめる。 (2時間)

	12	ビジネス実務の基本④ービジネスと PDCA サイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンスー	<ul style="list-style-type: none"> PDCA サイクルを理解する。 マーケティングとコストの関係について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：業界内の 2 社の CM を比較し、その特徴をノートにまとめること（2 時間） 事後学修：次回のグループワークのために、3 つの NPO の資料（スライド 12～13）をしっかりと読み込むこと（2 時間） 																
	13	ビジネスプラン①ー起業への意識と「寄付の教室」ー	<ul style="list-style-type: none"> 寄付行為の意味を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：寄付の意味を考え、まとめること（2 時間） 事後学修：寄付行為を行う基準を考えること（2 時間） 																
	14	ビジネスプラン②ープレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 作成したビジネスプランに基づいて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：各自がテーマを見つけ、企画書を作成し、発表練習すること（2 時間） 事後学修：ビジネスプランの再考をする（2 時間） 																
	15	ビジネスプラン②ープレゼンテーション発表と授業の総まとめ	<ul style="list-style-type: none"> イノベーションの意味を再考する。 VUCA の時代において、新たなビジネスの創出について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：この授業の学びをまとめること（2 時間） 事後学修を：新たな発見をすること（2 時間） 																
関連科目	2019 年度以前の学生においては、「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ビジネス実務総論</td> <td>全国大学実務教育協会</td> <td>紀伊国屋書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>20 歳のときに知っておきたかったこと</td> <td>ティナ・シーリグ</td> <td>阪急コミュニケーションズ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>イノベーションと企業家精神</td> <td>P. F. ドラッカー</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「デザイン思考」を超えるデザイン思考</td> <td>DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	20 歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ	2	イノベーションと企業家精神	P. F. ドラッカー	ダイヤモンド社	3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	20 歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ																	
2	イノベーションと企業家精神	P. F. ドラッカー	ダイヤモンド社																	
3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社																	
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> グループワーク（30%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（40%）を総合的に評価する。 毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンを繰り返す予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。 																			
学生への メッセージ	私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。																			
担当者の 研究室等	7 号館 5 階 教育イノベーションセンター（石井）																			
備考	予習・復習に毎回 2 時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。																			

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01314a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。 																																																																		
授業方法及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストのFB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない?</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>読解、内容理解、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然?①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然?②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語読解FⅡ	科目名(英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△○:DP8○		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。 																																																																		
授業方法及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果(資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>統計と数字①</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめ(話す)</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>統計と数字②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>背理法①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>背理法②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「待つ」こと①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「待つ」こと②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ついでに何を？①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ついでに何を？②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ウイルス発見！①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ウイルス発見！②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>大学で学ぶこと①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>大学で学ぶこと②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>何のために「学ぶ」のか</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ(話す)	授業内で使用したプリントを使い復習	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ(話す)	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テスト内容確認	8	ついでに何を？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テスト内容確認	10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ(話す)	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ(話す)	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テスト内容確認																																																																
8	ついでに何を？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テスト内容確認																																																																
10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解FⅠ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 ・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語表現作文F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語表現作文F II	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	FF02319a1		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通して、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。 ・オンライン授業になった場合、プリントはパワーポイントに変更する。 ・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートが書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 前期の復習</td> <td>授業についての説明 前期の学習内容についての復習</td> <td>前期で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポートの言葉と表現</td> <td>レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レポートの構成</td> <td>レポートの構成を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ決め・資料収集</td> <td>テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ</td> <td>資料を集める</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>資料を整理する</td> <td>集めた資料を整理する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アウトライン</td> <td>レポートのアウトラインを作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>序論①</td> <td>序論の内容と書き方 (課題、目的の提示) を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>序論②</td> <td>序論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>本論①</td> <td>本論の内容と書き方 (データ、意見提示) を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>本論②</td> <td>本論の内容と書き方 (考察、結論提示) を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>本論③</td> <td>本論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>結論①</td> <td>結論の内容と書き方 (全体のまとめ、今後の課題) を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>結論②</td> <td>結論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ①</td> <td>レポートを推敲し、完成稿を作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ②</td> <td>作成したレポートを元に発表を行う</td> <td>発表のFBを元に復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	7	序論①	序論の内容と書き方 (課題、目的の提示) を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	9	本論①	本論の内容と書き方 (データ、意見提示) を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	本論②	本論の内容と書き方 (考察、結論提示) を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	12	結論①	結論の内容と書き方 (全体のまとめ、今後の課題) を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のFBを元に復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める																																																																
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	序論①	序論の内容と書き方 (課題、目的の提示) を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	本論①	本論の内容と書き方 (データ、意見提示) を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	本論②	本論の内容と書き方 (考察、結論提示) を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	結論①	結論の内容と書き方 (全体のまとめ、今後の課題) を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のFBを元に復習																																																																
関連科目	日本語表現作文F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8○, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	FF01316a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・Teams を使用する場合、授業内プリントはパワーポイントに変更する。 ・小テストのFB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない?</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然?①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然?②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語文法F II	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。 小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法F I、日本語読解F II
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。
----	--

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	V科:III○,IV○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:III○,VI○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△0:DP8○		
科目ナンバリング	FF01312a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画 1 : テーマ「大学生生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「大学生生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「大学生生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間)
13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間)
14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計 2 時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計 2 時間)

関連科目 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社	
3				

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情F II	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF02313a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴: 内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画1: テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画1: テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画1: テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
5	映画2: テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2 時間)
6	映画2: テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画2: テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2 時間)
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
9	映画3: テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2 時間)
10	映画3: テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画3: テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計1.5 時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計1.5 時間)
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計1.5 時間)
15	発表 (新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計1.5 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本語総合F I	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	鎌田 美保, 古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01320a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。			
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。			
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になった場合は、毎回の課題提出により評価する。			
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。			
担当者の研究室等	2号館 2階 グローバル教育センター			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。			

科目名	日本語総合FⅡ	科目名(英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	鎌田 美保, 古川 由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△0:DP8○		
科目ナンバリング	FF02321a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。			
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。			
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成(残り)
	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習(文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。			
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。			
担当者の研究室等	2号館2階 グローバル教育センター			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。			

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01322a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 ハンドアウトを使用する。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRで必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRで必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRで必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRで必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (40%)、定期試験 (60%) により総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	新谷 知佳
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	FF02323a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。
到達目標	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日本語のレベルチェック	授業の説明	授業で確認した語彙、表現の復習
2	ビジネス日本語 1 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
3	ビジネス日本語 2 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
4	ビジネス日本語 3 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
5	ビジネス日本語 4 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
6	ビジネス日本語 5 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
7	ビジネス日本語 6 書く	ビジネス文書の書き方	ビジネス文書の形式、表現の復習 授業で提示した課題
8	ビジネス日本語 7 書く	Eメールの書き方	ビジネスにおけるEメールに必要な形式、書き方の復習 授業で提示した課題
9	ビジネス日本語 8	履歴書の書き方	履歴書を書く時に必要な表現の復習 授業で提示した課題
10	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーション	異文化ビジネスコミュニケーションに必要な項目、表現の復習 授業で提示した課題
11	日本の会社 1	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
12	日本の会社 2	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
13	日本の会社 3	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
14	日本の会社と仕事	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	授業で確認した語彙、表現等の復習
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F I
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (50%)、定期試験 (50%) により総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。
-----------	------------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館 2階)
----------	-----------------

備考	(1) 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 (2) 授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがある。 (3) 授業外の質問等には、メールで対応する。
----	--

科目名	日本語会話F I	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	茶園 直人
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	FF01324a1		

授業概要・目的	<p>この授業は大学の授業や日常生活に必要な会話の能力を身につけることを目的としています。特に、「身近な話題についてディスカッションを行い、適切な結論が導けるようになること」を目指します。</p> <p>授業の概要は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生同士のディスカッションを行う。 ・身の回りのテーマを中心に扱う。 <p>主に留学生同士の会話になりますが、教員が適宜フィードバックを行い、他の授業で日本人を相手に日本語でディスカッションを行うことができるようになることを目指します。</p>																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身近な話題について、根拠を示して説得力のある意見を述べるができる 2. 身近な話題について、自分とは異なる意見であっても尊重し、適切に理解することができる。また、必要に応じて質問をして、理解を補うことができる 3. 身近な話題について、グループで協力して、論点を整理し、適切に結論を導くことができる 4. ディスカッションの方法や姿勢、マナーを身につける 																																																																		
授業方法と留意点	<p>ペアワークなどを通して、受講生が「話す」ことを中心とする。</p> <p>教材はプリントを配布する。</p> <p>教員は適宜フィードバックを行う。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ ディスカッションの基本</td> <td>授業の進め方、自己紹介</td> <td>自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ディスカッションの基本</td> <td>意見と根拠を言う</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ディスカッションの基本</td> <td>質問する</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ディスカッション①</td> <td>自分の意見を整理する。</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ディスカッション①</td> <td>意見を整理して報告する</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ディスカッション①</td> <td>整理した意見をもとにディスカッションの練習を行う。</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ディスカッション①</td> <td>ディスカッションの小テスト</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ディスカッション②</td> <td>テーマについてメリット・デメリットを挙げる テーマについて意見と根拠をまとめる</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ディスカッション②</td> <td>意見と根拠に対して質問する/質問に答える</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ディスカッション②</td> <td>意見と根拠に対して反論する/再反論する</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ディスカッション②</td> <td>結論を出す。</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ディスカッションにおける役割について学ぶ</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ディスカッションの練習</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ディスカッションの小テスト</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ディスカッションの振り返り</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ ディスカッションの基本	授業の進め方、自己紹介	自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)	2	ディスカッションの基本	意見と根拠を言う	授業中に配布したプリントを完成させる。	3	ディスカッションの基本	質問する	授業中に配布したプリントを完成させる。	4	ディスカッション①	自分の意見を整理する。	授業中に配布したプリントを完成させる。	5	ディスカッション①	意見を整理して報告する	授業中に配布したプリントを完成させる。	6	ディスカッション①	整理した意見をもとにディスカッションの練習を行う。	授業中に配布したプリントを完成させる。	7	ディスカッション①	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。	8	ディスカッション②	テーマについてメリット・デメリットを挙げる テーマについて意見と根拠をまとめる	授業中に配布したプリントを完成させる。	9	ディスカッション②	意見と根拠に対して質問する/質問に答える	授業中に配布したプリントを完成させる。	10	ディスカッション②	意見と根拠に対して反論する/再反論する	授業中に配布したプリントを完成させる。	11	ディスカッション②	結論を出す。	授業中に配布したプリントを完成させる。	12	ディスカッション②	ディスカッションにおける役割について学ぶ	授業中に配布したプリントを完成させる。	13	ディスカッション②	ディスカッションの練習	授業中に配布したプリントを完成させる。	14	ディスカッション②	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。	15	ディスカッション②	ディスカッションの振り返り	授業中に配布したプリントを完成させる。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業概要説明 ウォーミングアップ ディスカッションの基本	授業の進め方、自己紹介	自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)																																																																
2	ディスカッションの基本	意見と根拠を言う	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
3	ディスカッションの基本	質問する	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
4	ディスカッション①	自分の意見を整理する。	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
5	ディスカッション①	意見を整理して報告する	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
6	ディスカッション①	整理した意見をもとにディスカッションの練習を行う。	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
7	ディスカッション①	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
8	ディスカッション②	テーマについてメリット・デメリットを挙げる テーマについて意見と根拠をまとめる	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
9	ディスカッション②	意見と根拠に対して質問する/質問に答える	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
10	ディスカッション②	意見と根拠に対して反論する/再反論する	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
11	ディスカッション②	結論を出す。	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
12	ディスカッション②	ディスカッションにおける役割について学ぶ	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
13	ディスカッション②	ディスカッションの練習	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
14	ディスカッション②	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
15	ディスカッション②	ディスカッションの振り返り	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題 30%、授業への取り組み 30%、小テスト (2回) 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館 2階)																																																																		
備考	試験はディスカッション形式とし、適宜フィードバックを行なう。 授業時間外の相談はメールにて行すが、必要に応じて別途指示する。																																																																		

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF02325a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 オンライン授業になった場合は授業中はカメラを ON にすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意をしておくこと。 課題のフィードバックは授業中に行う。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師講師室 (7号館 2階)
----------	-------------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 口頭発表は、最終授業日に行なう。
----	--

科目名	日本語読解R	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1328a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない？</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>読解、内容理解、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然？①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然？②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解FII																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語表現作文R	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	RRE1330a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 ・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語表現作文FII																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3号館 2階/後期 7号館 2階)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語文法R	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。 小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。

科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力
--------------	------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。</p>
----	---

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画 1 : テーマ「大学生生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「大学生生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「大学生生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間)
13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間)
14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計 2 時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計 2 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう! 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情R II	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画1：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画1：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画1：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
5	映画2：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2 時間)
6	映画2：テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画2：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2 時間)
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
9	映画3：テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2 時間)
10	映画3：テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画3：テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計1.5 時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計1.5 時間)
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計1.5 時間)
15	発表 (新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計1.5 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本語総合R	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	鎌田 美保, 古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。			
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。			
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。			
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。			
担当者の研究室等	2号館2階 グローバル教育センター			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。			

科目名	専門日本語R	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 ハンドアウトを使用する。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRで必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRで必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRで必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRで必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (40%)、定期試験 (60%) により総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語会話R	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次		クラス	
単位数		履修区分	
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0: DP8○		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 オンライン授業になった場合は授業中はカメラをONにすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意をしておくこと。 課題のフィードバックは授業中に行う。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師講師室 (7号館 2階)
----------	-------------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1時間。 口頭発表は、最終授業日に行なう。
----	---

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名 (英文)	Methodolgy of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習 (探求) の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。
到達目標	1 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 2 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 3 合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 4 総合的な学習 (探求) の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成する
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果 (資格)	教職科目 特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、教員免許 (中学校・高等学校) 取得上必修科目である。

	授業計画			
	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習 (探求) の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章、講義資料を事前に読んでおく (2時間)。講義資料を参考に復習をする (2時間)。
	2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 学級活動に役立つワーク 1	特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく (2時間)。講義資料を参考に復習する (2時間)。
	3	学級活動・ホームルーム活動 ①	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 学級活動に役立つワーク 2	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく (2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする (2時間)。
	4	学級活動・ホームルーム活動 ②	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 学級活動に役立つワーク 3	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく (2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする (2時間)。
	5	生徒会活動・児童会活動、学校行事	生徒会 (児童会) 活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 学級活動に役立つワーク 4	特別活動テキスト第3章第2・3節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく (2時間)。講義資料を参考に復習をする (2時間)。
	6	体験活動・体験的な学びの意義	特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通じた学びの重要性と計画的な指導の重要性 学級活動に役立つワーク 5	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく (2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする (2時間)。
	7	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ 学級活動に役立つワーク 6	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく (2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする (2時間)。
	8	特別活動と学級経営	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 学級活動に役立つワーク 7	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく (2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする (2時間)。
	9	特別活動と生徒指導 学級活動に役立つワーク 8	生徒指導との関連、積極的な生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 学級活動に役立つワーク 8	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく (2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする (2時間)。
	10	特別活動の指導計画と評価	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 学級活動に役立つワーク 9	特別活動テキスト第4章第1・2・5節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく (2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする (2時間)。
	11	特別活動と総合的な学習 (探求) の時間の共通点と相違点	特別活動と総合的な学習 (探求) の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性 学級活動に役立つワーク 10	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく (2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする (2時間)。
	12	総合的な学習 (探求) の時間の目標・内容・原理	総合的な学習 (探求) の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 学級活動に役立つワーク 11	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく (2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする (2時間)。
	13	総合的な学習 (探求) の時間の学習活動と学習指導	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学級活動に役立つワーク 12	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく (2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする (2時間)。
	14	総合的な学習 (探求) の時間の指導計画・評価・校内体制	全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価 学級活動に役立つワーク 13	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく (2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする (2時間)。
	15	補足とまとめ/最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。	特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学習の時間のテキスト第9章、講義資料を事前に読ん

				でおく(2時間)。講義資料を参考に復習をするともにも最終レポートを作成する(2時間)。
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことに関連づけるともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東京書籍
	2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編 平成29年告示	文部科学省	学校図書
	3			
評価方法(基準)	授業への参加状況及び課題(40%)、中間レポート(30%)、最終レポート(30%)を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだといえる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。			
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館3F松浦研究室			
備考	授業外学習総時間を60時間とする。			

科目名	教師論	科目名 (英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分どのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究 (1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究 (2)	「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究 (3)	「人間教師」と「プロ教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究 (4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務 (1)	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務 (2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務 (3)	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務 (チーム学校運営への対応を含む)	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
14	教員の役割・職務 (4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務 (5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	教員の勤務実態とメンタルヘルスに関する配布資料

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー 10%

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。
遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ60時間程度です。

科目名	教育心理学	科目名 (英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と1	教育に対して心理学ができること、発達と教育	テキスト第0章1, 配付資料による本時の予習と復習
2	発達と教育と心理学と2	発達の要因, 主な発達理論の概観	テキスト第8章1, 配付資料による本時の予習と復習
3	こどもの発達1	乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第9章, 配付資料による本時の予習と復習
4	こどもの発達2	児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章, 配付資料による本時の予習と復習
5	こどもの発達3	青年期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章・第12章, 配付資料による本時の予習と復習
6	学習を支える認知機能1	思考.....人間の思考の特徴, メタ認知の機能と発達	テキスト第7章1, 配付資料による本時の予習と復習
7	学習を支える認知機能2	言語.....言語の機能, 言語理解と言語産出とその発達	テキスト第11章, 配付資料による本時の予習と復習
8	学習を支える認知機能3	記憶.....記憶のメカニズムと発達	テキスト第4章・第5章, 配付資料による本時の予習と復習
9	こどもの学び1	さまざまな学習①.....学習とは何か, 主な学習理論の概観, 条件づけ	テキスト第1章, 配付資料による本時の予習と復習
10	こどもの学び2	さまざまな学習②.....観察学習, 自己制御学習	テキスト第1章・第6章, 配付資料による本時の予習と復習
11	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か.....動機づけ過程, 動機づけ理論	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
12	学習を支える動機づけ2	さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ, その他の視点, 意欲の発達	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
13	学習を支える動機づけ3	意欲を育む.....こどもの発達と意欲, 意欲を育む教育のあり方, 学習と評価	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係, 生徒-生徒の関係, 教師-教師の関係, 集団としての学級	テキスト第0章2・第10章, 配付資料による本時の予習と復習
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育.....ATI, 学習方略	テキスト第0章3・第6章・第7章2, 配付資料による本時の予習と復習

関連科目 教職課程におけるすべての科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論, 理論を实践—	藤田哲也 (編著)	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 小テスト 30%, 期末試験 70%

学生へのメッセージ これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。

担当者の研究室等 7号館3階 (吉田研究室)

備考	Moodle コース名と登録キー 火曜5限: 2022教育心理学 (火5) あるいは 22教心 (火5) 2022EPTUE5 木曜1限: 2022教育心理学 (木1) あるいは 22教心 (木1) 2022EPTU1 木曜5限: 2022教育心理学 (木5) あるいは 22教心 (木5) 2022EPTU5 金曜5限: 2022教育心理学 (金5) あるいは 22教心 (金5) 2022EPPRI5 ・期末試験は希望者に返却します。 ・事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。
----	--

科目名	教育原理	科目名 (英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一・疋田 祥人
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語るすることができます。しかし、「教育とは一体何だろう?」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろう?」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。</p>
到達目標	<p>教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。</p>
授業方法と留意点	<p>本授業は「教育とは何か?」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して教育についての学びを進めていきます。</p> <p>そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。</p> <p>第8回と第10回には非常勤講師による講義を</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育の基礎的理解に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	(事前) テキスト P. 3 を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう?」という問いについて自分の考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①：教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	(事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
3	教育の基礎理論②：教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	(事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。
4	教育の基礎理論③：子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	(事前) テキスト P. 76～85 を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
5	教育の基礎理論④：教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	(事前) テキスト P. 69～73 を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
6	教育の基礎理論⑤：近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	(事前) テキスト P. 93～97 を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
7	教育の基礎理論⑥：家庭と教育	家庭において子どもはどのように扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	(事前) テキスト P. 86～90 を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。
8	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その1 ※疋田先生が御担当	「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。	(事前) コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 (事後) 授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。
9	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その2	前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	(事前) 第8回で取り上げた4名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
10	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その1 ※疋田先生が御担当	「教育とは何か」について、フレーベル・デューイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。	(事前) フレーベル・デューイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 (事後) 授業プリントを読み直し、学習内容について整理する。
11	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その2	前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	(事前) 第10回で取り上げた3名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
12	現代の教育理論：20世紀の教育理論	20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 29～32 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
13	現在の教育課題①：学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 50～54 を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。
14	現在の教育課題②：	現在の教育課題の一つである生涯学習	(事前) テキスト P. 147～151 を精読しておく。

		生涯学習の思想	について概観し、考察を加える。	(事後) 生涯学習の思想について整理しておく。
	15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	(事前) テキストP.169～178を精読しておく。 (事後) 「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみるのが大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	教育情報出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領 (平成 29 年告示)	文部科学省	東山書房
	2	高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示)	文部科学省	東山書房
	3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート (One Page Portfolio シート) の内容や授業中の学習の様子 (60%) や学期末試験の結果 (40%) 等をもとに総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 4 階 (谷口研究室)			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	SDG s で読み解く淀川流域	科目名 (英文)	The Yodo-gawa river region and SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	後藤 和子, 赤澤 春彦, 朝田 康禎, 石田 裕子, 郭 進, 加嶋 章博, 小林 健治, 手代木 功基, 鳥谷部 壤, 中塚 華奈, 増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II◎, R 科 : A◎, A 科 : A◎, M 科 : A1○, E 科 : B△, C 科 : II◎, L 科 : DP2◎, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1~TT01465a1, L 科 : LT01366a1~LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1~IT01375a1, J 科 : JT01374a1~JT01378a1, W 科 : WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は、琵琶湖の源流域から大阪湾までの淀川流域に着目し、人々の多様な暮らしや経済・文化・環境等について、SDGs の視点から学びを深め、淀川流域の多様性と持続可能な発展を考える教養科目です。本科目は、今、多くの企業からも注目を集めている SDGs について、淀川流域を素材としながら、グローバルに考え行動するという社会人・企業人として必要な教養を身に付けることを目的とします。
到達目標	(1) 大阪をはじめとする関西地域の暮らしと密接な関わりを持つ淀川流域について、いかなる社会的課題が存在するかを、第三者に分かりやすく説明できる。 (2) SDGs について理解を深め、上記 (1) の社会的課題について、SDGs との関連性を説明できる。 (3) 地域のニーズや社会的課題を発見し、本講義で得られた知見を基に、その解決策を検討することができる。
授業方法と留意点	この授業では、摂南大学の近傍を流れる「淀川」の社会・歴史・文化・経済・環境等について、SDGs (2030 年までの世界の目標) との関連性を意識しながら、学部の垣根を越えて、地域の課題を学びます。 毎回の授業は、基本的に教科書に沿って行われます。なお、理解促進のために、必要に応じて、レジュメあるいは補足資料を配布します。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを基に地域の社会的課題について討議できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス—淀川流域のいま・過去・未来と SDG s	科目全体のガイダンス (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[序章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
2	巨椋池遊水地化構想による淀川流域の治水と環境保全	将来の淀川流域の洪水対策としてできることは何か? [関連 SDGs 13・6] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第 1 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
3	淀川左岸地域を中心とした水辺整備と流域連携活動	水辺を楽しく利用するためにはどうすればいいか? [関連 SDGs 9・17] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第 2 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
4	淀川流域の洪水対策	淀川上流に新たなダムは必要なのか? [関連 SDGs 7・16] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第 14 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
5	些細なことでも豊かになる淀川流域の生活	なぜ人は水辺に集まるのか? [関連 SDG 15] (担当: 小林健治)	事前: 教科書[第 5 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
6	淀川水系にみる文化と観光の経済学	文化と経済の相乗効果とは? [関連 SDGs 3・12] (担当: 後藤和子)	事前: 教科書[第 6 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
7	地域資源としての淀川の記憶	淀川の風景遺産とは何だろうか? [関連 SDG 11] (担当: 加嶋章博)	事前: 教科書[第 7 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
8	淀川流域の名所化と文化遺産	淀川流域の文化遺産をいかに活用すべきか? [関連 SDG 11] (担当: 赤澤春彦)	事前: 教科書[第 8 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
9	所得格差と教育問題	淀川の左岸と右岸とでどう違う? [関連 SDGs 1・4・11] (担当: 八木紀一郎)	事前: 教科書[第 9 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
10	都市農業の歴史的遺産と公益的機能	淀川流域の都市農業の特徴とは? [関連 SDG 2] (担当: 中塚華奈)	事前: 教科書[第 10 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
11	人口移動や通勤流動でみる地域経済	淀川は人の流れや経済にどのような影響を与えるのか? [関連 SDG 5] (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[第 11 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
12	産業連関分析	淀川流域における 3 市 (門真市・寝屋川市・枚方市) の経済・産業構造はどう違うのか? [関連 SDGs 8・9] (担当: 郭進)	事前: 教科書[第 12 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
13	住民が主役の広報戦略	淀川流域の魅力を発信するにはどうすればいいか? [関連 SDG 17] (担当: 増田知也)	事前: 教科書[第 13 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
14	滋賀県朽木地域の森林利用の変遷	淀川源流の森はどのように変化してきたのか? [関連 SDG 15] (担当: 手代木功基)	事前: 教科書[第 3 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
15	プラスチックごみの発生源抑制対策	大阪湾はお魚よりもプラスチックごみのほうが多いって本当? [関連 SDGs 14・12] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第 4 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の総復習・レポート課題に取り組む

関連科目 摂南大学で開講されている科目のすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 第 2 回目~15 回目までの授業内で実施される理解度確認 (クイズ or 簡単な小レポートなど) (いずれも 5 点満点、14 回分で計 70 点) と、期末のレポート (30 点) の合計 100 点満点で評価する。なお、期末のレポートは、最終回の授業時に各担当教員によって提示される課題一覧の中から、

	いずれか1つを選択し、A4 2枚程度のレポート作成に取り組む。
学生へのメッセージ	今、企業や地方自治体からも注目を集め、全世界で取り組んでいる SDGs について、身近な地域を素材と一緒に考えましょう。就活や社会人となってからも、この経験はきっと役に立つはず。他学部の教員から、多様な視点を学べるのも魅力です。
担当者の研究室等	1号館7階 後藤研究室
備考	SDGs の 17 の目標とその内容は次の通り。SDG1 (貧困をなくそう)、SDG2 (飢餓をゼロに)、SDG3 (すべての人に健康と福祉を)、SDG4 (質の高い教育をみんなに)、SDG5 (ジェンダー平等を実現しよう)、SDG6 (安全な水とトイレを世界中に)、SDG7 (エネルギーをみんなに そしてクリーンに)、SDG8 (働きがいも経済成長も)、SDG9 (産業と技術革新の基盤をつくろう)、SDG10 (人や国の不平等をなくそう)、SDG11 (住み続けられるまちづくりを)、SDG12 (つくる責任 つかう責任)、SDG13

科目名	脳の情報処理	科目名 (英文)	Processing in Brain
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	人間の知的活動の中核である脳における諸機能の理解を通して、認識、思考、判断、注意などの人間の諸活動に関わる基礎知識を獲得し、専門分野に活かす。
到達目標	脳における情報処理の基礎事項の理解とそれらを自身の生活に活かすこと。
授業方法と留意点	毎回、関連映像を視聴し、講義内でミニッツペーパーおよび質問作成して提出する。復習のための課題レポートの提出を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	脳の構造	大脳は頭部にある様々な器官と連携してはたらいっている。それぞれの器官の構造と役割を概説する	講義プリントを用いた復習
3	学習: シナプスと可塑性	脳による認識・記憶・学習の基本となる神経細胞のシナプスにおける信号伝達の変化(可塑性)について概説する	講義プリントを用いた復習
4	視覚	感覚情報の大部分を占める視覚の情報処理について概説する	講義プリントを用いた復習
5	錯視・錯覚	認識戦略におけるわれわれの積極的な推測による副作用である錯視や錯覚から、人間の認識手法を知る	講義プリントを用いた復習
6	男女の脳	生理学的な脳の男女の差から男女の心理行動の違いについて考える	講義プリントを用いた復習
7	注意と選択	認識をはじめとする脳の情報処理は、意識の注がれるところに集中的に作用する。その現象を説明する	講義プリントを用いた復習
8	聴覚と言語	コミュニケーションや情緒の表現に使用される音楽や音声の取扱いの違いや意味の取扱いが、いかになされるかを概説する	講義プリントを用いた復習
9	感覚の連合	複数の感覚からひとつの概念が形成されることを情報の流れを通じて説明する	講義プリントを用いた復習
10	運動	大脳のさまざまな部位での情報処理と小脳および周辺器官の連携による、運動の生成および運動の学習について概説する	講義プリントを用いた復習
11	思考と推論	高度に発達した人間の特徴のひとつである思考と推論について概説する	講義プリントを用いた復習
12	構造と認知	ゲシュタルト心理等の構造の知覚および認知について概説する	講義プリントを用いた復習
13	記憶	大脳と辺縁系による記憶の定着と再現のしくみについて概説する	講義プリントを用いた復習
14	人間関係	人間の社会性における自他の区別や共通性、自我や感情について脳の機能を中心に考える	講義プリントを用いた復習
15	総括	まとめ	期末試験に向けて復習する

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	MIND HACKS	Tom Stafford, Matt Webb	オライリー・ジャパン
2			
3			

評価方法 (基準) ミニッツペーパー等の平素の活動を含めた授業態度・クイズと課題レポート 60%、試験 40% を総合して判断する。

学生へのメッセージ 誰もが有しており、最も身近な未知の高度情報処理機構である脳について、さまざまな角度から見ていきましょう。

担当者の研究室等 11号館10階 寺内研究室

備考 本人確認のため、メールで連絡する場合には大学のアドレスから送信してください。

科目名	グローバル・シチズンシップ論 (入門)	科目名 (英文)	Global Citizenship (Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	大塚 正人、鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>一つの地球社会に対して、未来を創る担い手として参画する市民、これからの多様化する社会において主体的に活動する市民を育成するという取組みをグローバル・シチズンシップ教育 (GCED) という。これは、地球社会という国の枠組みを超えた概念であり、近年は日本だけではなく、他国においても注目され、徐々に基礎教育等に導入され始めている。</p> <p>この科目は、グローバル・シチズンシップ副専攻課程修了のための必修科目である。当該副専攻課程を履修する最初の学期に履修することが望ましい。</p> <p>受講者は、グローバル・シチズンシップ (GC) および GCE の基礎的な概念を理解し、これらの概念が必要とされるに至ったグローバルな歴史的背景と、現在まで続く課題について、基礎的な知識を獲得する。また獲得した知識と理解について、説明できるようになることを目的とする。</p> <p>この講義は、GC と GCED にくついでに授業であると同時に、授業自体が GCED の一環である。GCED では、一方的な講義ではなく、受講生の主体的な学習と対話による学びが重視される。受講生には、この講義を通じて GCED を体験的に学びつつ、自らが GCED のファシリテーターとなり、この授業の内外で GCED の実践者となってゆく姿勢が求められる。</p>			
到達目標	<p>到達目標は以下の通りである</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グローバル時代に必要な知識が習得されている ●グローバルな環境下で成功できるスキルを身につけている ●世界とつながっている <p>具体的には以下のようなコンピテンシーが求められる</p> <ul style="list-style-type: none"> ●異なる文化、地域にいる人々への共感、深い共感 ●人的、制度的、規範的相互依存への理解 ●自分の行動が他者に影響しているという意識 (ローカルがグローバルに与える影響) ●世界を知り、探求していく力 ●様々な視点を咀嚼する力 ●行動力 ●アイディアを共有していくこと ●グ 			
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ●いわゆる「実習」ではなく、知識と理解を身につけることを主目標とする授業であるが、アクティブ・ラーニングは GCED の根幹である。 ●教員からの一方向の情報伝達は最小限に留め、受講する学生が自ら資料を読み、考え、他の学生および教員と対話しながら知識をつけ、理解を深めてゆく。 ●学生には、自律的な予習と復習、情報検索やファクトチェック、ディスカッションと質疑への積極的な参加が求められる。 ●教員によるファシリテーション、学生の質疑やディスカッションなどは原則として日本語で行う。 ●教材の入手、クラスメ 			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション (1) 4月16日(土) 3限目	オリエンテーション、受講上の注意、スケジュール確認ほか	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	2	イントロダクション (2) 4月16日(土) 4限目	チーム・ビルディング	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	3	「グローバル・シチズンシップ」の概念 (1) 4月23日(土) 3限目	ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	4	「グローバル・シチズンシップ」の概念 (2) 4月23日(土) 4限目	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	5	貧困問題、飢餓問題について 4月30日(土) 3限目	ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	6	健康と福祉の格差問題について、教育の格差問題について 4月30日(土) 3限目	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	7	ジェンダー問題について、水の問題について 5月7日(土) 3限目	ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	8	エネルギー問題について、経済格差について 5月7日(土) 4限目	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	9	社会基盤の問題について、人権等の不平等に関する問題について 5月14日(土) 3限目	ABD 読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	10	まち (都市) の抱える問題に	与えられた課題に関して自ら資料を情	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行

		ついて、持続可能な消費と生産について 5月14日(土) 4限目	報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	う
	11	気候変動の問題について、水産資源の問題について 5月21日(土) 3限目	ABD読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	12	森林破壊等の問題について、平和と公正に対する問題について 5月21日(土) 4限目	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	13	グローバル・シチズンシップ教育について(1) 5月28日(土) 3限目	ABD読書法でテキストを読んで要約し、相互にプレゼンテーションして内容理解、ディスカッションする。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	14	グローバル・シチズンシップ教育について(2) 5月28日(土) 4限目	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
	15	総括 6月4日(土) 3限目	授業全体の振り返りワーク	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
関連科目	SDGs で学ぶ世界の課題、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	知っていますか?SDGs ユニセフとめざす2030年のゴール	日本ユニセフ協会	さ・え・ら書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SDGs時代の教育	北村友人他	学文社
	2	SDGs時代の学びづくり	かながわ開発教育センター	明石書店
	3	貧しい人を助ける理由	デイビッド・ヒューム	日本評論社
評価方法(基準)	平常評価 80% (小テスト、平常の提出物、グループワークや質疑への貢献を総合的に評価する) プレゼンテーション課題 20% (作成過程を含む)			
学生へのメッセージ	グローバル・シチズンシップ副専攻で価値ある学びの場を一緒に作りましょう。			
担当者の研究室等	摂南大学校方キャンパス薬学部I号館5階生命融合化学分野			
備考	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックにかかる時間、自発的な英語のトレーニングや、グローバル教育センター主催の学習イベントに参加する時間等も全て合算し、週平均で4時間程度、総計で60時間程度の授業外学修時間を確保すること。			

科目名	グローバル・シチズンシップ論 (応用)	科目名 (英文)	Global Citizenship (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	鎌田 美保, 大塚 正人, 谷口 葉子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科: S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>グローバル・シチズンシップ副専攻課程修了のための必修科目である。グローバル・シチズンシップ論 (入門) 履修後に履修することが望ましい。</p> <p>本科目はグローバル・シチズンシップ論 (入門) で学んだ知識や概念等をもとに、日本国内における社会課題 (多文化共生、外国人労働者、SDGs など) に焦点を当て、グローバルとローカルのつながりについて学ぶものである。授業自体がグローバル・シチズンシップ教育の一環であり、受講者自身が授業を通じ体験的に学び、実践者として行動していく姿勢が求められる。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本国内における社会課題について、歴史的背景、現状等が理解できる さまざまな分野での実践者の経験から、実践上の留意点を理解できる 身近にある社会課題について分析し、課題解決の方策の提案ができる
授業方法及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> いわゆる一方的な講義ではなく、学んだことをもとにグループでディスカッションしたり、関心のある課題について調査、発表するなど、主体的に取り組む形式が多い。 取り扱う課題により、外部講師を招聘し、実践に関する講義やワークショップ等も実施する。 <p>・本科目は2022年度後期90分授業x2・3コマの集中講義で実施される予定である。詳細なスケジュールは決定次第、ポータルサイト等で連絡をする。</p> <p>初回授業以降は担当教員からの連絡を常に受け取れるようにしておく必要がある。</p> <p>・その他、履修にあたって不明</p>
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業概要、受講方法、注意点の確認 日本におけるグローバルシチズンシップ	指定された教材の読解、課題を行う
	2	グローバルシチズンシップと海外への支援、国内での支援	ゲストレクチャー 海外に向けてできること、国内でできること、実態、可能性を探る	指定された教材の読解、課題を行う
	3	グローバルシチズンシップと人権①	ゲストレクチャー	指定された教材の読解、課題を行う
	4	グローバルシチズンシップと人権②	マジョリティ、特権のある人間が考えるべきこと	指定された教材の読解、課題を行う
	5	グローバルシチズンシップと経済①	ゲストレクチャー	指定された教材の読解、課題を行う
	6	グローバルシチズンシップと経済②	自らの消費行動が社会にどのような影響を与えるのか	指定された教材の読解、課題を行う
	7	グローバルシチズンシップと起業①	ゲストレクチャー (パネルディスカッション) 社会課題の解決のために起業をした人たちのきっかけ、思い、現状などを知る	指定された教材の読解、課題を行う
	8	グローバルシチズンシップと起業②	同上	指定された教材の読解、課題を行う
	9	学生団体との意見交換会①	他大学の学生が行っている活動を知り、今の自分たちの状況の中で何ができるか考える機会とする	指定された教材の読解、課題を行う
	10	学生団体との意見交換会②	他大学の学生が行っている活動を知り、今の自分たちの状況の中で何ができるか考える機会とする	指定された教材の読解、課題を行う
	11	実践に向けて①	これまでの学びを生かし、自ら課題と感じたことの解決に向けてグループで活動を行う	指定された教材の読解、課題を行う
	12	実践に向けて②	同上	指定された教材の読解、課題を行う
	13	実践に向けて③	同上	指定された教材の読解、課題を行う
	14	発表	11回目から3回目で話し合ってきたことを発表する	指定された教材の読解、課題を行う
	15	まとめ	全体のまとめ、ふりかえり	指定された教材の読解、課題を行う

関連科目 グローバル・シチズンシップ論 (入門)、グローバル・シチズンシップ海外実習、摂南大学 PBL プロジェクトなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 平常評価 60% (平常の提出物、課題への取り組み等総合的に評価)
プレゼンテーション課題 40% (作成過程を含む)

学生への 身近な場所で自ら行動が起こせるきっかけになればと思っています。受講生同士の関わりからも多くのことも学んでもらいたいと思いますので、

メッセージ	積極的に参加してください。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博. 浅野 慎一. 石井 三恵. 伊藤 謙. 木下 和紗. 瀬川 智広. 瀧 千波. 堀田 裕子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2)ABDによる読書法を身につけている。 (3)チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)SDGsとUNAIについて基礎的な知識を身につけている。 (5)読書が好きで、意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6)コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7)自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方向的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 『おとなの教養』序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か?」、理解度確認クイズ、振り返り ABDの体験	事前学習:『おとなの教養』 序章を読む(1.5時間以上)
2	教養入門:第一章 宗教	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABDによる学習の進め方の説明 ABD法に挑戦「第一章 宗教」 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第一章を読む(1.5時間以上)	
3	教養入門:第三章 人類の旅路	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第三章を読む(1.5時間以上)	
4	教養入門:第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)	
5	教養入門:第五章 経済	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書 第五章を読事前学習シートを作成する(1.5時間以上)	
6	教養入門:中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事前学習:中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(3時間以上) 事後学習:第1回レポート	
7	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsの概要 SDGsとは何か 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:SDGsとは何か、指定した資料を調べる(3時間以上)	
8	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsを考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:SDGsとは何か、図書館、ネット等で調べる。自分の意見を持つ。(1.5時間以上)	
9	世界を知る教養:国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:UNAIとは何かを調べる 事後学習:第2回レポート	
10	自分を知る教養:岸見著『アドラー性格を変える心理学』序章 「性格は変わらない」は本当か? 第一章 虚栄心・嫉妬・憎しみ	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:『アドラー性格を変える心理学』序章・第一章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)	
11	自分を知る教養:第二章 控え目・不安・臆病	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第二章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)	
12	自分を知る教養:第三章 快活・かたくな・気分屋	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第三章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)	
13	自分を知る教養:第四章 怒り・悲しみ・羞恥心	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)	
14	自分を知る教養:中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事前学習:中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(3時間以上)	

			事後学習：第3回レポート (2時間以上)	
15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	事後学習：第4回レポート (2時間以上)	
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー性格を変える心理学	岸見一郎	NHK 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢 (チーム：20%) ・中間発表・まとめ (チーム：20%) ・レポート 4回 (個人：20%) ・振り返りシート (個人：15%) ・理解度確認クイズ (個人：15%) ・事前学習シート (個人：5%) ・授業資料の管理 (個人：5%) <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部 of 学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
担当者の 研究室等	伊藤 譲 (1号館 3F), 寺内 睦博 (11号館 10F), 石井 三恵 (7号館 5F), 木下 和沙 (11号館 7F), 瀬川 智広 (スポ振), 瀧 千波 (スポ審), 浅野 慎一 (7号館 5F), 堀田 裕子 (5号館 1F)			
備考	この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。			

科目名	大学教養実践	科目名 (英文)	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博, 浅野 慎一, 東 武大, 石井 三恵, 伊藤 謙, 上野山 裕士, 堀田 裕子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1		

授業概要・目的	この科目は、チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです。 本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そして、知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します。
到達目標	(1)大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。 (2)ABDによる読書法の基礎（要約、プレゼンテーション、対話）を身につけている。 (3)自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる。 (4)チームワーク能力やリーダーシップを身につけている。 (5)わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。 (6)テーマにそった対話（感想、質疑応答）を行うことができる。 (7)自主学習の習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。ABDやQFT等の協働学習の方法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 私たちはいま、どこにいるのか？	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説（教科書、ABDとは） 協働学習（p.18-47：要約、プレゼン、対話）、振り返りシート	『おとなの教養2』序章を読み、事前学習シートを作成する。
	2	私たちはいま、どこにいるのか？ 第一章「AIとビッグデータ」	チーム分け、役割分担、確認試験 解説（振り返りシート） 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート	教科書第一章を読み、事前学習シートを作成する。
	3	私たちはいま、どこにいるのか？ 第二章「キャッシュレス社会と仮想通貨」	解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート	教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。
	4	私たちはいま、どこにいるのか？ 第三章「想像の共同体」	解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話） 投票と表彰、振り返りシート	教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。 ポスター・プレゼンの準備を行う（2時間程度）
	5	私たちはいま、どこにいるのか？ 中間発表1回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	教科書第四章～第六章を読み、事前学習シートを作成する。 事後学習：第1回レポート
	6	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 第一章「独裁国家はパンデミックに強いのか」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	『コロナ後の世界』第一章を読み、事前学習シートを作成する。
	7	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 第二章「AIで人類はレジリエントになれる」	QFT（質問づくり） 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。
	8	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 第三章「ロックダウンで生まれた新しい働き方」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。
	9	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 第四章「認知バイアスが感染症対策を遅らせた」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第四章を読み、事前学習シートを作成する。
	10	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか？ 中間発表2回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	ポスター・プレゼンの準備を行う（2時間程度） 事後学習：第2回レポート
	11	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート	『星の王子さま』1～10章を読み、事前学習シート（要約、感想）を作成する（2時間程度）
	12	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約、プレゼン、対話） 振り返りシート	教科書11～20章を読み、事前学習シートを作成する
	13	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話）	教科書21～27章を読み、事前学習シートを作成する

			振り返りシート																	
	14	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話） QFT（中間発表のテーマ出し） 振り返りシート	教科書あとがきを読み、事前学習シートを作成する																
	15	教養として文学作品に触れる：中間発表3回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート 事後アンケート	ポスター・プレゼンの準備を行う（2時間程度） 事後学習：第3回レポート																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>おとなの教養2</td> <td>池上彰</td> <td>NHK 出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>星の王子さま</td> <td>サン＝テグジュペリ</td> <td>新潮文庫</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>コロナ後の世界</td> <td>大野和基（編）</td> <td>文春新書</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	おとなの教養2	池上彰	NHK 出版	2	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫	3	コロナ後の世界	大野和基（編）	文春新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	おとなの教養2	池上彰	NHK 出版																	
2	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫																	
3	コロナ後の世界	大野和基（編）	文春新書																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢／ルーブリック（チーム：15%）、・ファイリング（個人：5%） ・ポスター発表（チーム：20%） ・レポート 3回（個人：30%）、・振り返りシート（個人：10%） ・理解度確認クイズ（個人：10%） ・事前学習シート（個人：10%） <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>																			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。																			
担当者の 研究室等	伊藤譲（1号館3F）、寺内睦博（11号館10F）、石井三恵（7号館5F）、上野山裕士（7号館3F）、東武大（5号館1F）、浅野慎一、堀田裕子																			
備考	この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。この授業は原則的に対面で実施します。やむを得ず、遠隔授業やハイブリッドで実施する場合も顔が見えることを出席の条件とします。																			

科目名	エリアスタディーズ 北アメリカ	科目名 (英文)	Area Studies: North America
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1568a0		

授業概要・目的	<p>アメリカ合衆国とカナダが位置する北アメリカ地域の歴史、政治経済、社会文化について多角的、学際的に学ぶ授業です。国際学部のディプロマ・ポリシーのうち、主として「国際社会の多様性を理解するとともに、世界と日本の関係について人文・社会学的研究を行うための専門知識を身につけている」の部分の基礎をつくる科目であり、教職課程における「異文化理解」区分の選択科目でもあります。</p> <p>人種問題、移民問題、銃規制問題、同性婚問題、医療問題など、日本語によるニュース報道も多く比較的身近なアメリカ合衆国の時事問題を取りあげ、それら諸問題の背景を深く掘り下げる形で、まずはアメリカ合衆国の歴史、政治経済、社会文化についての知識と理解を身につけます。続いて、カナダとの対比や日本との関係を視野にいれた学びを進めます。学期終盤には、特定のトピックをより深く掘り下げながら学習内容を振り返る総合演習を行います。</p>
到達目標	<p>(1) アメリカ合衆国とカナダの歴史、政治経済、社会文化の特徴について、具体例を挙げて対比しながら説明することができる。</p> <p>(2) 北アメリカ地域の事例を通じて、多様な文化背景と価値観を持つ人々の共生について批判的に思考し、日本社会における多文化共生についても当事者意識を持ち、事実に基づいた意見を交換できるようになる。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生があらかじめ指示された動画や文献資料を参照しておき、教室では講義ではなく、グループワークや質疑応答、内容確認の小テスト等を行う授業形式である「反転授業」を取り入れた形式で行います。15回すべて反転授業をするわけではありませんが、毎週、十分な予習・復習時間とインターネット環境を確保し、準備をした上で授業に出席し、積極的な発言（文字投稿による発言を含む）をすることが必要です。 ・予習、復習時はもちろん、授業時間中も Teams と Moodle を常時活用します。これらのツールには早いうちに十分に習熟し、通
科目学習の効果 (資格)	海外での研修や留学に際して、また国内での異文化交流に際して必要となる一般常識、国際感覚。高度な英語力を身につけるための基礎となる英語圏についての基礎知識。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容・方法説明	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)
2	アメリカの歴史1 建国期	あれほど乱射事件が起きているのにアメリカで銃規制が難しいのはなぜ? : 植民地時代、独立戦争までさかのぼって考える。	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)	
3	アメリカの歴史2 領土拡張と奴隷制	アメリカで銃規制が難しいのはなぜか? その2 : 領土拡張、奴隷制、南北戦争	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)	
4	アメリカの歴史3 南北戦争の原因と結果	アメリカの人種問題の原点: 民主主義の拡大と領土拡張、奴隷制、南北戦争	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)	
5	アメリカの地理1 北部・南部	「アメリカ南部」とは? アメリカの南のほう?	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)	
6	アメリカの地理2 中西部	ニュースでよく見る「アメリカ中西部のラストベルト」とは?	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)	
7	アメリカの歴史4 第二次世界大戦	今のアメリカ人は「昔、日本に原爆落としたのは悪かった」と思っているのか? : 日米における戦争と原爆の記憶	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)	
8	アメリカの民族1 ヨーロッパ系	WASP? ユダヤ系? イタリア系? みんな「白人」じゃないの?	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)	
9	アメリカの民族2 アジア系	日本人も差別される? アジア系はみんな成功している? 「モデルマイノリティ」とは?	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(2時間程度)	
10	アメリカの民族3 ラティノ/ヒスパニック	中南米系、「ラティンクス」といった呼ばれ方もする移民グループ。	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)	
11	アメリカの宗教	個人の自由を大切にしているはずのアメリカで、妊娠中絶や同性愛がなぜそれほど大きな政治問題なのか	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)	
12	アメリカとカナダ	カナダはアメリカと同じような国か? 実は、けっこう違います。	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(2時間程度)	
13	日米関係	日米安保破棄という可能性を真面目に考えてみましょう。→「日米における原爆投下の歴史記憶」にテーマ変更の可能性あり。	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)	
14	まとめ1 アメリカの進歩と分断	「進歩」と「分断」のキーワードでこれまで学んだ内容を整理してみましょう。	ここまで全ての資料やノートにあらためて目を通し、まとめ課題に取り組み始める。(5時間程度)	
15	まとめ2	まとめ課題についての質疑応答を通じ、全体を振り返ります。	もしも質疑の時間が足りなければアポイントをとって研究室へ	

関連科目	日米比較文化、日米文化交流史
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	シンプルな英語で話すアメリカ史	ジェームス・バーダマン	ジャパンタイムズ
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点70% (平常の小レポートや小テスト、グループワーク成果物等の提出物、質疑への参加による評価の合計) まとめ課題30% (平常の自身の Teams 投稿、小レポートや小テスト、グループワーク課題を見直し、ファクトチェックをして整理したものを学期末に提出)			
学生への メッセージ	アメリカ合衆国やカナダは実に面白い国です。決して「楽」な授業にはしませんが、アメリカ、北米地域のことを知りたい学生には「楽しい」授業にしたいです。一緒にがんばりましょう。			
担当者の 研究室等	7号館3階鳥居研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。予習、復習、宿題、レポート等に関する質問やフィードバックはスチューデントアワーまたはアポイントにより研究室にて対応する。アポイントは電子メール torii@ile.setsunan.ac.jp まで。			

科目名	エリアスタディーズ ラテンアメリカ	科目名 (英文)	Area Studies: Latin America
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1569a0		

授業概要・目的
 ラテンアメリカは古来、先住民の文化的伝統を有しながらも、15世紀末以降ヨーロッパ諸国による征服と植民地支配を3世紀以上にわたって経験した地域です。その間に文化的混濁と都市部では生活の欧化が進行しました。その後19世紀初頭にアジアやアフリカ諸国に比べて150年ほど早く植民地支配からの独立を遂げますが、欧米による政治経済的介入を受け続けることになりました。この地域がたどった歴史的独自性を知るだけでなく、隣接する北米のアンゴロアメリカとの歴史的關係と今後の共存のゆくえや日本とのより深い関係構築について展望できるようになることをめざします。6つのサブ・リージョンに分け、視覚教材を適宜用いることで具体像を持てるよう、各回の授業テーマの中に織り込みます。
 地理的に日本からは遠隔地に位置していますが、ラテンアメリカ諸国と日本との関係はますます緊密化しています。親目的な国々と人びとについて知り、世界観を広げてください。

到達目標
 ラテンアメリカとは、北米大陸から南米大陸にかけて、カリブ海地域を含めた33の独立国と13の非独立領土から構成される広大な地域の総称です。この地域を多角的な視野から学際的かつ総合的に学ぶことによって、異文化理解を深めるための一助とすること。

授業方法と留意点
 ・履修生は毎週、リアクションペーパーに授業の中で最も興味を持った部分についての理解の概要や疑問点を書いてWebFolderに提出する。教員は次の授業で質問に対する解説を行う。これにより、双方向のフィードバックを可能にする。
 ・大学内でオンライン授業を受講する場合、配当されている教室での受講が可能。
 理解度確認のための課題に関するフィードバックは15回目のなかで実施する。

科目学習の効果 (資格)
 日本ではあまり知られていないラテンアメリカという地域の持つ固有の文化に親しむことで、グローバル社会の中で複眼的思考のできる観点を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ラテンアメリカの地理 (1)	地域名称の由来 域内諸国の名称と位置の学習	地域を構成する33ヶ国・13非独立領を地図上で確認する
2	ラテンアメリカの地理 (2)	地域の歴史的概要 産業と特産品	基礎統計資料一覧を読み解く ラテンアメリカ原産作物と資源について調べる
3	ラテンアメリカの地理 (3)	世界文化遺産を通して見る多民族・多文化社会	ラテンアメリカの世界遺産について調べる
4	ラテンアメリカの歴史 (1)	先住民古代文明	マヤ、アステカ、インカ文明のいずれかについて調べる
5	ラテンアメリカの歴史 (2)	征服と植民地支配	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
6	ラテンアメリカの歴史 (3)	独立とその後の近代化と従属化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
7	ラテンアメリカの歴史 (4)	20世紀の革命と民主化過程	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
8	ラテンアメリカの文化 (1)	美術・音楽	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
9	ラテンアメリカの文化 (2)	文学・映画	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
10	ラテンアメリカの文化 (3)	食文化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
11	ラテンアメリカの社会	階層社会の構造、民族文化と国民社会	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
12	ラテンアメリカの政治経済	政治体制の変遷 ラテンアメリカ経済の歴史の変容、現状と課題、地域統合	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
13	現代世界の中のラテンアメリカ	国際政治・経済の中のラテンアメリカの位置づけ ラテンアメリカ域内の地域統合と対米関係	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。提示された理解度確認のための課題を指定された期限までに提出する。
14	ラテンアメリカと日本の関係	移住と日系社会、政治・外交関係におけるラテンアメリカと日本	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
15	総括	総括の後、アメリカ合衆国への移民および「ライアーノス」がもたらす影響 理解度確認のための課題についてのフィードバック	広く西半球(米州)の相互関係に対して目を向ける。

関連科目 スペイン語圏概論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ラテンアメリカー地球規模課題の実践	畑恵子・浦部宏之編	新評論
2	ラテン・アメリカ社会科学ハンドブック	ラテン・アメリカ政経学会編	新評論	
3	ラテンアメリカはどこへ行く	後藤政子・山崎圭一	ミネルヴァ書房	

評価方法 (基準) リアクション・ペーパー 50% + 理解度確認の課題 50%

学生へのメッセージ ラテンアメリカは日本から遠く離れた地域ですが、日本との親密なつながりもあり、不思議な魅力にあふれる混沌とした世界です。そこへと分け入ることで、自分自身のこれまでのものの見方を相対化するきっかけとなるでしょう。

担当者の 7号館5階 北條研究室

研究室等	
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。

科目名	エリアスタディーズ 東アジア	科目名 (英文)	Area Studies: East Asia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1570a0		

授業概要・目的	中国と韓国の社会と文化の概要を学び、東アジア地域への理解を深める。
到達目標	中国と韓国を中心とした東アジアの歴史・文化の概要を理解することができる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。 第1～9回は中国、第11～15回は韓国を対象とし、レジュメ・資料を配布し、映像資料も用います。 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックします。
科目学習の効果 (資格)	日本を含む東アジア地域に対する理解が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	華北 (小都)	北京を取り上げて、華北地域の社会と文化を学ぶ。また中国政治の特徴について考える。	配布資料の予習・復習 (事前および事後) (各1時間)
3	華東 (小都)	上海を取り上げて、華東地域の社会と文化を学ぶ。また中国社会の特徴について考える。	配布資料の予習・復習 (事前および事後) (各1時間)
4	華中 (小都)	中原の歴史や中華思想について学び、漢民族社会の特徴について考える。	配布資料の予習・復習 (事前および事後) (各1時間)
5	西南・西北 (小都)	中国の少数民族地域の社会と文化について学び、その特徴について考える。	配布資料の予習・復習 (事前および事後) (各1時間)
6	華南 (小都)	広州を取り上げて、華南地域の社会と文化を学ぶ。また香港・マカオの社会と文化を学び、一国二制度について考える。	配布資料の予習・復習 (事前および事後) (各1時間)
7	台湾 (小都)	台湾の社会と文化を学び、中国・台湾と日本の関係を考える。	配布資料の予習・復習 (事前および事後) (各1時間)
8	華僑・華人 (小都)	世界と日本の華僑・華人について学ぶ。	配布資料の予習・復習 (事前および事後) (各1時間)
9	授業の中間まとめと確認テスト (小都)	これまでの内容のまとめと確認テスト	これまでの内容を復習して、確認テストに備える (事前) (4時間)
10	韓国新聞についての基礎知識 (田中)	韓国マスメディアの日本語版サイトを紹介し、実際にアクセスしてみる。	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事後) (1時間)
11	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会 (1) (田中)	記事の輪読と解説：現代社会の諸相 (1)	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後) (各1時間)
12	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会 (2) (田中)	記事の輪読と解説：現代社会の諸相 (2)	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後) (各1時間)
13	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会 (3) (田中)	記事の輪読と解説：「今」を生きる若者 (1)	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後) (各1時間)
14	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会 (4) (田中)	記事の輪読と解説：「今」を生きる若者 (2)	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後) (各1時間)
15	韓国社会を読み解くための補助線 (田中)	映像作品の鑑賞と解説	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後) (各1時間)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)
第1～9回 (60%)、第10～15回 (40%) を合算して評価します。
第1～9回については、授業内で実施する課題および確認テストによって評価します。
第10～15回については、授業内で指示する課題への取り組み (提出状況および内容) に基づいて評価します。

学生へのメッセージ
東アジアに関する基礎的な知識を身につけ、自分が暮らす世界への理解を広げてください。

担当者の研究室等
小都研究室 (7号館3階)・田中研究室 (7号館4階)

備考
授業の進行スケジュールについては、出席者の状況に応じて調整する可能性があります。

科目名	エリアスタディーズ 西アジア・南アジア	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	竹村 嘉晃
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1571a0		

授業概要・目的	南アジア地域の国々（インド、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、ブータン、マルディブなど）は、インドの王朝による支配を受け、その後はイギリス植民地（インド帝国）として支配されるという歴史的・文化的経験を共有していることから、インド世界と称されることがしばしばある。本講義では、インドに基軸をおきながら、その複合的社会における人びとの暮らしや社会変容の動態を歴史的かつ多面的に捉え、南アジア地域に対する理解を深めることを目的とする。
到達目標	1) われわれが生きる同時代の問題として、南アジア地域の諸相とグローバル世界との接合をとらえ、政治・経済・社会・文化・宗教・生活世界といった多様な側面と関連づけながら、その特性を総合的に理解することを目指す。 2) 授業内での発言や質疑および小論文などの課題を通じて、複眼的かつ論理的に思考・解明する力や情報リテラシー能力、ならびに発進力を養う。
授業方法及び留意点	本授業は講義形式で行い、授業の理解を助けるためにスライドや音響・映像資料を用いる。 受講者には毎回リアクションペーパーの提出を課し、コメントや質問を求める。リアクション・ペーパーのフィードバックや内容の確認は、次の授業時に冒頭で取り上げて解説する。 受講者には積極的な参加姿勢を求め、質問や意見を頻繁に尋ねる。各講義の中で取り上げた問題や事象について、自ら問いや疑問を立て、批判的思考を学び、自らの意見をまとめてノートにとる訓練をしてもらいたい。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の目的、内容、授業の進め方などについて説明する。	シラバスを読んでおくこと
2	南アジアの暮らしと社会:多民族・多宗教・多言語	多様性と変化	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
3	南アジアの暮らしと食:ファスト・フードとスーパー・フード	ファスト・フード、ストリート・フード、アーユルヴェーダ、菜食主義	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
4	南アジアの暮らしと食:宗教と食	食のタブー	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
5	南アジアの暮らしと衣:サリーとジェンダー	ファッションがつくるインド	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
6	南アジアの暮らしと衣:ファスト・ファッションと労働環境	「ラナ・プラザの悲劇」	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
7	南アジアの暮らしと信仰:ヒンドゥー教とカースト制度	多宗教社会のなかのヒンドゥー教	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
8	南アジアの暮らしと信仰:不可触民と留保政策	差別と優遇をめぐる問題	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
9	学外演習 国立民族学博物館の南アジア展示を巡る	モノからみる南アジア世界	学外演習の課題を事前に配布するので予習しておくこと
10	学外演習 国立民族学博物館の西アジア展示を巡る	モノからみる西アジア世界	学外演習の課題を事前に配布するので予習しておくこと
11	湾岸アラブ諸国で働く南アジア系労働者	ドバイの外国人労働者と送金	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
12	グローバリゼーションと南アジア文化:インド映画の隆盛	多言語制作のインド映画産業	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
13	グローバリゼーションと南アジア文化:逆輸入したヨーガ	ヨーガの隆盛とソフト・パワー	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
14	グローバリゼーションと南アジア文化:移民とインド芸能	シンガポールのインド人コミュニティとインド芸能	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
15	まとめと授業内試験	学習到達度の確認と論述試験	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代インドを知るための60章	広瀬崇子・近藤正規・井上恭子・南埜猛編	明石書店
	2	ようこそ南アジア世界へ	石坂晋哉・宇根義己・舟橋健太編	昭和堂
	3	新版インドを知る事典	山下博司・岡光信子	東京堂出版

評価方法（基準）	平常点で総合的に評価する。 平常点の内訳は、授業への参加姿勢が40%（2/3以上の出席とリアクション・ペーパーの提出、質問・コメントなど積極的な発言）、課題の提出が30%（授業内容に関連した小論文の提出、南アジアに関する書籍の書評1冊）、授業内試験が30%（学期末に複数の設問から選択による論述）で
----------	--

	評価する。
学生への メッセージ	日頃からニュース、新聞、ネットなどで南アジアや西アジアに関する記事に目を向け、現在の社会情勢に触れてもらいたい。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）
備考	事前事後の学習時間の目安は計60時間。

科目名	エリアスタディーズ 東南アジア	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上田 達, 山本 文子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1572a0		

授業概要・目的	東南アジアを大陸部と島嶼部に大別して、それぞれの地域における各国の文化、社会、歴史、経済、政治についての基礎的な知識を習得し、そのうえで各地域における人びとの生活の多様性と共通性について考える。大陸部を山本、島嶼部を上田が担当する。			
到達目標	* 東南アジアについての基礎的な知識を習得する。 * 東南アジアに関する報道に対して、地理的・歴史的な背景を踏まえたうえでの深い考察ができるようになる。			
授業方法と留意点	* 講義形式で行う。授業の理解を助けるために映像資料を使用する。 * 受講者にはペーパーで毎回コメントや質問を求める。重要なものについては、次回授業冒頭で取り上げて解説する。 * 話をただ聞きながらではなく、自分で考えながらノートをとること。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義の目的、内容、進め方について説明する。(上田・山本)	紹介する資料を参照すること。
	2	東南アジア (大陸部) の国々	自然環境、民族、宗教 (山本)	紹介する資料を参照すること。
	3	東南アジア (大陸部) の宗教	仏教の広がりとその受容・発展 (山本)	紹介する資料を参照すること。
	4	東南アジア (大陸部) の歴史	植民地支配と独立 (山本)	紹介する資料を参照すること。
	5	東南アジア (大陸部) の国々 —ベトナム	ベトナム ベトナム戦争と日本 (山本)	紹介する資料を参照すること。
	6	東南アジア (大陸部) の国々 —タイ	タイ 観光、多民族 (山本)	紹介する資料を参照すること。
	7	東南アジア (大陸部) の国々 —ミャンマー	ミャンマー 宗教、多民族 (山本)	紹介する資料を参照すること。
	8	東南アジア (大陸部) のまとめ	前半部の学習到達度を確認する課題に取り組む。(山本)	紹介する資料を参照すること。
	9	東南アジア (島嶼部) の国々	自然環境、民族、宗教 (上田)	紹介する資料を参照すること。
	10	東南アジア (島嶼部) の宗教	イスラームとキリスト教の広がり (上田)	紹介する資料を参照すること。
	11	東南アジア (島嶼部) の歴史	植民地支配と独立 (上田)	紹介する資料を参照すること。
	12	東南アジア (島嶼部) の国々 —マレーシア	マレーシア 宗教、多民族 (上田)	紹介する資料を参照すること。
	13	東南アジア (島嶼部) の国々 —インドネシア	インドネシア 宗教、多民族 (上田)	紹介する資料を参照すること。
	14	東南アジア (島嶼部) の国々 —東ティモール	東ティモール (上田)	紹介する資料を参照すること。
	15	東南アジア (島嶼部) のまとめ	後半部の学習到達度を確認する課題に取り組む。(上田)	紹介する資料を参照すること。
関連科目	東南アジアに関連するすべての講義科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	東南アジアを知る事典		平凡社
	2	入門 東南アジア近現代史	岩崎育夫	講談社
	3			
評価方法 (基準)	前半と後半のそれぞれについて、次の観点から評価する。 * 平常点 40% (授業への参加・貢献度を、コメント・感想などから総合的に判断する) * 到達度の確認を問う課題 60% (授業期間中に行う)			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館5階上田研究室 7号館2階 (非常勤講師室)			
備考	* 受講者数等によって、評価方法を変更することがある。初回授業時に指示するので必ず出席すること。 * 質問は原則として授業中に受け付ける。 * 事前事後学習時間は、60時間以上とする。			

科目名	エリアスタディーズ アフリカ	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	川口 博子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1573a0		

授業概要・目的

アフリカについてまったく何も知らないという人はいないと思います。みなさんはそれぞれに、アフリカにかんして何らかのイメージや知識をもっています。では、みなさんがもっているアフリカについてのイメージや知識とは、どのようなものでしょうか。それらはどこでどのように得られたものでしょうか。

本授業では、アフリカのさまざまなトピック（政治、経済、文化、現代的問題）について、実際に現地へ人びとがどんな暮らしをしているのか、どんな問題に直面しているのか、具体的に学んでいきます。一般にわたしたちがよく知っているアフリカ（たとえば紛争や貧困、開発支援など）の問題を、より具体的に、現地の人たちの視点から見ていくと、わたしたちのあまり知らないアフリカ（伝統の変化、紛争の現実、仕事の仕方、助け合いの方法など）が見えてきます。

本授業では、アフリカの外からアフリカの問題を考えるのではなく、アフリカの中からアフリカの問題や世界の問題を考えることを目指します。

到達目標

- 自分が知っているアフリカのイメージや知識について理解する。
- アフリカの人びとの実際の生活や現地の実態について理解する。
- 以上を踏まえたうえで、「アフリカとどのように関わることができるか」について考え、自分なりの答えを出す。
- 「アフリカから世界を見ると、どのような問題が見えてくるのか」考え、自分なりの答えを出す。

授業方法と留意点

- 課題論文を講読しながら授業をすすめます。課題論文を必ず読んで授業に臨んでください。
- 課題論文は、Web上で閲覧可能なものを授業中に紹介します。
- 受講者に発表などの課題を課すことがあります。
- 授業前・授業後に、学習課題を課します。
- 履修者の人数、関心、理解度などに応じて、シラパスの内容を一部修正する場合があります。

科目学習の効果 (資格)

- 異文化理解に役立つ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	今後の授業内容の概要 履修者の興味関心の確認 講師の紹介	【事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
2	アフリカと日本	日本で入手できるアフリカの情報（ニュース、文化、モノなど）を紹介しながら、アフリカに対するイメージ、自分との距離などを考える。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
3	アフリカの歴史	奴隷貿易や植民地支配といった歴史を振り返りながら、近年の Black Lives Matter 運動とおとして、人種差別について考える。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
4	自然と生業 (1)	アフリカ大陸にみられる各地の自然環境の特徴を学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
5	自然と生業 (2)	生業（おもに農耕と牧畜）をおとして、自然環境に根差した人びとの文化について学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
6	自然と生業 (3)	自然の保全と人びとの生業の関係について理解し、自然と人の共生のあり方について考える。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
7	アフリカのファッション	アフリカの人びとが好んで身にまとうアフリカンプリント布について学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
8	国家と民族 (1)	現代アフリカを生きる民族の状況と国家との関係について学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
9	国家と民族 (2)	アフリカにみれる地域紛争と難民について学び、ローカルな紛争解決の有効性について考える。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
10	国家と民族 (3)	アフリカからヨーロッパを目指す移民に焦点をあて、国家の外につながるネットワークについて学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
11	経済と開発 (1)	アフリカの都市部における小規模ビジネスとお金の使い方について学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
12	経済と開発 (2)	農村開発とフェアトレードについて、どうすれば人びとの生活の向上に貢献できるかを考える。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
13	経済と開発 (3)	アフリカの外とのつながってビジネスをするアフリカ人について学び、アフリカと日本の対等な関係について考える。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
14	期末試験	これまでの講義の内容に関する筆記試験を実施する。	【事前・事後】これまでの授業内容を振り返り、試験勉強をすること。
15	総括	前回の試験の解説をもとに、これまでの授業を振り返り総括する。	【事前・事後】試験の結果をもとに、復習をすること。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	アフリカ社会を学ぶ人のために	松田素二 編	世界思想社
	2	ようこそアフリカ世界へ	遠藤貢・阪本拓人 編	昭和堂
	3	アフリカで学ぶ文化人類学	石田慎一郎・橋本栄莉ほか編	昭和堂
評価方法 (基準)	①小レポート(全3回、授業内容に関する論文を読み、その内容をもとに自身の考えを記述する)・・・45% ②学習の到達度を測る試験(第14回目に実施)の得点・・・55%			
学生への メッセージ	授業前後に参考文献に目を通し、講義内容の理解を深めるようにしてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	参考文献は上記のほか、適宜授業中に紹介します。 授業時間外に質問等をする場合は、授業時間の前後に7号館2階(非常勤講師室)に来てください。 事前事後の総学習時間の目安は60時間。			

科目名	エリアスタディーズ ユーロッパ	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加来 奈奈
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1574a0		

授業概要・目的	現代のヨーロッパを理解するために、3つの地域（フランス、イギリス、ドイツ）に焦点をあて、多角的な観点からそれぞれの地域が抱える特徴的な問題を考察する。フランスにおいては、フランス革命から始まる共和政について理解し、ナショナリズムと政教分離（ライシテ）の問題から、国家における多様性と共存のあり方について検討する。イギリスについては、産業革命による社会の近代化、そしてヴィクトリア時代の文化の形成を踏まえたうえで、ジェンダーについて検討する。そして、ドイツについては、ナチス・ドイツをめぐる問題から、人種や戦争、戦後の記憶などについて検討する。今日にも関わる重要な問題を、歴史の視点を含めて考察することで、グローバルな視点で国際社会の多様性を理解し、人文・社会的知識を習得し、思考力と判断力に基づいて問題を発見する力を養う。
到達目標	フランス、イギリス、ドイツの歴史やそれぞれの地域が抱える諸問題を理解するとともに、そうしたことが現代社会にどのような影響を与えているかを説明することができる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。 パワーポイントによる授業を行い、それに関する資料を配布する。また、適宜、その他参考となる資料も配布する。 フィードバックは、適宜、授業資料に組み込んで実施する。
科目学習の効果 (資格)	フランス、イギリス、ドイツの歴史と地域の特徴をめぐる学習を通じて、現代のヨーロッパ世界を深部から理解できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	現代のヨーロッパ	・現代のヨーロッパ ・フランス、イギリス、ドイツの特徴	事前に、現代ヨーロッパを地図で確認するとともに、フランス、イギリス、ドイツのイメージについて書きだす。授業後は、それぞれの地域の特徴について整理する。
2	イギリスの近代	・産業革命 ・19世紀のイギリス	産業革命について調べてくる。
3	ヴィクトリア時代のイギリスと女性	イギリスにおける女性君主	事前に、イギリス人女性について思い浮かぶ人を調べ、授業後はそれに関して考察する。
4	イギリスの現代	・女性の社会進出 ・イギリスの文化や政治	現在のイギリスについて、イメージすることを考えてくる。
5	フランスの近代	・フランス革命の理念と文化	フランス革命について調べ、その前と後で何が変わったのかについて考える。事前に、ここ10年くらいのフランスの大きな事件について調べる。授業後は、ここまでのフランスに関する歴史と諸問題について整理する。
6	フランスのナショナリズム	フランス人らしさ	授業前にフランス人らしさについてイメージを書きだし、授業後はフランスのナショナリズムについて考える。
7	フランスの政教分離	フランス人とカトリック	カトリックについて調べてくる。授業後は、現在のフランスの宗教について調べる
8	フランスの現代	政治と移民	フランスの抱える現在の問題について調べる。
9	フランスに関するまとめ	これまで講義した内容をまとめ、グループディスカッションを行う。	事前にこれまでの内容をまとめる。事後、ディスカッションをもとに意見をまとめる。
10	ナチス・ドイツとは。	・ナチス・ドイツの全体像	事前に、ヒトラーについて調べ、20世紀前半のドイツの年表を作る。
11	ナチス・ドイツの政策 (1)	・プロパガンダ *発表を予定	事前に、ナチス・ドイツが行った政策について調べる。授業後は、その影響力について考察する。
12	ナチス・ドイツの政策 (2)	・優生思想 *発表を予定	事前に、優生思想という言葉を調べる。授業後は、そこから生まれた諸問題について確認する。
13	ナチ政権下ドイツの人々	・ナチスの政策について人々とした反応について学ぶ *発表を予定	当時のドイツの人々の状況を調べる。
14	ドイツの現代	・戦後ドイツの歴史 ・ドイツの戦後の記憶 *発表を予定	事前に、戦後のドイツについて年表を作り、戦後から現代にいたるまでの重要な出来事を確認する。
15	現代ヨーロッパの諸問題	・これまでの授業をまとめ、現代ヨーロッパの諸問題について考察する。	事前に、授業で扱った内容全体を復習する。授業後は、現代のヨーロッパないし日本が抱える問題とも比較する。

関連科目	ヨーロッパ史学
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学で学ぶ西洋史 [近現代]	小山哲ほか	ミネルヴァ書房
2				
3				

評価方法 (基準)	不定期に授業中に課す課題 (発表) や、授業の区切りごとに課す小レポート (50%)、期末レポート (50%)
-----------	---

学生へのメッセージ	ヨーロッパのフランス、イギリス、ドイツについて見ていきます。それぞれ特徴的なこともあれば、共通することもあり、こうした地域の持つ問題の多くは、現代の日本社会ともかかわってきます。日々の世界のニュースにも関心を持ち、授業に取り組んでください。授業の後半においては、グループワークと発表を予定している。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階加来研究室
備考	事前、事後学習に要する総時間は約60時間である。

科目名	エリアスタディーズ オセアニア	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1575a0		

授業概要・目的	オセアニア地域の中でも、特にオーストラリアとニュージーランドについて、その歴史、文化、生活習慣、教育事情、先住民、多文化主義、移民政策など様々な観点から理解を深めることを目的とする Classes conducted 100% in English. The content covers Oceania and the two largest countries in the area, Australia and New Zealand focusing on the history, culture, lifestyle, education, people, multiculturalism and government policies. The goals of this course are to improve students' English skills (speaking, listening, reading, writing) in a content-based format. English note-taking will be undertaken (purchase a notebook).
到達目標	・オセアニアという地域の特徴を把握できる ・オーストラリア、ニュージーランドについて幅広い知識を得る
授業方法と留意点	This class is a mini-lecture on the topic, note-taking during class, quiz on the content, readings in English, and pair discussion. Students need to prepare for a final pair or group powerpoint presentation on various Pacific Islands that are part of Oceania.
科目学習の効果 (資格)	A great introduction to many countries in Oceania.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	Introduction to the course, Online platforms (Line, Moodle, Zoom), Texts	Self-intro video - About yourself and your experience/ knowledge of Oceania?
	2	Overview of Oceania	HW share with partner, lecture, quiz	Comment, notetaking, textbook reading
	3	History of Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	4	Geography of Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	5	Lifestyle of Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	6	Lifestyle (2) of Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	7	Australia & New Zealand English	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	8	Education in Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	9	Education (2) in Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	10	Indigenous peoples in Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	11	Minority Policies in Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	12	Multiculturalism and Immigration in Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	13	Final explanation and practice for your presentation & final report	HW share of comment with partner,	notetaking, sending your powerpoint file, preparing your script in English (in your own words, not a copy paste from the Internet) Practicing for your final presentation
	14	Pair/Group Presentations	Final presentations, evaluations, and questions	Comment & notetaking
15	Pair/Group Presentations	Final presentations, evaluations, and questions	Comment & notetaking	

関連科目 英語圏概論など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) Weekly English note-taking in a notebook (in-class note-taking & opinion on the content) 30%, Final pair or group powerpoint presentation 30%, Quizzes (Readings & Mini-Lectures) 20%, Attitude 20% (100% English, enthusiastic, on time, focused).

学生へのメッセージ A Notebook is required. Please prepare and be ready to talk only in English.

担当者の研究室等 Amanda's office, Building 7, 5th floor

備考 講義、学生発表、リーディング、レポートは全部100%英語で行うので一生懸命英語で頑張る学生に大歓迎です。事前事後の総学修時間は60時間を目安とします。

科目名	共同体論	科目名 (英文)	Theory of Community
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	加来 奈奈
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1576a0		

授業概要・目的	この授業では様々な共同体のあり方を検討するために、ハプスブルク家の支配地域を題材とする。中世後期から第一次世界大戦までに多様な地域を支配したハプスブルク家の所領は、現在では、オーストリア、ハンガリー、スペイン、ベルギー、チェコ、スロヴァキアなどに相当し、言語、文化、法など様々な地域を内包している。このハプスブルク家の歴史を通して、中世都市内の共同体、近世の政治的共同体と宗派による共同体、近代国家における少数民族のための共同体、さらにヨーロッパ連合など多様な共同体のあり方や、共同体間の繋がり、そして共同体とそこに属する人との関係を検討する。共同体の多様性と、そこに属することはどういうことなのかを見ていくことで、グローバルな視点で国際社会の多様性を理解するとともに、人文・社会学的研究を行うための専門知識を身につける。
到達目標	共同体を、個人や地域・国家とのかかわり、さらにトランスナショナルなかかわりの中で多層的にとらえる視点を身につける。また、さまざまな共同体の仕組みを説明できる。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いて授業を行い、資料を配布する。 フィードバックは、適宜、授業資料に組み込んで実施する。
科目学習の効果 (資格)	グローバル社会のなかで共同体 (コミュニティ) がもつ意味について広く学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	共同体 (コミュニティ) についての考察	授業の概要説明をおこなった後、多文化主義の観点から「共同体がもつ意味」について考える。	「共同体」という言葉から連想する事柄を列挙してくる。ハプスブルクと聞いて思いつくものを確認する。
2	ハプスブルク家の支配	・ハプスブルク家の歴史の概要	ハプスブルク家の人物について調べる。
3	ハプスブルク家の拡大	・ハプスブルク家の支配領域の拡大 ・地域の自立性と国家的統合 ・国家間の紐帯	神聖ローマ皇帝カール5世について調べてくる。地図で所領を確認する。
4	近世前半のオーストリア (宗派対立)	・ヨーロッパの宗派対立 ・オーストリアでの宗派争い	カトリックとプロテスタントの違いについて調べてくる。
5	近世前半のネーデルラント (統一と分離)	・都市・領邦の自治とネーデルラントの統一 ・ネーデルラントの反乱と南北分離	オランダ独立戦争について調べてくる。カルヴェン派とイエズス会について調べてくる。
6	近世前半のスペイン	・スペインにおける集権化 ・異端審問	フェリペ2世について調べてくる。スペインにおけるユダヤ人とイスラームについて確認する。
7	近世後半の概要と啓蒙について	・17世紀初めにおける所領の変化 ・近世の社団と啓蒙思想	これまでの授業のポイントを整理する。啓蒙という言葉について調べてくる。
8	マリア・テレジア (1)	・マリア・テレジアの即位 ・マリア・テレジアの啓蒙に対する態度	オーストリア継承戦争とマリア・テレジアについて調べてくる。
9	マリア・テレジア (2)	・マリア・テレジアの啓蒙改革 ・農村や教育への国家介入	啓蒙改革の一つの「脱宗教化」について、この時代宗教の影響が強かったと思われるものを書きだす。
10	ヨーゼフ2世 (1)	・ヨーゼフ2世の改革 ・集権化と地方自治 ・自由と保護	ヨーゼフ2世について調べてくる。
11	ヨーゼフ2世 (2)	・ヨーゼフ2世の改革 ・民族運動	ハンガリーの歴史について調べてくる。
12	アウスグライヒ (1)	・フランツ・ヨーゼフの改革 ・オーストリアとハンガリー	フランツ・ヨーゼフについて調べてくる。民族の定義について考える。
13	アウスグライヒ (2)	・多民族国家における試み	・サラエボ事件について調べてくる。
14	ポスト・ハプスブルク	・現代社会における公用語の問題 ・国家におけるマイノリティ	・チェコとスロヴァキアの歴史について調べる。
15	総括	・ハプスブルク家の支配のまとめと共同体について	これまでの授業を振り返り、論点をまとめる。

関連科目	社会文化史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ハプスブルク史研究入門	大津留厚ほか	昭和堂
	2	ハプスブルクの実験	大津留厚	春風社
	3			

評価方法 (基準)	授業中に課す課題 (20%)、期末テスト (80%)
-----------	----------------------------

学生へのメッセージ	ハプスブルク家はヨーロッパにおいて広大な領域を支配しました。その領域は、バラバラの文化や政治体制があり、最終的にはそうした伝統が維持され、今では様々な国ができています。そうしたできた国では、連邦制であったり、公用語が複数あったりと、さらに国内の地域に高い自立性が認められているケースが多いです。こうした多様性があり、多層な共同体がくっついたり、離れたりはどういうことなのかを、ハプスブルク家の歴史を通して考えていきます。
-----------	--

担当者の研究室等	初回の授業でお知らせする。
----------	---------------

備考	事前、事後学習に要する総時間は約60時間である。
----	--------------------------

科目名	多文化共生論	科目名 (英文)	Multiculturalism
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1577a0		

授業概要・目的	<p>人類は共同生活をおくる集団の中で進化してきたといわれます。しかしながら、他の人と共に生きることは必ずしも容易ではなく、しばしば苦痛をとまないと。共生することはどうして難しいのでしょうか。その困難を克服する道はないのでしょうか。</p> <p>この授業では、主に「暴力」をキーワードに、生物人類学や社会学をはじめ、さまざまな研究成果を学びつつ、人と人が共生することの難しさを考えます。また、現代社会において残存する暴力の具体的事例について向き合い、克服に向けて努力する方法を考えます。</p> <p>※本授業は、「国際教養」プログラム対応科目である。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生物人類学や社会学における暴力の説明方法について理解し、自分なりに説明できる。 ・学んだ知識を具体的事例の解釈に応用することができる。 ・既往の科学的成果について批判的に考えることができる。
授業方法及び留意点	<p>講義を聴いて既往研究の知見を理解し、小テスト (理解度チェック) や小課題を通じて応用力と批判的思考を養います。また、学期末に関連テーマのレポートを提出してもらいます。</p> <p>・コメントシートやレポートへのフィードバック (提出物へのコメントや質問への回答) は、基本的に授業時間内に行う。それが困難な場合にはオフィスアワーに教員の研究室、またはメールにて行う。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>この授業により、共生、暴力、理性、制度といった抽象的な概念について議論するための、一つのフレームワークを習得することができると考えます。</p> <p>もちろんこの授業で紹介する考えは万能ではなく、欠陥さえあるはずですが、しかし、今後の人生の中でこれを自分なりに磨き上げたり、場合によっては別のものと取り換えたりしながら、自分なりの「共生」観を育ててゆくためのきっかけとなるでしょう。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション:多文化共生へのアプローチ	多文化共生についてどのようにアプローチすればよいか、この授業の基本的立場を理解する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
2	世界の真理を求めて:近代啓蒙主義	近代啓蒙主義の基本的な特徴について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
3	文化は客観的に記述できない?:啓蒙主義批判	啓蒙主義への批判的立場について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
4	自然主義的アプローチの紹介	自然主義的アプローチの基本的な考え方について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
5	人類の進化史 (1)	人類進化の歴史に関する基本的知識について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
6	人類の進化史 (2)	人類進化の歴史に関する基本的知識について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
7	暴力の進化的起源 (1)	ヒトがなぜ暴力を行使するのかを進化的起源から検討する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
8	暴力の進化的起源 (2)	ヒトがなぜ暴力を行使するのかを進化的起源から検討する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
9	道徳の進化的起源	道徳の進化的起源についての仮説について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
10	理性の効力	理性が暴力の減少にいかんにかに貢献したかについて考える。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
11	信頼と安心:制度の持つ力	信頼についての研究成果をもとに社会の慣習や諸制度の役割の重要性について理解する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
12	いじめの構造	いじめに関する社会学的研究から、その発生条件や予防策について検討する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
13	日本の女性差別	女性差別が温存される要因について検討する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
14	家族の地域的多様性と文化接触	家族の地域的・歴史的多様性と異文化理解の難しさについて理解する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
15	総括:共生に向けて	授業の振り返りと総括を行う。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。

関連科目 「暮らしの中の文化」「グローバル社会と日本」「共同体論」など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暴力の人類史 上・下	ピンカー、S.	青土社
	2	世界の多様性:家族構造と近代性	トッド、E.	藤原書店
	3			

評価方法 (基準) 最終レポート 70%、授業への取り組み (課題、理解度チェック、コメント・質疑) 30%

学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館5階小林特任講師室。 ※用事がある場合には、事前に必ずメールで伝えること (hajime.kobayashi@setsunan.ac.jp)
備考	・事前・事後学習は60時間を目安とする。

科目名	風土と地理	科目名 (英文)	Climate and Geography
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1578a0		

授業概要・目的
この授業では地理学という学問分野の基礎知識について学びます。
地理学は、空間・地域・環境といった視点から、私たち人類が住む世界の成り立ちを理解し、説明しようとする学問です。様々な学問分野の間の境界領域に位置し、研究対象も方法も多岐にわたっているという特徴を持ちます。
本講義では、こうした地理学の基本的な見方、考え方を身につけることを目的とします。

到達目標
・地理学の基本となる考え方について説明できること。
・特定の問題について地理学的な視点から捉えることができること。

授業方法と留意点
・主に ①地理学がカバーする諸領域、②現代社会を理解するうえで重要と考えられる理論・学説、③地理学の歴史と現代的諸課題について講義します。
・学生の皆さんには、理解度を問うための小課題（理解度チェック）とレポートに取り組んでもらいます。
・提出物へのコメントや質問への回答などのフィードバックは、基本的に授業時間内に行う。それが困難な場合には休み時間や教員オフィスアワー等に、教員の研究室、またはメール等にて行う。

科目学習の効果（資格）
担当教員は、地理学を学ぶことに以下のような利点があると考えています。少し難しいですが、授業を最後まで受講することで理解できるでしょう。
(1) 一つの見方や方法論に縛られない複眼的思考が身につく。
(2) さまざまな事象が地域・場所によって異なることを理解し、比較する視点を持つことができる。
(3) 個人、地域社会、都市、国家、世界とスケールを変えて物事をみることができる。
(4) 距離や空間の広がり／狭まりが社会にどんな影響を及ぼすか考えることができる。
(5) 人と人、

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地理学とはどのような学問か？	この授業の概要を理解し、地理学という分野の範囲と見方の特徴について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
2	地図の発達史：古代から現代まで	古代から現代にいたる地図の歴史、地図の製作・利用等について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
3	自然環境と人類	自然環境と人類との関係を捉える視点について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
4	人口動態を捉える	人口の増減や人口移動のメカニズムについて学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
5	家族形態の地域的多様性	家族が地域的に多様であり、歴史的にも変動してきたことを学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
6	日本の農村と社会	日本の農村とその社会について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
7	都市空間の発達と構造	都市の発達と構造をとらえる視点について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
8	産業からみた都市の変遷	産業の変化に伴い、都市がどのように変遷してきたかを学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
9	国際貿易の発達	国際貿易の発達過程とその理由、そしてリスクについて理解します。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
10	農と食をめぐる諸問題	世界の農業および食料供給の多様性と課題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
11	人口減少と日本の地域課題	人口減少、経済停滞期において日本の諸地域が抱える問題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
12	ツーリズムの発達	地域・空間の視点から観光を捉えるための方法やその成果について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
13	疫病の空間的拡散	疫病の空間的拡散パターンに関する研究を学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
14	モビリティを考える	モビリティについての社会科学的研究について解説します。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
15	今後の社会を考える：地理学の活用	授業の総括と、今後の社会を考えるうえで必要な視点について考えます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代人文地理学	佐藤廉也・宮澤仁編	放送大学教育振興会
2			

	3		
評価方法 (基準)	レポート 70%、小テストおよびコメント 30%		
学生への メッセージ	<p>大学の地理学は、以下の点で高校までの地理とはまったく違います。</p> <p>(1) 扱うテーマが多岐に及ぶこと。さらに他分野との相互交流があること。</p> <p>(2) 試験のための勉強ではなく、自分の関心事について探索したり、深めるための学問であること。</p> <p>この授業をみなさん自身の学びのために活用してもらえことを切に願います。</p>		
担当者の 研究室等	<p>寝屋川キャンパス 7号館 5階 小林研究室。</p> <p>※用事がある場合は、かならず先にメールで用件を伝えてください (hajime.kobayashi@setsunan.ac.jp)。</p>		
備考			

科目名	国際関係論	科目名 (英文)	International Relations
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1579a0		

授業概要・目的	国際協力は、開発途上国に対する援助供与という観点で捉えられがちだが、開発途上国、開発援助国を問わず、互いが抱える問題にパートナーとして協力していくことが国際協力の本来のあり方である。本講座では国際協力や国際援助の歴史、意義、効果と限界、南北問題、日本外交と対外援助、日本のODAやNGOの現状と課題について、開発援助国と開発途上国との間で起こった事実を踏まえて学ぶ。 SDGs- 1, 2, 4, 17
到達目標	国際協力の必要性・重要性、開発途上国の実情・現状や課題について理解を深め、国際協力のありかたについて自らの考えを持つ。
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。
科目学習の効果 (資格)	将来的に、国際分野に進むために学んでおかなければならない国際協力の基礎

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	国際協力とは何か	国際協力の意味	国際協力がなぜ必要なのかを考える
3	日本の国際協力	日本が行って来た国際協力について	国際協力の意味とな何だったのか、これからどうなるのかを考える
4	非政府組織 (NGO)	NGO の得意な分野と苦手な分野	民間でできる国際協力はあるのかを探る
5	草の根組織・地方自治体	普通の人が出来る国際協力	様々な民間団体が補助金を利用していることを調べる
6	国際連合	様々な組織とその役割	国際機関の活動について調べる
7	国際協力を受ける国々 (1)	開発途上国 (アジア) について (過去・現在・将来)	世界でアジア地域の問題とは何かを考える
8	国際協力を受ける国々 (2)	開発途上国 (アフリカ) について (過去・現在・将来)	世界でアフリカ地域の問題とは何かを考える
9	国際協力を受ける国々 (3)	開発途上国 (アジア・アフリカ以外の国) について (過去・現在・将来)	アジア・アフリカ以外での問題は、何かを考える
10	国際協力の仕組み	国際協力の仕組みを解明する	誰が・誰に・何を・どうするのか理解する
11	人・物・金	国際協力にまつわるキーワード	先進国にあって、開発途上国にないものを考察する
12	国際協力の課題	主要援助国が抱える国際協力問題について	いつの時代にも貧困が根本にあることを理解する
13	開発教育	開発教育とはなにか、どうして必要なのかを紐解く	貧困を解く鍵は「教育」であることを理解する
14	国際協力の課題	今後、国際協力はどうあるべきかを考える	人類が将来的に向き合わなければならないことは何かを考える
15	総括的確認 (必ず出席すること)	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	世界中の人々が平等に平和に過ごすための条件を考える

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	記述式小テストの総計(100%)により評価する。記述式小テストは、3週間に一度程度行います。これは、学期末に詰め込み式で理解するのではなく、ある程度まとまった形で、「理解し考える」ことを目的としています。
-----------	--

学生へのメッセージ	国際協力機関・国際ボランティア・青年海外協力隊など、将来この方面に進みたい学生には入門講座的として役割を果たします。この講義を受けて国際協力に興味を持った摂南大学の現役学生が青年海外協力隊員として、世界の国際協力現場の最前線で活躍しています。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階(浅野研究室)
----------	--------------

備考	この授業の担当教員は、国際協力機構 (JICA) の国際協力専門家として、アフリカ・ケニアにおいて10年間の勤務経験があり、摂南大学の現役学生を33名、JICA ボランティア (青年海外協力隊) に合格させた実績がある。現役学生の合格者数は、日本国内の大学でトップクラスとなっている。
----	--

科目名	音声学	科目名 (英文)	Phonetics
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1589a0		

授業概要・目的	英語の音韻体系に基づいた調音音声学を中心とし、日本語や他の言語とも比較しながら、次のような内容について演習も交えて理解を深めていく。 ①母音や子音の発音記号とその音声的特徴、②音連続における連結・脱落・同化現象及び強勢やイントネーション、③語順、品詞、分詞と動名詞などの文法と音声の関連性、④中英語から現代英語へ至る音韻の歴史の変遷、⑤英国から北米・オセアニア・アジアにも広がる国際共通語としての英語の変種などについて具体例とともに学ぶ。
到達目標	この科目は、主として1年次の学生を対象とし、言語の音声の特徴について、英語を軸にし、必要に応じて日本語や他の言語とも比較しながら学んでいく。英語の音声の仕組み、英語の文法と音声の関連性、英語の歴史の変遷、国際共通語としての英語の実態などについて理解することをテーマ及び目標とする。
授業方法及び留意点	・授業は主に講義形式で行う。 ・レポートを（中間と期末の）計2回作成し、提出する。 ・音声学は学問の一分野であり、単なる発音練習ではないので、誤解のないようにしてほしい。 ・提出物（レポート）や発表については、授業中にフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	語学のリスニングやスピーキングの能力の向上が期待できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション (調音) 音声学について	(調音) 音声学とは何かについて、英語と日本語の例を比較しながら、その概要を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
2	母音について (1) —英語の単母音を中心に	英語の単母音について、日本語やその他の言語と比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
3	母音について (2) —英語の二重母音を中心に	英語の二重母音について、日本語やその他の言語と比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
4	母音からみた英語の変種 (方言) について	母音からみた英国・北米・オセアニア・アジアなどの英語の変種について理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
5	子音について (1) —英語の閉鎖音や摩擦音を中心に	英語の閉鎖音や摩擦音などの子音について、日本語と比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
6	子音について (2) —英語の鼻音や破擦音を中心に	英語の鼻音や破擦音などの子音について、日本語と比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
7	子音と半母音 (接近音) について	子音と半母音 (接近音) について、日英語を比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
8	音 (音韻) の単位について—分節音と異音、音節とモーラなどレポートの提出	分節音と異音、音節とモーラなどの概念について、音韻構造の観点から理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
9	音韻論と形態論の接点について レポートのフィードバック	・音韻論と形態論のインターフェイスの観点から、日英語の現象について考察する。 ・レポートの解答 (模範) 例を示しながら、内容や書き方について総評する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
10	音の変化について—連結・脱落・同化など	音連続における連結・脱落・同化などの現象について、具体例とともに理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
11	強勢 (アクセント) について	英語の強勢 (アクセント) の特徴について、体系的に理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
12	文法と音声の関連性について	英語の語順、品詞、分詞と動名詞などの文法と音声の関連性について理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
13	リズムとイントネーションについて	英語のリズムやイントネーションについて、体系的に理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
14	音韻の歴史の変遷について レポートの提出	中英語から現代英語へ至る音韻の歴史の変遷について理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
15	総括	・これまでの学習内容を総括する。	これまでの授業で学んだ内容の要点を整理し、重要

	レポートのフィードバック	・レポートの解答（模範）例を示しながら、内容や書き方について総評する。	な音声現象や用語についてさらに調べてみること（4時間）。	
関連科目	他の語学科目など。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント・音声教材を利用する		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英語教師のための音声指導 Q&A	内田洋子、杉本淳子	研究社
	2	辞書		
	3			
評価方法 （基準）	レポート（60%）、授業中の発言・討論、宿題・提出物等（40%） ※ただし、原則として授業への出席率が80%以上であることを条件とする。			
学生への メッセージ	知的好奇心を持っている人に向いている科目といえるでしょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階 中島研究室			
備考	・事前・事後学習総時間数は（2単位の科目であるため）60時間を目安とする。			

科目名	英語学概論	科目名 (英文)	Introduction to English Linguistics
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1590a0		

授業概要・目的	母語英語の歴史や諸特徴、世界で使用される様々な英語 (World Englishes)、英語と文化・社会、英語の会話構造、英文法・構文の理論、英語の音声特徴など、英語に係る様々な研究分野について、グループ学習・演習やディスカッションを織り交ぜながら、その考え方や研究の着眼点などについて、基本的な知識と方法を身に付ける。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 国際共通語としての英語の多様性について理解を深める 英語学研究の様々な分野について、基本的な考え方や方法について理解する 英語の文法、音声を含め、コミュニケーションにおける英語使用の様々な側面について、基本的な知識、考え方が身に付く
授業方法と留意点	授業の中では、グループ学習や演習等も積極的に取り入れていきますので、授業への積極的な参加がとても重要です。リアクション・ペーパー等に関するフィードバックは、その都度授業内で行います。
科目学習の効果 (資格)	教職課程 (英語) の必修科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、英語学は何を研究するか?	レクチャー、グループ学習、演習	教科書 pp. 1-13 (復習) 教科書 pp. 15-30 (予習) (2時間)
2	世界で使われる英語	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 31-61 (予習) (2時間)
3	母語英語の歴史と特徴	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 63-79 (予習) (2時間)
4	英語と社会的属性について考える	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 81-97 (予習) (2時間)
5	発話行為論	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 99-109 (予習) (2時間)
6	ポライトネス理論	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 107-117 (予習) (2時間)
7	中間まとめ	確認小テスト	授業内容の復習 (1時間 30分)
8	英語会話の構造	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 119-134 (予習) (2時間)
9	英語文化について考える	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 135-153 (予習) (2時間)
10	英語における非言語コミュニケーション	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 155-162 (予習) (2時間)
11	生成文法と認知言語学	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 162-165 (予習) (2時間)
12	メタファー理論	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 171-182 (予習) (2時間)
13	日英語文法比較	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 182-188 (予習) (2時間)
14	構文と事態把握	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 189-204 (予習) (2時間)
15	英語音声学と音韻論	レクチャー、グループ学習、演習	総復習 (3時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ベーシック新しい英語学概論	平賀正子	ひつじ書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	期末テスト: 40% リアクション・ペーパー: 30% 授業への参加: 30%
学生へのメッセージ	英語学は英語という言葉の研究する学問ですが、英語学の中には、実に様々な研究分野や方法論があります。英語学の世界を知ってもらいたい機会になれば幸いです。
担当者の研究室等	7号館4階 藤原研究室
備考	

科目名	言語学	科目名 (英文)	Linguistics
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1591a0		

授業概要・目的	この授業の目的は「言語」とは何かを理解し、また「言語」に対する知識を深めることにある。より深く言語を理解し、言語の多様性と共通性を理解することは、外国語学習のためにも必要な知識である。
到達目標	生成文法の基本的な考え方を理解し、生成文法の言語観及びごく最初期のモデルに則った分析方法について簡単な説明ができるようになること。
授業方法と留意点	基本的には対面ですが、コロナウイルスの感染状況によってはオンライン授業になる可能性もあります。対面式で授業が実施される場合も課題の提示、提出はウェブ経由で行います。成果物については授業内でフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	生成文法の初歩的な知識を得ることができる。音声学と合わせて3・4年次のゼミや教職関連や大学院進学にも役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	言語機能の基本的な特性	生成文法の言語観に基づく言語機能の基本的な特性について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
3	言語能力と言語使用	生成文法の定義する言語能力と言語使用について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
4	生得性と普遍文法	言語の生得性と普遍的文法について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週までに各自が学んでいる言語について系統を確認しておくこと。(2時間)
5	Xバー理論 1	Xバー理論の誕生の経緯について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
6	Xバー理論 2	範疇選択と意味選択と文、名詞句の内部構造	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
7	Xバー理論 3	語彙範疇と機能範疇、付加構造、小節とbe 動詞構文の特徴	授業内容について充分復習すること。次週までに各自が学んでいる言語の発音について確認しておくこと。(2時間)
8	中間まとめ	第1回から第7回の内容について復習する。	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
9	Move α 理論 1	Move α 理論について	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
10	Move α 理論 2	下接の条件	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
11	Move α 理論 3	格移動	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
12	束縛理論 1	束縛条件、統率と束縛	授業内容について充分復習すること。次週までに各自が学んでいる言語の語形変化について確認しておくこと。(2時間)
13	束縛理論 2	利用可能な主語と空範疇	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
14	束縛理論 3	痕跡	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
15	総復習	総復習を行う。	これまでに学んだことの総復習をしておくこと。(2時間)

関連科目 音声学・各言語科目等。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	生成統語論入門	阿部 潤	開拓社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 授業の成果物 (50%)
定期試験 (50%)

学生へのメッセージ この授業は、生成文法の基礎知識を身につけるための授業です。そして、「言語学」という学問分野についての入門もできます。但し、中学高校で学んだことのないような内容で、一般に皆さんが文法と言ったときに想像するものとは異なったものですので、忍耐力を持って取り組むことが求められます。いわゆる、コスパのいい授業ではありませんので、よく考えて履修してください。

担当者の研究室等 7号館4階 藤原研究室

備考 事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。

科目名	日本語史概説	科目名 (英文)	History of Japanese Language
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1592a0		

授業概要・目的	<p>全部で四科目開設している日本語学関係の授業では日本語の体系を考える。 「日本語史概説」では日本語の諸問題について歴史的に学ぶ。 日本語の歴史を知ることが、現在の日本語を考察することにつながる。日本語は、文献が残されている時代からでも、発音も文字も文法も、ずいぶんと変化している。どう変化したのか、なぜ変化したのか、という視点で、古代を中心に各時代の日本語の変化を考察する。</p>																																																																		
到達目標	日本語の文字、読み、言葉遣い、発音の特徴について、歴史的背景をもとに正確に説明することができる。																																																																		
授業方法と留意点	板書および配布するプリントに沿って講義する。授業終了時に、ペーパー（コメントや課題）を提出する。コメントペーパー、小テストについては次の回にフィードバックします。																																																																		
科目学習の効果（資格）	日本語の歴史の理解を通して、言葉に対する関心、理解が深まる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめに</td> <td>授業の進め方、概説 日本の時代区分</td> <td>日本史の流れを復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>3つの文字体系の背景1</td> <td>漢字の受容について学ぶ</td> <td>万葉仮名について調べる</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3つの文字体系の背景2</td> <td>ひらがなの成立について学ぶ</td> <td>ひらがなの用法について整理する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>3つの文字体系の背景3</td> <td>カタカナの成立について学ぶ</td> <td>カタカナの用法について整理する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>3つの文字体系の背景4 縦書きと横書き</td> <td>様々な文体について学ぶ 縦書き横書き混用の背景</td> <td>3つの文字体系の用法についてまとめる</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>《確認小テスト》 読みの背景1</td> <td>様々な音読みについて学ぶ</td> <td>音読みについて整理する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>読みの背景2</td> <td>様々な訓読みについて学ぶ</td> <td>訓読みについて整理する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>方言の背景1</td> <td>標準語と方言の関係について学ぶ 標準語の成立</td> <td>標準語という概念について調べる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>方言の背景2</td> <td>方言の分布・文法について学ぶ</td> <td>様々な方言の分布について調べる</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>方言の背景3</td> <td>方言の拡大と現代語について学ぶ</td> <td>様々な方言や流行語の広がりについて調べる</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>方言の背景4</td> <td>様々な言葉遣いと方言の関係について学ぶ</td> <td>様々な言葉遣いの特徴と背景について考察する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>《確認小テスト》 発音の変化の背景1</td> <td>古代の発音について学ぶ</td> <td>古代の発音を整理する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>発音の変化の背景2</td> <td>発音と表記の乖離について学ぶ</td> <td>発音と表記について調べる</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>発音の変化の背景3</td> <td>外来語の日本語化について学ぶ</td> <td>日本語の発音について復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>《最終確認テスト》 まとめ</td> <td>これまでの復習の解説と「最終確認テスト」を行う</td> <td>事前：これまでの復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	はじめに	授業の進め方、概説 日本の時代区分	日本史の流れを復習する	2	3つの文字体系の背景1	漢字の受容について学ぶ	万葉仮名について調べる	3	3つの文字体系の背景2	ひらがなの成立について学ぶ	ひらがなの用法について整理する	4	3つの文字体系の背景3	カタカナの成立について学ぶ	カタカナの用法について整理する	5	3つの文字体系の背景4 縦書きと横書き	様々な文体について学ぶ 縦書き横書き混用の背景	3つの文字体系の用法についてまとめる	6	《確認小テスト》 読みの背景1	様々な音読みについて学ぶ	音読みについて整理する	7	読みの背景2	様々な訓読みについて学ぶ	訓読みについて整理する	8	方言の背景1	標準語と方言の関係について学ぶ 標準語の成立	標準語という概念について調べる	9	方言の背景2	方言の分布・文法について学ぶ	様々な方言の分布について調べる	10	方言の背景3	方言の拡大と現代語について学ぶ	様々な方言や流行語の広がりについて調べる	11	方言の背景4	様々な言葉遣いと方言の関係について学ぶ	様々な言葉遣いの特徴と背景について考察する	12	《確認小テスト》 発音の変化の背景1	古代の発音について学ぶ	古代の発音を整理する	13	発音の変化の背景2	発音と表記の乖離について学ぶ	発音と表記について調べる	14	発音の変化の背景3	外来語の日本語化について学ぶ	日本語の発音について復習する	15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの復習の解説と「最終確認テスト」を行う	事前：これまでの復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	はじめに	授業の進め方、概説 日本の時代区分	日本史の流れを復習する																																																																
2	3つの文字体系の背景1	漢字の受容について学ぶ	万葉仮名について調べる																																																																
3	3つの文字体系の背景2	ひらがなの成立について学ぶ	ひらがなの用法について整理する																																																																
4	3つの文字体系の背景3	カタカナの成立について学ぶ	カタカナの用法について整理する																																																																
5	3つの文字体系の背景4 縦書きと横書き	様々な文体について学ぶ 縦書き横書き混用の背景	3つの文字体系の用法についてまとめる																																																																
6	《確認小テスト》 読みの背景1	様々な音読みについて学ぶ	音読みについて整理する																																																																
7	読みの背景2	様々な訓読みについて学ぶ	訓読みについて整理する																																																																
8	方言の背景1	標準語と方言の関係について学ぶ 標準語の成立	標準語という概念について調べる																																																																
9	方言の背景2	方言の分布・文法について学ぶ	様々な方言の分布について調べる																																																																
10	方言の背景3	方言の拡大と現代語について学ぶ	様々な方言や流行語の広がりについて調べる																																																																
11	方言の背景4	様々な言葉遣いと方言の関係について学ぶ	様々な言葉遣いの特徴と背景について考察する																																																																
12	《確認小テスト》 発音の変化の背景1	古代の発音について学ぶ	古代の発音を整理する																																																																
13	発音の変化の背景2	発音と表記の乖離について学ぶ	発音と表記について調べる																																																																
14	発音の変化の背景3	外来語の日本語化について学ぶ	日本語の発音について復習する																																																																
15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの復習の解説と「最終確認テスト」を行う	事前：これまでの復習																																																																
関連科目	日本語音韻論、日本語語彙論、日本語文法論、ことばに関する授業すべて																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	最終確認テスト（60%）、確認小テスト（10%）、毎回のペーパー（30%）。 最終週の《最終確認テスト》の受験を必須とする。 ※オンライン授業となった場合 最終確認テスト（50%）、確認小テスト（10%）、毎回のペーパー（40%）。																																																																		
学生へのメッセージ	日本語の歴史を知ること、現代の日本語の新たな一面が見えてくるはずです。																																																																		
担当者の研究室等	7号館4階（橋本研究室）																																																																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は、約60時間。																																																																		

科目名	ミュージアムへの招待	科目名 (英文)	Introduction to Museum Studies
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1606a0		

授業概要・目的	<p>【そもそも博物館とはなにか】</p> <p>全国で5,700館を数える「博物館」だが、じつは歴史系博物館以外にも、美術館・文学館・記念館・民芸館・動物園・水族館といった施設が含まれる。この授業では、そのなかでもとくに注目すべき成功を収めている「ベネッセハウス」ならびに「ベネッセアートサイト直島」を取り上げ、なぜこの施設・場所・展示が世界的に高い評価を受けているのかを考察する。さらに、同地で展示されている現代美術の具体的な作品を確認し、モダンアートはどこがおもしろく、いかに多くの人びとに影響を及ぼし続けるのかを検討する。この考察・確認・検討は、博物館がどこから来て、なにをするのか、そしてどこへ向かうのかという大きな問題と向かい合う機会となるだろう。</p>
到達目標	<p>【以下の3点を自分の言葉で説明できるようになる】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館はどこから来たのか (博物館の誕生の経緯)。 2. 博物館はなにをするのか (博物館の社会的役割)。 3. 博物館はどこへ行くのか (博物館の将来の展望)。
授業方法と留意点	<p>【講義に出席してクイズに答える】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義に出席する。 2. 講義後の制限時間内に、提示されたクイズへの応答をMoodle経由で入力する。 3. 講義前に配布されるフィードバックシートを確認し、講義で解説を聞く。 4. 校外実習を進める。

科目学習の効果 (資格)	学芸員資格の取得 (必修科目)
--------------	-----------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の概要と資格取得の条件・諸注意について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。レジюме掲載情報を検索して確認する (60分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。
2	拠点	ベネッセアートサイト直島の起源と展開を解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジюме掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。	
3	地域	ベネッセアートサイト直島と瀬戸内国際芸術祭について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジюме掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。	
4	素材	ヤニス・クネリス作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジюме掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。	
5	緊張	李禹煥作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジюме掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。	
6	光線	ジェームズ・タレル作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジюме掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。	
7	空間	安藤忠雄建築の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジюме掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。	
8	普遍	ウォルター・デ・マリア作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジюме掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。	
9	写実	須田悦弘作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジюме掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。	

	10	記憶	クリスチャン・ボルタンスキー作品の由来と魅力について確認する。	分)。 事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。																
	11	世界	内藤礼作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。																
	12	夢幻	維新派舞台の由来と魅力について確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。																
	13	博物館見学	指定された博物館に行き、ワークシート上の設問に回答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前:対象博物館のサイトと展示内容を確認する (90 分)。 事後:現地での経験をふまえつつ、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に回答する (120 分)。																
	14	博物館見学	指定された博物館に行き、ワークシート上の設問に回答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前:対象博物館のサイトと展示内容を確認する (90 分)。 事後:現地での経験をふまえつつ、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に回答する (120 分)。																
	15	総括	実習課題の振り返りと授業内容を総括する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90 分)。 事後:博物館の役割と見学の経験を照らし合わせて自分にとっての博物館の意味を考えつつ、別の博物館を見学しに行ってみる (240 分)。																
関連科目	「他の学芸員課程の科目」																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>直島誕生 過疎化する島で目撃した「現代アートの挑戦」全記録</td> <td>秋元雄史</td> <td>ディスカヴァー・トゥエンティワン</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	直島誕生 過疎化する島で目撃した「現代アートの挑戦」全記録	秋元雄史	ディスカヴァー・トゥエンティワン	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	直島誕生 過疎化する島で目撃した「現代アートの挑戦」全記録	秋元雄史	ディスカヴァー・トゥエンティワン																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	【クイズの回答によって評価される】 1. 毎回の回答内容 [80%] 2. ワークシートの内容 [20%] 3. いずれも、基準は「好奇心」と「論理性」の多寡である。																			
学生へのメッセージ	【より良い回答をめざす】 1. 資格取得の要件であるため、当然、出席は大切にす。 2. さらに、より良い回答をするために、講義に集中できるコンディションを整える。 3. 校外実習は貴重な機会なので、かならず参加する。																			
担当者の研究室等	7号館5階 杉山研究室																			
備考	【自分の回答を自分で採点する】 1. 事前・事後学習は総時間 60 時間が目安となる。 2. 図書館やウェブ、その他の手段を使ってみずからの回答の採点を試みる。																			

科目名	Speaking & Writing a	科目名 (英文)	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・グアイアス
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Freshmen Speaking & Writing a		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
----------	---

学生へのメッセージ	We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates.
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館 2階)
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。
----	--

科目名	Speaking & Writing a	科目名 (英文)	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	クリスファー ジョストン
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎づくりをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章でもメモなどが書けるようになる。絵や写真を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
8	確認(振り返り)を要求するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
9	確認(振り返り)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
10	説明を求めるための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1時間)

関連科目	(記入不要)
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Freshman Speaking & Writing a		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
-----------	---

学生へのメッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話できるようになります。演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目です。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了してください。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	Speaking & Writing a	科目名 (英文)	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現 (自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など) や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
8	確認 (繰り返し) を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
9	確認 (繰り返し) を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1時間)

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Freshmen Speaking & Writing a		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
-----------	---

学生へのメッセージ	We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates.
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館 2階)
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。
----	--

科目名	Speaking & Writing a	科目名 (英文)	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	コンデン ロバート
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Freshmen Speaking & Writing a		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
----------	---

学生へのメッセージ	このクラスは英語でのコミュニケーションクラスです。英語を使う努力をし、積極的に授業に参加することが期待されます。また、出席率も高いことが期待されます。This is an English communication class. Students are expected make an effort to use English and actively participate in class activities. Good attendance is also expected.
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	Speaking & Writing a	科目名 (英文)	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	説明を求めするための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

関連科目 Communicative English Grammar, Speaking & Writing b

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Setsunan Freshmen Speaking & Writing a		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	Students who engage enthusiastically in activities, preview and review lessons, do their homework assignments will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each class.
担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing a	科目名 (英文)	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Freshmen Speaking & Writing a		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
----------	---

学生へのメッセージ	We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates.
-----------	--

担当者の研究室等	フーバー研究室 (7号館3階)
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。
----	--

科目名	Speaking & Writing a	科目名 (英文)	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑦
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
10	説明を求めするための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1時間)

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Freshmen Speaking & Writing a		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
-----------	---

学生へのメッセージ	We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates.
-----------	--

担当者の研究室等	ハーキー研究室 (7号館3階)
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。
----	--

科目名	Speaking & Writing a	科目名 (英文)	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑧
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
10	説明を求めするための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1時間)

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Freshmen Speaking & Writing a		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	このクラスは英語でのコミュニケーションクラスです。英語を使う努力をし、積極的に授業に参加することが期待されます。また、出席率も高いことが期待されます。This is an English communication class. Students are expected make an effort to use English and actively participate in class activities. Good attendance is also expected.
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing a	科目名 (英文)	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑨
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1時間)

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Freshmen Speaking & Writing a		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
-----------	---

学生へのメッセージ	We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates.
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	--

科目名	Speaking & Writing a	科目名 (英文)	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑩
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Freshmen Speaking & Writing a		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
----------	---

学生へのメッセージ	We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates. Don't be afraid. Making mistakes helps you to remember and improve.
-----------	--

担当者の研究室等	田浦 研究室 (7号館 5階)
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。
----	--

科目名	Reading a	科目名 (英文)	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文学における比喩表現について理解を深める（1）直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキヤニング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
4	文学における比喩表現について理解を深める（2）暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキミング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
6	文学における比喩表現について理解を深める（3）換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（予測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
8	文学における比喩表現について理解を深める（4）比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（推測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（参照）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（メインアイデア）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習（1時間）

関連科目	Communicative Grammar, Speaking & Writing
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	映画『タイタニック』で学ぶ総合英語	角山照彦, Simon Capper	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ (Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館3階天野研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading a	科目名 (英文)	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柏原 郁子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文学における比喩表現について理解を深める（1）直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキヤニング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
4	文学における比喩表現について理解を深める（2）暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキミング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
6	文学における比喩表現について理解を深める（3）換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（予測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
8	文学における比喩表現について理解を深める（4）比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（推測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（参照）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（メインアイデア）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習（1時間）

関連科目 Communicative Grammar, Speaking & Writing

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	Q: Skills for Success Level 1 Reading and Writing Split Student Book A Third Edition	Sarah Lynn	Oxford University Press
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ (Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	精読・速読・多読を通じて、英語を読む楽しさを体験して下さい。			
担当者の 研究室等	7号館4階 柏原研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading a	科目名 (英文)	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文学における比喩表現について理解を深める（1）直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキヤニング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
4	文学における比喩表現について理解を深める（2）暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキミング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
6	文学における比喩表現について理解を深める（3）換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（予測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
8	文学における比喩表現について理解を深める（4）比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（推測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（参照）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（メインアイデア）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習（1時間）

関連科目	Communicative Grammar, Speaking & Writing
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	A Midsummer Night's Dream [Oxford Bookworms Library Stage 3] (OUP) 978-0-194-78613-3		Oxford University Press
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ (Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	外国語で読む楽しみを味わおう！			
担当者の 研究室等	7号館4階 齋藤研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading a	科目名 (英文)	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文学における比喩表現について理解を深める（1）直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキヤニング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
4	文学における比喩表現について理解を深める（2）暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキミング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
6	文学における比喩表現について理解を深める（3）換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（予測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
8	文学における比喩表現について理解を深める（4）比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（推測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（参照）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（メインアイデア）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習（1時間）

関連科目	Communicative Grammar, Speaking & Writing
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	Reading Link	Robert Hickling, Misato Usukura	金星堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ (Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生へのメッセージ	文学作品に触れながら、教養を身につけていきましょう。			
担当者の研究室等	7号館 4階西川研究室			
備考	毎回の授業のためのテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading a	科目名 (英文)	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の3つの活動に取り組む。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文学における比喩表現について理解を深める(1)直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(スキヤニング)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
4	文学における比喩表現について理解を深める(2)暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(スキミング)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
6	文学における比喩表現について理解を深める(3)換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(予測)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
8	文学における比喩表現について理解を深める(4)比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(推測)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(参照)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(メインアイデア)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習 (1時間)

関連科目	Communicative Grammar, Speaking & Writing
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	映画『タイタニック』で学ぶ総合英語	角山照彦, Simon Capper	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ (Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館3階天野研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading a	科目名 (英文)	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文学における比喩表現について理解を深める（1）直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキヤニング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
4	文学における比喩表現について理解を深める（2）暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキミング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
6	文学における比喩表現について理解を深める（3）換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（予測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
8	文学における比喩表現について理解を深める（4）比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（推測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（参照）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（メインアイデア）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習（1時間）

関連科目	Communicative Grammar, Speaking & Writing
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	Reading Explorer 1 Split Edition A	Nancy Douglas & David Bohllke	Cengage Learning
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ (Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館 5階松田研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading a	科目名 (英文)	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文学における比喩表現について理解を深める（1）直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキヤニング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
4	文学における比喩表現について理解を深める（2）暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキミング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
6	文学における比喩表現について理解を深める（3）換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（予測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
8	文学における比喩表現について理解を深める（4）比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（推測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（参照）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（メインアイデア）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習（1時間）

関連科目 Communicative Grammar, Speaking & Writing

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	ロックの英詞を読む―世界を変える歌	ピーター・バラカン	集英社インターナショナル
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ (Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	Reading a の授業では全クラス共通の速読、多読課題があります。加えて、各クラスではそれぞれの教員が用意するテーマでの精読を行います。このクラスの精読では、英語圏のロック、フォーク、ブルース等ポピュラー音楽の歌詞を一種の文学作品として読み、作詞をしたアーティストや作詞の背景となった社会背景についての資料も合わせて精読します。また、音源を聴いて歌詞を解釈し、音読する（歌える人は歌いましょう）ことで、比喩、反復、韻といった文学鑑賞、文学研究に必要なキーワード、概念を身体的に理解することを目指します。声に出し			
担当者の 研究室等	7号館3階鳥居研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading a	科目名 (英文)	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の3つの活動に取り組む。 小テストのフィードバックは次の授業で行う。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文学における比喩表現について理解を深める(1)直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(スキヤニング)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
4	文学における比喩表現について理解を深める(2)暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(スキミング)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
6	文学における比喩表現について理解を深める(3)換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(予測)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
8	文学における比喩表現について理解を深める(4)比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(推測)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(参照)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(メインアイデア)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習 (1時間)

関連科目	Communicative Grammar, Speaking & Writing
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Link	Robert Hickling, Misato Usukura	金星堂
	2	Timed Reading for Fluency	Paul Nation & Casy Malarcher	Seed Learning
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ (Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	楽しく英語の読解を学びましょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階西川研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	TOEIC a	科目名 (英文)	TOEIC a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	①②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柏原 郁子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1621c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。 さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
2	Unit 1 Shopping	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit1の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
3	Unit 1 Shopping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit1の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
4	Unit 2 Office Work	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit2の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
5	Unit 2 Office Work	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit2の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
6	Unit 3 Transportation	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit3の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
7	Unit 3 Transportation	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit3の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
8	Unit 4 Travel & Eating Out	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit4の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
9	Unit 4 Travel & Eating Out	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit4の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
10	Unit 5 Meetings	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit5の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
11	Unit 5 Meetings	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit5の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
12	Unit 6 Web Sites	Part2:応答問題 Part3:会話問題	事前学習：Unit6の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
13	Unit 6 Web Sites	Part5:短文穴埋め問題 Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit6の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
14	Unit 7 Advertising	Part2:応答問題 Part4:トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit7の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit1 から Unit7 の内容を復習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)

				の課題学習 (1 時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC(R) L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	セнгеージラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (1)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ	TOEIC(R)の形式を知り、多くの例題を繰り返し解くことで、TOEIC (R)の得点アップを目指しましょう。e-Learning 教材も積極的に活用して下さい。本学で行われる TOEIC(R)試験を積極的に受験し、目標得点に向かってチャレンジして下さい。			
担当者の 研究室等	7号館4階 柏原研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスケジュールアワーにて対応する。			

科目名	TOEIC a	科目名 (英文)	TOEIC a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	③④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松木園 久子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1621c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
2	Unit 1 Shopping	Part1: 写真問題 Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit1の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
3	Unit 1 Shopping	Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit1の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
4	Unit 2 Office Work	Part1: 写真問題 Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit2の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
5	Unit 2 Office Work	Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit2の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
6	Unit 3 Transportation	Part1: 写真問題 Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit3の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
7	Unit 3 Transportation	Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit3の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
8	Unit 4 Travel & Eating Out	Part1: 写真問題 Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit4の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
9	Unit 4 Travel & Eating Out	Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit4の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
10	Unit 5 Meetings	Part1: 写真問題 Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit5の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
11	Unit 5 Meetings	Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit5の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
12	Unit 6 Web Sites	Part2: 応答問題 Part3: 会話問題	事前学習：Unit6の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
13	Unit 6 Web Sites	Part5: 短文穴埋め問題 Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit6の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
14	Unit 7 Advertising	Part2: 応答問題 Part4: トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit7の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習：Unit1-7の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	セングージラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (1)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ	スコアの目標を立てて、達成に向け頑張りましょう。 積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	TOEIC a	科目名 (英文)	TOEIC a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑤⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湊 由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1621c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。 さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
2	Unit 1 Shopping	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit1の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
3	Unit 1 Shopping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit1の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
4	Unit 2 Office Work	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit2の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
5	Unit 2 Office Work	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit2の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
6	Unit 3 Transportation	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit3の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
7	Unit 3 Transportation	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit3の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
8	Unit 4 Travel & Eating Out	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit4の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
9	Unit 4 Travel & Eating Out	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit4の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
10	Unit 5 Meetings	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit5の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
11	Unit 5 Meetings	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit5の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
12	Unit 6 Web Sites	Part2:応答問題 Part3:会話問題	事前学習：Unit6の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
13	Unit 6 Web Sites	Part5:短文穴埋め問題 Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit6の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
14	Unit 7 Advertising	Part2:応答問題 Part4:トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit7の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit1 から Unit7 の内容を復習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)

				の課題学習 (1 時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC(R) L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	セнгеージラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (1)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ	授業はマナーを守り、積極的かつ集中して参加してください。 評価方法等の詳しい内容は第 1 回目の授業でハンドアウトを配布し説明します。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。 テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	TOEIC a	科目名 (英文)	TOEIC a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑦⑧
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	里井 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1621c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。 さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。 数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いた e-Learning による自立的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	2	Unit 1 Shopping	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit1の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	3	Unit 1 Shopping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit1の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	4	Unit 2 Office Work	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit2の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	5	Unit 2 Office Work	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit2の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	6	Unit 3 Transportation	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit3の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	7	Unit 3 Transportation	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit3の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	8	Unit 4 Travel & Eating Out	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit4の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	9	Unit 4 Travel & Eating Out	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit4の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	10	Unit 5 Meetings	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit5の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	11	Unit 5 Meetings	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit5の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	12	Unit 6 Web Sites	Part2:応答問題 Part3:会話問題	事前学習：Unit6の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	13	Unit 6 Web Sites	Part5:短文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit6の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	14	Unit 7 Advertising	Part2:応答問題 Part4:トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit7の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習：Unit1 から Unit7 の内容を復習してくること。(1時間)

				事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習（1時間）
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	センゲージラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (1)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. マナー、エチケットを守り、積極的な授業への参加を求めます。 2. 予習をしていることを前提として授業を行います。 3. 「わからない」ことは、そのままにせずに質問しましょう。 4. その他、詳細については第1回目の授業で説明します。 			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	TOEIC a	科目名 (英文)	TOEIC a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑨⑩
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	永野 喜子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1621c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
2	Unit 1 Shopping	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit1の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
3	Unit 1 Shopping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit1の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
4	Unit 2 Office Work	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit2の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
5	Unit 2 Office Work	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit2の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
6	Unit 3 Transportation	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit3の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
7	Unit 3 Transportation	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit3の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
8	Unit 4 Travel & Eating Out	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit4の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
9	Unit 4 Travel & Eating Out	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit4の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
10	Unit 5 Meetings	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit5の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
11	Unit 5 Meetings	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit5の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
12	Unit 6 Web Sites	Part2:応答問題 Part3:会話問題	事前学習：Unit6の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
13	Unit 6 Web Sites	Part5:短文穴埋め問題 Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit6の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
14	Unit 7 Advertising	Part2:応答問題 Part4:トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit7の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit1 から Unit7 の内容を復習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)

				の課題学習 (1 時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC(R) L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	セнгеージラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (1)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ	TOEIC L&R テストで高いスコアをとるためには、英語力だけでなく、日常生活における幅広い知識が要求されます。 このコースにおいては、テストの解答のしかたを主に学習しますが、それ以外に日頃からさまざまなものごとに関心をもち、それを探求する習慣をつけるようにしましょう。 基本的なことですが、この授業に出席するときは、毎回必ず自分の教科書を持参してください。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。 テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	Communicative English Grammar	科目名 (英文)	Communicative English Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1622c0		

授業概要・目的	中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際に使用される様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、国際学部の1年次の学生を対象とし、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
2	考えを文にして伝える：英語の基本五文型	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
3	自分の立場を表明する：肯定文と否定文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
4	相手に質問する：疑問文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
5	知りたい内容を求める：疑問詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
6	存在を知らせる：存在文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
7	事象を客観的に表現する：非人称の it	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
8	基本動詞を活用する：have と get	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
9	視点を変える：受動態	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
10	時系列に即して述べる：時制	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
11	文の内容を評価・判断する：助動詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
12	文のつながりを意識する：代名詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
13	時間や空間を指定する：前置詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスを行う。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	総復習 (1時間)

関連科目 Speaking & Writing a b, Reading a b, TOEIC a b, Drama

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映像メディアで学ぶ SDGs	山本五郎, Jonathan Brown	松柏社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (改訂新版)	西谷 恒志	成美堂	
3				

評価方法 (基準)	語彙テスト (30%) 授業中のテスト・発言・討論、宿題・提出物等 (70%)
学生へのメッセージ	語彙力・文法力は英語力の基本です。この授業を通して、しっかり力をつけていきましょう。
担当者の研究室等	7号館4階 天野研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	Communicative English Grammar	科目名 (英文)	Communicative English Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1622c0		

授業概要・目的	中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4技能(読む・書く・聞く・話すこと)への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際に使用される様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、国際学部の1年次の学生を対象とし、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
2	考えを文にして伝える: 英語の基本五文型	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
3	自分の立場を表明する: 肯定文と否定文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
4	相手に質問する: 疑問文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
5	知りたい内容を求める: 疑問詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
6	存在を知らせる: 存在文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
7	事象を客観的に表現する: 非人称のit	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
8	基本動詞を活用する: haveとget	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
9	視点を変える: 受動態	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
10	時系列に即して述べる: 時制	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
11	文の内容を評価・判断する: 助動詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
12	文のつながりを意識する: 代名詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
13	時間や空間を指定する: 前置詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスを行う。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	総復習(1時間)

関連科目 Speaking & Writing a b, Reading a b, TOEIC a b, Drama

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	GRAMMAR CLINIC	佐藤 誠司	南雲堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部(編)	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (改訂新版)	西谷 恒志	成美堂
3			

評価方法(基準)	語彙テスト(30%) 授業中のテスト・発言・討論、宿題・提出物等(70%)
学生へのメッセージ	英語力は日々の学習の積み重ねです。近道はありませんので、一日一日を大切に頑張ってください。
担当者の研究室等	7号館5階 後藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	Communicative English Grammar	科目名 (英文)	Communicative English Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1622c0		

授業概要・目的	中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際に使用される様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、国際学部の1年次学生を対象とし、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることをテーマ及び目標とする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
2	考えを文にして伝える：英語の基本五文型	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
3	自分の立場を表明する：肯定文と否定文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
4	相手に質問する：疑問文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
5	知りたい内容を求める：疑問詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
6	存在を知らせる：存在文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
7	事象を客観的に表現する：非人称の it	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
8	基本動詞を活用する：have と get	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
9	視点を変える：受動態	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
10	時系列に即して述べる：時制	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
11	文の内容を評価・判断する：助動詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
12	文のつながりを意識する：代名詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
13	時間や空間を指定する：前置詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスを行う。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	総復習 (1 時間)

関連科目 Speaking & Writing a b, Reading a b, TOEIC a b, Drama

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (改訂新版)	西谷 恒志	成美堂
3			

評価方法 (基準)	語彙テスト (30%) 授業中のテスト・発言・討論、宿題・提出物等 (70%)
学生へのメッセージ	語彙力・文法力は英語力の基本です。この授業を通して、しっかり力をつけていきましょう。
担当者の研究室等	7 号館 5 階 鈴木研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	Communicative English Grammar	科目名 (英文)	Communicative English Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	二
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1622c0		

授業概要・目的	中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4 技能 (読む・書く・聞く・話すこと) への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際に使用される様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、国際学部の1年次学生を対象とし、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
	2	考えを文にして伝える : 英語の基本五文型	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
	3	自分の立場を表明する : 肯定文と否定文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
	4	相手に質問する : 疑問文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
	5	知りたい内容を求める : 疑問詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
	6	存在を知らせる : 存在文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
	7	事象を客観的に表現する : 非人称の it	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
	8	基本動詞を活用する : have と get	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
	9	視点を変える : 受動態	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
	10	時系列に即して述べる : 時制	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
	11	文の内容を評価・判断する : 助動詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
	12	文のつながりを意識する : 代名詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
	13	時間や空間を指定する : 前置詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
	14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスを行う。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
	15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	総復習 (1 時間)

関連科目 Speaking & Writing a b, Reading a b, TOEIC a b, Drama

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部 (編)	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (改訂新版)	西谷 恒志	成美堂
	3			

評価方法 (基準) 語彙テスト (30%)
授業中のテスト・発言・討論、宿題・提出物等 (70%)

学生へのメッセージ どのような授業であれ、教室に来て座っているだけ、受け身の姿勢で話を聞いているだけであれば、英語力は1ミリも向上しません。授業時間外にも自ら時間をつくり、自ら読めない英語と格闘し、わからない文法や語法について自ら探求し、暗記すべきことを自ら暗記し、英語4技能をICTを活用して自力でトレーニングできる人間にならないといけません。授業ではそうした自力での探求の方法、自力でのトレーニング方法を身につける訓練をします。インターネットとPCがあれば無料で利用できるツールはたくさんあるので、使えるようにしましょう。

担当者の研究室等 7号館3階 鳥居研究室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチュードントアワーにて対応する。

科目名	Communicative English Grammar	科目名 (英文)	Communicative English Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1622c0		

授業概要・目的	中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4技能(読む・書く・聞く・話すこと)への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際に使用される様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、国際学部の1年次学生を対象とし、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
2	考えを文にして伝える: 英語の基本五文型	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
3	自分の立場を表明する: 肯定文と否定文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
4	相手に質問する: 疑問文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
5	知りたい内容を求める: 疑問詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
6	存在を知らせる: 存在文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
7	事象を客観的に表現する: 非人称のit	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
8	基本動詞を活用する: haveとget	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
9	視点を変える: 受動態	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
10	時系列に即して述べる: 時制	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
11	文の内容を評価・判断する: 助動詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
12	文のつながりを意識する: 代名詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
13	時間や空間を指定する: 前置詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスを行う。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習(1時間)
15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	総復習(1時間)

関連科目 Speaking & Writing a b, Reading a b, TOEIC a b, Drama

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	A Shorter Course in TOEIC Test Grammar	小池直己	南雲堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部(編)	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (改訂新版)	西谷 恒志	成美堂
3			

評価方法(基準)	語彙テスト(30%) 授業中のテスト・発言・討論、宿題・提出物等(70%)
学生へのメッセージ	文法・語彙は英語学習の基本ですので、高校までに学習した内容を復習しながらしっかり身につけていきましょう。
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Communicative English Grammar	科目名 (英文)	Communicative English Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1622c0		

授業概要・目的	中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際に使用される様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、国際学部の1年次学生を対象とし、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
2	考えを文にして伝える： 英語の基本五文型	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
3	自分の立場を表明する： 肯定文と否定文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
4	相手に質問する： 疑問文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
5	知りたい内容を求める： 疑問詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
6	存在を知らせる： 存在文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
7	事象を客観的に表現する： 非人称の it	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
8	基本動詞を活用する： have と get	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
9	視点を変える： 受動態	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
10	時系列に即して述べる： 時制	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
11	文の内容を評価・判断する： 助動詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
12	文のつながりを意識する： 代名詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
13	時間や空間を指定する： 前置詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスを行う。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	総復習 (1 時間)

関連科目 Speaking & Writing a b, Reading a b, TOEIC a b, Drama

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (改訂新版)	西谷 恒志	成美堂
3			

評価方法 (基準)	語彙テスト (30%) 授業中のテスト・発言・討論、宿題・提出物等 (70%)
学生へのメッセージ	語彙力・文法力は英語力の基本です。この授業を通して、しっかり力をつけていきましょう。
担当者の研究室等	7 号館 5 階 船本研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	Communicative English Grammar	科目名 (英文)	Communicative English Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1622c0		

授業概要・目的	中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際に使用される様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、国際学部の1年次学生を対象とし、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
2	考えを文にして伝える： 英語の基本五文型	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
3	自分の立場を表明する： 肯定文と否定文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
4	相手に質問する： 疑問文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
5	知りたい内容を求める： 疑問詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
6	存在を知らせる： 存在文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
7	事象を客観的に表現する： 非人称の it	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
8	基本動詞を活用する： have と get	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
9	視点を変える： 受動態	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
10	時系列に即して述べる： 時制	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
11	文の内容を評価・判断する： 助動詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
12	文のつながりを意識する： 代名詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
13	時間や空間を指定する： 前置詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスを行う。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	総復習 (1時間)

関連科目 Speaking & Writing a b, Reading a b, TOEIC a b, Drama

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英文読解への多面的アプローチ<初級> 基礎英文法 Reading Palette Red ーBasicー	武藤 克彦 / Timothy Kiggell	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (改訂新版)	西谷 恒志	成美堂	
3				

評価方法 (基準)	語彙テスト (30%) 授業中のテスト・発言・討論、宿題・提出物等 (70%)
学生へのメッセージ	語彙力・文法力は英語力の基本です。この授業を通して、しっかり力をつけていきましょう。
担当者の研究室等	7号館4階 藤原研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Communicative English Grammar	科目名 (英文)	Communicative English Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1622c0		

授業概要・目的	中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際に使用される様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、国際学部の1年次学生を対象とし、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
2	考えを文にして伝える： 英語の基本五文型	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
3	自分の立場を表明する： 肯定文と否定文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
4	相手に質問する： 疑問文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
5	知りたい内容を求める： 疑問詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
6	存在を知らせる： 存在文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
7	事象を客観的に表現する： 非人称の it	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
8	基本動詞を活用する： have と get	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
9	視点を変える： 受動態	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
10	時系列に即して述べる： 時制	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
11	文の内容を評価・判断する： 助動詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
12	文のつながりを意識する： 代名詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
13	時間や空間を指定する： 前置詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスを行う。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	総復習 (1時間)

関連科目 Speaking & Writing a b, Reading a b, TOEIC a b, Drama

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (改訂新版)	西谷 恒志	成美堂	
3				

評価方法 (基準)	語彙テスト (30%) 授業中のテスト・発言・討論、宿題・提出物等 (70%)
学生へのメッセージ	文法や語彙の知識は、自分の考えを正しく表現するために必要です。実際によく使われ、応用も効く表現をそのリズムと共にたくさん覚えて、英語での表現力と反応スピードを上げましょう。
担当者の研究室等	7号館5階 松田研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名 (英文)	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・グアイアス
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)

関連科目: Communicative English Grammar, Speaking & Writing a

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Setsunan Freshmen Speaking & Writing b		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準): 発音テスト 10%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%

学生へのメッセージ: We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates.

担当者の研究室等: 非常勤講師室 (7 号館 2 階)

備考: 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名 (英文)	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	クリスティー ジョーンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR J[1.3]を目標とし、自分に関連する情報(個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	提案するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	推測に係る表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Freshman Speaking & Writing b		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 発音テスト 10%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%。

学生へのメッセージ
頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。
授業はマナーを守って受けてください。
実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話できるようになります。
演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目です。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了してください。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名 (英文)	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報(個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Freshmen Speaking & Writing b		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
----------	---

学生へのメッセージ	We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates.
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	--

科目名	Speaking & Writing b	科目名 (英文)	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	コンデン ロバート
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1時間)

関連科目 Communicative English Grammar, Speaking & Writing b

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Setsunan Freshmen Speaking & Writing b		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 発音テスト 10%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%

学生へのメッセージ このクラスは英語でのコミュニケーションクラスです。英語を使う努力をし、積極的に授業に参加することが期待されます。また、出席率も高いことが期待されます。This is an English communication class. Students are expected make an effort to use English and actively participate in class activities. Good attendance is also expected.

担当者の研究室等 非常勤講師室 (7号館 2階)

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名 (英文)	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)

関連科目 Communicative English Grammar, Speaking & Writing b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		Setsunan Freshmen Speaking & Writing b	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	Students who engage enthusiastically in activities, preview and review lessons, do their homework assignments will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each class.
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館 2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名 (英文)	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing a
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Freshmen Speaking & Writing b		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
-----------	---

学生へのメッセージ	We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates.
-----------	--

担当者の研究室等	フーバー研究室 (7 号館 3 階)
----------	--------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。
----	---

科目名	Speaking & Writing b	科目名 (英文)	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑦
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)

関連科目 Communicative English Grammar, Speaking & Writing a

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Freshmen Speaking & Writing b		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 発音テスト 10%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%

学生へのメッセージ We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates.

担当者の研究室等 ハーキー研究室 (7 号館 3 階)

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名 (英文)	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑧
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)

関連科目 Communicative English Grammar, Speaking & Writing a

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Freshmen Speaking & Writing b		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 発音テスト 10%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%

学生へのメッセージ このクラスは英語でのコミュニケーションクラスです。英語を使う努力をし、積極的に授業に参加することが期待されます。また、出席率も高いことが期待されます。This is an English communication class. Students are expected make an effort to use English and actively participate in class activities. Good attendance is also expected.

担当者の研究室等 非常勤講師室 (7 号館 2 階)

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名 (英文)	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑨
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing a
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		Setsunan Freshmen Speaking & Writing b	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
-----------	---

学生へのメッセージ	We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates.
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	--

科目名	Speaking & Writing b	科目名 (英文)	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑩
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)

関連科目 Communicative English Grammar, Speaking & Writing b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		Setsunan Freshmen Speaking & Writing b	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 発音テスト 10%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%

学生へのメッセージ We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates. The more you try in 1st year, the better your English will be. Improving your language skills takes a lot of effort. Be ready.

担当者の研究室等 田浦 研究室 (7 号館 5 階)

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Reading b	科目名 (英文)	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading aより語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読・精読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	同語反復について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サポーティングアイデア)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
3	省略について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:時系列)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
5	韻について理解を深める(1)頭韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:比較)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
7	韻について理解を深める(2)脚韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:原因結果)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
9	韻について理解を深める(3)押韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:プロセス)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
11	パロディについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サマリー)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
13	レトリックについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(復習)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
15	リーディングスキルについての総括を行い、確認テストを実施する	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習(1時間)

関連科目	Speaking & Writing b
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2	The Wonderful Wizard of Oz [original] (OUP) 978-0-199-54064-8	L. Frank Baum	Oxford University Press	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ(Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英		

		米の短編小説、英語圏のライトノベル		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	作品オリジナルを読む楽しみと、作品を取り巻く社会の反応、歴史の中での作品の価値、この作品をもとに作られた別の形態の芸術作品など、展開していく様子もいっしょに見ていきましょう。物語は、生き物のように dynamic です。			
担当者の 研究室等	7号館4階 齋藤研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading b	科目名 (英文)	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading aより語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読・精読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	同語反復について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サポーティングアイデア)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
3	省略について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:時系列)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
5	韻について理解を深める(1)頭韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:比較)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
7	韻について理解を深める(2)脚韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:原因結果)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
9	韻について理解を深める(3)押韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:プロセス)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
11	パロディについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サマリー)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
13	レトリックについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(復習)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
15	リーディングスキルについての総括を行い、確認テストを実施する	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習 (1時間)

関連科目	Speaking & Writing b
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2	Reading Steps	Robert Hickling, Misato Usukura	金星堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ(Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英		

		米の短編小説、英語圏のライトノベル		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館4階西川研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading b	科目名 (英文)	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading aより語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読・精読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	同語反復について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サポーティングアイデア)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
3	省略について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:時系列)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
5	韻について理解を深める(1)頭韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:比較)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
7	韻について理解を深める(2)脚韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:原因結果)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
9	韻について理解を深める(3)押韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:プロセス)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
11	パロディについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サマリー)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
13	レトリックについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(復習)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
15	リーディングスキルについての総括を行い、確認テストを実施する	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習(1時間)

関連科目	Speaking & Writing b
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ(Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		

	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	Reading bでは全クラス共通の速読・課題に加え、各クラスの担当教員が定めるテーマでの精読訓練を行います。このクラスでは、精読については特定の教科書を用いず、皆さんの興味関心に応じてインターネット上で無料で読める作品を検索して読んだり、皆さんが既に前期に読んだものや、速読、多読活動の中で出会う作品に関する解説や論説等を検索して読む活動を行います。皆さんの側から積極的にアイデアを出して取り組む姿勢が求められます。			
担当者の 研究室等	7号館3階鳥居研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading b	科目名 (英文)	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	二
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柏原 郁子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading aより語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読・精読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	同語反復について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サポーティングアイデア)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
3	省略について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:時系列)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
5	韻について理解を深める(1)頭韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:比較)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
7	韻について理解を深める(2)脚韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:原因結果)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
9	韻について理解を深める(3)押韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:プロセス)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
11	パロディについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サマリー)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
13	レトリックについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(復習)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
15	リーディングスキルについての総括を行い、確認テストを実施する	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習(1時間)

関連科目	Speaking & Writing b
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2	Q: Skills for Success Level 1 Reading and Writing Split Student Book B Third Edition	Sarah Lynn	Oxford University Press	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ(Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英		

		米の短編小説、英語圏のライトノベル		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	精読・速読・多読を通じて、英語を読む習慣を身につけて下さい。一冊でも多く、英語書籍を読んで、英語を読む楽しみを経験して下さい。			
担当者の 研究室等	7号館4階 柏原研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading b	科目名 (英文)	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading aより語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読・精読・多読の3つの活動に取り組む。 小テストのフィードバックは次の授業で行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	同語反復について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サポーティングアイデア)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
3	省略について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:時系列)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
5	韻について理解を深める(1)頭韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:比較)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
7	韻について理解を深める(2)脚韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:原因結果)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
9	韻について理解を深める(3)押韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:プロセス)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
11	パロディについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サマリー)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
13	レトリックについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(復習)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
15	リーディングスキルについての総括を行い、確認テストを実施する	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習 (1時間)

関連科目	Speaking & Writing b
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Steps	Robert Hickling, Misato Usukura	金星堂
2	Timed Reading for Fluency	Paul Nation & Casy Malarcher	Seed Learning	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ(Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		

	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	楽しく英語の読解を学びましょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階西川研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading b	科目名 (英文)	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading aより語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読・精読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	同語反復について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サポーティングアイデア)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
3	省略について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:時系列)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
5	韻について理解を深める(1)頭韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:比較)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
7	韻について理解を深める(2)脚韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:原因結果)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
9	韻について理解を深める(3)押韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:プロセス)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
11	パロディについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サマリー)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
13	レトリックについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(復習)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
15	リーディングスキルについての総括を行い、確認テストを実施する	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習 (1時間)

関連科目	Speaking & Writing b
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2	映画総合教材『トゥルーマン・ショー』新装版	Kim R. Kanel, 神谷久美子	松柏社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ(Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		

	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館3階天野研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading b	科目名 (英文)	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading aより語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読・精読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	同語反復について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サポーティングアイデア)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
3	省略について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:時系列)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
5	韻について理解を深める(1)頭韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:比較)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
7	韻について理解を深める(2)脚韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:原因結果)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
9	韻について理解を深める(3)押韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:プロセス)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
11	パロディについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サマリー)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
13	レトリックについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(復習)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
15	リーディングスキルについての総括を行い、確認テストを実施する	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習 (1時間)

関連科目	Speaking & Writing b
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2	Reading Explorer 1 Split Edition B		Cengage Learning	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ (Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		

	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館5階松田研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading b	科目名 (英文)	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading aより語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読・精読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サポーティングアイデア)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
3	省略について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:時系列)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
5	韻について理解を深める(1)頭韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:比較)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
7	韻について理解を深める(2)脚韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:原因結果)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
9	韻について理解を深める(3)押韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:プロセス)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
11	パロディについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サマリー)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
13	レトリックについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(復習)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
15	リーディングスキルについての総括を行い、確認テストを実施する	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習(1時間)

関連科目	Speaking & Writing b
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2	配布資料及びオンライン教材			
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ(Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		

	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	Voice of America (VOA) のアメリカ文学のリライト版を含む、たくさんの文学作品を取り上げます。 速く、たくさん読む、と同時に、深く読む楽しみを、クラスで探索しましょう。 読む、は独りでの行為に見えるけれども、時間と場所を越えて誰かに会う方法でもあります。			
担当者の 研究室等	7号館 4階 齋藤研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	TOEIC b	科目名 (英文)	TOEIC b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山川 温
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1625c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、複数名による会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。 さまざまなビジネスの場面で用いられる、ビジネスライター、メール形式の文章、求人広告等を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。 数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 電話での会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 関係代名詞・接続詞・前置詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスライター、メール、広告等の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いたe-Learningによる自立的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	2	Unit 8 Information Technology	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit8の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	3	Unit 8 Information Technology	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit8の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	4	Unit 9 Phone Calls	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit9の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	5	Unit 9 Phone Calls	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit9の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	6	Unit 10 Construction & Landscaping	Part1:写真問題 Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit10の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	7	Unit 10 Construction & Landscaping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit10の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	8	Unit 11 Personnel	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit11の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	9	Unit 11 Personnel	Part6:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit11の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	10	Unit 12 Business Ventures	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit12の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	11	Unit 12 Business Ventures	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit12の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	12	Unit 13 Media	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit13の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	13	Unit 13 Media	Part5:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit13の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	14	Unit 14 Entertainment	Part2:応答問題 Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit14の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	15	まとめ & 復習テスト	Unit 8 から Unit 14 の総復習	事前学習：Unit8からUnit14の内容を復習してくること。(1時間)

				事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習（1時間）
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	センゲージラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (2)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ	授業はマナーを守り、積極的かつ集中して参加してください。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	TOEIC b	科目名 (英文)	TOEIC b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松木園 久子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1625c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、複数名による会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる、ビジネスライター、メール形式の文章、求人広告等を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 電話での会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 関係代名詞・接続詞・前置詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスライター、メール、広告等の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いた e-Learning による自立的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
2	Unit 8 Information Technology	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit8の内容を予習してくること。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
3	Unit 8 Information Technology	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit8の内容を予習してくること。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
4	Unit 9 Phone Calls	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit9の内容を予習してくること。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
5	Unit 9 Phone Calls	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit9の内容を予習してくること。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
6	Unit 10 Construction & Landscaping	Part1:写真問題 Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit10の内容を予習してくること。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
7	Unit 10 Construction & Landscaping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit10の内容を予習してくること。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
8	Unit 11 Personnel	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit11の内容を予習してくること。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
9	Unit 11 Personnel	Part6:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit11の内容を予習してくること。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
10	Unit 12 Business Ventures	Part3&4: 会話問題&トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit12の内容を予習してくること。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
11	Unit 12 Business Ventures	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit12の内容を予習してくること。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
12	Unit 13 Media	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit13の内容を予習してくること。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
13	Unit 13 Media	Part5:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit13の内容を予習してくること。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
14	Unit 14 Entertainment	Part2:応答問題 Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit14の内容を予習してくること。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 8 から Unit 14 の総復習	事前学習:Unit8からUnit14の内容を復習してくる こと。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)

				の課題学習 (1時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	セнгеージラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (2)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ	具体的に目標を立てて、達成に向けて頑張りましょう。 積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	TOEIC b	科目名 (英文)	TOEIC b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	湊 由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1625c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、複数名による会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。 さまざまなビジネスの場面で用いられる、ビジネスレター、メール形式の文章、求人広告等を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。 数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 電話での会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 関係代名詞・接続詞・前置詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスレター、メール、広告等の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いた e-Learning による自立的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
2	Unit 8 Information Technology	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit8の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
3	Unit 8 Information Technology	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit8の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
4	Unit 9 Phone Calls	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit9の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
5	Unit 9 Phone Calls	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit9の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
6	Unit 10 Construction & Landscaping	Part1:写真問題 Part3:会話問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit10の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
7	Unit 10 Construction & Landscaping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit10の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
8	Unit 11 Personnel	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit11の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
9	Unit 11 Personnel	Part6:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit11の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
10	Unit 12 Business Ventures	Part3&4: 会話問題&トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit12の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
11	Unit 12 Business Ventures	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit12の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
12	Unit 13 Media	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit13の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
13	Unit 13 Media	Part5:長文穴埋め問題 Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit13の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
14	Unit 14 Entertainment	Part2:応答問題 Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit14の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 8 から Unit 14 の総復習	事前学習：Unit8からUnit14の内容を復習してくること。(1時間)

				事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習（1時間）
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	センゲージラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (2)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ	授業はマナーを守り、積極的かつ集中して参加してください。 評価方法等の詳しい内容は第1回目にハンドアウトを配布し説明します。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	TOEIC b	科目名 (英文)	TOEIC b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	里井 真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1625c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、複数名による会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。 さまざまなビジネスの場面で用いられる、ビジネスレター、メール形式の文章、求人広告等を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。 数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 電話での会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 関係代名詞・接続詞・前置詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスレター、メール、広告等の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いた e-Learning による自立的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
2	Unit 8 Information Technology	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit8の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
3	Unit 8 Information Technology	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit8の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
4	Unit 9 Phone Calls	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit9の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
5	Unit 9 Phone Calls	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit9の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
6	Unit 10 Construction & Landscaping	Part1:写真問題 Part3:会話問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit10の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
7	Unit 10 Construction & Landscaping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit10の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
8	Unit 11 Personnel	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit11の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
9	Unit 11 Personnel	Part6:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit11の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
10	Unit 12 Business Ventures	Part3&4: 会話問題&トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit12の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
11	Unit 12 Business Ventures	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit12の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
12	Unit 13 Media	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit13の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
13	Unit 13 Media	Part5:長文穴埋め問題 Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit13の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
14	Unit 14 Entertainment	Part2:応答問題 Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit14の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 8 から Unit 14 の総復習	事前学習：Unit8からUnit14の内容を復習してくること。(1時間)

				事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習（1時間）
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	セнгеージラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (2)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. マナー、エチケットを守り、積極的な授業への参加を求めます。 2. 予習をしていることを前提として授業を行います。 3. 「わからない」ことは、そのままにせずに質問しましょう。 4. その他、詳細については第1回目の授業で説明します。 			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	TOEIC b	科目名 (英文)	TOEIC b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	永野 喜子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1625c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、複数名による会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。 さまざまなビジネスの場面で用いられる、ビジネスレター、メール形式の文章、求人広告等を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。 数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 電話での会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 関係代名詞・接続詞・前置詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスレター、メール、広告等の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いた e-Learning による自立的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
2	Unit 8 Information Technology	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit8の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
3	Unit 8 Information Technology	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit8の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
4	Unit 9 Phone Calls	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit9の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
5	Unit 9 Phone Calls	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit9の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
6	Unit 10 Construction & Landscaping	Part1:写真問題 Part3:会話問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit10の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
7	Unit 10 Construction & Landscaping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit10の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
8	Unit 11 Personnel	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit11の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
9	Unit 11 Personnel	Part6:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit11の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
10	Unit 12 Business Ventures	Part3&4: 会話問題&トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit12の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
11	Unit 12 Business Ventures	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit12の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
12	Unit 13 Media	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit13の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
13	Unit 13 Media	Part5:長文穴埋め問題 Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit13の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
14	Unit 14 Entertainment	Part2:応答問題 Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit14の内容を予習してくる。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 8 から Unit 14 の総復習	事前学習：Unit8からUnit14の内容を復習してくる。(1時間)

				事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習(1時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	セーラーラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (2)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ	今学期も先学期に引き続き、日常生活のさまざまな場面で出くわす物事に関心をもち、幅広い知識を身に付けていきましょう。 そうすれば、TOEIC L&R テストのスコアアップに必ずつながります。 何か疑問に思うことがあれば、いつでも聞いてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	Drama	科目名 (英文)	Drama
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1626c0		

授業概要・目的	言語によるやりとりを、目的や話し手同士の社会的な関係といった側面から捉え、アイコンタクトやジェスチャーなど非言語表現が言語表現の意味を強化したり変えたりすることを、演劇を応用した演習形式で学習する。言葉のやりとりと対人関係の仕組みを分析する力を高める。国際社会の多様性と表現の選択肢を意識し、協調関係をはぐくむコミュニケーションを英語で行う知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	国際学部の1年次の学生を対象とし、英語の脚本や演劇制作の手法を用いて、言語と非言語による明示的・暗示的表現やコミュニケーションの多様性を体験する。状況と目的に応じたやりとりによって適切な対人関係を構築できることを実践的に学ぶ。自分と異なる文化背景や行動様式の人とも協力して課題にとり組み、各々が役割を柔軟に果たして作品を完成することをテーマおよび目標とする。
授業方法と留意点	・演劇を応用した演習方式で学ぶ。自分の身体を動かし、音声を使って、表現の可動域を広げる。 ・同級生との練習を通して、生活環境や所属してきた文化背景、個性に基づく多様性を理解し、互いの共通点や相違点を受け入れる。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Politeness ポライトネス (1)	文法の正しさ以外に、コミュニケーションの適切さという指標があることを学ぶ。対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかで、礼儀・無礼・挑発といった差が生まれることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
3	Politeness ポライトネス (2)	コミュニケーションが対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかとその影響を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
4	Question and reply 問いかけと返答 (1)	問いかけと返答は、対人コミュニケーションでは必ずしも疑問文と答えの形式で行われない。それにもかかわらず、相互に理解し、字句としては正しく答えても満足させられない場合があることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
5	Question and reply 問いかけと返答 (2)	様々なバリエーションの問いかけと返答を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
6	Negotiate and persuade 交渉と説得 (1)	一方的な情報発信ではなく、相手の同意を得たり行動を促したりするための効果的なコミュニケーションについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
7	Negotiate and persuade 交渉と説得 (2)	相手の同意や行動を促すためのコミュニケーションを、交渉と説得を描く場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
8	Poetic language 詩的表現 (1)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
9	Poetic language 詩的表現 (2)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
10	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (1)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを修復するやりとりについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
11	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (2)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを協力的に修復するやりとりを、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
12	Script writing 脚本制作 (1)	既製の演劇作品や映像作品の脚本を短く編集し、抜粋場面を作る作業を通して、全体として意味の連続性があるやりとりを再構成することを学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
13	Script writing 脚本制作 (2)	クラスでオリジナルの英語脚本を書き、抜き出し上演を通して脚本の質や効果を学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
14	Stage production 劇作品の制作と発表 (1)	同級生と協力して劇作品を制作し、上演発表する。観客からのフィードバックや自身の振り返りを通して、脚本や演出を改訂する。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
15	Stage production 劇作品の制作と発表 (2)	改訂版の劇作品上演発表を行い、また、今学期に学んだことを言語化して総括する。	Students should review the content of the term's lessons. (1 hour)

関連科目	英語科目一般、教職課程
------	-------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Romeo and Juliet [book + audio (ISBN: 9788853006868)]	William Shakespeare / Adapted by Derek Sellen	Black Cat
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中の発表や取り組み姿勢など(70%) 課題やレポートなどの提出物(30%)			
学生への メッセージ	コミュニケーションは文字にできる言語以外の要素で大きく変わります。読み取り方(受信)と表現方法(発信)の両方を、世界的人気作を題材に学んでいきましょう。大学生なので、原作(抜粋)にもチャレンジします。			
担当者の 研究室等	7号館4階 齋藤研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Drama	科目名 (英文)	Drama
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1626c0		

授業概要・目的	言語によるやりとりを、目的や話し手同士の社会的な関係といった側面から捉え、アイコンタクトやジェスチャーなど非言語表現が言語表現の意味を強化したり変えたりすることを、演劇を応用した演習形式で学習する。言葉のやりとりと対人関係の仕組みを分析する力を高める。国際社会の多様性と表現の選択肢を意識し、協調関係をはぐくむコミュニケーションを英語で行う知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	国際学部の1年次の学生を対象とし、英語の脚本や演劇制作の手法を用いて、言語と非言語による明示的・暗示的表現やコミュニケーションの多様性を体験する。状況と目的に応じたやりとりによって適切な対人関係を構築できることを実践的に学ぶ。自分と異なる文化背景や行動様式の人とも協力して課題にとり組み、各々が役割を柔軟に果たして作品を完成することをテーマおよび目標とする。
授業方法と留意点	・演劇を応用した演習方式で学ぶ。自分の身体を動かし、音声を使って、表現の可動域を広げる。 ・同級生との練習を通して、生活環境や所属してきた文化背景、個性に基づく多様性を理解し、互いの共通点や相違点を受け入れる。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Politeness ポライトネス (1)	文法の正しさ以外に、コミュニケーションの適切さという指標があることを学ぶ。対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかで、礼儀・無礼・挑発といった差が生まれることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
3	Politeness ポライトネス (2)	コミュニケーションが対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかとその影響を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
4	Question and reply 問いかけと返答 (1)	問いかけと返答は、対人コミュニケーションでは必ずしも疑問文と答えの形式で行われない。それにもかかわらず、相互に理解し、字句としては正しく答えても満足させられない場合があることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
5	Question and reply 問いかけと返答 (2)	様々なバリエーションの問いかけと返答を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
6	Negotiate and persuade 交渉と説得 (1)	一方的な情報発信ではなく、相手の同意を得たり行動を促したりするための効果的なコミュニケーションについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
7	Negotiate and persuade 交渉と説得 (2)	相手の同意や行動を促すためのコミュニケーションを、交渉と説得を描く場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
8	Poetic language 詩的表現 (1)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果をも、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
9	Poetic language 詩的表現 (2)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果をも、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
10	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (1)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを修復するやりとりについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
11	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (2)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを協力的に修復するやりとりを、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
12	Script writing 脚本制作 (1)	既製の演劇作品や映像作品の脚本を短く編集し、抜粋場面を作る作業を通して、全体として意味の連続性があるやりとりを再構成することを学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
13	Script writing 脚本制作 (2)	クラスでオリジナルの英語脚本を書き、抜き出し上演を通して脚本の質や効果を学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
14	Stage production 劇作品の制作と発表 (1)	同級生と協力して劇作品を制作し、上演発表する。観客からのフィードバックや自身のふりかえりを通して、脚本や演出を改訂する。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
15	Stage production 劇作品の制作と発表 (2)	改訂版の劇作品上演発表を行い、また、今学期に学んだことを言語化して総括する。	Students should review the content of the term's lessons. (1 hour)

関連科目	英語科目一般、教職課程
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中の発表や取り組む姿勢など(70%) 課題やレポートなどの提出物(30%)			
学生への メッセージ	We will be performing "Alice in Wonderland". Enjoy making friends, doing some fun activities, moving around the classroom, practicing in English, and making a performance together. An enjoyable way to improve your English and build your confidence. Be br			
担当者の 研究室等	7号館5階 田浦 研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Drama	科目名 (英文)	Drama
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1626c0		

授業概要・目的	言語によるやりとりを、目的や話し手同士の社会的な関係といった側面から捉え、アイコンタクトやジェスチャーなど非言語表現が言語表現の意味を強化したり変えたりすることを、演劇を応用した演習形式で学習する。言葉のやりとりと対人関係の仕組みを分析する力を高める。国際社会の多様性と表現の選択肢を意識し、協調関係をはぐくむコミュニケーションを英語で行う知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	国際学部の1年次の学生を対象とし、英語の脚本や演劇制作の手法を用いて、言語と非言語による明示的・暗示的表現やコミュニケーションの多様性を体験する。状況と目的に応じたやりとりによって適切な対人関係を構築できることを実践的に学ぶ。自分と異なる文化背景や行動様式の人とも協力して課題にとり組み、各々が役割を柔軟に果たして作品を完成することをテーマおよび目標とする。
授業方法と留意点	・演劇を応用した演習方式で学ぶ。自分の身体を動かし、音声を使って、表現の可動域を広げる。 ・同級生との練習を通して、生活環境や所属してきた文化背景、個性に基づく多様性を理解し、互いの共通点や相違点を受け入れる。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Politeness ポライトネス (1)	文法の正しさ以外に、コミュニケーションの適切さという指標があることを学ぶ。対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかで、礼儀・無礼・挑発といった差が生まれることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
3	Politeness ポライトネス (2)	コミュニケーションが対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかとその影響を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
4	Question and reply 問いかけと返答 (1)	問いかけと返答は、対人コミュニケーションでは必ずしも疑問文と答えの形式で行われない。それにもかかわらず、相互に理解し、字句としては正しく答えても満足させられない場合があることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
5	Question and reply 問いかけと返答 (2)	様々なバリエーションの問いかけと返答を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
6	Negotiate and persuade 交渉と説得 (1)	一方的な情報発信ではなく、相手の同意を得たり行動を促したりするための効果的なコミュニケーションについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
7	Negotiate and persuade 交渉と説得 (2)	相手の同意や行動を促すためのコミュニケーションを、交渉と説得を描く場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
8	Poetic language 詩的表現 (1)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
9	Poetic language 詩的表現 (2)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
10	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (1)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを修復するやりとりについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
11	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (2)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを協力的に修復するやりとりを、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
12	Script writing 脚本制作 (1)	既製の演劇作品や映像作品の脚本を短く編集し、抜粋場面を作る作業を通して、全体として意味の連続性があるやりとりを再構成することを学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
13	Script writing 脚本制作 (2)	クラスでオリジナルの英語脚本を書き、抜き出し上演を通して脚本の質や効果を学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
14	Stage production 劇作品の制作と発表 (1)	同級生と協力して劇作品を制作し、上演発表する。観客からのフィードバックや自身のふりかえりを通して、脚本や演出を改訂する。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
15	Stage production 劇作品の制作と発表 (2)	改訂版の劇作品上演発表を行い、また、今学期に学んだことを言語化して総括する。	Students should review the content of the term's lessons. (1時間)

関連科目	英語科目一般、教職課程
------	-------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Romeo and Juliet	Derek Sellen (翻案再話) William Shakespeare 原作	Black Cat
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中の発表や取り組み姿勢など(70%) 課題やレポートなどの提出物(30%)			
学生への メッセージ	演劇は、自分が思っている自分と違う役を通して、予想もしなかった視点や感じ方に気づく体験です。演技の経験は必要ありません。自分の中を映す鏡を覗き込んでみましょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階 齋藤研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Drama	科目名 (英文)	Drama
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1626c0		

授業概要・目的	言語によるやりとりを、目的や話し手同士の社会的な関係といった側面から捉え、アイコンタクトやジェスチャーなど非言語表現が言語表現の意味を強化したり変えたりすることを、演劇を応用した演習形式で学習する。言葉のやりとりと対人関係の仕組みを分析する力を高める。国際社会の多様性と表現の選択肢を意識し、協調関係をはぐくむコミュニケーションを英語で行う知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	国際学部の1年次の学生を対象とし、英語の脚本や演劇制作の手法を用いて、言語と非言語による明示的・暗示的表現やコミュニケーションの多様性を体験する。状況と目的に応じたやりとりによって適切な対人関係を構築できることを実践的に学ぶ。自分と異なる文化背景や行動様式の人とも協力して課題にとり組み、各々が役割を柔軟に果たして作品を完成することをテーマおよび目標とする。
授業方法と留意点	・演劇を応用した演習方式で学ぶ。自分の身体を動かし、音声を使って、表現の可動域を広げる。 ・同級生との練習を通して、生活環境や所属してきた文化背景、個性に基づく多様性を理解し、互いの共通点や相違点を受け入れる。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Orientation オリエンテーション	英語で書かれた脚本の読解と、ドラマ手法の練習(場面ごとの抜き出し上演)方法を学ぶ	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
2	Politeness ポライトネス (1)	文法の正しさ以外に、コミュニケーションの適切さという指標があることを学ぶ。対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかで、礼儀・無礼・挑発といった差が生まれることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
3	Politeness ポライトネス (2)	コミュニケーションが対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかとその影響を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
4	Question and reply 問いかけと返答 (1)	問いかけと返答は、対人コミュニケーションでは必ずしも疑問文と答えの形式で行われない。それにもかかわらず、相互に理解し、字句としては正しく答えても満足させられない場合があることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
5	Question and reply 問いかけと返答 (2)	様々なバリエーションの問いかけと返答を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
6	Negotiate and persuade 交渉と説得 (1)	一方的な情報発信ではなく、相手の同意を得たり行動を促したりするための効果的なコミュニケーションについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
7	Negotiate and persuade 交渉と説得 (2)	相手の同意や行動を促すためのコミュニケーションを、交渉と説得を描く場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
8	Poetic language 詩的表現 (1)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
9	Poetic language 詩的表現 (2)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
10	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (1)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを修復するやりとりについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
11	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (2)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを協力的に修復するやりとりを、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
12	Script writing 脚本制作 (1)	既製の演劇作品や映像作品の脚本を短く編集し、抜粋場面を作る作業を通して、全体として意味の連続性があるやりとりを再構成することを学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
13	Script writing 脚本制作 (2)	クラスでオリジナルの英語脚本を書き、抜き出し上演を通して脚本の質や効果を学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
14	Stage production 劇作品の制作と発表 (1)	同級生と協力して劇作品を制作し、上演発表する。観客からのフィードバックや自身のふりかえりを通して、脚本や演出を改訂する。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
15	Stage production 劇作品の制作と発表 (2)	改訂版の劇作品上演発表を行い、また、今学期に学んだことを言語化して総括する。	Students should review the content of the term's lessons. 1 hour

関連科目	英語科目一般、教職課程
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを配布する		
	2			

	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	William Shakespeare 原作、Derek Sellen 翻案再話 『Romeo and Juliet』 (Graded Readers B1.2 レベル) (Black Cat、2008)	
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業中の発表や取り組み姿勢など(70%) 課題やレポートなどの提出物(30%)		
学生への メッセージ	同じ言葉でもそれを発するときの表情、ジェスチャー、強調する単語、イントネーションなどで、相手に伝わるメッセージは全く変わってきます。この授業では、英語特有の韻やリズムを楽しみつつ、様々な状況に合わせた自然で表情豊かな表現ができるように練習をしましょう。		
担当者の 研究室等	7号館5階 松田研究室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。		

科目名	Drama	科目名 (英文)	Drama
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1626c0		

授業概要・目的	言語によるやりとりを、目的や話し手同士の社会的な関係といった側面から捉え、アイコンタクトやジェスチャーなど非言語表現が言語表現の意味を強化したり変えたりすることを、演劇を応用した演習形式で学習する。言葉のやりとりと対人関係の仕組みを分析する力を高める。国際社会の多様性と表現の選択肢を意識し、協調関係をはぐくむコミュニケーションを英語で行う知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	国際学部の1年次の学生を対象とし、英語の脚本や演劇制作の手法を用いて、言語と非言語による明示的・暗示的表現やコミュニケーションの多様性を体験する。状況と目的に応じたやりとりによって適切な対人関係を構築できることを実践的に学ぶ。自分と異なる文化背景や行動様式の人とも協力して課題にとり組み、各々が役割を柔軟に果たして作品を完成することをテーマおよび目標とする。
授業方法と留意点	・演劇を応用した演習方式で学ぶ。自分の身体を動かし、音声を使って、表現の可動域を広げる。 ・同級生との練習を通して、生活環境や所属してきた文化背景、個性に基づく多様性を理解し、互いの共通点や相違点を受け入れる。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Politeness ポライトネス (1)	文法の正しさ以外に、コミュニケーションの適切さという指標があることを学ぶ。対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかで、礼儀・無礼・挑発といった差が生まれることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
3	Politeness ポライトネス (2)	コミュニケーションが対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかとその影響を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
4	Question and reply 問いかけと返答 (1)	問いかけと返答は、対人コミュニケーションでは必ずしも疑問文と答えの形式で行われない。それにもかかわらず、相互に理解し、字句としては正しく答えても満足させられない場合があることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
5	Question and reply 問いかけと返答 (2)	様々なバリエーションの問いかけと返答を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
6	Negotiate and persuade 交渉と説得 (1)	一方的な情報発信ではなく、相手の同意を得たり行動を促したりするための効果的なコミュニケーションについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
7	Negotiate and persuade 交渉と説得 (2)	相手の同意や行動を促すためのコミュニケーションを、交渉と説得を描く場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
8	Poetic language 詩的表現 (1)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
9	Poetic language 詩的表現 (2)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
10	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (1)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを修復するやりとりについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
11	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (2)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを協力的に修復するやりとりを、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
12	Script writing 脚本制作 (1)	既製の演劇作品や映像作品の脚本を短く編集し、抜粋場面を作る作業を通して、全体として意味の連続性があるやりとりを再構成することを学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
13	Script writing 脚本制作 (2)	クラスでオリジナルの英語脚本を書き、抜き出し上演を通して脚本の質や効果を学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
14	Stage production 劇作品の制作と発表 (1)	同級生と協力して劇作品を制作し、上演発表する。観客からのフィードバックや自身のふりかえりを通して、脚本や演出を改訂する。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
15	Stage production 劇作品の制作と発表 (2)	改訂版の劇作品上演発表を行い、また、今学期に学んだことを言語化して総括する。	Students should review the content of the term's lessons. (1 hour)

関連科目	英語科目一般、教職課程
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Harry Potter and the Philosopher's Stone	J. K. Rowling	Bloomsbury Childrens Books
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ハリー・ポッターと賢者の石 (DVD/Blu-ray)		
	2	William Shakespeare 原作、Derek Sellen 翻案再話『Romeo and Juliet』 (Graded Readers B1.2 レベル) (Black Cat、2008)		
	3			
評価方法 (基準)	授業中の発表や取り組み姿勢など(70%) 課題やレポートなどの提出物(30%)			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館4階 高橋研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室で対応する。			

科目名	Topic Studies I a	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	①②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1632c0		

授業概要・目的
This course covers creative writing and graphic design. For creative writing, students will write poems that explore their own experiences and the experiences of others. Students will then use the graphic design skills that they learn in this course to self-publish and present the poetry that they have written. The final project of this course is the production of a zine, a self-published handmade magazine, which students will share with their classmates.

到達目標
These are the goals for this course:
1. Students will learn how to use English creatively. Some of the techniques that students will use include rhythm, rhyme, alliteration, repetition, simile, metaphor, and onomatopoeia.
2. Students will learn some

授業方法と留意点
Students will have opportunities to work in pairs and small groups during this course.
Classes in this course will build on what students have learned and done in past classes, so regular attendance is very important in order to successfully complete

科目学習の効果 (資格)
Students will use PowerPoint in this course. What they learn in this course could help them to complete a PowerPoint qualification in the future.

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction and Class Overview	Syllabus overview and introduction activities	Review activities. 1 hour
2	Creative Writing: Japanese Culture	Write on the theme of Japanese culture.	Preview and review activities. 1 hour
3	Design: Fonts	Activities that explore how fonts are used in design.	Preview and review activities. 1 hour
4	Unit Project	A project that combines students' work from weeks 2 and 3.	Review materials from weeks 2 and 3 before class. 1 hour
5	Creative Writing: Memorable Places	Write on the theme of memorable places.	Preview and review activities. 1 hour
6	Design: Colors	Activities that explore how colors are used in design.	Preview and review activities. 1 hour
7	Unit Project	A project that combines students' work from weeks 5 and 6.	Review materials from weeks 5 and 6 before class. 1 hour
8	Creative Writing: Personal Experiences	Write on the theme of personal experiences.	Preview and review activities. 1 hour
9	Design: Shapes	Activities that explore how shapes are used in design.	Preview and review activities. 1 hour
10	Unit Project	A project that combines students' work from weeks 8 and 9.	Review materials from weeks 8 and 9 before class. 1 hour
11	Creative Writing: SDGs	Write on the theme of SDGs.	Preview and review activities. 1 hour
12	Design: Grid	Activities that explore how grids are used in design.	Preview and review activities. 1 hour
13	Unit Project	A project that combines students' work from weeks 11 and 12.	Review materials from weeks 11 and 12 before class. 1 hour
14	Publication Project	Make a zine (a small self-published magazine) to share your creative writing and to demonstrate your design skills.	Select materials from your work this semester to include in your zine. 1 hour
15	Publication Project	Share your zine in class and discuss the contents.	Complete your zine before class. 1 hour

関連科目
Topic Studies I b

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
Participation 30%
Creative Writing Activities 16%
Design Activities 16%
Unit Projects 20%
Publication Project 18%

学生へのメッセージ
Come to class with an open mind and be ready to express yourself in creative writing. We will be doing a lot of design projects using PowerPoint, so if you have your own computer, you can bring it to class with you.

担当者の研究室等	フーパー研究室 (7号館 3階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Topic Studies Ia	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	③④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1632c0		

授業概要・目的	<p>本授業の目的は次の3点である。</p> <p>(1) 4技能 (Listening・Speaking・Reading・Writing) の向上</p> <p>(2) 英語によるディスカッション能力の向上</p> <p>(3) クリティカル・シンキング (批判的思考) とはどのようなものなのかを実践を通して理解すること。</p>
到達目標	<p>(1) 4技能をバランス良く向上させる。CEFR-J[A2-2]～[B1-1]が到達レベル目標。</p> <p>(2) 与えられた英語の問いについて、自分の考えを整理して英語で表現できる。</p> <p>(3) クリティカル・シンキング (批判的思考) の特徴を説明でき、基本的なスキルを身につける。</p>
授業方法と留意点	<p>(1) 教科書に沿って、以下の4つに主に取り組む。 ①Reading ②Pair Work ③Activity ④Discussion</p> <p>(2) 各Unitに対する予習 (文章の大意把握、単語の把握) とディスカッションの準備をしていくことが求められる。</p> <p>(3) 辞書を必ず持参すること。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>(1) 4技能の向上。</p> <p>(2) TOEIC、英検</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業の進め方、成績評価、学習方法の説明	授業の復習 (60分)
	2	Unit1 Critical Thinking	Reading Pair Work Activity	授業の予習・復習 (60分)
	3	Unit1 Critical Thinking	Reading Pair Work Activity	授業の予習・復習 (60分)
	4	Unit2 Logic and Organizing	Reading Pair Work Activity	授業の予習・復習 (60分)
	5	Unit2 Logic and Organizing	Reading Pair Work Activity	授業の予習・復習 (60分)
	6	Unit1～Unit2 に関するディスカッション	Discussion	ディスカッションの準備 (60分)
	7	中間のまとめと理解度確認テスト	Unit1-2のまとめ 理解度確認テスト 解説	理解度確認テストの準備 (60分)
	8	Unit3 Strategies	Reading Pair Work Activity	授業の予習・復習 (60分)
	9	Unit3 Strategies	Reading Pair Work Activity	授業の予習・復習 (60分)
	10	Unit4 Culture	Reading Pair Work Activity	授業の予習・復習 (60分)
	11	Unit4 Culture	Reading Pair Work Activity	授業の予習・復習 (60分)
	12	Unit3～Unit4 に関するディスカッション	Discussion	ディスカッションの準備 (60分)
	13	Unit5 Communication	Reading Pair Work Activity	授業の予習・復習 (60分)
	14	Unit5 Communication (ディスカッション)	Discussion	ディスカッションの準備 (60分)
15	期末のまとめと理解度確認テスト	Unit3-5のまとめ 理解度確認テスト 解説	理解度確認テストの準備 (60分)	

関連科目 「トピックスタディーズIIa」「トピックスタディーズIIb」など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking of Critical Thinking	Peter Vincent, Naoko Nakazato	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題と発表 40% 中間の理解度確認テスト 30% 期末の理解度確認テスト 30%
学生への メッセージ	1) 予習・復習・宿題は欠かさず行うこと。 2) 学生の理解度によって進度を多少調整することがある。
担当者の 研究室等	7号館5階 森研究室
備考	1) 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。ただし、受講生によって必要な学習時間に差があるので、各自適切に調整する必要がある。 2) テストや課題に関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。 3) そのほかの質問等については、授業の前後の時間またはオフィスアワーで対応する。

科目名	Topic Studies Ia	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑤⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	コンデン ロバート
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1632c0		

授業概要・目的	Class outline / purpose The purpose of this class is the following three points. (1) Improvement of 4 skills (Listening, Speaking, Reading, Writing) (2) Improvement of discussion ability in English (3) Learn how to deliver an academic presentation
到達目標	Attainment target (1) Be able to organize your thoughts and express in English about a given English question. (2) Be able to explain the characteristics of critical thinking and acquire basic skills. (3) Take notes during lectures. (4) Deliver a g
授業方法と留意点	(1) Each week we will: ① Preview Vocabulary ② Pair/Group Work ③ Listening ④ Discussion strategies (2) It is required to prepare for discussion (understanding the meaning of sentences, grasping words) and discussion for each unit. (3) Be sure to bring a
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Class Introduction	Course Overview Introduce Important Skills Organize Groups for presentations	Read through the syllabus, and view the textbook. (1 hour)
	2	Unit 1 Happiness	Pair/Group Discussion Discussion Strategies Presentation Skills	Preview the unit vocabulary before the class. Watch the unit lecture, take notes and answer the questions. Practice the discussion skills with your partners after the class. (1 hour)
	3	Unit 2 A Time to Learn	Pair/Group Discussion Discussion Strategies Presentation Skills	Preview the unit vocabulary before the class. Watch the unit lecture, take notes and answer the questions. Practice the discussion skills with your partners after the class. (1 hour)
	4	Unit 3 Sleep	Pair/Group Discussion Discussion Strategies Presentation Skills	Preview the unit vocabulary before the class. Watch the unit lecture, take notes and answer the questions. Practice the discussion skills with your partners after the class. (1 hour)
	5	Unit 4 Negotiating for Success	Pair/Group Discussion Discussion Strategies	Preview the unit vocabulary before the class. Watch the unit lecture, take notes and answer the questions. Practice the discussion skills with your partners after the class. (1 hour)
	6	Unit 5 Modern Art	Pair/Group Discussion Discussion Strategies	Preview the unit vocabulary before the class. Watch the unit lecture, take notes and answer the questions. Practice the discussion skills with your partners after the class. (1 hour)
	7	Unit 6 Robots	Pair/Group Discussion Discussion Strategies	Preview the unit vocabulary before the class. Watch the unit lecture, take notes and answer the questions. Practice the discussion skills with your partners after the class. (1 hour)
	8	Mid-Term Evaluation	A test for the vocabulary you have studied so far from Units 1 - 6 Class Presentations	Revise notes (1 hour)
	9	Unit 7 Interactive Games	Pair/Group Discussion Discussion Strategies	Preview the unit vocabulary before the class. Watch the unit lecture, take notes and answer the questions. Practice the discussion skills with your partners after the class. (1 hour)
	10	Unit 8 Genetically Modified Food	Pair/Group Discussion Discussion Strategies	Preview the unit vocabulary before the class. Watch the unit lecture, take notes and answer the questions. Practice the discussion skills with your partners after the class. (1 hour)
11	Unit 9 Design Thinking	Pair/Group Discussion	Preview the unit vocabulary before the class.	

			Discussion Strategies	Watch the unit lecture, take notes and answer the questions. Practice the discussion skills with your partners after the class. (1 hour)																
	12	Unit 10 Shackleton	Pair/Group Discussion Discussion Strategies	Preview the unit vocabulary before the class. Watch the unit lecture, take notes and answer the questions. Practice the discussion skills with your partners after the class. (1 hour)																
	13	Unit 11 Ethics	Pair/Group Discussion Discussion Strategies	Preview the unit vocabulary before the class. Watch the unit lecture, take notes and answer the questions. Practice the discussion skills with your partners after the class. (1 hour)																
	14	Big Data	Pair/Group Discussion Discussion Strategies	Preview the unit vocabulary before the class. Watch the unit lecture, take notes and answer the questions. Practice the discussion skills with your partners after the class. (1 hour)																
	15	End-Term Evaluation	A test for the vocabulary you have studied so far from Units 7 - 12 Class Presentations Summary	Prepare presentations (1 hour)																
関連科目																				
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Contemporary Topics 1</td> <td>Helen Solorzano and Laurie Frazier</td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Contemporary Topics 1	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Contemporary Topics 1	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	Mid-term Evaluation 25% End-Term Evaluation 25% Group Presentation 50%																			
学生への メッセージ	Hello everyone. In this course we will look at a lot of interesting topics and learn how to share our opinions on those topics.																			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)																			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																			

科目名	Topic Studies I a	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑦⑧
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1632c0		

授業概要・目的	技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。題材に興味をもって読み取り、速読や精読による内容把握など多様なアプローチで様々なスキルを養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。 精読に関しては正確にかかり具合を把握して読めるようにする。 単語を発音と一致させることができる事。 テキスト内の表現の応用ができる事。
授業方法と留意点	授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢も評価項目となる。課題については、指示された期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Orientation Chapter 5 Offbeat World	授業の進め方や予習・復習の仕方、評価方法、英語共通課題などについて説明を行う。 教科書の単語、速読、リスニング、ポイント文法の解説を行う。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
2	Chapter 6 Food	単語テスト2 教科書の単語、速読、リスニング、ポイント文法の解説を行う。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
3	Chapter 2 Animals	単語テスト3 教科書の単語、速読、リスニング、ポイント文法の解説を行う。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
4	Chapter 1 Music	単語テスト4 教科書の単語、速読、リスニング、ポイント文法の解説を行う。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
5	確認テスト1	1~4回の内容のチェックテスト。 解答、解説も行う。	今までのエッセイを何度も読んですらすら意味が分かるようにしておく。練習問題を、再度解いておく。教科書付随のCDを再度聴くなどして、リスニング部分も復習する。(1時間)
6	Chapter 8 Horror	単語テスト5 教科書の単語、速読、リスニング、ポイント文法の解説を行う。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
7	Chapter 10 Predictions	単語テスト6 教科書の単語、速読、リスニング、ポイント文法の解説を行う。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
8	Chapter 11 Personality Type	単語テスト7 教科書の単語、速読、リスニング、ポイント文法の解説を行う。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
9	Chapter 3 Competitions	単語テスト8 教科書の単語、速読、リスニング、ポイント文法の解説を行う。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
10	確認テスト2	6~9回の内容のチェックテスト。 解答、解説も行う。	試験範囲のエッセイを何度も読んですらすら意味が分かるようにしておく。練習問題を、再度解いておく。教科書付随のCDを再度聴くなどして、リスニング部分も復習する。(1時間)
11	Chapter 9 Language	単語テスト9 教科書の単語、速読、リスニング、ポイント文法の解説を行う。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
12	Chapter 7 Business	単語テスト10 教科書の単語、速読、リスニング、ポイント文法の解説を行う。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
13	Chapter 12 Social Service	単語テスト11 教科書の単語、速読、リスニング、ポイント文法の解説を行う。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
14	Chapter 4 Fun Stuff	単語テスト12 教科書の単語、速読、リスニング、ポイント文法の解説を行う。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
15	確認テスト3	11~14回の内容のチェックテスト。 解答、解説も行う。	試験範囲のエッセイを何度も読んですらすら意味が分かるようにしておく。練習問題を、再度解いておく。教科書付随のCDを再度聴くなどして、リス

				ニング部分も復習する。(1時間)
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Did You Know That...?	William F. O' Connor 他	三修社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	単語テスト 3X11=33 点 チェックテスト 19X3=57 点 授業積極参加点 10 点			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は、自主発表するなどの積極的な態度が評価されます。 ・折々、復習テストを行いますので、常に授業外の学習を行ってください。 ・授業内容は進度によって変更する場合があります。 			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階) 木曜日午前中			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	Topic Studies Ia	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑨⑩
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1632c0		

授業概要・目的	Introduction to Film Genres and Movies This course will tour through different film genres and the movies that best or most famously typify them. Students will learn the characteristics of genres like documentary, melodrama, science fiction, horror and romance and how to recognize those elements in famous movies. Students will be able to do their own film analysis in a final project.			
到達目標	Weekly lectures, movie viewings and discussions.			
授業方法と留意点	Quizzes 60% Midterm 20% Final 20% Weekly sessions include lecture, reading, discussion and viewing.			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	What is genre? How do we analyze films? What are the goals of this course?	Review the materials of the week. 1 hour
	2	Love & Romance	Generic elements, lecture, readings, discussion, viewing.	Review the materials of the week. 1 hour
	3	Melodrama	Generic elements, lecture, readings, discussion, viewing.	Review the materials of the week. 1 hour
	4	Drama	Generic elements, lecture, readings, discussion, viewing.	Review the materials of the week. 1 hour
	5	Crime	Generic elements, lecture, readings, discussion, viewing.	Review the materials of the week. 1 hour
	6	Mafia/Gangster	Generic elements, lecture, readings, discussion, viewing.	Review the materials of the week. 1 hour
	7	Coming of Age	Generic elements, lecture, readings, discussion, viewing.	Review the materials of the week. 1 hour
	8	Midterm	Evaluation	Review the materials of the week. 1 hour
	9	Comedy	Generic elements, lecture, readings, discussion, viewing.	Review the materials of the week. 1 hour
	10	Myth & Fantasy	Generic elements, lecture, readings, discussion, viewing.	Review the materials of the week. 1 hour
	11	Horror	Generic elements, lecture, readings, discussion, viewing.	Review the materials of the week. 1 hour
	12	Noir	Generic elements, lecture, readings, discussion, viewing.	Review the materials of the week. 1 hour
	13	Western	Generic elements, lecture, readings, discussion, viewing.	Review the materials of the week. 1 hour
	14	Science Fiction	Generic elements, lecture, readings, discussion, viewing.	Review the materials of the week. 1 hour
	15	Final	Evaluation	Review the materials of the whole term 1 hour
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Quizzes 60% Midterm 20% Final 20%			
学生へのメッセージ	Movies are modern mythology. Understanding our society's myths can help us understand who we are.			
担当者の研究室等	Herke 3F Building 7.			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。課題等に関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Topic Studies I b	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1633c0		

授業概要・目的	技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。題材に興味をもって読み取り、速読や精読による内容把握など多様なアプローチで様々なスキルを養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。 精読に関しては正確にかかり具合を把握して読めるようにする。 単語を発音と一致させることができる事。 テキスト内の表現の応用ができる事。
授業方法と留意点	授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢も評価項目となる。課題については、指示された期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Orientation Chapter 1 What makes Kobe beef so special?	授業の進め方や予習・復習の仕方、評価方法、英語共通課題などについて説明を行う。 教科書の単語、速読、リスニング、ポイント文法の解説を行う。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
2	Chapter 2 What are those backpacks Japanese schoolchildren wear?	単語テスト1 教科書の単語、速読、リスニング、ポイント文法の解説を行う。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
3	Chapter 3 What are seven things in shichimi?	単語テスト2 教科書の単語、速読、リスニング、ポイント文法の解説を行う。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
4	Chapter 4 Why does Japan's postal symbol look like that?	単語テスト3 教科書の単語、速読、リスニング、ポイント文法の解説を行う。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
5	確認テスト1	1~4回の内容のチェックテスト。 解答、解説も行う。	今までのエッセイを何度も読んですらすら意味が分かるようにしておく。練習問題を、再度解いておく。教科書付随のCDを再度聴くなどして、リスニング部分も復習する。(1時間)
6	Chapter 5 Why is there plastic grass in my bento?	単語テスト4 教科書の単語、速読、リスニング、ポイント文法の解説を行う。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
7	Chapter 6 Why is there a 5 o'clock bell?	単語テスト5 教科書の単語、速読、リスニング、ポイント文法の解説を行う。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
8	Chapter 7 Why do train drivers in Japan make those strange gestures?	単語テスト6 教科書の単語、速読、リスニング、ポイント文法の解説を行う。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
9	Chapter 9 Why do Japanese wear masks?	単語テスト7 教科書の単語、速読、リスニング、ポイント文法の解説を行う。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
10	確認テスト2	6~9回の内容のチェックテスト。 解答、解説も行う。	試験範囲のエッセイを何度も読んですらすら意味が分かるようにしておく。練習問題を、再度解いておく。教科書付随のCDを再度聴くなどして、リスニング部分も復習する。(1時間)
11	Chapter10 What do the dates on food packages mean?	単語テスト8 教科書の単語、速読、リスニング、ポイント文法の解説を行う。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
12	Chapter 11 Why do Japanese ask about blood type?	単語テスト9 教科書の単語、速読、リスニング、ポイント文法の解説を行う。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
13	Chapter 12 Do Japanese mosquito coils work?	単語テスト10 教科書の単語、速読、リスニング、ポイント文法の解説を行う。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
14	Chapter 13 Why does miso soup move by itself?	単語テスト11 教科書の単語、速読、リスニング、ポイント文法の解説を行う。	事前にエッセイに目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、そのエッセイを再読し、分からない箇所が見つければ、次回の授業で質問することができるように準備する。(1時間)
15	確認テスト3	11~14回の内容のチェックテスト。 解答、解説も行う。	試験範囲のエッセイを何度も読んですらすら意味が分かるようにしておく。練習問題を、再度解いておく。教科書付随のCDを再度聴くなどして、リス

				ニング部分も復習する。(1時間)
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Surprising Japan!2	Alice Gordenker 他	松柏社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	単語テスト 3X11=33 点 チェックテスト 19X3=57 点 授業積極参加点 10 点			
学生への メッセージ	教科書を間違えないでください。 Surprising Japan! の「2」を買ってください。 ・授業中は、自主発表するなどの積極的な態度が評価されます。 ・折々、復習テストを行いますので、常に授業外の学習を行ってください。 ・授業内容は進度によって変更する場合があります。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階) 木曜日午前中			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	Topic Studies Ib	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・グアイアス
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1633c0		

授業概要・目的	To listen to and learn about Western classical music from the baroque, classical and romantic periods. To practice reading comprehension and creative writing in English.
到達目標	Students will have listened to and learned about pieces of music from the baroque, classical and romantic periods of Western classical music. Students will have practiced reading and writing English skills.
授業方法と留意点	Reading comprehension and creative writing as a response to classical music.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Music Theory 1	Conversation. Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
3	Music Theory 2	Conversation. Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
4	Baroque Music 1	Conversation. Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
5	Baroque Music 2	Conversation. Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
6	Baroque Music 3	Conversation. Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
7	Classical Music 1	Conversation. Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
8	Classical Music 2	Conversation. Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
9	Classical Music 3	Conversation. Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
10	Romantic Music 1	Conversation. Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
11	Romantic Music 2	Conversation. Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
12	Romantic Music 3	Conversation. Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
13	Romantic Music 4	Conversation. Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
14	Romantic Music 5	Conversation. Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
15	Romantic Music 6	Conversation. Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Prints provided by teacher		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	Conversation 30% Creative writing 30% Comprehension quizzes 40%
-----------	---

学生へのメッセージ	Please bring a dictionary.
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Topic Studies I b	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1633c0		

授業概要・目的	This course introduces a variety of topics both national and international for students to learn about and discuss. Students will think about and give their opinion on subjects such as the importance of English, The Internet, Travel, Aliens, Music, etc.
到達目標	The purpose of the course is to promote English fluency by having students think about and give their opinions in English.
授業方法と留意点	Students will do pair work, small group work, practice conversations and do listening exercises.
科目学習の効果 (資格)	The objective of the course is for students improve their fluency by considering topics and discussing their opinions about them with others in class.

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction, class overview. Self introduction Ch 1: The Beauty of the Seasons	Introduction exercises Seasonal changes
2	Ch 2: History of the Hamburger	U.S. Fast Food	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
3	Ch 3: Importance of English	Why English is Important	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
4	Ch 4: How the Internet Evolved	History of Google, YouTube, etc.	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
5	Ch 5: Liquid Candy	Sodas	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
6	Ch 6: Travel in Japan	Japanese Travel	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
7	Ch 7: The Secret of Happiness	Becoming Happy	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
8	Ch 8: Shopping on the Internet	Net Shopping	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
9	Ch 9: Do Aliens & UFOs Exist?	UFO Stories	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
10	Ch 10: Happiest Country in the World	Denmark	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
11	Ch 11: Secondhand Smoke	Dangers of Smoking	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
12	Ch 12: Plastic Surgery	Changing Appearances	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
13	Ch 14: Free Music	Ideas about Downloading	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
14	Ch 15: Ghosts	Death & The Afterlife	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
15	End of Semester Test.	End of Semester Test Summary	Study for test. (1 hour)

関連科目	トピックスタディーズIIなど
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Life Topics	Takashi Shimaoka & Jonathan Berman	Nan'un-do
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書(Dictionary)		
2				
3				

評価方法 (基準)	50% of Grade on participation to class activities 50% of Grade on end-of-semester test
-----------	---

学生へのメッセージ	To get a good grade, active participation, a positive attitude towards learning and regular attendance is important.
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 7号館2階
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	Topic Studies Ib	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	クリスティー ジョントソ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1633c0		

授業概要・目的	This course is designed to develop skills in conversational English. In class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations particularly in the context of traveling abroad.
到達目標	The course purpose is to prepare students to travel abroad by not only raising skill levels but expanding cultural awareness.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.

科目学習の効果 (資格)	—
--------------	---

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should read this syllabus , and skim the textbook before they come to class. 1 hour
	2	Unit 1	Lists and categories	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class. 1 hour
	3	Unit 2	Extra information and questions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class. 1 hour
	4	Unit 3	Order of importance	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class. 1 hour
	5	Unit 4	Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class. 1 hour
	6	Unit 5	Future concepts, speculation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class. 1 hour
	7	Unit 6	Instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class. 1 hour
	8	Unit 7	Creative instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class. 1 hour
	9	Unit 8	Location and juxtaposition	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class. 1 hour
	10	Unit 9	Giving directions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class. 1 hour
	11	Unit 10	Diaries and the past	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class. 1 hour
	12	Unit 11	Story structures and formats	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class. 1 hour
	13	Unit 12	Description	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class. 1 hour
	14	Unit 13	Conversation gambits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class. 1 hour
15	Review	Review	Students should review the vocabulary and grammar they learned before they come to the final class. 1 hour	

関連科目	—
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand 2 (5th edition) ISBN# 9789813130234	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson (2018)
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Exam & in-class quizzes 40% Class Participation and presentations 40%
-----------	--

	Homework assignments 20%
学生への メッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson. Students should attend all classes if possible.
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室 Always contact may be made via the secretary.
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Topic Studies Ib	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1633c0		

授業概要・目的	Travel Writing & Photography. In this course students will learn the genre of travel writing as well as the skill of travel photography. We will focus on writing about experiences and descriptions rather than academics.
到達目標	We will read examples of travel writing and apply the models to our own travel experiences. We will examine different travel photographs and recreate them in our own settings.
授業方法と留意点	Students will build a portfolio of writing and images and make regular presentations.

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	What is travel writing and photography?	Introduction, objectives, assignments, etc.	Review & practice 1 hour
	2	Urban Travel 1	Reading, writing and photography practice.	Review & practice 1 hour
	3	Urban Travel 2	Reading, writing and photography practice.	Review & practice 1 hour
	4	Urban Travel 3	Reading, writing and photography practice.	Review & practice 1 hour
	5	Temples	Reading, writing and photography practice.	Review & practice 1 hour
	6	Markets	Reading, writing and photography practice.	Review & practice 1 hour
	7	Zoos	Reading, writing and photography practice.	Review & practice 1 hour
	8	Midterm	Presentations	Review & practice 1 hour
	9	Parks and describing landscapes	Reading, writing and photography practice.	Review & practice 1 hour
	10	Portraiture and describing people	Reading, writing and photography practice.	Review & practice 1 hour
	11	Restaurants and describing food	Reading, writing and photography practice.	Review & practice 1 hour
	12	Temples and describing sacred spaces	Reading, writing and photography practice.	Review & practice 1 hour
	13	Daily life	Reading, writing and photography practice.	Review & practice 1 hour
	14	Rural life	Reading, writing and photography practice.	Review & practice 1 hour
	15	Final	Presentations	Review 1 hour

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Quizzes 40% Assignments 60%
-----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	Any smartphone with a camera will be sufficient, but compact digital camera or DSLR will allow for greater creativity and flexibility.
-----------	--

担当者の研究室等	Herke 3F Building 7.
----------	----------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。
----	---

科目名	中国語で読み解く I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1650e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが、2 年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に、より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験 4 級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で 6 割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	1 年次後期の中国語科目「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」は 1 冊の教科書を 3 科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解く I」で奇数課、「表現する I」で偶数課を学び、これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話する I」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで 3 科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し、それぞれの基準で成績を評価する。しかし、実質上 3 科目を 1 つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第一課 発音編 1	声調/単母音/複母音	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
2	第三課 発音編 3	鼻音 (-n, -ng) を伴う母音/またしても消える e/e のヴァリエーション	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
3	第五課 どうぞよろしく	人称代名詞/挨拶ことば/“是”/“ma”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
4	第七課 ご出身は	指示代名詞「こそあど」/“的”/“都”と“也”/動詞述語文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
5	第九課 おいくつ	数詞/年齢の言い方/量詞/“有”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
6	復習 (1)	第五課, 第七課, 第九課の文法と単語	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
7	復習 (2) と単元テスト	第一課, 第三課, 第五課, 第七課, 第九課のうち出題範囲を重点的に復習したあとテストを実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。
8	第十一課 家庭訪問	助動詞の“要”/主述述語文/比較の言い方/前置詞の“給”gei	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
9	第十三課 道案内	“怎麼”/前置詞の“離”“从”“往”/“得” (助動詞) /動詞の“在”/動詞のあと“了”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
10	第十五課 食事の前は	時刻の言い方/時間量の言い方/禁止表現“別”/“挺”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
11	第十七課 カニの季節 (1)	助動詞“能”/前置詞の“在”/“再”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
12	第十七課 カニの季節 (2)	可能補語	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
13	第十九課 おみやげ (1)	“有点儿”と“一点儿”/進行の表し方/“是～的”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
14	第十九課 おみやげ (2)	“讓”rang 使役文/“～着”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
15	復習と単元テスト	第十一課, 第十三課, 第十五課, 第十七課, 第十九課のうち出題範囲を重点的に復習したあとテストを実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。

関連科目 「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら、分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずで す。
担当者の 研究室等	小都研究室（7号館3階）
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語で読み解く I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1650e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが、2 年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に、より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験 4 級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で 6 割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	1 年次後期の中国語科目「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」は 1 冊の教科書を 3 科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解く I」で奇数課、「表現する I」で偶数課を学び、これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話する I」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで 3 科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し、それぞれの基準で成績を評価する。しかし、実質上 3 科目を 1 つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第一課 発音編 1	声調/単母音/複母音	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
2	第三課 発音編 3	鼻音 (-n, -ng) を伴う母音/またしても消える e/e のヴァリエーション	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
3	第五課 どうぞよろしく	人称代名詞/挨拶ことば/“是”/“ma”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
4	第七課 ご出身は	指示代名詞「こそあど」/“的”/“都”と“也”/動詞述語文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
5	第九課 おいくつ	数詞/年齢の言い方/量詞/“有”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
6	復習 (1)	第五課, 第七課, 第九課の文法と単語	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
7	復習 (2) と単元テスト	第一課, 第三課, 第五課, 第七課, 第九課のうち出題範囲を重点的に復習したあとテストを実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。
8	第十一課 家庭訪問	助動詞の“要”/主述述語文/比較の言い方/前置詞の“給”gei	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
9	第十三課 道案内	“怎麼”/前置詞の“離”“从”“往”/“得” (助動詞) /動詞の“在”/動詞のあと“了”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
10	第十五課 食事の前は	時刻の言い方/時間量の言い方/禁止表現“別”/“挺”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
11	第十七課 カニの季節 (1)	助動詞“能”/前置詞の“在”/“再”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
12	第十七課 カニの季節 (2)	可能補語	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
13	第十九課 おみやげ (1)	“有点儿”と“一点儿”/進行の表し方/“是～的”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
14	第十九課 おみやげ (2)	“讓”rang 使役文/“～着”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
15	復習と単元テスト	第十一課, 第十三課, 第十五課, 第十七課, 第十九課のうち出題範囲を重点的に復習したあとテストを実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。

関連科目 「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら、分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずで す。
担当者の 研究室等	中西研究室（7号館3階）
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語で読み解く I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1650e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが、2 年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に、より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験 4 級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で 6 割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	1 年次後期の中国語科目「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」は 1 冊の教科書を 3 科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解く I」で奇数課、「表現する I」で偶数課を学び、これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話する I」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで 3 科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し、それぞれの基準で成績を評価する。しかし、実質上 3 科目を 1 つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第一課 発音編 1	声調/単母音/複母音	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
2	第三課 発音編 3	鼻音 (-n, -ng) を伴う母音/またしても消える e/e のヴァリエーション	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
3	第五課 どうぞよろしく	人称代名詞/挨拶ことば/“是”/“ma”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
4	第七課 ご出身は	指示代名詞「こそあど」/“的”/“都”と“也”/動詞述語文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
5	第九課 おいくつ	数詞/年齢の言い方/量詞/“有”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
6	復習 (1)	第五課, 第七課, 第九課の文法と単語	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
7	復習 (2) と単元テスト	第一課, 第三課, 第五課, 第七課, 第九課のうち出題範囲を重点的に復習したあとテストを実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。
8	第十一課 家庭訪問	助動詞の“要”/主述述語文/比較の言い方/前置詞の“給”gei	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
9	第十三課 道案内	“怎麼”/前置詞の“離”“从”“往”/“得” (助動詞) /動詞の“在”/動詞のあと“了”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
10	第十五課 食事の前は	時刻の言い方/時間量の言い方/禁止表現“別”/“挺”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
11	第十七課 カニの季節 (1)	助動詞“能”/前置詞の“在”/“再”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
12	第十七課 カニの季節 (2)	可能補語	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
13	第十九課 おみやげ (1)	“有点儿”と“一点儿”/進行の表し方/“是～的”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
14	第十九課 おみやげ (2)	“讓”rang 使役文/“～着”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
15	復習と単元テスト	第十一課, 第十三課, 第十五課, 第十七課, 第十九課のうち出題範囲を重点的に復習したあとテストを実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。

関連科目 「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら、分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずで す。
担当者の 研究室等	愈研究室（7号館3階）
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語で読み解く I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	左 虹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1650e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが、2 年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に、より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験 4 級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で 6 割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	1 年次後期の中国語科目「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」は 1 冊の教科書を 3 科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解く I」で奇数課、「表現する I」で偶数課を学び、これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話する I」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで 3 科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し、それぞれの基準で成績を評価する。しかし、実質上 3 科目を 1 つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第一課 発音編 1	声調/単母音/複母音	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
2	第三課 発音編 3	鼻音 (-n, -ng) を伴う母音/またしても消える e/e のヴァリエーション	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
3	第五課 どうぞよろしく	人称代名詞/挨拶ことば/“是”/“ma”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
4	第七課 ご出身は	指示代名詞「こそあど」/“的”/“都”と“也”/動詞述語文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
5	第九課 おいくつ	数詞/年齢の言い方/量詞/“有”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
6	復習 (1)	第五課, 第七課, 第九課の文法と単語	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
7	復習 (2) と単元テスト	第一課, 第三課, 第五課, 第七課, 第九課のうち出題範囲を重点的に復習したあとテストを実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。
8	第十一課 家庭訪問	助動詞の“要”/主述述語文/比較の言い方/前置詞の“給”gei	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
9	第十三課 道案内	“怎麼”/前置詞の“離”“从”“往”/“得” (助動詞) /動詞の“在”/動詞のあと“了”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
10	第十五課 食事の前は	時刻の言い方/時間量の言い方/禁止表現“別”/“挺”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
11	第十七課 カニの季節 (1)	助動詞“能”/前置詞の“在”/“再”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
12	第十七課 カニの季節 (2)	可能補語	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
13	第十九課 おみやげ (1)	“有点儿”と“一点儿”/進行の表し方/“是～的”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
14	第十九課 おみやげ (2)	“讓”rang 使役文/“～着”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
15	復習と単元テスト	第十一課, 第十三課, 第十五課, 第十七課, 第十九課のうち出題範囲を重点的に復習したあとテストを実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。

関連科目 「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら、分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずで す。
担当者の 研究室等	非常勤講師控室 (7号館2階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語で表現する I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1651e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが、2 年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に、より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験 4 級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で 6 割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	1 年次後期の中国語科目「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」は 1 冊の教科書を 3 科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解く I」で奇数課、「表現する I」で偶数課を学び、これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話する I」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで 3 科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し、それぞれの基準で成績を評価する。しかし、実質上 3 科目を 1 つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第二課 発音編 2	声母表/無気音と有気音/そり舌音/消える o と e/同じ i でも違う音	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
2	第四課 発音編 4	第 3 声+第 3 声→第 2 声+第 3 声/不の声調変化/一の声調変化/軽声/声調の組み合わせ/隔音マーク/r 化	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
3	第六課 お名前は	姓名の言い方/“ne”/呼びかけのことは/“ba”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
4	第八課 飲み物は	疑問詞/助動詞の“想”/反復疑問文/“喜歡”xihuan	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
5	第十課 和食はいかが	“過”guo/“請”qing/“還是”haishi/形容詞述語文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
6	復習 (1)	第六課, 第八課, 第十課の文法と単語	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
7	復習 (2) と単元テスト	第二課, 第四課, 第六課, 第八課, 第十課のうち出題範囲を重点的に復習したあとテストを実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。
8	第十二課 買い物	助動詞“可以”/動詞の重ね型/方向補語/連動文/お金の言い方	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
9	第十四課 中秋節	年月日・曜日の言い方/“快～了”/“了”(文末の了)/前置詞の“跟”/“一边～一边”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
10	第十六課 手作り料理	助動詞の“会”/結果補語/“不”と“没”/方位詞	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
11	第十八課 スキー場で (1)	様態補語と程度補語	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
12	第十八課 スキー場で (2)	前置詞の“用”/“一下”/二重目的語をとる動詞	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
13	第二十課 空港まで (1)	“把”構文/“被”構文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
14	第二十課 空港まで (2)	存現文/“祝”祈る言葉	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
15	復習と単元テスト	第十二課, 第十四課, 第十六課, 第十八課, 第二十課のうち出題範囲を重点的に復習したあとテストを実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。

関連科目 「中国語で読み解く I」「中国語で会話する I」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら、分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずで す。
担当者の 研究室等	小都研究室（7号館3階）
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語で表現する I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1651e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが、2 年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に、より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験 4 級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で 6 割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	1 年次後期の中国語科目「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」は 1 冊の教科書を 3 科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解く I」で奇数課、「表現する I」で偶数課を学び、これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話する I」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで 3 科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し、それぞれの基準で成績を評価する。しかし、実質上 3 科目を 1 つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第二課 発音編 2	声母表/無気音と有気音/そり舌音/消える o と e/同じ i でも違う音	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
2	第四課 発音編 4	第 3 声+第 3 声→第 2 声+第 3 声/不の声調変化/一の声調変化/軽声/声調の組み合わせ/隔音マーク/r 化	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
3	第六課 お名前は	姓名の言い方/“ne”/呼びかけのことは/“ba”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
4	第八課 飲み物は	疑問詞/助動詞の“想”/反復疑問文/“喜歡”xihuan	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
5	第十課 和食はいかが	“過”guo/“請”qing/“還是”haishi/形容詞述語文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
6	復習 (1)	第六課, 第八課, 第十課の文法と単語	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
7	復習 (2) と単元テスト	第二課, 第四課, 第六課, 第八課, 第十課のうち出題範囲を重点的に復習したあとテストを実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。
8	第十二課 買い物	助動詞“可以”/動詞の重ね型/方向補語/連動文/お金の言い方	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
9	第十四課 中秋節	年月日・曜日の言い方/“快～了”/“了”(文末の了)/前置詞の“跟”/“一边～一边”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
10	第十六課 手作り料理	助動詞の“会”/結果補語/“不”と“没”/方位詞	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
11	第十八課 スキー場で (1)	様態補語と程度補語	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
12	第十八課 スキー場で (2)	前置詞の“用”/“一下”/二重目的語をとる動詞	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
13	第二十課 空港まで (1)	“把”構文/“被”構文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
14	第二十課 空港まで (2)	存現文/“祝”祈る言葉	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
15	復習と単元テスト	第十二課, 第十四課, 第十六課, 第十八課, 第二十課のうち出題範囲を重点的に復習したあとテストを実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。

関連科目	「中国語で読み解く I」「中国語で会話する I」
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%”
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら，分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずで す。
担当者の 研究室等	中西研究室（7号館3階）
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語で表現する I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1651e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが、2 年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に、より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験 4 級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で 6 割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	1 年次後期の中国語科目「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」は 1 冊の教科書を 3 科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解く I」で奇数課、「表現する I」で偶数課を学び、これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話する I」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで 3 科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し、それぞれの基準で成績を評価する。しかし、実質上 3 科目を 1 つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第二課 発音編 2	声母表/無気音と有気音/そり舌音/消える o と e/同じ i でも違う音	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
2	第四課 発音編 4	第 3 声+第 3 声→第 2 声+第 3 声/不の声調変化/一の声調変化/軽声/声調の組み合わせ/隔音マーク/r 化	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
3	第六課 お名前は	姓名の言い方/“ne”/呼びかけのことは/“ba”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
4	第八課 飲み物は	疑問詞/助動詞の“想”/反復疑問文/“喜歡”xihuan	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
5	第十課 和食はいかが	“過”guo/“請”qing/“還是”haishi/形容詞述語文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
6	復習 (1)	第六課, 第八課, 第十課の文法と単語	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
7	復習 (2) と単元テスト	第二課, 第四課, 第六課, 第八課, 第十課のうち出題範囲を重点的に復習したあとテストを実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。
8	第十二課 買い物	助動詞“可以”/動詞の重ね型/方向補語/連動文/お金の言い方	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
9	第十四課 中秋節	年月日・曜日の言い方/“快～了”/“了”(文末の了)/前置詞の“跟”/“一边～一边”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
10	第十六課 手作り料理	助動詞の“会”/結果補語/“不”と“没”/方位詞	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
11	第十八課 スキー場で (1)	様態補語と程度補語	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
12	第十八課 スキー場で (2)	前置詞の“用”/“一下”/二重目的語をとる動詞	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
13	第二十課 空港まで (1)	“把”構文/“被”構文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
14	第二十課 空港まで (2)	存現文/“祝”祈る言葉	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
15	復習と単元テスト	第十二課, 第十四課, 第十六課, 第十八課, 第二十課のうち出題範囲を重点的に復習したあとテストを実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。

関連科目 「中国語で読み解く I」「中国語で会話する I」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%”
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら、分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずで す。
担当者の 研究室等	非常勤講師控室 (7号館2階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語で表現する I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1651e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが、2 年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に、より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験 4 級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で 6 割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	1 年次後期の中国語科目「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」は 1 冊の教科書を 3 科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解く I」で奇数課、「表現する I」で偶数課を学び、これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話する I」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで 3 科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し、それぞれの基準で成績を評価する。しかし、実質上 3 科目を 1 つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第二課 発音編 2	声母表/無気音と有気音/そり舌音/消える o と e/同じ i でも違う音	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
2	第四課 発音編 4	第 3 声+第 3 声→第 2 声+第 3 声/不の声調変化/一の声調変化/軽声/声調の組み合わせ/隔音マーク/r 化	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
3	第六課 お名前は	姓名の言い方/“ne”/呼びかけのことは/“ba”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
4	第八課 飲み物は	疑問詞/助動詞の“想”/反復疑問文/“喜歡”xihuan	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
5	第十課 和食はいかが	“過”guo/“請”qing/“還是”haishi/形容詞述語文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
6	復習 (1)	第六課, 第八課, 第十課の文法と単語	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
7	復習 (2) と単元テスト	第二課, 第四課, 第六課, 第八課, 第十課のうち出題範囲を重点的に復習したあとテストを実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。
8	第十二課 買い物	助動詞“可以”/動詞の重ね型/方向補語/連動文/お金の言い方	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
9	第十四課 中秋節	年月日・曜日の言い方/“快~了”/“了”(文末の了)/前置詞の“跟”/“一边~一边”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
10	第十六課 手作り料理	助動詞の“会”/結果補語/“不”と“没”/方位詞	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
11	第十八課 スキー場で (1)	様態補語と程度補語	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
12	第十八課 スキー場で (2)	前置詞の“用”/“一下”/二重目的語をとる動詞	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
13	第二十課 空港まで (1)	“把”構文/“被”構文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
14	第二十課 空港まで (2)	存現文/“祝”祈る言葉	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
15	復習と単元テスト	第十二課, 第十四課, 第十六課, 第十八課, 第二十課のうち出題範囲を重点的に復習したあとテストを実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。

関連科目	「中国語で読み解く I」「中国語で会話する I」
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%”
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら、分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずで す。
担当者の 研究室等	非常勤講師控室 (7号館2階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語で会話する I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1652e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが、2 年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に、より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験 4 級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で 6 割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	1 年次後期の中国語科目「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」は 1 冊の教科書を 3 科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解く I」で奇数課、「表現する I」で偶数課を学び、これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話する I」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで 3 科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し、それぞれの基準で成績を評価する。しかし、実質上 3 科目を 1 つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第一～二課 発音の復習	1p14～15 の発音練習、2 p 20～21 の発音練習	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
2	第三～四課 発音の復習	1p26～27 の発音練習、2 p 32～33 の発音練習	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
3	第五～六課 会話練習・課題発表	どうぞよろしく、p 42～43 (国名、紹介) / お名前は、p 48～49 (氏名と職業の紹介)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
4	第七課 会話練習・課題発表	ご出身は、p54～55 (各種動作その 1)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
5	第八～九課 会話練習・課題発表	飲み物は、p 60～61 (喫茶店の飲み物と食べ物) / おいくつ、p 66～67 (親族の言い方・教え方)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
6	第十課 会話練習・課題発表	和食はいかが、p 72～73 (いろいろな食べ物・形容表現その 1)	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
7	復習 (1) と単元テスト 1	第六課、第七課、第九課を重点的に復習したあとテスト (課題発表) を実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。
8	第十一～十二課 会話練習・課題発表	家庭訪問、p 78～78 (形容表現その 2) / 買い物、p 84～85 (衣服と値段)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
9	第十三～十四課 会話練習・課題発表	道案内、p 90～91 (乗り物と駅前の建物) / 中秋節、p 96～97 (カレンダー・中国の伝統祝日)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
10	第十五～十六課 会話練習・課題発表	食事の前は、p 102～103 (一日の日程) / 手作り料理、p 108～109 (いろいろなスポーツ)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
11	第十七課 会話練習・課題発表	カニの季節、p 114～115 (禁止マーク・いろいろな会社)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
12	第十八課 会話練習・課題発表	スキー場で、p 120～121 (身体部位・各種症状)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
13	第十九課 会話練習・課題発表	おみやげ、p126～127 (リビングルーム・各種動作その 2)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
14	第二十課 会話練習・課題発表	空港まで、p 132～133 (各種動作その 3・自然現象)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
15	復習 (2) と単元テスト 2	第十七課、第十八課、第十九課を重点的に復習したあとテスト (課題発表) を実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。

関連科目 「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：50% 単元テスト：50%
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら、分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずで す。
担当者の 研究室等	愈研究室（7号館3階）
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語で会話する I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	薬 玉璽
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1652e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが、2 年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に、より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験 4 級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で 6 割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	1 年次後期の中国語科目「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」は 1 冊の教科書を 3 科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解く I」で奇数課、「表現する I」で偶数課を学び、これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話する I」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで 3 科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し、それぞれの基準で成績を評価する。しかし、実質上 3 科目を 1 つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第一～二課 発音の復習	1p14～15 の発音練習、2 p 20～21 の発音練習	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
2	第三～四課 発音の復習	1p26～27 の発音練習、2 p 32～33 の発音練習	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
3	第五～六課 会話練習・課題発表	どうぞよろしく、p 42～43 (国名、紹介) / お名前は、p 48～49 (氏名と職業の紹介)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
4	第七課 会話練習・課題発表	ご出身は、p54～55 (各種動作その 1)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
5	第八～九課 会話練習・課題発表	飲み物は、p 60～61 (喫茶店の飲み物と食べ物) / おいくつ、p 66～67 (親族の言い方・教え方)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
6	第十課 会話練習・課題発表	和食はいかが、p 72～73 (いろいろな食べ物・形容表現その 1)	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
7	復習 (1) と単元テスト 1	第六課、第七課、第九課を重点的に復習したあとテスト (課題発表) を実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。
8	第十一～十二課 会話練習・課題発表	家庭訪問、p 78～78 (形容表現その 2) / 買い物、p 84～85 (衣服と値段)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
9	第十三～十四課 会話練習・課題発表	道案内、p 90～91 (乗り物と駅前の建物) / 中秋節、p 96～97 (カレンダー・中国の伝統祝日)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
10	第十五～十六課 会話練習・課題発表	食事の前は、p 102～103 (一日の日程) / 手作り料理、p 108～109 (いろいろなスポーツ)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
11	第十七課 会話練習・課題発表	カニの季節、p 114～115 (禁止マーク・いろいろな会社)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
12	第十八課 会話練習・課題発表	スキー場で、p 120～121 (身体部位・各種症状)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
13	第十九課 会話練習・課題発表	おみやげ、p126～127 (リビングルーム・各種動作その 2)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
14	第二十課 会話練習・課題発表	空港まで、p 132～133 (各種動作その 3・自然現象)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
15	復習 (2) と単元テスト 2	第十七課、第十八課、第十九課を重点的に復習したあとテスト (課題発表) を実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。

関連科目 「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：50% 単元テスト：50%
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら、分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずで す。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語で会話する I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1652e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが、2 年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に、より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験 4 級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で 6 割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	1 年次後期の中国語科目「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」は 1 冊の教科書を 3 科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解く I」で奇数課、「表現する I」で偶数課を学び、これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話する I」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで 3 科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し、それぞれの基準で成績を評価する。しかし、実質上 3 科目を 1 つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第一～二課 発音の復習	1p14～15 の発音練習、2 p 20～21 の発音練習	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
2	第三～四課 発音の復習	1p26～27 の発音練習、2 p 32～33 の発音練習	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
3	第五～六課 会話練習・課題発表	どうぞよろしく、p 42～43 (国名、紹介) / お名前は、p 48～49 (氏名と職業の紹介)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
4	第七課 会話練習・課題発表	ご出身は、p54～55 (各種動作その 1)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
5	第八～九課 会話練習・課題発表	飲み物は、p 60～61 (喫茶店の飲み物と食べ物) / おいくつ、p 66～67 (親族の言い方・教え方)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
6	第十課 会話練習・課題発表	和食はいかが、p 72～73 (いろいろな食べ物・形容表現その 1)	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
7	復習 (1) と単元テスト 1	第六課、第七課、第九課を重点的に復習したあとテスト (課題発表) を実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。
8	第十一～十二課 会話練習・課題発表	家庭訪問、p 78～78 (形容表現その 2) / 買い物、p 84～85 (衣服と値段)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
9	第十三～十四課 会話練習・課題発表	道案内、p 90～91 (乗り物と駅前の建物) / 中秋節、p 96～97 (カレンダー・中国の伝統祝日)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
10	第十五～十六課 会話練習・課題発表	食事の前は、p 102～103 (一日の日程) / 手作り料理、p 108～109 (いろいろなスポーツ)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
11	第十七課 会話練習・課題発表	カニの季節、p 114～115 (禁止マーク・いろいろな会社)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
12	第十八課 会話練習・課題発表	スキー場で、p 120～121 (身体部位・各種症状)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
13	第十九課 会話練習・課題発表	おみやげ、p126～127 (リビングルーム・各種動作その 2)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
14	第二十課 会話練習・課題発表	空港まで、p 132～133 (各種動作その 3・自然現象)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
15	復習 (2) と単元テスト 2	第十七課、第十八課、第十九課を重点的に復習したあとテスト (課題発表) を実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。

関連科目 「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：50% 単元テスト：50%
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら、分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずで す。
担当者の 研究室等	愈研究室（7号館3階）
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語で会話する I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	薬 玉璽
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1652e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが、2 年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に、より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験 4 級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で 6 割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	1 年次後期の中国語科目「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」は 1 冊の教科書を 3 科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解く I」で奇数課、「表現する I」で偶数課を学び、これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話する I」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで 3 科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し、それぞれの基準で成績を評価する。しかし、実質上 3 科目を 1 つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第一～二課 発音の復習	1p14～15 の発音練習、2 p 20～21 の発音練習	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
2	第三～四課 発音の復習	1p26～27 の発音練習、2 p 32～33 の発音練習	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
3	第五～六課 会話練習・課題発表	どうぞよろしく、p 42～43 (国名、紹介) / お名前は、p 48～49 (氏名と職業の紹介)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
4	第七課 会話練習・課題発表	ご出身は、p54～55 (各種動作その 1)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
5	第八～九課 会話練習・課題発表	飲み物は、p 60～61 (喫茶店の飲み物と食べ物) / おいくつ、p 66～67 (親族の言い方・教え方)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
6	第十課 会話練習・課題発表	和食はいかが、p 72～73 (いろいろな食べ物・形容表現その 1)	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
7	復習 (1) と単元テスト 1	第六課、第七課、第九課を重点的に復習したあとテスト (課題発表) を実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。
8	第十一～十二課 会話練習・課題発表	家庭訪問、p 78～78 (形容表現その 2) / 買い物、p 84～85 (衣服と値段)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
9	第十三～十四課 会話練習・課題発表	道案内、p 90～91 (乗り物と駅前の建物) / 中秋節、p 96～97 (カレンダー・中国の伝統祝日)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
10	第十五～十六課 会話練習・課題発表	食事の前は、p 102～103 (一日の日程) / 手作り料理、p 108～109 (いろいろなスポーツ)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
11	第十七課 会話練習・課題発表	カニの季節、p 114～115 (禁止マーク・いろいろな会社)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
12	第十八課 会話練習・課題発表	スキー場で、p 120～121 (身体部位・各種症状)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
13	第十九課 会話練習・課題発表	おみやげ、p126～127 (リビングルーム・各種動作その 2)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
14	第二十課 会話練習・課題発表	空港まで、p 132～133 (各種動作その 3・自然現象)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
15	復習 (2) と単元テスト 2	第十七課、第十八課、第十九課を重点的に復習したあとテスト (課題発表) を実施	復習範囲 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。テストで正解できなかった問題を重点的に見直しを行うこと (1 時間)。

関連科目 「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：50% 単元テスト：50%
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら、分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずで す。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	スペイン語文法 I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1660e0		

授業概要・目的	スペイン語は、スペインやラテンアメリカを中心に、4 億人を超える人びとが使い、20 カ国の公用語となっている国際語です。国連の公用語でもあります。同じスペイン語圏でも歴史、文化、暮らしぶりは多様で、地域差のある文化に親しんだり経験したりできる点は、スペイン語学習の醍醐味の一つといえます。この授業ではスペイン語の基礎文法を学びます。アルファベットと発音から始め、直説法現在の動詞の活用を中心に、基本的な文の構造を理解し、短文を正確に読み書きできる力を養います。
到達目標	スペイン語の基礎的な文法事項のうち、名詞の性・数に基づいて、冠詞、形容詞、目的格人称代名詞を正しく用いることができるようになること、および動詞の直説法現在の活用を正確に身につけ、用法を理解したうえで適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができるようになることを目標とします。そうして、スペイン語の 4 技能を徐々に身につけていきます。
授業方法と留意点	教科書の第 9 課までを学習範囲とし、練習問題を通じて理解を図る。 ・毎回予習したうえで授業に臨み、予習段階での疑問点をまとめておくこと。 ・毎回 5 分間語彙テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。 ・スペイン語検定 6 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	1 課 オリエンテーション ; 発音とアクセントの規則	アルファベット、母音と子音の発音、音節とアクセントの位置	教科書第 1 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。(1 時間)
2	2 課 Somos japoneses.	名詞の性と数、主格人称代名詞、動詞 ser の直説法現在、疑問文と否定文	教科書 2 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く (1 時間)
3	3 課 Hay girasoles hasta el horizonte.	冠詞、動詞 ser + de、動詞 hay、動詞 estar、形容詞の性数一致、主格人称代名詞、所有形容詞の前置形	教科書 3 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く、動詞 ser・estar の活用を暗記する。1 課～3 課を総復習しテストに備える。(1 時間)
4	1 課～3 課のテストと解説	発音、アクセント、性数一致、つなぎの動詞および規則活用の動詞を用いる文の理解度確認と解説	テスト範囲の復習とテスト後の見直し (1 時間)
5	4 課 Estudio tambien pintura espanola.	形容詞の位置と語尾変化、ser・estar + 形容詞、直説法現在の規則活用 : -ar 動詞、疑問詞	教科書 4 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。-ar 動詞の意味と現在時制での規則変化を復習する。(1 時間)
6	5 課 Aqui vendemos una rosa por 2 euros.	直説法現在の規則活用 : -er 動詞と -ir 動詞、指示詞	教科書 5 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。-ar, -er, -ir 動詞すべての現在時制の規則活用を正確に修得する。(1 時間)
7	6 課 Ya no conduzco el coche.	直説法現在 : 1 人称単数だけが不規則な動詞、感嘆文、al + 不定詞	教科書 6 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。(1 時間)
8	4 課～6 課のテストと解説	つなぎの動詞 ser, estar, hay の使い分けと正確な活用、直説法現在規則変化動詞と 1 人称単数のみ不規則動詞、形容詞の語尾変化、疑問詞等の理解度確認と解説	テスト範囲の復習とテスト後の見直し (1 時間)
9	7 課 Los jovenes espanoles ya son muy europeos.	語幹母音変化動詞 (直説法現在)	教科書 7 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。(1 時間)
10	8 課 Vamos en taxi a Portugal.	その他の不規則動詞 (直説法現在)、時刻の表現、所有形容詞の後置形、所有代名詞	教科書 8 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。(1 時間)
11	7 課・8 課のテストと解説	語幹母音変化動詞および一般不規則動詞の活用、所有形容詞後置形等の理解度確認と解説	テスト範囲の復習とテスト後の見直し (1 時間)
12	9 課 He discutido sobre el medio ambiente.	目的格人称代名詞、前置詞格人称代名詞、過去分詞、直説法現在完了	教科書 9 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。9 課のテストに備える。(1 時間)
13	9 課のテストと解説	目的格人称代名詞の用法、過去分詞の語尾変化、直説法現在完了等の理解度確認と解説	9 課の復習とテスト後の見直し (1 時間)
14	語彙力テスト 総復習と難解な事項の質疑応答	学習範囲を丁寧に見直し、疑問点をすべて明らかにする。	学習した文法項目の総復習を行い、臨時試験に備える。(1 時間)
15	臨時試験 臨時試験の解説	臨時試験の実施、返却、解説。学期を通じた理解度の確認と要点の復習	全学習範囲の総復習を行い、「スペイン語 II」での継続学習に繋げる。(1 時間)

関連科目	スペイン語表現 スペイン語会話 I
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしく くわしい スペイン語の基礎	西川 喬	第三書房
2				
3				

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	臨時試験(期末の試験と小テスト) 60%、課題 20%、語彙テスト 20%			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習(教科書や授業以外での取り組み)が大切です。自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語ですから、間違いを恐れず能動的に楽しく学ぶ姿勢を持ち続けることが大切です。			
担当者の 研究室等	7号館5階 北條研究室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 ・授業内で行う試験についてはすべて、返却後、解答の提示と解説を受ける。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を準備しておき、解説を受ける。 			

科目名	スペイン語文法 I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	磯野 吉美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1660e0		

授業概要・目的	スペイン語は、スペインやラテンアメリカを中心に、4 億人を超える人びとが使い、20 カ国の公用語となっている国際語です。国連の公用語でもあります。同じスペイン語圏でも歴史、文化、暮らしぶりは多様で、地域差のある文化に親しんだり経験したりできる点は、スペイン語学習の醍醐味の一つといえます。この授業ではスペイン語の基礎文法を学びます。アルファベットと発音から始め、直説法現在の動詞の活用を中心に、基本的な文の構造を理解し、短文を正確に読み書きできる力を養います。
到達目標	スペイン語の基礎的な文法事項のうち、名詞の性・数に基づいて、冠詞、形容詞、目的格人称代名詞を正しく用いることができるようになること、および動詞の直説法現在の活用を正確に身につけ、用法を理解したうえで適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができるようになることを目標とします。そうして、スペイン語の 4 技能を徐々に身につけていきます。
授業方法と留意点	教科書の第 9 課までを学習範囲とし、練習問題を通じて理解を図る。 ・毎回予習したうえで授業に臨み、予習段階での疑問点をまとめておくこと。 ・毎回 5 分間語彙テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。 ・スペイン語検定 6 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	1 課 オリエンテーション ; 発音とアクセントの規則	アルファベット、母音と子音の発音、音節とアクセントの位置	教科書第 1 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。(1 時間)
2	2 課 Somos japoneses.	名詞の性と数、主格人称代名詞、動詞 ser の直説法現在、疑問文と否定文	教科書 2 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く (1 時間)
3	3 課 Hay girasoles hasta el horizonte.	冠詞、動詞 ser + de、動詞 hay、動詞 estar、形容詞の性数一致、主格人称代名詞、所有形容詞の前置形	教科書 3 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く、動詞 ser・estar の活用を暗記する。1 課～3 課を総復習しテストに備える。(1 時間)
4	1 課～3 課のテストと解説	発音、アクセント、性数一致、つなぎの動詞および規則活用の動詞を用いる文の理解度確認と解説	テスト範囲の復習とテスト後の見直し (1 時間)
5	4 課 Estudio tambien pintura espanola.	形容詞の位置と語尾変化、ser・estar + 形容詞、直説法現在の規則活用 : -ar 動詞、疑問詞	教科書 4 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。-ar 動詞の意味と現在時制での規則変化を復習する。(1 時間)
6	5 課 Aqui vendemos una rosa por 2 euros.	直説法現在の規則活用 : -er 動詞と -ir 動詞、指示詞	教科書 5 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。-ar, -er, -ir 動詞すべての現在時制の規則活用を正確に修得する。(1 時間)
7	6 課 Ya no conduzco el coche.	直説法現在 : 1 人称単数だけが不規則な動詞、感嘆文、al + 不定詞	教科書 6 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。(1 時間)
8	4 課～6 課のテストと解説	つなぎの動詞 ser, estar, hay の使い分けと正確な活用、直説法現在規則変化動詞と 1 人称単数のみ不規則動詞、形容詞の語尾変化、疑問詞等の理解度確認と解説	テスト範囲の復習とテスト後の見直し (1 時間)
9	7 課 Los jovenes espanoles ya son muy europeos.	語幹母音変化動詞 (直説法現在)	教科書 7 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。(1 時間)
10	8 課 Vamos en taxi a Portugal.	その他の不規則動詞 (直説法現在)、時刻の表現、所有形容詞の後置形、所有代名詞	教科書 8 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。(1 時間)
11	7 課・8 課のテストと解説	語幹母音変化動詞および一般不規則動詞の活用、所有形容詞後置形等の理解度確認と解説	テスト範囲の復習とテスト後の見直し (1 時間)
12	9 課 He discutido sobre el medio ambiente.	目的格人称代名詞、前置詞格人称代名詞、過去分詞、直説法現在完了	教科書 9 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。9 課のテストに備える。(1 時間)
13	9 課のテストと解説	目的格人称代名詞の用法、過去分詞の語尾変化、直説法現在完了等の理解度確認と解説	9 課の復習とテスト後の見直し (1 時間)
14	語彙力テスト 総復習と難解な事項の質疑応答	学習範囲を丁寧に見直し、疑問点をすべて明らかにする。	学習した文法項目の総復習を行い、臨時試験に備える。(1 時間)
15	臨時試験 臨時試験の解説	臨時試験の実施、返却、解説。学期を通じた理解度の確認と要点の復習	全学習範囲の総復習を行い、「スペイン語 II」での継続学習に繋げる。(1 時間)

関連科目	スペイン語表現 スペイン語会話 I
------	-------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしく くわしい スペイン語の基礎	西川 喬	第三書房
2			
3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	臨時試験(期末の試験と小テスト) 60%、課題 20%、語彙テスト 20%			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習(教科書や授業以外での取り組み)が大切です。自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語ですから、間違いを恐れず能動的に楽しく学ぶ姿勢を持ち続けることが大切です。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 ・授業内で行う試験についてはすべて、返却後、解答の提示と解説を受ける。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を準備しておき、解説を受ける。 			

科目名	スペイン語文法 I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	磯野 吉美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1660e0		

授業概要・目的	スペイン語は、スペインやラテンアメリカを中心に、4 億人を超える人びとが使い、20 カ国の公用語となっている国際語です。国連の公用語でもあります。同じスペイン語圏でも歴史、文化、暮らしぶりは多様で、地域差のある文化に親しんだり経験したりできる点は、スペイン語学習の醍醐味の一つといえます。この授業ではスペイン語の基礎文法を学びます。アルファベットと発音から始め、直説法現在の動詞の活用を中心に、基本的な文の構造を理解し、短文を正確に読み書きできる力を養います。
到達目標	スペイン語の基礎的な文法事項のうち、名詞の性・数に基づいて、冠詞、形容詞、目的格人称代名詞を正しく用いることができるようになること、および動詞の直説法現在の活用を正確に身につけ、用法を理解したうえで適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができるようになることを目標とします。そうして、スペイン語の 4 技能を徐々に身につけていきます。
授業方法と留意点	教科書の第 9 課までを学習範囲とし、練習問題を通じて理解を図る。 ・毎回予習したうえで授業に臨み、予習段階での疑問点をまとめておくこと。 ・毎回 5 分間語彙テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。 ・スペイン語検定 6 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	1 課 オリエンテーション ; 発音とアクセントの規則	アルファベット、母音と子音の発音、音節とアクセントの位置	教科書第 1 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。(1 時間)
2	2 課 Somos japoneses.	名詞の性と数、主格人称代名詞、動詞 ser の直説法現在、疑問文と否定文	教科書 2 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く (1 時間)
3	3 課 Hay girasoles hasta el horizonte.	冠詞、動詞 ser + de、動詞 hay、動詞 estar、形容詞の性数一致、主格人称代名詞、所有形容詞の前置形	教科書 3 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く、動詞 ser・estar の活用を暗記する。1 課～3 課を総復習しテストに備える。(1 時間)
4	1 課～3 課のテストと解説	発音、アクセント、性数一致、つなぎの動詞および規則活用の動詞を用いる文の理解度確認と解説	テスト範囲の復習とテスト後の見直し (1 時間)
5	4 課 Estudio tambien pintura espanola.	形容詞の位置と語尾変化、ser・estar + 形容詞、直説法現在の規則活用 : -ar 動詞、疑問詞	教科書 4 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。-ar 動詞の意味と現在時制での規則変化を復習する。(1 時間)
6	5 課 Aqui vendemos una rosa por 2 euros.	直説法現在の規則活用 : -er 動詞と -ir 動詞、指示詞	教科書 5 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。-ar, -er, -ir 動詞すべての現在時制の規則活用を正確に修得する。(1 時間)
7	6 課 Ya no conduzco el coche.	直説法現在 : 1 人称単数だけが不規則な動詞、感嘆文、al + 不定詞	教科書 6 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。(1 時間)
8	4 課～6 課のテストと解説	つなぎの動詞 ser, estar, hay の使い分けと正確な活用、直説法現在規則変化動詞と 1 人称単数のみ不規則動詞、形容詞の語尾変化、疑問詞等の理解度確認と解説	テスト範囲の復習とテスト後の見直し (1 時間)
9	7 課 Los jovenes espanoles ya son muy europeos.	語幹母音変化動詞 (直説法現在)	教科書 7 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。(1 時間)
10	8 課 Vamos en taxi a Portugal.	その他の不規則動詞 (直説法現在)、時刻の表現、所有形容詞の後置形、所有代名詞	教科書 8 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。(1 時間)
11	7 課・8 課のテストと解説	語幹母音変化動詞および一般不規則動詞の活用、所有形容詞後置形等の理解度確認と解説	テスト範囲の復習とテスト後の見直し (1 時間)
12	9 課 He discutido sobre el medio ambiente.	目的格人称代名詞、前置詞格人称代名詞、過去分詞、直説法現在完了	教科書 9 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。9 課のテストに備える。(1 時間)
13	9 課のテストと解説	目的格人称代名詞の用法、過去分詞の語尾変化、直説法現在完了等の理解度確認と解説	9 課の復習とテスト後の見直し (1 時間)
14	語彙力テスト 総復習と難解な事項の質疑応答	学習範囲を丁寧に見直し、疑問点をすべて明らかにする。	学習した文法項目の総復習を行い、臨時試験に備える。(1 時間)
15	臨時試験 臨時試験の解説	臨時試験の実施、返却、解説。学期を通じた理解度の確認と要点の復習	全学習範囲の総復習を行い、「スペイン語 II」での継続学習に繋げる。(1 時間)

関連科目	スペイン語表現 スペイン語会話 I
------	-------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしく くわしい スペイン語の基礎	西川 喬	第三書房
2			
3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	臨時試験(期末の試験と小テスト) 60%、課題 20%、語彙テスト 20%			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習(教科書や授業以外での取り組み)が大切です。自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語ですから、間違いを恐れず能動的に楽しく学ぶ姿勢を持ち続けることが大切です。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 ・授業内で行う試験についてはすべて、返却後、解答の提示と解説を受ける。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を準備しておき、解説を受ける。 			

科目名	スペイン語文法 I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1660e0		

授業概要・目的	スペイン語は、スペインやラテンアメリカを中心に、4 億人を超える人びとが使い、20 カ国の公用語となっている国際語です。国連の公用語でもあります。同じスペイン語圏でも歴史、文化、暮らしぶりは多様で、地域差のある文化に親しんだり経験したりできる点は、スペイン語学習の醍醐味の一つといえます。この授業ではスペイン語の基礎文法を学びます。アルファベットと発音から始め、直説法現在の動詞の活用を中心に、基本的な文の構造を理解し、短文を正確に読み書きできる力を養います。
到達目標	スペイン語の基礎的な文法事項のうち、名詞の性・数に基づいて、冠詞、形容詞、目的格人称代名詞を正しく用いることができるようになること、および動詞の直説法現在の活用を正確に身につけ、用法を理解したうえで適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができるようになることを目標とします。そうして、スペイン語の 4 技能を徐々に身につけていきます。
授業方法と留意点	教科書の第 9 課までを学習範囲とし、練習問題を通じて理解を図る。 ・毎回予習したうえで授業に臨み、予習段階での疑問点をまとめておくこと。 ・毎回 5 分間語彙テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。 ・スペイン語検定 6 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	1 課 オリエンテーション ; 発音とアクセントの規則	アルファベット、母音と子音の発音、音節とアクセントの位置	教科書第 1 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。(1 時間)
2	2 課 Somos japoneses.	名詞の性と数、主格人称代名詞、動詞 ser の直説法現在、疑問文と否定文	教科書 2 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く (1 時間)
3	3 課 Hay girasoles hasta el horizonte.	冠詞、動詞 ser + de、動詞 hay、動詞 estar、形容詞の性数一致、主格人称代名詞、所有形容詞の前置形	教科書 3 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く、動詞 ser・estar の活用を暗記する。1 課～3 課を総復習しテストに備える。(1 時間)
4	1 課～3 課のテストと解説	発音、アクセント、性数一致、つなぎの動詞および規則活用の動詞を用いる文の理解度確認と解説	テスト範囲の復習とテスト後の見直し (1 時間)
5	4 課 Estudio tambien pintura espanola.	形容詞の位置と語尾変化、ser・estar + 形容詞、直説法現在の規則活用 : -ar 動詞、疑問詞	教科書 4 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。-ar 動詞の意味と現在時制での規則変化を復習する。(1 時間)
6	5 課 Aqui vendemos una rosa por 2 euros.	直説法現在の規則活用 : -er 動詞と -ir 動詞、指示詞	教科書 5 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。-ar, -er, -ir 動詞すべての現在時制の規則活用を正確に修得する。(1 時間)
7	6 課 Ya no conduzco el coche.	直説法現在 : 1 人称単数だけが不規則な動詞、感嘆文、al + 不定詞	教科書 6 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。(1 時間)
8	4 課～6 課のテストと解説	つなぎの動詞 ser, estar, hay の使い分けと正確な活用、直説法現在規則変化動詞と 1 人称単数のみ不規則動詞、形容詞の語尾変化、疑問詞等の理解度確認と解説	テスト範囲の復習とテスト後の見直し (1 時間)
9	7 課 Los jovenes espanoles ya son muy europeos.	語幹母音変化動詞 (直説法現在)	教科書 7 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。(1 時間)
10	8 課 Vamos en taxi a Portugal.	その他の不規則動詞 (直説法現在)、時刻の表現、所有形容詞の後置形、所有代名詞	教科書 8 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。(1 時間)
11	7 課・8 課のテストと解説	語幹母音変化動詞および一般不規則動詞の活用、所有形容詞後置形等の理解度確認と解説	テスト範囲の復習とテスト後の見直し (1 時間)
12	9 課 He discutido sobre el medio ambiente.	目的格人称代名詞、前置詞格人称代名詞、過去分詞、直説法現在完了	教科書 9 課に目を通しておき、授業後には教科書巻末のステップアップ文法を読み、応用練習問題を解く。9 課のテストに備える。(1 時間)
13	9 課のテストと解説	目的格人称代名詞の用法、過去分詞の語尾変化、直説法現在完了等の理解度確認と解説	9 課の復習とテスト後の見直し (1 時間)
14	語彙力テスト 総復習と難解な事項の質疑応答	学習範囲を丁寧に見直し、疑問点をすべて明らかにする。	学習した文法項目の総復習を行い、臨時試験に備える。(1 時間)
15	臨時試験 臨時試験の解説	臨時試験の実施、返却、解説。学期を通じた理解度の確認と要点の復習	全学習範囲の総復習を行い、「スペイン語 II」での継続学習に繋げる。(1 時間)

関連科目	スペイン語表現 スペイン語会話 I
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしく くわしい スペイン語の基礎	西川 喬	第三書房
2				
3				

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	臨時試験(期末の試験と小テスト) 60%、課題 20%、語彙テスト 20%			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習(教科書や授業以外での取り組み)が大切です。自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語ですから、間違いを恐れず能動的に楽しく学ぶ姿勢を持ち続けることが大切です。			
担当者の 研究室等	7号館5階 北條研究室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 ・授業内で行う試験についてはすべて、返却後、解答の提示と解説を受ける。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を準備しておき、解説を受ける。 			

科目名	スペイン語表現	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1661e0		

授業概要・目的	スペイン語の発音および語彙を集中的に学ぶ。いわゆる素読は、外国語教育・学修において根幹をなす。毎回の暗記・暗唱を通して、スペイン語の基礎文法を体得する。語彙も正確に適切に使えるよう、ニュアンスを含めた語義解釈を文章理解を通して行う。
到達目標	文字レベルの正確な発音と語レベルの強勢、および文の抑揚への意識を高める。モデルとなる文をしっかり記憶し、語彙を変えるなどして、異なる文を作れるようになる。
授業方法と留意点	しっかりと発声し筆記すること、文や語彙を正確に覚えて（声でも文字でも）再現することを目指すため、毎回きちんと予習・暗記した状態で授業に臨むこと。
科目学習の効果 (資格)	すべての学習の基礎たる暗記・暗唱、予習・自習・復習を徹底すること。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	語彙集 はじめに	簡単な語彙とその発音	テキスト p 6~8 語句・文の意味を辞書で調べ覚える
3	第1課 名詞と名詞に伴って変化する語	名詞の性、複数形の作り方、冠詞、形容詞	テキスト p 11~15 語句・文の意味を辞書で調べ覚える
4	第1課 名詞と名詞に伴って変化する語 第2課 英語の be 動詞に相当するスペイン語の動詞	指示形容詞・代名詞、所有詞、主格人称代名詞 Ser 性質を述べる動詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
5	第2課 英語の be 動詞に相当するスペイン語の動詞	Ser 性質を述べる動詞 estar 所在、状態を述べる動詞 hay 存在を表す動詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
6	第3課 -ar で終わる動詞	-ar 動詞、文の種類、疑問詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
7	第3課 -ar で終わる動詞 第4課 -er/-ir で終わる動詞	時刻表現、-er/-ir で終わる動詞、時刻表現 2、頻度を表す表現、副詞の作り方	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
8	第4課 -er/-ir で終わる動詞	-er/-ir で終わる動詞、時刻表現 2、頻度を表す表現、副詞の作り方	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
9	筆記テスト	第1課から第4課までの学習内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
10	第5課 不規則活用動詞	1 人称単数のみ不規則な動詞、conocer/saber、hacer を使った天候表現	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
11	第5課 不規則活用動詞 第6課 gustar 型動詞	前置人称代名詞、目的格人称代名詞 gustar 型動詞、目的格人称代名詞 2	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
12	第6課 gustar 型動詞	gustar 型動詞、目的格人称代名詞 2、不定語と否定語	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
13	第7課 語根母音変化動詞 1	語根母音変化動詞、縮小辞、感嘆文	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
14	第7課 語根母音変化動詞 1	語根母音変化動詞、縮小辞、感嘆文	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
15	筆記テスト	第5課から第7課までの学習内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える

関連科目	スペイン語の科目すべて
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	聴いて、繰り返して、学びましょう!	久住真由	同学社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	ほぼ毎回授業時に実施する暗唱の精度 60% + 筆記テスト 40%
学生へのメッセージ	言語は文字である以前に音声です。この事実を思い出してください。チャットやメールなどの視覚媒体に偏ったコミュニケーションのありように気づくことが、おそらく語学の第一歩です。本科目は、よく聴き、よく覚え、よく唱えることを基礎にします。
担当者の研究室等	安達研究室 (7号館5階)
備考	授業内容および進捗は、あくまでも計画です。クラスの規模や理解度に応じて、随時計画を修正・変更します。

事前・事後学習の総時間数は、15 時間以上を要する。

科目名	スペイン語表現	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1661e0		

授業概要・目的	スペイン語の発音および語彙を集中的に学ぶ。いわゆる素読は、外国語教育・学修において根幹をなす。毎回の暗記・暗唱を通して、スペイン語の基礎文法を体得する。語彙も正確に適切に使えるよう、ニュアンスを含めた語義解釈を文章理解を通して行う。
到達目標	文字レベルの正確な発音と語レベルの強勢、および文の抑揚への意識を高める。モデルとなる文をしっかりと記憶し、語彙を変えるなどして、異なる文を作れるようになる。
授業方法と留意点	しっかりと発声し筆記すること、文や語彙を正確に覚えて（声でも文字でも）再現することを目指すため、毎回きちんと予習・暗記した状態で授業に臨むこと。
科目学習の効果 (資格)	すべての学習の基礎たる暗記・暗唱、予習・自習・復習を徹底すること。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 語彙集 はじめに	講義の説明 簡単な語彙とその発音	テキスト p 6~8 語句・文の意味を辞書で調べ覚える
2	語彙集 はじめに	簡単な語彙とその発音	テキスト p 6~8 語句・文の意味を辞書で調べ覚える
3	第1課 名詞と名詞に伴って変化する語	名詞の性、複数形の作り方、冠詞、形容詞	テキスト p 11~15 語句・文の意味を辞書で調べ覚える
4	第1課 名詞と名詞に伴って変化する語 第2課 英語の be 動詞に相当するスペイン語の動詞	指示形容詞・代名詞、所有詞、主格人称代名詞 Ser 性質を述べる動詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
5	第2課 英語の be 動詞に相当するスペイン語の動詞	Ser 性質を述べる動詞 estar 所在、状態を述べる動詞 hay 存在を表す動詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
6	第3課 -ar で終わる動詞	-ar 動詞、文の種類、疑問詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
7	第3課 -ar で終わる動詞 第4課 -er/-ir で終わる動詞	時刻表現、-er/-ir で終わる動詞、時刻表現 2、頻度を表す表現、副詞の作り方	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
8	第4課 -er/-ir で終わる動詞	-er/-ir で終わる動詞、時刻表現 2、頻度を表す表現、副詞の作り方	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
9	筆記テスト	第1課から第4課までの学習内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
10	第5課 不規則活用動詞	1 人称単数のみ不規則な動詞、conocer/saber、hacer を使った天候表現	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
11	第5課 不規則活用動詞 第6課 gustar 型動詞	前置人称代名詞、目的格人称代名詞 gustar 型動詞、目的格人称代名詞 2	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
12	第6課 gustar 型動詞	gustar 型動詞、目的格人称代名詞 2、不定語と否定語	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
13	第7課 語根母音変化動詞 1	語根母音変化動詞、縮小辞、感嘆文	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
14	第7課 語根母音変化動詞 1	語根母音変化動詞、縮小辞、感嘆文	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
15	筆記テスト	第5課から第7課までの学習内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える

関連科目	スペイン語の科目すべて
------	-------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	聴いて、繰り返して、学びましょう!	久住真由	同学社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	ほぼ毎回授業時に実施する暗唱の精度 60% + 筆記テスト 40%
学生へのメッセージ	言語は文字である以前に音声です。この事実を思い出してください。チャットやメールなどの視覚媒体に偏ったコミュニケーションのありように気づくことが、おそらく語学の第一歩です。本科目は、よく聴き、よく覚え、よく唱えることを基礎にします。
担当者の研究室等	非常勤講師控室 (7号館2階)
備考	授業内容および進捗は、あくまでも計画です。クラスの規模や理解度に応じて、随時計画を修正・変更します。

事前・事後学習の総時間数として15時間以上を要する。

科目名	スペイン語表現	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1661e0		

授業概要・目的	スペイン語の発音および語彙を集中的に学ぶ。いわゆる素読は、外国語教育・学修において根幹をなす。毎回の暗記・暗唱を通して、スペイン語の基礎文法を体得する。語彙も正確に適切に使えるよう、ニュアンスを含めた語義解釈を文章理解を通して行う。
到達目標	文字レベルの正確な発音と語レベルの強勢、および文の抑揚への意識を高める。モデルとなる文をしっかりと記憶し、語彙を変えるなどして、異なる文を作れるようになる。
授業方法と留意点	しっかりと発声し筆記すること、文や語彙を正確に覚えて（声でも文字でも）再現することを目指すため、毎回きちんと予習・暗記した状態で授業に臨むこと。
科目学習の効果 (資格)	すべての学習の基礎たる暗記・暗唱、予習・自習・復習を徹底すること。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 語彙集 はじめに	講義の説明 簡単な語彙とその発音	テキスト p 6~8 語句・文の意味を辞書で調べ覚える
2	語彙集 はじめに	簡単な語彙とその発音	テキスト p 6~8 語句・文の意味を辞書で調べ覚える
3	第1課 名詞と名詞に伴って変化する語	名詞の性、複数形の作り方、冠詞、形容詞	テキスト p 11~15 語句・文の意味を辞書で調べ覚える
4	第1課 名詞と名詞に伴って変化する語 第2課 英語の be 動詞に相当するスペイン語の動詞	指示形容詞・代名詞、所有詞、主格人称代名詞 Ser 性質を述べる動詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
5	第2課 英語の be 動詞に相当するスペイン語の動詞	Ser 性質を述べる動詞 estar 所在、状態を述べる動詞 hay 存在を表す動詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
6	第3課 -ar で終わる動詞	-ar 動詞、文の種類、疑問詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
7	第3課 -ar で終わる動詞 第4課 -er/-ir で終わる動詞	時刻表現、-er/-ir で終わる動詞、時刻表現 2、頻度を表す表現、副詞の作り方	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
8	第4課 -er/-ir で終わる動詞	-er/-ir で終わる動詞、時刻表現 2、頻度を表す表現、副詞の作り方	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
9	筆記テスト	第1課から第4課までの学習内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
10	第5課 不規則活用動詞	1 人称単数のみ不規則な動詞、conocer/saber、hacer を使った天候表現	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
11	第5課 不規則活用動詞 第6課 gustar 型動詞	前置人称代名詞、目的格人称代名詞 gustar 型動詞、目的格人称代名詞 2	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
12	第6課 gustar 型動詞	gustar 型動詞、目的格人称代名詞 2、不定語と否定語	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
13	第7課 語根母音変化動詞 1	語根母音変化動詞、縮小辞、感嘆文	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
14	第7課 語根母音変化動詞 1	語根母音変化動詞、縮小辞、感嘆文	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
15	筆記テスト	第5課から第7課までの学習内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える

関連科目	スペイン語の科目すべて
------	-------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	聴いて、繰り返して、学びましょう!	久住真由	同学社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	ほぼ毎回授業時に実施する暗唱の精度 60% + 筆記テスト 40%
学生へのメッセージ	言語は文字である以前に音声です。この事実を思い出してください。チャットやメールなどの視覚媒体に偏ったコミュニケーションのありように気づくことが、おそらく語学の第一歩です。本科目は、よく聴き、よく覚え、よく唱えることを基礎にします。
担当者の研究室等	非常勤講師控室 (7号館2階)
備考	授業内容および進捗は、あくまでも計画です。クラスの規模や理解度に応じて、随時計画を修正・変更します。

事前・事後学習の総時間数として15時間以上を要する。

科目名	スペイン語表現	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1661e0		

授業概要・目的	スペイン語の発音および語彙を集中的に学ぶ。いわゆる素読は、外国語教育・学修において根幹をなす。毎回の暗記・暗唱を通して、スペイン語の基礎文法を体得する。語彙も正確に適切に使えるよう、ニュアンスを含めた語義解釈を文章理解を通して行う。
到達目標	文字レベルの正確な発音と語レベルの強勢、および文の抑揚への意識を高める。モデルとなる文をしっかりと記憶し、語彙を変えるなどして、異なる文を作れるようになる。
授業方法と留意点	しっかりと発声し筆記すること、文や語彙を正確に覚えて（声でも文字でも）再現することを目指すため、毎回きちんと予習・暗記した状態で授業に臨むこと。
科目学習の効果 (資格)	すべての学習の基礎たる暗記・暗唱、予習・自習・復習を徹底すること。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 語彙集 はじめに	講義の説明 簡単な語彙とその発音	テキスト p 6~8 語句・文の意味を辞書で調べ覚える
2	語彙集 はじめに	簡単な語彙とその発音	テキスト p 6~8 語句・文の意味を辞書で調べ覚える
3	第1課 名詞と名詞に伴って変化する語	名詞の性、複数形の作り方、冠詞、形容詞	テキスト p 11~15 語句・文の意味を辞書で調べ覚える
4	第1課 名詞と名詞に伴って変化する語 第2課 英語の be 動詞に相当するスペイン語の動詞	指示形容詞・代名詞、所有詞、主格人称代名詞 Ser 性質を述べる動詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
5	第2課 英語の be 動詞に相当するスペイン語の動詞	Ser 性質を述べる動詞 estar 所在、状態を述べる動詞 hay 存在を表す動詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
6	第3課 -ar で終わる動詞	-ar 動詞、文の種類、疑問詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
7	第3課 -ar で終わる動詞 第4課 -er/-ir で終わる動詞	時刻表現、-er/-ir で終わる動詞、時刻表現 2、頻度を表す表現、副詞の作り方	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
8	第4課 -er/-ir で終わる動詞	-er/-ir で終わる動詞、時刻表現 2、頻度を表す表現、副詞の作り方	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
9	筆記テスト	第1課から第4課までの学習内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
10	第5課 不規則活用動詞	1 人称単数のみ不規則な動詞、conocer/saber、hacer を使った天候表現	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
11	第5課 不規則活用動詞 第6課 gustar 型動詞	前置人称代名詞、目的格人称代名詞 gustar 型動詞、目的格人称代名詞 2	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
12	第6課 gustar 型動詞	gustar 型動詞、目的格人称代名詞 2、不定語と否定語	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
13	第7課 語根母音変化動詞 1	語根母音変化動詞、縮小辞、感嘆文	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
14	第7課 語根母音変化動詞 1	語根母音変化動詞、縮小辞、感嘆文	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
15	筆記テスト	第5課から第7課までの学習内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える

関連科目	スペイン語の科目すべて
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	聴いて、繰り返して、学びましょう!	久住真由	同学社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	ほぼ毎回授業時に実施する暗唱の精度 60% + 筆記テスト 40%
学生へのメッセージ	言語は文字である以前に音声です。この事実を思い出してください。チャットやメールなどの視覚媒体に偏ったコミュニケーションのありように気づくことが、おそらく語学の第一歩です。本科目は、よく聴き、よく覚え、よく唱えることを基礎にします。
担当者の研究室等	安達研究室 (7号館5階)
備考	授業内容および進捗は、あくまでも計画です。クラスの規模や理解度に応じて、随時計画を修正・変更します。

事前・事後学習の総時間数として15時間以上を要する。

科目名	スペイン語会話 I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1662e0		

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸にまたがる広域かつ多様な文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語文法 I」で学びつつある文法の知識を活かしながら、日常的によく使う表現をまずは身につける。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを実践する。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な問いかげや応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	授業中は間違いを恐れず、スペイン語で積極的に発言すること。疑問点があれば何なりと質問し、理解できるまで説明を求めること。必要に応じて小テストを実施する。以下に示す授業計画は目安であり、履修生の理解度によって進度を調整することがある。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 6 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Unidad 1: Hola, como te llamas?	授業の進め方についての説明 アルファベットと文字の発音 あいさつ表現；クラスで使う表現	スペイン語のアルファベットや発音について、入門の教科書でその説明部分を読んでおく。
2	Unidad 1: Hola, como te llamas?	アクセントのルール 単語の発音練習 級友とあいさつを交わす。	第1課の前半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
3	Unidad 1: Hola, como te llamas?	地図を見ながらスペイン語圏を確認：イ スパノアメリカ諸国の国名と位置およ びスペインの17自治州 pp. 6-10の活動	第1課の後半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
4	Unidad 2: Soy japones, de Tokio	主語になる人称代名詞 国籍・職業を表す語 疑問詞、指示詞	第2課の前半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
5	Unidad 2: Soy japones, de Tokio	pp. 16-20の活動	第2課の後半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
6	Unidad 3: Mi universidad	定冠詞と不定冠詞 所有詞 動詞 ser, estar	第3課の前半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
7	Unidad 3: Mi universidad	pp. 26-30の活動	第3課の後半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
8	Repaso y presentacion ここまでの復習と理解度確認	復習と理解度確認中間テストまたはプ レゼンテーション	第3課までで学習したことを声に出して反復練習し、既出の語彙の意味を再確認する。プレゼンの準備をする。
9	Unidad 4: Estudio en la Universidad de Salamanca	動詞の現在形 Presente de indicativo 時刻の表現 前置詞	第4課の前半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
10	Unidad 4: Estudio en la Universidad de Salamanca	pp. 36-40の活動	第4課の後半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
11	Unidad 5: La familia	指示詞 所有詞 動詞 tener	第5課の前半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
12	Unidad 5: La familia	pp. 46-50の活動	第5課の後半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
13	Unidad 6: En vacaciones voy a ir a Barcelona	動詞 hay と estar の使い分け 動詞 ir ir a+不定詞；querer+不定詞；tener que+不定詞 語幹母音変化動詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
14	Unidad 6: En vacaciones voy a ir a Barcelona	pp. 56-60の活動	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
15	Repaso y examen oral final 理解度確認テスト	これまでの総復習と目標達成度確認	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語文法 I、スペイン語表現
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Muy Bien! 1 (いいね! スペイン語)	Juan Carlos Moyano Lopez, Carlos Garcia Ruiz-Castillo, Yoshimi Hiroyasu	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題への取り組み姿勢、スペイン語の課題の質および語彙力によって総合的に評価する。 授業における課題 (50%) 期末試験 (50%)から総合的に評価する。 Tareas y participacion (50%) Examen oral final (50%)
学生への メッセージ	スペイン語は日本語話者にとって聞き取りも発話もとても簡単な言語です。教員とも同級生とも積極的に対話してください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
備考	事前・事後学習の総時間数として15時間以上を要する。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 試験の後、時間中に解説を行う。

科目名	スペイン語会話 I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ヘスス マルティン
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1662e0		

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸にまたがる広域かつ多様な文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語文法 I」で学びつつある文法の知識を活かしながら、日常的によく使う表現をまずは身につける。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを実践する。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な問いかけや応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	授業中は間違いを恐れず、スペイン語で積極的に発言すること。疑問点があれば何なりと質問し、理解できるまで説明を求めること。必要に応じて小テストを実施する。以下に示す授業計画は目安であり、履修生の理解度によって進度を調整することがある。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 6 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Unidad 1: Hola, como te llamas?	授業の進め方についての説明 アルファベットと文字の発音 あいさつ表現；クラスで使う表現	スペイン語のアルファベットや発音について、入門の教科書でその説明部分を読んでおく。
2	Unidad 1: Hola, como te llamas?	アクセントのルール 単語の発音練習 級友とあいさつを交わす。	第1課の前半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
3	Unidad 1: Hola, como te llamas?	地図を見ながらスペイン語圏を確認：イ スパノアメリカ諸国の国名と位置およ びスペインの17自治州 pp. 6-10の活動	第1課の後半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
4	Unidad 2: Soy japones, de Tokio	主語になる人称代名詞 国籍・職業を表す語 疑問詞、指示詞	第2課の前半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
5	Unidad 2: Soy japones, de Tokio	pp. 16-20の活動	第2課の後半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
6	Unidad 3: Mi universidad	定冠詞と不定冠詞 所有詞 動詞 ser, estar	第3課の前半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
7	Unidad 3: Mi universidad	pp. 26-30の活動	第3課の後半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
8	Repaso y presentacion ここまでの復習と理解度確認	復習と理解度確認中間テストまたはプ レゼンテーション	第3課までで学習したことを声に出して反復練習し、既出の語彙の意味を再確認する。プレゼンの準備をする。
9	Unidad 4: Estudio en la Universidad de Salamanca	動詞の現在形 Presente de indicativo 時刻の表現 前置詞	第4課の前半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
10	Unidad 4: Estudio en la Universidad de Salamanca	pp. 36-40の活動	第4課の後半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
11	Unidad 5: La familia	指示詞 所有詞 動詞 tener	第5課の前半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
12	Unidad 5: La familia	pp. 46-50の活動	第5課の後半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
13	Unidad 6: En vacaciones voy a ir a Barcelona	動詞 hay と estar の使い分け 動詞 ir ir a+不定詞；querer+不定詞；tener que+不定詞 語幹母音変化動詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
14	Unidad 6: En vacaciones voy a ir a Barcelona	pp. 56-60の活動	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
15	Repaso y examen oral final 理解度確認テスト	これまでの総復習と目標達成度確認	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語文法 I、スペイン語表現
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Muy Bien! 1 (いいね! スペイン語)	Juan Carlos Moyano Lopez, Carlos Garcia Ruiz-Castillo, Yoshimi Hiroyasu	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題への取り組み姿勢、スペイン語の課題の質および語彙力によって総合的に評価する。 授業における課題 (50%) 期末試験 (50%)から総合的に評価する。 Tareas y participacion (50%) Examen oral final (50%)
学生への メッセージ	スペイン語は日本語話者にとって聞き取りも発話もとても簡単な言語です。教員とも同級生とも積極的に対話してください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
備考	授業の前に1時間、後に1時間の学習時間を要する。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 試験の後、時間中に解説を行う。

科目名	スペイン語会話 I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ヘスス マルティン
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1662e0		

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸にまたがる広域かつ多様な文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語文法 I」で学びつつある文法の知識を活かしながら、日常的によく使う表現をまずは身につける。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを実践する。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な問いかけや応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	授業中は間違いを恐れず、スペイン語で積極的に発言すること。疑問点があれば何なりと質問し、理解できるまで説明を求めること。必要に応じて小テストを実施する。以下に示す授業計画は目安であり、履修生の理解度によって進度を調整することがある。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 6 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Unidad 1: Hola, como te llamas?	授業の進め方についての説明 アルファベットと文字の発音 あいさつ表現；クラスで使う表現	スペイン語のアルファベットや発音について、入門の教科書でその説明部分を読んでおく。
2	Unidad 1: Hola, como te llamas?	アクセントのルール 単語の発音練習 級友とあいさつを交わす。	第 1 課の前半 5 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
3	Unidad 1: Hola, como te llamas?	地図を見ながらスペイン語圏を確認：イ スパノアメリカ諸国の国名と位置およ びスペインの 17 自治州 pp. 6-10 の活動	第 1 課の後半 5 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
4	Unidad 2: Soy japones, de Tokio	主語になる人称代名詞 国籍・職業を表す語 疑問詞、指示詞	第 2 課の前半 5 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
5	Unidad 2: Soy japones, de Tokio	pp. 16-20 の活動	第 2 課の後半 5 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
6	Unidad 3: Mi universidad	定冠詞と不定冠詞 所有詞 動詞 ser, estar	第 3 課の前半 5 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
7	Unidad 3: Mi universidad	pp. 26-30 の活動	第 3 課の後半 5 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
8	Repaso y presentacion ここまでの復習と理解度確認	復習と理解度確認中間テストまたはプ レゼンテーション	第 3 課までで学習したことを声に出して反復練習し、既出の語彙の意味を再確認する。プレゼンの準備をする。
9	Unidad 4: Estudio en la Universidad de Salamanca	動詞の現在形 Presente de indicativo 時刻の表現 前置詞	第 4 課の前半 5 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
10	Unidad 4: Estudio en la Universidad de Salamanca	pp. 36-40 の活動	第 4 課の後半 5 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
11	Unidad 5: La familia	指示詞 所有詞 動詞 tener	第 5 課の前半 5 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
12	Unidad 5: La familia	pp. 46-50 の活動	第 5 課の後半 5 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
13	Unidad 6: En vacaciones voy a ir a Barcelona	動詞 hay と estar の使い分け 動詞 ir ir a+不定詞；querer+不定詞；tener que+不定詞 語幹母音変化動詞	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
14	Unidad 6: En vacaciones voy a ir a Barcelona	pp. 56-60 の活動	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
15	Repaso y examen oral final 理解度確認テスト	これまでの総復習と目標達成度確認	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目 スペイン語文法 I、スペイン語表現

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Muy Bien! 1 (いいね! スペイン語)	Juan Carlos Moyano Lopez, Carlos Garcia Ruiz-Castillo, Yoshimi Hiroyasu	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題への取り組み姿勢、スペイン語の課題の質および語彙力によって総合的に評価する。 授業における課題 (50%) 期末試験 (50%)から総合的に評価する。 Tareas y participacion (50%) Examen oral final (50%)
学生への メッセージ	スペイン語は日本語話者にとって聞き取りも発話もとても簡単な言語です。教員とも同級生とも積極的に対話してください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
備考	事前・事後学習の総時間数として15時間以上を要する。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 試験の後、時間中に解説を行う。

科目名	スペイン語会話 I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1662e0		

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸にまたがる広域かつ多様な文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語文法 I」で学びつつある文法の知識を活かしながら、日常的によく使う表現をまずは身につける。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを実践する。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な問いかけや応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	授業中は間違いを恐れず、スペイン語で積極的に発言すること。疑問点があれば何なりと質問し、理解できるまで説明を求めること。必要に応じて小テストを実施する。以下に示す授業計画は目安であり、履修生の理解度によって進度を調整することがある。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 6 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Unidad 1: Hola, como te llamas?	授業の進め方についての説明 アルファベットと文字の発音 あいさつ表現；クラスで使う表現	スペイン語のアルファベットや発音について、入門の教科書でその説明部分を読んでおく。
2	Unidad 1: Hola, como te llamas?	アクセントのルール 単語の発音練習 級友とあいさつを交わす。	第1課の前半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
3	Unidad 1: Hola, como te llamas?	地図を見ながらスペイン語圏を確認：イ スパノアメリカ諸国の国名と位置およ びスペインの17自治州 pp. 6-10の活動	第1課の後半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
4	Unidad 2: Soy japones, de Tokio	主語になる人称代名詞 国籍・職業を表す語 疑問詞、指示詞	第2課の前半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
5	Unidad 2: Soy japones, de Tokio	pp. 16-20の活動	第2課の後半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
6	Unidad 3: Mi universidad	定冠詞と不定冠詞 所有詞 動詞 ser, estar	第3課の前半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
7	Unidad 3: Mi universidad	pp. 26-30の活動	第3課の後半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
8	Repaso y presentacion ここまでの復習と理解度確認	復習と理解度確認中間テストまたはプ レゼンテーション	第3課までで学習したことを声に出して反復練習し、既出の語彙の意味を再確認する。プレゼンの準備をする。
9	Unidad 4: Estudio en la Universidad de Salamanca	動詞の現在形 Presente de indicativo 時刻の表現 前置詞	第4課の前半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
10	Unidad 4: Estudio en la Universidad de Salamanca	pp. 36-40の活動	第4課の後半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
11	Unidad 5: La familia	指示詞 所有詞 動詞 tener	第5課の前半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
12	Unidad 5: La familia	pp. 46-50の活動	第5課の後半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
13	Unidad 6: En vacaciones voy a ir a Barcelona	動詞 hay と estar の使い分け 動詞 ir ir a+不定詞；querer+不定詞；tener que+不定詞 語幹母音変化動詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
14	Unidad 6: En vacaciones voy a ir a Barcelona	pp. 56-60の活動	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
15	Repaso y examen oral final 理解度確認テスト	これまでの総復習と目標達成度確認	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語文法 I、スペイン語表現
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Muy Bien! 1 (いいね! スペイン語)	Juan Carlos Moyano Lopez, Carlos Garcia Ruiz-Castillo, Yoshimi Hiroyasu	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題への取り組み姿勢、スペイン語の課題の質および語彙力によって総合的に評価する。 授業における課題 (50%) 期末試験 (50%)から総合的に評価する。 Tareas y participacion (50%) Examen oral final (50%)
学生への メッセージ	スペイン語は日本語話者にとって聞き取りも発話もとても簡単な言語です。教員とも同級生とも積極的に対話してください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
備考	事前・事後学習の総時間数として15時間以上を要する。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 試験の後、時間中に解説を行う。

科目名	インドネシア語文法	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1670e0		

授業概要・目的	人口2億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的な運用能力の向上を目指す。インドネシア語を初めて学ぶにあたっては基礎的な文法を把握し、単語力を増強することが求められる。そこで、本授業では特にインドネシア語の基本文法を学び、読む力と書く力を養っていくことを目的とし、持続的なインドネシア語運用能力の向上を図る。
到達目標	基本的なインドネシア語運用能力を高めることができる。 授業では、特に文法能力を高めることを目標とし、インドネシア語で表現する方法の基礎をマスターする。
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語会話 I」と同じ教科書を用います。授業には必ず持参してください。なお、インドネシア語の運用能力をより高めたいければ、参考書欄に挙げた単語集や辞書の購入をお勧めします。 定期試験期間中の期末試験は行わず、授業最終回に復習を兼ねての最終試験を実施します。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第3課 第4課	否定語、呼びかけの語、前置詞句、助動詞を学ぶ。	学んだことの再確認 (第3課・第4課)
3	第5課 第6課	助動詞、疑問詞、比較の表現、接辞法を学ぶ。	学んだことの再確認 (第5課・第6課)
4	第7課	接頭辞 meN-を学ぶ。	学んだことの再確認 (第7課)
5	第8課	助数詞、重複を学ぶ。	学んだことの再確認 (第8課)
6	第9課	時刻や時間の長さ、時の表現で使われる前置詞を学ぶ。	学んだことの再確認 (第9課)
7	第10課	日付や曜日の言い方、前置詞 untuk や atas の使い方を学ぶ。	学んだことの再確認 (第10課)
8	第11課 第12課	経験や回数、期間を表す表現、接尾辞-iを伴う動詞の形、接尾辞-kan について学ぶ。	学んだことの再確認 (第11課・第12課)
9	第13課	他動詞の3つの語形、他動詞文の文型を学ぶ。	学んだことの再確認 (第13課)
10	第14課	接頭辞 di-を用いる文型、丁寧な否定語として使われる kurang について学ぶ。	学んだことの再確認 (第14課)
11	第15課 第16課	命令・依頼・勧誘・禁止の表現、理由の尋ね方とその答え方、感情の表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (第15課・第16課)
12	第17課 第18課	yang 節内での他動詞の語形、前置詞としての dalam の使い方、条件や譲歩などの接続詞、-nya を伴う副詞句を学ぶ。	学んだことの再確認 (第17課・第18課)
13	第19課	会話文「誰が手伝ってくれるのですか?」、疑問文、疑問詞を接続詞のように用いる表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (第19課)
14	第20課	会話文「それほど簡単ではありません」、接頭辞 se-を用いた同等比較、接続詞 bahwa を学ぶ。	学んだことの再確認 (第20課)
15	総まとめ	これまでに学んだことについての理解度確認テストを実施し、総復習を行う。	これまでに学んだことの再確認

関連科目	インドネシア語会話 I、インドネシア語表現 I
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレスプラスインドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレスインドネシア語単語集	原真由子	白水社
2	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館	
3				

評価方法 (基準)	最終回の「理解度確認テスト」70%、「積極的な授業参加」の度合い30% 詳細は、第1回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	インドネシア語はとても学びやすい言語です。是非、楽しんで学んでいきましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来てください。積極的な姿勢が大切です。
担当者の研究室等	浦野研究室 (7号館4階)
備考	基本的には予習は必要ないが、授業内容を確実に理解するために事後学習は必ず行うこと。事後学習の総時間数は15時間程度を目安とする。

科目名	インドネシア語文法	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1670e0		

授業概要・目的	人口2億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的な運用能力の向上を目指す。インドネシア語を初めて学ぶにあたっては基礎的な文法を把握し、単語力を増強することが求められる。そこで、本授業では特にインドネシア語の基本文法を学び、読む力と書く力を養っていくことを目的とし、持続的なインドネシア語運用能力の向上を図る。
到達目標	基本的なインドネシア語運用能力を高めることができる。 授業では、特に文法能力を高めることを目標とし、インドネシア語で表現する方法の基礎をマスターする。
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語会話 I」と同じ教科書を用います。授業には必ず持参してください。なお、インドネシア語の運用能力をより高めたいければ、参考書欄に挙げた単語集や辞書の購入をお勧めします。 定期試験期間中の期末試験は行わず、授業最終回に復習を兼ねての最終試験を実施します。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第1課 第2課	修飾の関係を表す語順、「AはBです」という表現、場所や方向、移動などの表現、指示代名詞や複数の人称代名詞を学ぶ。	学んだことの再確認 (第1課・第2課)
2	第3課 第4課	否定語、呼びかけの語、前置詞句、助動詞を学ぶ。	学んだことの再確認 (第3課・第4課)
3	第5課 第6課	助動詞、疑問詞、比較の表現、接辞法を学ぶ。	学んだことの再確認 (第5課・第6課)
4	第7課	接頭辞 meN-を学ぶ。	学んだことの再確認 (第7課)
5	第8課	助数詞、重複を学ぶ。	学んだことの再確認 (第8課)
6	第9課	時刻や時間の長さ、時の表現で使われる前置詞を学ぶ。	学んだことの再確認 (第9課)
7	第10課	日付や曜日の言い方、前置詞 untuk や atas の使い方を学ぶ。	学んだことの再確認 (第10課)
8	第11課 第12課	経験や回数、期間を表す表現、接尾辞-iを伴う動詞の形、接尾辞-kan について学ぶ。	学んだことの再確認 (第11課・第12課)
9	第13課	他動詞の3つの語形、他動詞文の文型を学ぶ。	学んだことの再確認 (第13課)
10	第14課	接頭辞 di-を用いる文型、丁寧な否定語として使われる kurang について学ぶ。	学んだことの再確認 (第14課)
11	第15課 第16課	命令・依頼・勧誘・禁止の表現、理由の尋ね方とその答え方、感情の表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (第15課・第16課)
12	第17課 第18課	yang 節内での他動詞の語形、前置詞としての dalam の使い方、条件や譲歩などの接続詞、-nya を伴う副詞句を学ぶ。	学んだことの再確認 (第17課・第18課)
13	第19課	会話文「誰が手伝ってくれるのですか?」、疑問文、疑問詞を接続詞のように用いる表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (第19課)
14	第20課	会話文「それほど簡単ではありません」、接頭辞 se-を用いた同等比較、接続詞 bahwa を学ぶ。	学んだことの再確認 (第20課)
15	総まとめ	これまでに学んだことについての理解度確認テストを実施し、総復習を行う。	これまでに学んだことの再確認

関連科目	インドネシア語会話 I、インドネシア語表現 I
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレスプラスインドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレスインドネシア語単語集	原真由子	白水社
2	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館	
3				

評価方法 (基準)	最終回の「理解度確認テスト」70%、「積極的な授業参加」の度合い30% 詳細は、第1回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	インドネシア語はとても学びやすい言語です。是非、楽しんで学んでいきましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来てください。積極的な姿勢が大切です。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
備考	基本的には予習は必要ないが、授業内容を確実に理解するために事後学習は必ず行うこと。事後学習の総時間数は15時間程度を目安とする。

科目名	インドネシア語文法	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1670e0		

授業概要・目的	人口2億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的な運用能力の向上を目指す。インドネシア語を初めて学ぶにあたっては基礎的な文法を把握し、単語力を増強することが求められる。そこで、本授業では特にインドネシア語の基本文法を学び、読む力と書く力を養っていくことを目的とし、持続的なインドネシア語運用能力の向上を図る。
到達目標	基本的なインドネシア語運用能力を高めることができる。 授業では、特に文法能力を高めることを目標とし、インドネシア語で表現する方法の基礎をマスターする。
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語会話 I」と同じ教科書を用います。授業には必ず持参してください。なお、インドネシア語の運用能力をより高めたいければ、参考書欄に挙げた単語集や辞書の購入をお勧めします。 定期試験期間中の期末試験は行わず、授業最終回に復習を兼ねての最終試験を実施します。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第3課 第4課	否定語、呼びかけの語、前置詞句、助動詞を学ぶ。	学んだことの再確認 (第3課・第4課)
3	第5課 第6課	助動詞、疑問詞、比較の表現、接辞法を学ぶ。	学んだことの再確認 (第5課・第6課)
4	第7課	接頭辞 meN-を学ぶ。	学んだことの再確認 (第7課)
5	第8課	助数詞、重複を学ぶ。	学んだことの再確認 (第8課)
6	第9課	時刻や時間の長さ、時の表現で使われる前置詞を学ぶ。	学んだことの再確認 (第9課)
7	第10課	日付や曜日の言い方、前置詞 untuk や atas の使い方を学ぶ。	学んだことの再確認 (第10課)
8	第11課 第12課	経験や回数、期間を表す表現、接尾辞-iを伴う動詞の形、接尾辞-kan について学ぶ。	学んだことの再確認 (第11課・第12課)
9	第13課	他動詞の3つの語形、他動詞文の文型を学ぶ。	学んだことの再確認 (第13課)
10	第14課	接頭辞 di-を用いる文型、丁寧な否定語として使われる kurang について学ぶ。	学んだことの再確認 (第14課)
11	第15課 第16課	命令・依頼・勧誘・禁止の表現、理由の尋ね方とその答え方、感情の表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (第15課・第16課)
12	第17課 第18課	yang 節内での他動詞の語形、前置詞としての dalam の使い方、条件や譲歩などの接続詞、-nya を伴う副詞句を学ぶ。	学んだことの再確認 (第17課・第18課)
13	第19課	会話文「誰が手伝ってくれるのですか?」、疑問文、疑問詞を接続詞のように用いる表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (第19課)
14	第20課	会話文「それほど簡単ではありません」、接頭辞 se-を用いた同等比較、接続詞 bahwa を学ぶ。	学んだことの再確認 (第20課)
15	総まとめ	これまでに学んだことについての理解度確認テストを実施し、総復習を行う。	これまでに学んだことの再確認

関連科目	インドネシア語会話 I、インドネシア語表現 I
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレスプラスインドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレスインドネシア語単語集	原真由子	白水社
2	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館	
3				

評価方法 (基準)	最終回の「理解度確認テスト」70%、「積極的な授業参加」の度合い30% 詳細は、第1回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	インドネシア語はとても学びやすい言語です。是非、楽しんで学んでいきましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来てください。積極的な姿勢が大切です。
担当者の研究室等	浦野研究室 (7号館4階)
備考	基本的には予習は必要ないが、授業内容を確実に理解するために事後学習は必ず行うこと。事後学習の総時間数は15時間程度を目安とする。

科目名	インドネシア語文法	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1670e0		

授業概要・目的	人口2億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的な運用能力の向上を目指す。インドネシア語を初めて学ぶにあたっては基礎的な文法を把握し、単語力を増強することが求められる。そこで、本授業では特にインドネシア語の基本文法を学び、読む力と書く力を養っていくことを目的とし、持続的なインドネシア語運用能力の向上を図る。
到達目標	基本的なインドネシア語運用能力を高めることができる。 授業では、特に文法能力を高めることを目標とし、インドネシア語で表現する方法の基礎をマスターする。
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語会話 I」と同じ教科書を用います。授業には必ず持参してください。なお、インドネシア語の運用能力をより高めたいければ、参考書欄に挙げた単語集や辞書の購入をお勧めします。 定期試験期間中の期末試験は行わず、授業最終回に復習を兼ねての最終試験を実施します。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第3課 第4課	否定語、呼びかけの語、前置詞句、助動詞を学ぶ。	学んだことの再確認 (第3課・第4課)
3	第5課 第6課	助動詞、疑問詞、比較の表現、接辞法を学ぶ。	学んだことの再確認 (第5課・第6課)
4	第7課	接頭辞 meN-を学ぶ。	学んだことの再確認 (第7課)
5	第8課	助数詞、重複を学ぶ。	学んだことの再確認 (第8課)
6	第9課	時刻や時間の長さ、時の表現で使われる前置詞を学ぶ。	学んだことの再確認 (第9課)
7	第10課	日付や曜日の言い方、前置詞 untuk や atas の使い方を学ぶ。	学んだことの再確認 (第10課)
8	第11課 第12課	経験や回数、期間を表す表現、接尾辞-iを伴う動詞の形、接尾辞-kan について学ぶ。	学んだことの再確認 (第11課・第12課)
9	第13課	他動詞の3つの語形、他動詞文の文型を学ぶ。	学んだことの再確認 (第13課)
10	第14課	接頭辞 di-を用いる文型、丁寧な否定語として使われる kurang について学ぶ。	学んだことの再確認 (第14課)
11	第15課 第16課	命令・依頼・勧誘・禁止の表現、理由の尋ね方とその答え方、感情の表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (第15課・第16課)
12	第17課 第18課	yang 節内での他動詞の語形、前置詞としての dalam の使い方、条件や譲歩などの接続詞、-nya を伴う副詞句を学ぶ。	学んだことの再確認 (第17課・第18課)
13	第19課	会話文「誰が手伝ってくれるのですか?」、疑問文、疑問詞を接続詞のように用いる表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (第19課)
14	第20課	会話文「それほど簡単ではありません」、接頭辞 se-を用いた同等比較、接続詞 bahwa を学ぶ。	学んだことの再確認 (第20課)
15	総まとめ	これまでに学んだことについての理解度確認テストを実施し、総復習を行う。	これまでに学んだことの再確認

関連科目	インドネシア語会話 I、インドネシア語表現 I
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレスプラスインドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレスインドネシア語単語集	原真由子	白水社
2	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館	
3				

評価方法 (基準)	最終回の「理解度確認テスト」70%、「積極的な授業参加」の度合い30% 詳細は、第1回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	インドネシア語はとても学びやすい言語です。是非、楽しんで学んでいきましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来てください。積極的な姿勢が大切です。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
備考	基本的には予習は必要ないが、授業内容を確実に理解するために事後学習は必ず行うこと。事後学習の総時間数は15時間程度を目安とする。

科目名	インドネシア語表現 I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1671e0		

授業概要・目的	インドネシア語 (Bahasa Indonesia) は、東南アジア最大の人口を抱え、日本との友好関係が強いインドネシア共和国の国語である。本授業は、インドネシア語を初めて学ぶ学生を対象とし、基礎的な文法を学ぶ「インドネシア語文法」および、日常会話を主とする「インドネシア語会話 I」と連動しつつ、インドネシア語の基礎的な運用能力の修得を学修の到達目標として、基礎的な表現 (単語・慣用表現等) を重点的に教授する。
到達目標	インドネシア語の基礎的な文法知識を得る。 インドネシア語の日常レベルの多様な単語を覚える。 インドネシア語の社会と文化について基礎的知識を得る。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で行うが、都度グループワークをすることで学習内容の定着を図る。 本講義は、教科書に基づく内容と、独自教材による内容がある。 「インドネシア語文法」および「インドネシア語会話 I」と連動する科目なので、それぞれの学習内容をしっかりと復習すること。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験 E 級に合格可能な知識を得る。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	インドネシア語とインドネシアについて	授業の進め方について説明する。合わせて、インドネシア語の特徴と、インドネシア語を国語とするインドネシア共和国の概要について説明する。	事後に学習内容を復習する。
2	「人」に関わる単語と表現	インドネシアで社会的な関係の核となっている親族を中心に、人に関わる単語および日常のあいさつに代表されるような、人と人をつなぐ表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
3	「家」に関わる単語と表現	インドネシアの人々の日常的な暮らしに関わる単語および表現を学ぶ。	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
4	「色」「形」「大きさ」「におい」に関わる単語と表現	「色」「形」「大きさ」「におい」に関わる単語と表現により、形容詞の使い方を学ぶ。合わせて数詞と通貨について学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
5	「食」に関わる単語と表現	「食」に関わる単語や代表的な料理名、表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
6	「時間」と「空間」に関わる単語と表現	英語や日本語とも比較しながら、季節や年・月・週など「時間」に関わる単語と表現および、上下、方角、州や市などの行政区分のように、「空間」に関する単語と表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
7	「学校」と「教育」に関わる単語と表現	学校制度や塾など、現代のインドネシアにおける「学校」と「教育」に関する単語と表現を学ぶ。	事前にこれまでの学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
8	「文化」「習慣」「宗教」に関わる単語と表現	慣習や有形・無形の文化遺産、公定宗教など、「文化」「習慣」「宗教」に関わる単語と表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
9	短編ドキュメンタリーを見る	インドネシア語で制作された短編ドキュメンタリーを見ながら、単語と表現を学ぶ。	事後に当日の学習内容を復習する。小レポートを提出する。
10	短文読解	これまで学んだ内容を活かしながら、日常生活に関する短文読解に挑戦する。	事前にこれまでの学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
11	「自然」と「アウトドア」に関わる単語と表現	山、川、湖、雨、風、宇宙、天候など「自然」に関わる単語と表現、および「アウトドア」に関わる単語と表現を学ぶ。	事前にこれまでの学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
12	「都市生活」に関わる単語と表現	道案内や多様な乗り物に関わる単語と表現、および禁止表現、許可表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
13	「身体」と「病気」に関わる単語と表現	「身体」と「病気」に関わる単語と表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
14	長文読解	これまで学んだ内容を活かしながら、インドネシアの伝統文化に関わる長文読解に挑戦する。	事前にこれまで学んだ単語を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
15	まとめとテスト	これまでの学習の総合的な振り返りを行う。 到達度確認テストを行う。	事後にこれまでの学習内容を復習する。

関連科目	「諸言語論講」(1 年次前期)、「インドネシア語文法」(1 年次後期)、「インドネシア語会話 I」(1 年次後期)、「インドネシア語表現 II」(2 年次前期)、「インドネシア語会話 II」(2 年次前期)、「総合インドネシア語」(2 年次前期)、「総合マレー語」(2 年次後期)
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレス+インドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
	2			

	3		
評価方法 (基準)	平常点 20%、課題 30%、到達度確認テスト 50%		
学生への メッセージ	インドネシア語を学ぶと、世の中の動きをさらに別の角度から読み解いていくことができます。学びやすい言語でもあるのでぜひ楽しみながら学んでください。		
担当者の 研究室等	7号館 5階金子研究室		
備考	予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い、計 15 時間以上行うこと。 「インドネシア語文法」および「インドネシア語会話 I」と 3 科目共通の教科書を用いるので、重複して購入しないよう注意すること。		

科目名	インドネシア語表現 I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	テウク イティアリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1671e0		

授業概要・目的	インドネシア語 (Bahasa Indonesia) は、東南アジア最大の人口を抱え、日本との友好関係が強いインドネシア共和国の国語である。本授業は、インドネシア語を初めて学ぶ学生を対象とし、基礎的な文法を学ぶ「インドネシア語文法」および、日常会話を主とする「インドネシア語会話 I」と連動しつつ、インドネシア語の基礎的な運用能力の修得を学修の到達目標として、基礎的な表現 (単語・慣用表現等) を重点的に教授する。
到達目標	インドネシア語の基礎的な文法知識を得る。 インドネシア語の日常レベルの多様な単語を覚える。 インドネシア語の社会と文化について基礎的知識を得る。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で行うが、都度グループワークをすることで学習内容の定着を図る。 本講義は、教科書に基づく内容と、独自教材による内容がある。 「インドネシア語文法」および「インドネシア語会話 I」と連動する科目なので、それぞれの学習内容をしっかりと復習すること。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験 E 級に合格可能な知識を得る。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	インドネシア語とインドネシアについて	授業の進め方について説明する。合わせて、インドネシア語の特徴と、インドネシア語を国語とするインドネシア共和国の概要について説明する。	事後に学習内容を復習する。
2	「人」に関わる単語と表現	インドネシアで社会的な関係の核となっている親族を中心に、人に関わる単語および日常のあいさつに代表されるような、人と人をつなぐ表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
3	「家」に関わる単語と表現	インドネシアの人々の日常的な暮らしに関わる単語および表現を学ぶ。	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
4	「色」「形」「大きさ」「におい」に関わる単語と表現	「色」「形」「大きさ」「におい」に関わる単語と表現により、形容詞の使い方を学ぶ。合わせて数詞と通貨について学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
5	「食」に関わる単語と表現	「食」に関わる単語や代表的な料理名、表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
6	「時間」と「空間」に関わる単語と表現	英語や日本語とも比較しながら、季節や年・月・週など「時間」に関わる単語と表現および、上下、方角、州や市などの行政区分のように、「空間」に関する単語と表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
7	「学校」と「教育」に関わる単語と表現	学校制度や塾など、現代のインドネシアにおける「学校」と「教育」に関する単語と表現を学ぶ。	事前にこれまでの学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
8	「文化」「習慣」「宗教」に関わる単語と表現	慣習や有形・無形の文化遺産、公定宗教など、「文化」「習慣」「宗教」に関わる単語と表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
9	短編ドキュメンタリーを見る	インドネシア語で制作された短編ドキュメンタリーを見ながら、単語と表現を学ぶ。	事後に当日の学習内容を復習する。小レポートを提出する。
10	短文読解	これまで学んだ内容を活かしながら、日常生活に関する短文読解に挑戦する。	事前にこれまでの学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
11	「自然」と「アウトドア」に関わる単語と表現	山、川、湖、雨、風、宇宙、天候など「自然」に関わる単語と表現、および「アウトドア」に関わる単語と表現を学ぶ。	事前にこれまでの学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
12	「都市生活」に関わる単語と表現	道案内や多様な乗り物に関わる単語と表現、および禁止表現、許可表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
13	「身体」と「病気」に関わる単語と表現	「身体」と「病気」に関わる単語と表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
14	長文読解	これまで学んだ内容を活かしながら、インドネシアの伝統文化に関わる長文読解に挑戦する。	事前にこれまで学んだ単語を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
15	まとめとテスト	これまでの学習の総合的な振り返りを行う。 到達度確認テストを行う。	事後にこれまでの学習内容を復習する。

関連科目 「諸言語論講」(1 年次前期)、「インドネシア語文法」(1 年次後期)、「インドネシア語会話 I」(1 年次後期)、「インドネシア語表現 II」(2 年次前期)、「インドネシア語会話 II」(2 年次前期)、「総合インドネシア語」(2 年次前期)、「総合マレー語」(2 年次後期)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレス+インドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
2				

	3		
評価方法 (基準)	平常点 20%、課題 30%、到達度確認テスト 50%		
学生への メッセージ	インドネシア語を学ぶと、世の中の動きをさらに別の角度から読み解いていくことができます。学びやすい言語でもあるのでぜひ楽しみながら学んでください。		
担当者の 研究室等	7号館 2階非常勤講師控室		
備考	予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い、計 15 時間以上行うこと。 「インドネシア語文法」および「インドネシア語会話 I」と 3 科目共通の教科書を用いるので、重複して購入しないよう注意すること。		

科目名	インドネシア語表現 I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1671e0		

授業概要・目的	インドネシア語 (Bahasa Indonesia) は、東南アジア最大の人口を抱え、日本との友好関係が強いインドネシア共和国の国語である。本授業は、インドネシア語を初めて学ぶ学生を対象とし、基礎的な文法を学ぶ「インドネシア語文法」および、日常会話を主とする「インドネシア語会話 I」と連動しつつ、インドネシア語の基礎的な運用能力の修得を学修の到達目標として、基礎的な表現 (単語・慣用表現等) を重点的に教授する。
到達目標	インドネシア語の基礎的な文法知識を得る。 インドネシア語の日常レベルの多様な単語を覚える。 インドネシア語の社会と文化について基礎的知識を得る。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で行うが、都度グループワークをすることで学習内容の定着を図る。 本講義は、教科書に基づく内容と、独自教材による内容がある。 「インドネシア語文法」および「インドネシア語会話 I」と連動する科目なので、それぞれの学習内容をしっかりと復習すること。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験 E 級に合格可能な知識を得る。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	インドネシア語とインドネシアについて	授業の進め方について説明する。合わせて、インドネシア語の特徴と、インドネシア語を国語とするインドネシア共和国の概要について説明する。	事後に学習内容を復習する。
2	「人」に関わる単語と表現	インドネシアで社会的な関係の核となっている親族を中心に、人に関わる単語および日常のあいさつに代表されるような、人と人をつなぐ表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
3	「家」に関わる単語と表現	インドネシアの人々の日常的な暮らしに関わる単語および表現を学ぶ。	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
4	「色」「形」「大きさ」「におい」に関わる単語と表現	「色」「形」「大きさ」「におい」に関わる単語と表現により、形容詞の使い方を学ぶ。合わせて数詞と通貨について学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
5	「食」に関わる単語と表現	「食」に関わる単語や代表的な料理名、表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
6	「時間」と「空間」に関わる単語と表現	英語や日本語とも比較しながら、季節や年・月・週など「時間」に関わる単語と表現および、上下、方角、州や市などの行政区分のように、「空間」に関する単語と表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
7	「学校」と「教育」に関わる単語と表現	学校制度や塾など、現代のインドネシアにおける「学校」と「教育」に関する単語と表現を学ぶ。	事前にこれまでの学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
8	「文化」「習慣」「宗教」に関わる単語と表現	慣習や有形・無形の文化遺産、公定宗教など、「文化」「習慣」「宗教」に関わる単語と表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
9	短編ドキュメンタリーを見る	インドネシア語で制作された短編ドキュメンタリーを見ながら、単語と表現を学ぶ。	事後に当日の学習内容を復習する。小レポートを提出する。
10	短文読解	これまで学んだ内容を活かしながら、日常生活に関する短文読解に挑戦する。	事前にこれまでの学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
11	「自然」と「アウトドア」に関わる単語と表現	山、川、湖、雨、風、宇宙、天候など「自然」に関わる単語と表現、および「アウトドア」に関わる単語と表現を学ぶ。	事前にこれまでの学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
12	「都市生活」に関わる単語と表現	道案内や多様な乗り物に関わる単語と表現、および禁止表現、許可表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
13	「身体」と「病気」に関わる単語と表現	「身体」と「病気」に関わる単語と表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
14	長文読解	これまで学んだ内容を活かしながら、インドネシアの伝統文化に関わる長文読解に挑戦する。	事前にこれまで学んだ単語を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
15	まとめとテスト	これまでの学習の総合的な振り返りを行う。 到達度確認テストを行う。	事後にこれまでの学習内容を復習する。

関連科目 「諸言語論講」(1 年次前期)、「インドネシア語文法」(1 年次後期)、「インドネシア語会話 I」(1 年次後期)、「インドネシア語表現 II」(2 年次前期)、「インドネシア語会話 II」(2 年次前期)、「総合インドネシア語」(2 年次前期)、「総合マレー語」(2 年次後期)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレス+インドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
2				

	3		
評価方法 (基準)	平常点 20%、課題 30%、到達度確認テスト 50%		
学生への メッセージ	インドネシア語を学ぶと、世の中の動きをさらに別の角度から読み解いていくことができます。学びやすい言語でもあるのでぜひ楽しみながら学んでください。		
担当者の 研究室等	7号館 2階非常勤講師控え室 (7号館 5階金子研究室)		
備考	予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い、計15時間以上行うこと。 「インドネシア語文法」および「インドネシア語会話Ⅰ」と3科目共通の教科書を用いるので、重複して購入しないよう注意すること。		

科目名	インドネシア語表現 I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ティウ イティアリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1671e0		

授業概要・目的	インドネシア語 (Bahasa Indonesia) は、東南アジア最大の人口を抱え、日本との友好関係が強いインドネシア共和国の国語である。本授業は、インドネシア語を初めて学ぶ学生を対象とし、基礎的な文法を学ぶ「インドネシア語文法」および、日常会話を主とする「インドネシア語会話 I」と連動しつつ、インドネシア語の基礎的な運用能力の修得を学修の到達目標として、基礎的な表現 (単語・慣用表現等) を重点的に教授する。
到達目標	インドネシア語の基礎的な文法知識を得る。 インドネシア語の日常レベルの多様な単語を覚える。 インドネシア語の社会と文化について基礎的知識を得る。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で行うが、都度グループワークをすることで学習内容の定着を図る。 本講義は、教科書に基づく内容と、独自教材による内容がある。 「インドネシア語文法」および「インドネシア語会話 I」と連動する科目なので、それぞれの学習内容をしっかりと復習すること。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験 E 級に合格可能な知識を得る。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	インドネシア語とインドネシアについて	授業の進め方について説明する。合わせて、インドネシア語の特徴と、インドネシア語を国語とするインドネシア共和国の概要について説明する。	事後に学習内容を復習する。
2	「人」に関わる単語と表現	インドネシアで社会的な関係の核となっている親族を中心に、人に関わる単語および日常のあいさつに代表されるような、人と人をつなぐ表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
3	「家」に関わる単語と表現	インドネシアの人々の日常的な暮らしに関わる単語および表現を学ぶ。	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
4	「色」「形」「大きさ」「におい」に関わる単語と表現	「色」「形」「大きさ」「におい」に関わる単語と表現により、形容詞の使い方を学ぶ。合わせて数詞と通貨について学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
5	「食」に関わる単語と表現	「食」に関わる単語や代表的な料理名、表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
6	「時間」と「空間」に関わる単語と表現	英語や日本語とも比較しながら、季節や年・月・週など「時間」に関わる単語と表現および、上下、方角、州や市などの行政区分のように、「空間」に関する単語と表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
7	「学校」と「教育」に関わる単語と表現	学校制度や塾など、現代のインドネシアにおける「学校」と「教育」に関する単語と表現を学ぶ。	事前にこれまでの学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
8	「文化」「習慣」「宗教」に関わる単語と表現	慣習や有形・無形の文化遺産、公定宗教など、「文化」「習慣」「宗教」に関わる単語と表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
9	短編ドキュメンタリーを見る	インドネシア語で制作された短編ドキュメンタリーを見ながら、単語と表現を学ぶ。	事後に当日の学習内容を復習する。小レポートを提出する。
10	短文読解	これまで学んだ内容を活かしながら、日常生活に関する短文読解に挑戦する。	事前にこれまでの学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
11	「自然」と「アウトドア」に関わる単語と表現	山、川、湖、雨、風、宇宙、天候など「自然」に関わる単語と表現、および「アウトドア」に関わる単語と表現を学ぶ。	事前にこれまでの学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
12	「都市生活」に関わる単語と表現	道案内や多様な乗り物に関わる単語と表現、および禁止表現、許可表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
13	「身体」と「病気」に関わる単語と表現	「身体」と「病気」に関わる単語と表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
14	長文読解	これまで学んだ内容を活かしながら、インドネシアの伝統文化に関わる長文読解に挑戦する。	事前にこれまで学んだ単語を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
15	まとめとテスト	これまでの学習の総合的な振り返りを行う。 到達度確認テストを行う。	事後にこれまでの学習内容を復習する。

関連科目 「諸言語論講」(1 年次前期)、「インドネシア語文法」(1 年次後期)、「インドネシア語会話 I」(1 年次後期)、「インドネシア語表現 II」(2 年次前期)、「インドネシア語会話 II」(2 年次前期)、「総合インドネシア語」(2 年次前期)、「総合マレー語」(2 年次後期)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレス+インドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
2				

	3		
評価方法 (基準)	平常点 20%、課題 30%、到達度確認テスト 50%		
学生への メッセージ	インドネシア語を学ぶと、世の中の動きをさらに別の角度から読み解いていくことができます。学びやすい言語でもあるのでぜひ楽しみながら学んでください。		
担当者の 研究室等	7号館 2階非常勤講師控室		
備考	予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い、計 15 時間以上行うこと。 「インドネシア語文法」および「インドネシア語会話 I」と 3 科目共通の教科書を用いるので、重複して購入しないよう注意すること。		

科目名	インドネシア語会話 I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1672e0		

授業概要・目的	人口 2 億以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的な運用能力の向上を目指す。特に初めてインドネシア語を学ぶことを前提としてボキャブラリーを増やしなが、発音と基本文法を踏まえ、日常会話を話す事が出来るようになることを目的とする。なお、本授業は「インドネシア語表現 I」と運動させて行っていく。			
到達目標	インドネシア語で日常会話を話す事が出来る。			
授業方法と留意点	各会話文を学んで、関連授業に学んだを加えて、新しい会話文の作成と会話練習を行う。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	文字と発音	インドネシア語の文字と発音について・聞き取り・会話学習	学習内容を覚えるための復習。
	2	会話 1・会話 2	会話文「私の名前は健治です」「どこに住んでいますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
	3	会話 3・会話 4	会話文「こちらは作文のクラスではありません」「ヒダヤット先生は今いません」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
	4	会話 5・会話 6	会話文「もうインドネシア語が上手ですね」「もっと大きいのはありますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
	5	会話 7	会話文「この小包を送りたいのですが」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
	6	会話 8	会話文「州がいくつあるかわかりますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
	7	会話 9	会話文「9時半にここで会いましょう」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
	8	会話 10	会話文「7月16日です」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
	9	会話 11	会話文「バリ島に行ったことがありますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
	10	会話 12	会話文「これはペンベックというんです」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
	11	会話 13	会話文「招待状はもう受け取りました」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
	12	会話 14	会話文「アジア・アフリカ会議が行われました」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
	13	会話 15・会話 16	会話文「どうぞお入りください」「なぜインドネシアが好きですか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
	14	会話 17・会話 18	会話文「与えられたテーマは...」「乾季でも雨がよく降ります」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
	15	理解度確認テスト	これまでに学んだことの復習臨時試験「ペーパーテスト」	これまでに学んだことの復習
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレスプラスインドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレスインドネシア語単語集	原真由子	白水社
	2	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・佐藤正範編	小学館
	3			
評価方法 (基準)	クラス活動参加及び会話学習：70% 理解度確認テスト 30%			
学生へのメッセージ	新しい言語を学ぶには、あらゆる進歩を楽しむことができるように、興味と好奇心が必要です。			
担当者の研究室等	7号館2階：非常勤講師室 (水曜日・金曜日)			
備考	事前事後学修総時間数の目安は 15 時間以上とします。			

科目名	インドネシア語会話 I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ティウ イティリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1672e0		

授業概要・目的	人口 2 億以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的な運用能力の向上を目指す。特に初めてインドネシア語を学ぶことを前提としてボキャブラリーを増やししながら、発音と基本文法を踏まえ、日常会話を話す事が出来るようになることを目的とする。なお、本授業は「インドネシア語表現 I」と運動させて行っていく。			
到達目標	インドネシア語で日常会話を話す事が出来る。			
授業方法と留意点	各会話文を学んで、関連授業に学んだを加えて、新しい会話文の作成と会話練習を行う。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	文字と発音	インドネシア語の文字と発音について・聞き取り・会話学習	学習内容を覚えるための復習。
	2	会話 1・会話 2	会話文「私の名前は健治です」「どこに住んでいますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	3	会話 3・会話 4	会話文「こちらは作文のクラスではありません」「ヒダヤット先生は今いません」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	4	会話 5・会話 6	会話文「もうインドネシア語が上手ですね」「もっと大きいのはありますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	5	会話 7	会話文「この小包を送りたいのですが」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	6	会話 8	会話文「州がいくつあるかわかりますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	7	会話 9	会話文「9時半にここで会いましょう」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	8	会話 10	会話文「7月16日です」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	9	会話 11	会話文「バリ島に行ったことがありますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	10	会話 12	会話文「これはペンベックというんです」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	11	会話 13	会話文「招待状はもう受け取りました」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	12	会話 14	会話文「アジア・アフリカ会議が行われました」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	13	会話 15・会話 16	会話文「どうぞお入りください」「なぜインドネシアが好きですか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	14	会話 17・会話 18	会話文「与えられたテーマは...」「乾季でも雨がよく降ります」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	15	理解度確認テスト	これまでに学んだことの復習臨時試験「ペーパーテスト」	これまでに学んだことの復習
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレスプラスインドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレスインドネシア語単語集	原真由子	白水社
	2	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館
	3			
評価方法 (基準)	クラス活動参加及び会話学習：70% 理解度確認テスト 30%			
学生へのメッセージ	比較的学びやすいインドネシア語は、復習すればするほど確実に身に付きます。一緒に頑張りましょう。			
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館 2階)			
備考	事前事後学修総時間数の目安は 15 時間以上とします。			

科目名	インドネシア語会話 I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1672e0		

授業概要・目的	人口 2 億以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的な運用能力の向上を目指す。特に初めてインドネシア語を学ぶことを前提としてボキャブラリーを増やしなが、発音と基本文法を踏まえ、日常会話を話す事が出来るようになることを目的とする。なお、本授業は「インドネシア語表現 I」と運動させて行っていく。			
到達目標	インドネシア語で日常会話を話す事が出来る。			
授業方法と留意点	各会話文を学んで、関連授業に学んだを加えて、新しい会話文の作成と会話練習を行う。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	文字と発音	インドネシア語の文字と発音について・聞き取り・会話学習	学習内容を覚えるための復習。
	2	会話 1・会話 2	会話文「私の名前は健治です」「どこに住んでいますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	3	会話 3・会話 4	会話文「こちらは作文のクラスではありません」「ヒダヤット先生は今いません」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	4	会話 5・会話 6	会話文「もうインドネシア語が上手ですね」「もっと大きいのはありますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	5	会話 7	会話文「この小包を送りたいのですが」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	6	会話 8	会話文「州がいくつあるかわかりますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	7	会話 9	会話文「9時半にここで会いましょう」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	8	会話 10	会話文「7月16日です」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	9	会話 11	会話文「バリ島に行ったことがありますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	10	会話 12	会話文「これはペンベックというんです」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	11	会話 13	会話文「招待状はもう受け取りました」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	12	会話 14	会話文「アジア・アフリカ会議が行われました」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	13	会話 15・会話 16	会話文「どうぞお入りください」「なぜインドネシアが好きですか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	14	会話 17・会話 18	会話文「与えられたテーマは...」「乾季でも雨がよく降ります」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	15	理解度確認テスト	これまでに学んだことの復習臨時試験「ペーパーテスト」	これまでに学んだことの復習
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレスプラスインドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレスインドネシア語単語集	原真由子	白水社
	2	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館
	3			
評価方法 (基準)	クラス活動参加及び会話学習：70% 理解度確認テスト 30%			
学生へのメッセージ	新しい言語を学ぶには、あらゆる進歩を楽しむことができるように、興味と好奇心が必要です。			
担当者の研究室等	7号館2階：非常勤講師室 (水曜日・金曜日)			
備考	事前事後学修総時間数の目安は 15 時間以上とします。			

科目名	インドネシア語会話 I	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ティウ イティリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1672e0		

授業概要・目的	人口 2 億以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的な運用能力の向上を目指す。特に初めてインドネシア語を学ぶことを前提としてボキャブラリーを増やしなが、発音と基本文法を踏まえ、日常会話を話す事が出来るようになることを目的とする。なお、本授業は「インドネシア語表現 I」と運動させて行っていく。			
到達目標	インドネシア語で日常会話を話す事が出来る。			
授業方法と留意点	各会話文を学んで、関連授業に学んだを加えて、新し会話文の作成と会話練習を行う。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	文字と発音	インドネシア語の文字と発音について・聞き取り・会話学習	学習内容を覚えるための復習。
	2	会話 1・会話 2	会話文「私の名前は健治です」「どこに住んでいますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	3	会話 3・会話 4	会話文「こちらは作文のクラスではありません」「ヒダヤット先生は今いません」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	4	会話 5・会話 6	会話文「もうインドネシア語が上手ですね」「もっと大きいのはありますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	5	会話 7	会話文「この小包を送りたいのですが」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	6	会話 8	会話文「州がいくつあるかわかりますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	7	会話 9	会話文「9 時半にここで会いましょう」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	8	会話 10	会話文「7 月 16 日です」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	9	会話 11	会話文「バリ島に行ったことがありますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	10	会話 12	会話文「これはペンベックというんです」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	11	会話 13	会話文「招待状はもう受け取りました」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	12	会話 14	会話文「アジア・アフリカ会議が行われました」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	13	会話 15・会話 16	会話文「どうぞお入りください」「なぜインドネシアが好きですか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	14	会話 17・会話 18	会話文「与えられたテーマは...」「乾季でも雨がよく降ります」を聞き取り・会話学習	新しい会話文の作成と会話練習
	15	理解度確認テスト	これまでに学んだことの復習臨時試験「ペーパーテスト」	これまでに学んだことの復習
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレスプラスインドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレスインドネシア語単語集	原真由子	白水社
	2	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館
	3			
評価方法 (基準)	クラス活動参加及び会話学習：70% 理解度確認テスト 30%			
学生へのメッセージ	比較的学びやすいインドネシア語は、復習すればするほど確実に身に付きます。一緒に頑張りましょう。			
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)			
備考	事前事後学修総時間数の目安は 15 時間以上とします。			

科目名	人間の探究	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LHU1801a1		

人間は古来から、その時代や地域に特有の仕方では思想的な探究を行ってきた。現代を生きるわれわれの生き方も、その探究活動に多大な影響を受けている。
 本授業の第一部(第1-8回)では、人間の思索活動の歴史の変遷を「宿命」を「選択」に変化させる傾向(cf. ピーター・バーガー著『異端の時代』)という観点から振り返る。その際、M・ハイデガーの近代論に着目し、近代以降の時代状況「宿命」を「選択」に変化させる手段そのものが、複雑化し、新たな「宿命」となるという観点から追う。
 第二部(第9-15回)では、上記の「宿命」を「選択」に変化させる傾向を日本という地理的な視点から捉え直す。

この授業を通して、
 ① 過去との比較により、現代の時代状況、社会構造についての考察を深められること
 また、そうすることで、
 ② 現代人が近代化の過程で何を失って何を得たのか、今後何をとり戻し、何を維持し、何を新たに獲得すべきなのかを、各々が再考できることを目指す。

Teamsを使用して、哲学、思想、宗教、近代性に関する講義原稿と課題読書を配布します(毎回、ある程度の読書量があるので、頑張ってください)。
 授業ごとにGoogle Formを利用して、それらのテキストに関する小問題(選択問題10-20問)に答えてもらいます。
 【※※ コロナウイルスの影響で対面授業が不可能である場合は、対面授業が行われるべき日時に、Teamsの動画配信機能を利用しリアルタイムで授業を行います。また、その際の動画と音声は録画し、Teams経由でオンデマンドでも配信します。※※

科目学習の
 効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	世界の思想的変遷(1): 人類の5つの革命	・人類革命、農業革命、都市革命、哲学革命、科学革命 ・ホモ・サピエンスの「技術を使って「宿命」を「選択」に変化させる」傾向 ・ピーター・バーガー『異端の時代』	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
2	世界の思想的変遷(2): 古い神話、新しい神話	・マイケル・ヴィツェル ・ゴンドワナ型神話 ・ローラシア型神話	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
3	世界の思想的変遷(3): 古代ギリシア、古代中国、古代インドの神話	・ヘシオドス、ホメロス ・『リグ・ヴェーダ』 ・『山海経』	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
4	世界の思想的変遷(4): 「枢軸の時代」(1): 中国、インド哲学	・諸子百家 ・『ウパニシャッド』 ・「ブッダの開教」	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
5	世界の思想的変遷(5): 「枢軸の時代」(2): 古代ギリシア	・ヒポクラテス「神聖病について」 ・プラトン『ゴルギアス』	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
6	世界の思想的変遷(6): 「枢軸の時代」(3): ユダヤ教(キリスト教)と終末論	・新約聖書 ・旧約聖書	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
7	世界の思想的変遷(7): 近代の開始(1): ・ルネサンス、宗教改革、科学革命	・『自然に関する諸問題』 ・『レオナルド・ダ・ヴィンチの手記』	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
8	世界の思想的変遷(8): 近代の開始(2): 17、18世紀	・モンテーニュ、ホブズ、パスカル、デカルト、ルソー	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
9	日本の思想的変遷(1): 神以前のガミ、組織化された神話的世界、律令制	・『古事記』	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
10	日本の思想的変遷(2): 日本の仏教的世界観	・『無量寿経』、『歎二抄』、『正法眼蔵随聞記』	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
11	日本の思想的変遷(3): 儒教と日本	・孔子、朱熹、王陽明、中江藤樹、荻生徂徠	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
12	日本の思想的変遷(4): 西洋文明との邂逅	・西村茂樹、福沢諭吉、夏目漱石、西田幾多郎、西谷啓治	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
13	日本の思想的変遷(5): 1960年以前、以後	・宮本常一 ・内山節	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
14	総論(1): 「交換価値」優位の社会の諸問題(1)	・アダム・スミス、マルクス ・ホックシールド ・パウマン	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること
15	総論(2): 「交換価値」優位の社会の諸問題(2)	・アダム・スミス、マルクス ・ホックシールド ・パウマン	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界哲学史	伊藤邦武、山内志朗、中島隆博、 納富信留編	ちくま新書
	2	日本思想全史	清水正之著	ちくま新書
	3	時間の比較社会学	真木悠介著	岩波書店
評価方法 (基準)	Google Form によって提出してもらった各授業回の課題×15 回分で評価します。			
学生への メッセージ	毎回の授業ごとに、一定量の読書課題と授業後の課題があるので、頑張ってついてきてください。 なお、各回の授業テーマは現時点での予定であり、一部変更になる可能性があることをご承知おきください（ただし、おおまかな流れは変わりません）。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。非常勤講師室等における相談可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールで問い合わせること。			

科目名	文学から学ぶ	科目名 (英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊, 杉山 博昭, 古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LHU1802a1		

授業概要・目的	我々は文学作品を通して、人間を、自然を、社会を、そして自分自身を見つめ直すことが可能となる。この授業では、①韻文②散文③演劇の3つのテーマを設定し、人間は何をどのように表現してきたのか読み解いていく。知識を得るだけでなく、物事の見方や考え方を身につけることを目的とする。
到達目標	文学作品の楽しみ方がわかる 人間の思想や文化についての見識を深めることができる
授業方法と留意点	数回の講義ののち、グループワークやプレゼンテーションを行います。 これを3回繰り返します。 授業内にフィードバックします。
科目学習の効果 (資格)	素敵な出会いがあるかも

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	①韻文から学ぶ (橋本)	和歌と歌言葉について学ぶ	課題に向けて調べる、考える
2	①韻文から学ぶ (橋本)	俳句と季語について学ぶ	課題に向けて調べる、考える
3	①韻文から学ぶ (橋本)	流行歌の背景について学ぶ	課題に向けて調べる、考える
4	①韻文から学ぶ (橋本)	詩と言葉について学ぶ ここまでのまとめ	課題の準備をする
5	①小括 (橋本)	課題のプレゼンテーションをする	プレゼンテーションの準備をする
6	②散文から学ぶ (古矢)	リアリズムの語りについて学ぶ	課題に向けて調べる、考える
7	②散文から学ぶ (古矢)	ミステリーの語りについて学ぶ	課題に向けて調べる、考える
8	②散文から学ぶ (古矢)	心理の語りについて学ぶ	課題に向けて調べる、考える
9	②散文から学ぶ (古矢)	散文と語りについて学ぶ ここまでのまとめ	課題の準備をする
10	②小括 (古矢)	課題のプレゼンテーションをする	プレゼンテーションの準備をする
11	③演劇から学ぶ (杉山)	演劇というジャンルについて学ぶ	課題に向けて調べる、考える
12	③演劇から学ぶ (杉山)	演劇のセリフとト書きについて学ぶ	課題に向けて調べる、考える
13	③演劇から学ぶ (杉山)	演劇における物語と欲望について学ぶ	課題に向けて調べる、考える
14	③演劇から学ぶ (杉山)	演者とテキストについて学ぶ ここまでのまとめ	課題に向けて調べる、考える
15	③小括 (杉山)	課題のプレゼンテーションをする	プレゼンテーションの準備をする

関連科目	日本の文学、中国の文学、英語圏の文学
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	平常点 (授業参加度) 40%、課題 60% (20%×3回)
-----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	小説を読むだけが文学ではない！ 「表現する」 ことの可能性を探ろう。
-----------	------------------------------------

担当者の研究室等	7号館4階 (橋本、古矢)、7号館5階 (杉山)
----------	--------------------------

備考	事前事後学習時間の目安は60時間。
----	-------------------

科目名	歴史に学ぶ	科目名 (英文)	Introduction to History
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上 司樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LHU1803a1		

授業概要・目的	この授業は、歴史と言う視点から見た、ヨーロッパ論の講義です。なお、歴史を学ぶことは、過去をただ暗記することではありません。そんなつまらない一夜漬けの課題ではなく、現在を深く知り、未来を見通すための知恵を磨くことだと思います。遠い昔を分かろうとすることで、自分たちが生きている今についても、だんだんよく分かるようになります。つまり一種の異文化理解です（異文化の理解は自文化の理解につながる）。だから必要なのは、暗記力ではなく、知らないうちは否定から入らない態度。自分たちと異なる未知なるもの（ふつう「異常」に見える）を否定したくなる感情に、理性でブレーキをかけて自分を変えていくことです。受講生の皆さんには、単位が取れるよう頑張ってもらいたいです。合わせて単位以上の何かも手に入れてほしいと思います。
到達目標	歴史という視点からヨーロッパとは何か説明できるようになる。歴史的視野をもって、現在を見たり、未来を考えたりできるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身に着ける。
授業方法と留意点	教科書は使わず、プリントを使って授業する。課題（レスポンス・ペーパーとレポート）の提出はオンラインで行う。試験（学期末テスト）は対面で行うが、対面が不可能になったときはレポート（オンライン提出）に代える。
科目学習の効果（資格）	歴史という視点からヨーロッパとは何か説明できるようになる。歴史的視野をもって、現在を見たり、未来を考えたりできるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身に着ける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	歴史を学ぶにあたって	歴史は異文化理解／手で食べる文化は劣っている？／知らないうちは否定から入るな	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
2	歴史を学ぶにあたって	恋愛結婚が主流になったのは最近 200年間のこと／赤ん坊と幼い子の半数が死ぬ日常／女性にとっての出産と男性にとっての戦争	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
3	歴史を学ぶにあたって	さらに社会的圧力（嘲笑や非難）がかかる／親心が「なかった」のではなく「形が違っていた」／就活や通勤がない日常	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
4	歴史を学ぶにあたって	「優しい父母」というだけでは務まらなかった／家庭が職場だから結婚は仕事／恋愛結婚させるのは「残忍な親」という考え方	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
5	歴史を学ぶにあたって	童話「長靴をはいた猫」から読み取れる男性の苦難／構造的に生み出される男尊女卑の状況／それでも、一言で片づけられる人生などない	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
6	歴史を学ぶにあたって	27世紀の学生が21世紀の歴史を学んだら...／具体性と論理性は手間暇と思いやりの問題／古来のマジカルナンバー3	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
7	3つの源流	3つの要素が1つに融合してヨーロッパになった／例えば洋食（ヨーロッパ的食文化）／パン食と肉食は、本来は別の文化	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
8	ローマの遺産	ヨーロッパにとって古代ローマは「偉大さ」の代名詞／都市ローマ、またの名を「永遠の都」／現在あるコスメ技術は、ほぼ揃っていた	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
9	ローマの遺産	ロンドンもパリもウィーンもバルセロナもローマ都市／ローマの文字が西欧に文化的一体感を与える／独裁も、使いによっては便利な、政治的道具の1つにすぎない	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
10	ローマの遺産	どんな王よりも強く危うい、ローマ皇帝と言う地位／わが町をローマになぞらえる／民主国家がローマを引き合いに出す	プリントの読み返しと先読み
11	ローマの遺産	独裁者もローマにあやかるうとする／伝統は受け継ぐ側に主体性がある／ローマだけがヨーロッパをつくったのではない	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
12	ゲルマン人	偉大な文明の模範ローマ、素朴な文化の源ゲルマン人／例えば洋服（ヨーロッパ的服飾文化）／洋服の原点はステップの遊牧民	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
13	ゲルマン人	イギリスもフランスもゲルマン人が建てた国／ヨーロッパの王侯貴族はゲルマンの戦士の文化を受け継いでいる／それでもゲルマン人だけがヨーロッパをつくったわけではない	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
14	キリスト教	キリスト教（または教会）がローマとゲルマンを仲立ちした／教会聖職者の食文化が魚料理や卵料理を発展させた／キリスト教がアルファベット（いわゆるローマ字）を守った	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
15	キリスト教	欧米の個人名は大半がキリスト教系／	プリントの読み返し／レスポンス・ペーパー

			日曜日は本来キリスト教の文化／EU の建て前とヨーロッパ市民の本音	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	成績(100%)は以下3種類の課題、テスト(40%)、レポート(30%)、レスポンス・ペーパー(30%)で評価する。テストは論述1問で持ち込み可。レポートについては「レポートの手引き」(つまりマニュアル)を配布する。レスポンス・ペーパーは(レポートも同様だが)オンライン提出。			
学生への メッセージ	毎回の授業後にレスポンス・ペーパーを提出してもらいます。が、強制ではありません。つまりこのレスポンス・ペーパーを、「毎回だるい課題を押しつけられるピンチだ」と捉えて嫌そうな顔をするか、「毎回こつこつ点数を取れるチャンスだ」と捉えて目を輝かせるか、すべてはあなた次第。大学の授業と言うのは、良くも悪くも「大人の学び」、自分次第なものだ(「自由」とも「自己責任」とも言える)と思います。			
担当者の 研究室等	非常勤講師控え室(7号館2階)			
備考	事前事後学習時間の目安は計60時間。			

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LS01805a1		

授業概要・目的	<p>・法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。</p> <p>・このような法の特徴と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。</p>
到達目標	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「法」と「道徳＝倫理」の違いや法令の種類について説明できる ・婚約、婚姻、内縁、離婚、相続をめぐる論点について説明できる ・民法の財産法や刑事法の諸原理について説明ができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・課題に対するコメントは次回講義または teams を通じて行う。
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> ・公務員試験や各種資格試験に必要なとされる法学の基礎的知識を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 法とは何か	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容と文献の紹介 ・法と道徳の違い ・法の強制力 ・法の分類 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の入手 配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
	2	憲法と法律（法令の種類）	<ul style="list-style-type: none"> ・法治国家と法の支配 ・国際社会と法 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
	3	民法法①（不法行為法①）	学校における「いじめ」問題と法の役割	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
	4	労働法①	・ブラック企業問題と労働者保護	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
	5	刑事法①	・裁判員裁判の仕組みとその問題点	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
	6	刑事法②	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪の成立要件 ・ストーカー行為規制法の最前線 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
	7	労働法②	<ul style="list-style-type: none"> ・採用内定と法的規制 ・正規雇用と非正規雇用 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
	8	民法法②（家族法①）	・家族の範囲	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
	9	民法法③（家族法②）	<ul style="list-style-type: none"> ・家族法の基本原理 ・婚約の法的効果ほか ・婚姻（結婚）の法的要件・効果 ・夫婦の財産関係 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
	10	民法法④（家族法③）	・離婚の法的効果	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
	11	民法法⑤（家族法④）	・離婚の手続き・親子関係と親権	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
	12	民法法⑥（不法行為法②）	<ul style="list-style-type: none"> ・各種ハラスメントと法 ・不法行為と損害賠償 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
	13	民法法⑦（財産法①）	・賃貸住宅をめぐるトラブルー敷金と敷引特約	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
	14	民法法⑧（財産法②）	・被災と住宅ローン減免の可否	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
	15	刑事法②＋行政法＋民法法⑨	・ドメスティック・バイオレンス（DV）とデートDV	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）

関連科目	日本国憲法、行政法、刑法、民法、国際法ほか
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新入生のためのリーガル・トピック 50	阿部昌樹・和田仁孝	法律文化社
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法学入門 (第6版補訂版) (有斐閣双書)	末川 博/編著	有斐閣
	2	現代法学入門 (第4版) (有斐閣双書)	伊藤 正己=加藤一郎/編著	有斐閣
	3	判例法学 (第5版)	西村 健一郎=西井 正弘=初宿 正典/編著	有斐閣
評価方法 (基準)	・形式的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信し、その回答内容を合算して評価対象とする (講義の理解度 5%+課題の得点 95%)。			
学生へのメッセージ	・法律系の番組が好きな方、あるいは、公務員試験受験や法学系資格取得を念頭に置いている方は、ぜひ受講してみてください。			
担当者の研究室等	11 号館 10 階 小野教授室			
備考				

科目名	世界の政治	科目名 (英文)	World Politics
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LS01806a1		

授業概要・目的	本講義は、比較政治学の基礎的な議論に触れるとともに、グローバル化した現代世界における政治制度の問題に注目するものである。
到達目標	比較政治学の基本的な考え方や方法論に親しむことで、それらの観点からなされる「世界の政治」に関する諸議論の意味するところを理解した上で、自らの思考を組み立てることができるようになること。 本講義を、自らが暮らす現代社会の諸問題を比較政治の視点から受講者自身が考えていくための一つのきっかけ、手がかりとすることが目指される。
授業方法と留意点	1. 原則として講義形式をとり、内容に即したレジュメを配布する。また、指示された課題にも各自取り組むものとする。 2. 授業は、①講義、②Moodleを通じたレジュメの配信・課題等の提出、という2つの手段を適宜組み合わせで行なう。 3. 基本的には教科書の章立てに沿って各回完結方式で進めていく予定であるが、その内容や進行状況等によって多少の調整がありうる。 4. 本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととする。
科目学習の効果 (資格)	現代社会をめぐる社会科学的な議論についての基礎的な理解力

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方およびテキストについて導入を行なう。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	社会科学の方法 (1)	第1章 比較政治学とは何か	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
3	社会科学の方法 (2)	第1章 比較政治学とは何か 第2章 制度論	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
4	社会科学の方法 (3)	第2章 制度論	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
5	政治制度 (1)	第3章 選挙制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
6	政治制度 (2)	第4章 執政制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
7	政治制度 (3)	第5章 政党制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
8	政治制度 (4)	第6章 議会制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
9	政治制度 (5)	第7章 官僚制	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
10	政治制度 (6)	第8章 司法制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
11	政治制度 (7)	第9章 中央銀行制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
12	政治制度 (8)	第10章 中央・地方関係制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
13	日本の政治制度 (1)	第3章 選挙制度 第4章 執政制度 第5章 政党制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
14	日本の政治制度 (2)	第6章 議会制度 第7章 官僚制 第8章 司法制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
15	日本の政治制度 (3) まとめと補遺	第9章 中央銀行制度 第10章 中央・地方関係制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	比較政治制度論	建林正彦ほか	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>・定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100%）を実施する。 （課題の提示および提出は、Moodle を通じて行なう。）</p>			
学生への メッセージ	<p>毎回の授業だけでなく、課題への取り組みに際して教科書は必携なので、必ず購入すること。</p>			
担当者の 研究室等	<p>7号館4階 田中研究室</p>			
備考	<p>授業のスケジュールについては、出席者の状況に応じて調整される可能性がある。</p>			

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Japanese Constitution
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LS01807a1		

授業概要・目的	<p>憲法は、国の「かたち」と「はたらき」についての基本的な原理・ルールを定めたものです。これらの原理・ルールを大きく分けると、統治の仕組みに関するものと人権に関するものがあります。</p> <p>この授業では、これらの重要な原理・ルールを解説し、私たちの社会における身近なトピックや問題にあてはめて考えるきっかけを提供します。また、実際に裁判で争われた事件も参照して、それについて裁判所がどのように判断したのかも検討していきます。</p>			
到達目標	<p>この授業を通じて学生には、次の3点を達成することが期待されます。</p> <p>(1) 憲法の原理やルールの基本的事項を理解し、分かりやすく説明できる。</p> <p>(2) 具体的な事件について、裁判所が下した判断を踏まえた基礎的な検討ができる。</p> <p>(3) 社会における様々なトピックに存在する憲法上の問題を発見できる。</p>			
授業方法と留意点	<p>・反転授業 予め事前資料に目を通し、基礎知識を身に着けた上で授業に臨んでください。授業ではこれらの基礎知識を問う問題と、発展的な課題を扱います。</p> <p>・授業資料 レジュメは事前にパワーポイントをアップしますので、そちらをあらかじめダウンロードした上で受講してください (授業中の配布はありません)。</p> <p>・その他 授業中は、質疑応答を通じて受講生との双方向型のコミュニケーションを図り、皆さんの理解を助けるようにします。間違いをおそれずに積極的に発言することを望んでいます。</p>			
科目学習の効果 (資格)	公務員試験ほか、資格試験各種で問われる憲法の基本的知識を習得できる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・イントロダクション	授業方法の説明 憲法とはなにか (Unit 0) * () 内は教科書該当箇所。	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
	2	憲法の意義	・形式的意味の憲法と実質的身の憲法、立憲主義 (Unit 1)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
	3	統治機構総論	・権力分立 (Unit 2) ・国民主権 (Unit 3)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
	4	国会	国会の地位と役割、組織 (Unit 6, 7)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
	5	内閣	内閣の地位と役割、組織 (Unit 8)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
	6	裁判所	裁判所の地位と役割、組織 (Unit 9, 10)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
	7	基本的人権各論 (1)	職業選択の自由と規制、公共の福祉 (Unit 21, 13)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
	8	基本的人権各論 (2)	プライバシー権と防犯カメラ (Unit 28, 29)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
	9	基本的人権総論	人権の歴史、権利能力 (享有主体性)、人権の分類 (Unit 13)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
	10	基本的人権各論 (3)	表現の自由の意義、二重の基準、名誉毀損 (Unit 17, 18)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
	11	基本的人権各論 (4)	集会・結社の自由、公の施設、パブリック・フォーラム (Unit 20)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
	12	基本的人権各論 (5)	信教の自由と政教分離原則 (Unit 16, 17)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。

				時間)。 事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。																
	13	基本的人権各論 (6)	思想良心の自由, 日の丸・君が代訴訟 (Unit 14)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。																
	14	基本的人権各論 (7)	生存権, 生活保護, 受給者の自動車利用 (Unit 24)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。																
	15	平等原則	平等原則の意義, 合理的な区別, 差別 (Unit 27)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。																
関連科目	行政法、民法、刑法など																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>一歩先への憲法入門 [第2版]</td> <td>片桐直人ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	一歩先への憲法入門 [第2版]	片桐直人ほか	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	一歩先への憲法入門 [第2版]	片桐直人ほか	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>START UP 憲法判例50 [第2版]</td> <td>上田健介・尾形健・片桐直人</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>授業中に適宜指示します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	START UP 憲法判例50 [第2版]	上田健介・尾形健・片桐直人	有斐閣	2	授業中に適宜指示します。			3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	START UP 憲法判例50 [第2版]	上田健介・尾形健・片桐直人	有斐閣																	
2	授業中に適宜指示します。																			
3																				
評価方法 (基準)	・毎回の授業で予習課題, 復習課題を課し, 授業の理解度 (課題の提出内容) を評価します (100%)。																			
学生へのメッセージ	法学を勉強したことない人も受講を歓迎します。 この授業は, 憲法の条文, 原理や解釈がなぜそうなっているのか, という点を分かりやすく説明することを心がけています。 また, 社会のさまざまな事柄を憲法に基づいて考えられるような工夫に努めています。																			
担当者の研究室等	11号館9階 笛木講師室																			
備考																				

科目名	住まいとデザイン	科目名 (英文)	Design and Living Environment
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩波 由佳
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LNA1810a1		

授業概要・目的	住まいは人間の生活と深くかかわっている。原初は身の安全をはかる場所として、心の拠り所として作られ、さらには快適に過ごせる美しい空間を求めて発達してきた。また住まいの成立には自然環境の他に社会的背景や文化、風俗習慣なども深くかかわってくる。この講義では、住宅、建築、インテリア、都市について、形態やデザイン様式の移り変わりを映像資料などを用いて多様な角度から学び、基礎的知識を習得する。そして様々な時代で求められたデザインを感じとり、現代のよりよい住宅、住生活を創造する感性を身に付けることを目的とする。
到達目標	日常生活において、住まいやインテリアの選定などの際に、授業で学んだ内容や優れたデザインを参照して快適で豊かな生活空間を創造できる感覚を身に付けることができる。 日本文化の基本である住宅や建築についての知識を教養として身に付けることで、留学などの海外生活や国内での留学生との交流の際に、正しく自国の文化を論じる能力を培うことができる。
授業方法と留意点	講義形式で行う。適宜プリントを配布し、パワーポイント等映像資料を用いて理解の一助とする。授業終了後、授業内容に対する質問を提出すること。質問内容に応じて加点の対象とする。
科目学習の効果 (資格)	住まい環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日本の住まいの移り変わり (1) たてにあなを掘ると... ～洞窟を出て堅穴を	人類最古の住まいおよび日本での原始の住まいはどのようなものであったかを学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
3	日本の住まいの移り変わり (2) 貴族の優雅、武士の剛健 ～寝殿造・書院造...	日本文化の基盤が形成された時期の住まいやしつらい、生活環境、美的感覚を学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
4	日本の住まいの移り変わり (3) デザインの極みは何処に ～美をめぐる闘い 秀吉・利休・後水尾上皇	爛熟期の文化の中での書院造の完成と茶室の成立、数寄屋まで成熟から洗練を加えてゆく過程の美意識を学ぶ。現代の和風住宅につながる流れを学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
5	住まいの成り立ち 気候風土文化 白夜の過ごし方 ～厳寒の森の国	日本と同様に木造の文化を持つが気候の厳しいフィンランドの住宅、住生活、および快適な生活を創る北欧デザインについて学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
6	住まいのデザインを構成するもの 光 採光・照明 ～あたたかい光、クールな光	光の特徴や種類、扱い方を学び、効果的な照明による快適な空間を考える。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
7	住まいのデザインを構成するもの 家具・ファブリックス ～くつろぐ、あつまる、ぼんやりする	家具やファブリックス、アクセサリの種類や効果的な使い方を事例を通して学ぶ	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
8	住まいの成り立ち 気候風土文化 月の砂漠 ～乾燥とオアシスの国	湿潤な日本と対照的な乾燥地帯であるエジプトの住宅、住生活および厳しい環境下での快適な生活を創る工夫と持続可能な取り組みについて学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
9	住まいのデザインを構成するもの 涼しさの演出 ～色彩・水・風	色彩や視覚、触覚によって感じる温度感覚の違いや効果的な使い方を学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
10	住まいの成り立ち 気候風土文化 石積みの壁 ～自然を征服、永遠のモニュメント	西洋の気候風土に応じて発達した組積造の住まいの構造や特質について学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
11	西洋の住まいの移り変わり (1) 荘厳なる様式 ～華麗なる宮廷生活へようこそ	近代以前のヨーロッパの成熟した宮殿・邸宅の建築、室内デザインについて学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
12	西洋の住まいの移り変わり・世界 (2) あたらしい人と生活のデザイン ～鉄、ガラス、コンクリート アート・アンド・クラフツ運動からアールヌーヴォー、ゼセッション、グラスゴー派、モダニズム	社会の変革により出てきた新しいデザイン運動であるイギリスのアーツアンドクラフツ運動、フランス・ベルギーのアールヌーヴォー、ヨーロッパ各地で展開したウィーンのゼセッション、マッキントッシュによるグラスゴー派、ガウディによるモダニズムについて学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
13	西洋の住まいの移り変わ	民衆のための合理的なデザインの追求と	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。

		り・世界(3) あたらしい人と生活のデザイン ～普遍的なものへの旅 バウハウス、そして三大巨匠の時代へ	モダニズムへ至る軌跡を学ぶ。そして三大巨匠とされるライト、ミース、コルビュジェの住宅デザインについて学ぶ。	気になった単語やフレーズを調べてみる。																
	14	現代の住まい 最先端デザインと生活スタイル ～現在に生きて暮らす	現代に展開する住宅や建築の事例を通して、現在とこれからの環境や生活空間を考える。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。																
	15	住宅をデザインする わたしの住みたい住まい ～とにかくイメージ、そして描いてみよう	自分にとって快適な空間を考え、表現する。	住宅、建築、インテリア雑誌などに目を通して自分の好みを考えておく。																
関連科目	特になし																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ロングセラー・デザイン 文房具から椅子まで</td> <td>コロナブックス編集部</td> <td>平凡社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アパートメント 世界の夢の集合住宅</td> <td>上田実・平地勲</td> <td>平凡社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>FURNITURE DESIGN 20世紀の家具のデザイン</td> <td>ゼンバツハ&ロイトホイザー&ゲッセル</td> <td>タッシェン・ジャパン</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ロングセラー・デザイン 文房具から椅子まで	コロナブックス編集部	平凡社	2	アパートメント 世界の夢の集合住宅	上田実・平地勲	平凡社	3	FURNITURE DESIGN 20世紀の家具のデザイン	ゼンバツハ&ロイトホイザー&ゲッセル	タッシェン・ジャパン
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ロングセラー・デザイン 文房具から椅子まで	コロナブックス編集部	平凡社																	
2	アパートメント 世界の夢の集合住宅	上田実・平地勲	平凡社																	
3	FURNITURE DESIGN 20世紀の家具のデザイン	ゼンバツハ&ロイトホイザー&ゲッセル	タッシェン・ジャパン																	
評価方法 (基準)	定期試験 80% 授業への質問、授業への取り組み姿勢 20%																			
学生への メッセージ	テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで目にする住宅、建築に関するニュースに興味をもって見てみよう。ドラマや映画、音楽PVで使われている場所、漫画や小説に出てくる場所など空間に対しても注目する。また自宅や友人の家、カフェやショップなどで心地よさを感じたらそれはなぜかを考えてみよう。																			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室																			
備考	試験は自筆ノート持ち込み可であるので、授業の板書、話の内容を毎回整理してまとめておく和良好的。 授業時間外の対応(メール等)については授業時に指示する。 事前事後の総学習時間の目安は60時間程度。																			

科目名	住まいとデザイン	科目名 (英文)	Design and Living Environment
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥川 あかり
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LNA1810a1		

授業概要・目的	住まいには安全かつ健康で快適な環境が求められる。本講義では、気候風土や社会的・文化的背景、風俗習慣から住まいを理解し、住居の歴史の変遷や家族と住まい、住空間の構成、地域との関係など住居と住生活の全般について学習し、基本的な知識を習得する。これらを基に、様々な時代で求められたデザインを捉え、持続可能な社会の構築を目指した現代のよりよい住生活を創造する感性を身に付けることを目的とする。
到達目標	1. 日本と世界の住生活の多様性と歴史の変遷を生活文化に即して理解する 2. 住まいや居住地の環境と管理、防災の重要性について理解する 3. 住まいに関する基本的な知識を習得し、快適で豊かな生活空間を創造できる感覚を身に付ける 4. 日本の住宅や建築を踏まえて自国の文化について世界の人々とコミュニケーションがとれる 5. 良好なコミュニティの形成につながるまちづくりに参画する重要性を理解する 6. 持続可能な社会の構築を目指して真に豊かな住生活とは何かについて主体的に考えられる
授業方法と留意点	適宜プリントを配布し、教科書やスライド、映像資料、板書による講義を基本とする。 課題のフィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	気候風土と住まい	気候や風土(災害)と暮らし(住まいやライフスタイル)との関係について学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
3	世界の住まい(1)	世界の住まいの歴史や住生活文化について、原始から古代までの時系列的な住まいの流れを学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
4	世界の住まい(2)	世界の住まいの歴史や文化、生活様式について、中世から近世までの時系列的な住まいの流れを学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
5	世界の住まい(3)	世界の住まいの歴史や文化、生活様式について、近代から現代までの時系列的な住まいの流れを学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
6	日本の住まい(1)	住まいの歴史や住生活文化について、先史時代から奈良(堅穴住居、高床建物、平地住居)、平安貴族(寝殿造)までの時系列的な住まいの流れを学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
7	日本の住まい(2)	住まいの歴史や住生活文化について、中世の支配階層(主殿造、書院造)から近世(武家住宅、町家、農家)までの時系列的な住まいの流れを学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
8	日本の住まい(3)	近代(サラリーマン住宅、田園都市、集合住宅)の住まいの間取りや洋風化など、近代から現代の住生活文化を学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
9	住まいと環境	温熱、光、音、空気、都市環境や色彩について学び、良好な住環境を実現するための手法について考えていく	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
10	住まいの管理	住まいの維持や管理として定期的なメンテナンス、管理と収納、家計や住居費について学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
11	住まいの材料と構造	住まいの材料(土・石・木・コンクリート・鉄)とそれぞれの構造・工法について学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
12	住まいと福祉	高齢者や子どもを含む自立支援のための住まいづくりやユニバーサルデザインについて学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
13	住まいの安全	住まいの安全と安心、住まいを取り巻く様々な住宅問題や公共的な住宅政策について学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
14	住まいのデザイン	住まいのインテリアやエクステリアと設計について学び、AI化が進む情報化社会での暮らしやエコについて考えていく	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
15	総括	住まいとデザインのまとめと現代の住生活に関する課題や理解度の確認	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	精選 住居学	後藤 久	実教出版

	2	図説 西洋建築史	陣内 秀信 他	彰国社
	3			
評価方法 (基準)	試験：60%・課題の提出（小テストが行われる場合もある）：40% これらを合わせて総合的に評価を行う			
学生への メッセージ	建物や住宅に興味や関心をもち、街並みや空間にも目を向けてください。疑問があれば授業前後や授業中に質問してください。その他、参考文献や関連書籍は授業で適宜紹介します。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	事前事後学習の総時間の目安は 60 時間。 教員との連絡方法（メール等）については授業中に指示する。			

科目名	食品機能学	科目名 (英文)	Functional Food Science
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大橋 貴生
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LNA1811a1		

授業概要・目的	食生活と健康とのかかわりを理解し、免疫系、内分泌系 (体調リズム)、神経系 (精神の高揚や鎮静) などの生体機能の調節に関与する機能性食品の特性についての知識を習得する。本講義では、食品の一次機能 (栄養素)、二次機能 (味、触感など) および三次機能 (生体機能の調節などの新規機能) について学び、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を理解する。また、がんや老化に加え、肥満、高血圧、脂質異常症 (高脂血症)、糖尿病などの生活習慣病を取り上げ、食生活とヒトの健康のかかわりについて習得することを目的とする。SGDs-2, 3
到達目標	食品に含まれる栄養・機能成分が列挙でき、それぞれ生体調節機能と、ヒトの健康との係わりについて説明できる。 食品に関わるニュースを理解できるようになり、自分なりの意見を持てるようになる。 また、得られた知識を日々の食生活に活かすことができるようになる。
授業方法及び留意点	配布資料に沿って、希望する学生は対面での受講可能な動画配信型授業 (ハイフレックス方式) を行う。 中間試験および総合試験 (筆記) に代わるまとめ課題を課す。 1 回目の講義で、授業の進め方や成績評価の方法について説明する。 受講生の理解を効果的に引き出すために、シラバス記載の順序が前後する場合がある。 毎回の講義に Moodle 上で課題を課し、翌週に解説する。
科目学習の効果 (資格)	食品成分の機能についての知識が得られ、健康と食生活とのかかわりが理解できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	食品機能学とは	食品の特性、一次機能 (栄養素)、二次機能 (味、食感など) および三次機能 (生体機能の調節などの新規機能) について解説する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
2	機能性食品	保健機能食品、特別用途食品および健康食品など、新しい食品の形態や制度について解説する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
3	遺伝子組換え食品	遺伝子組換えの基礎的な概念を解説した後、実際にどのように利用されているかを、関連する法令とともに紹介する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
4	活性酸素	活性酸素と疾病、がん、および老化などとの関連について解説する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
5	抗酸化機能食品	ポリフェノールなど抗酸化物質と、それら含む抗酸化機能性食品らについて解説する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
6	ミネラルとビタミンの機能性	ヒトの健康な生活に不可欠なミネラルとビタミンを含む食品について解説する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
7	炭水化物	ヒトを含む全ての生物のエネルギー源である炭水化物 (糖) について、解説する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
8	難消化性食品成分	難消化性炭水化物、食物繊維機能食品および乳酸菌類について解説する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
9	中間試験	第 1 回から第 8 回までのまとめを行い、その習得状況を確認する。	第 1 回から第 8 回までの内容を復習しておく。(1 時間)
10	脂質と肥満	食品に含まれる脂質成分、および脂質と肥満との関係性について解説する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
11	機能性脂質食品成分	肥満の解消に有効な機能性食品について解説する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
12	高血圧と血圧降下作用がある食品成分	ヒトはなぜ高血圧になるのか、について簡単に説明した後、高血圧を解消するための食品について解説する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
13	糖尿病	糖尿病になるメカニズムを解説し、その後には糖尿病にならないための食生活について、解説する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
14	免疫機能を活性化する食品	免疫について、簡単に説明した後、免疫機能を活性化する食品成分について解説する。免疫と深く関わりがあるアレルギーについても解説する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
15	総合試験 (筆記)	第 10 回から第 14 回までのまとめを行い、その習得状況を確認する。その後、内容について解説する。	第 10 回から第 14 回までの内容を復習しておく。(1 時間)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂 食品機能学	青柳 康夫 編	建帛社
2	わかりやすい食品機能学第 2 版	森田英利・田辺創一 編著	東京化学同人	
3	食べ物と健康 食品の科学	太田英昭 他	南江堂	

評価方法 (基準)	講義毎の課題 (30%)、中間試験 (35%) および総合試験(筆記)に代わるまとめの課題 (35%) を総合的に判断して、評価を行う。
学生への メッセージ	本講義により、日常的に頻繁に触れる食品、健康とのかかわりについての知識が得られます。 食品にまつわるニュースなどが理解でき、食品に関する蘊蓄を語れるようになり、自分の意見を持てるようになることが目標です。 1 回目の講義で、授業の進め方や成績評価の方法について説明します。履修する場合は、必ず、出席 (またはオンラインによる受講) をしてください。
担当者の 研究室等	理工学部・生命科学科 1号館8階 大橋講師室
備考	授業時の出席管理 (出席および欠席) は、大学の規則に従って行います。 毎回必ず出席してください。 事前事後学習には、毎回1時間以上かけてください (総時間の目安は30時間)。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席の あった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	2	Unit 1	Lists and categories	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	3	Unit 2	Extra information and questions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	4	Unit 3	Order of importance	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	5	Unit 4	Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	6	Unit 5	Future concepts, speculation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	7	Unit 6	Instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	8	Unit 7	Creative instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	9	Unit 8	Location and juxtaposition	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	10	Unit 9	Giving directions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	11	Unit 10	Diaries and the past	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	12	Unit 11	Story structures and formats	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	13	Unit 12	Description	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	14	Unit 13	Conversation gambits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	15	Review	Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目	—
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Carnival	Richard Rowat	Weissman Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の 単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題(EnglishCentral) ...20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) ...80%
-----------	--

学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson. If there is any change due to online instruction, students will
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の進め方、注意事項の説明	事前: シラバスの確認。教科書に目を通しておく。
	2	Unit 1 Meeting New People	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 1 を学習する。	事前: 単語テストの勉強 事後: 復習・課題
	3	Unit 2 School Life	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 2 を学習する。	事前: 単語テストの勉強 事後: 復習・課題
	4	Unit 3 Seeing a Doctor	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 3 を学習する。	事前: 単語テストの勉強 事後: 復習・課題
	5	Unit 4 Expressing Yourself	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 4 を学習する。	事前: 単語テストの勉強 事後: 復習・課題
	6	Unit 5 Getting Around	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 5 を学習する。	事前: 単語テストの勉強 事後: 復習・課題
	7	Unit 6 Talking about the Time	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前: 単語テストの勉強 事後: 復習・課題・中間テスト勉強
	8	中間テスト	Unit 1-6	事後: 復習・課題
	9	Unit 7 Eating Out	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 7 を学習する。	事前: 単語テストの勉強 事後: 復習・課題
	10	Unit 8 At the Supermarket	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 8 を学習する。	事前: 単語テストの勉強 事後: 復習・課題
	11	Unit 9 Hobbies	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 9 を学習する。	事前: 単語テストの勉強 事後: 復習・課題
	12	Unit 10 Shop Till You Drop	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 10 を学習する。	事前: 単語テストの勉強 事後: 復習・課題
	13	Unit 11 Going on Vacation	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 11 を学習する。	事前: 単語テストの勉強 事後: 復習・課題
	14	Unit 12 Sports	単語テスト Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 12 を学習する。	事前: 単語テストの勉強 事後: 復習・課題
	15	まとめテスト	Unit 7-12	事前: まとめテストの勉強

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book1: Base Camp	角山 照彦 他	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
学生へのメッセージ	皆さんが社会に旅立つ頃には世界はさらに多様化が進み、海外で働くことや英語を話す同僚と仕事をする機会が増えるでしょう。TOEICを学習することでビジネスシーンで使われる語彙や表現、取引の仕組みなどを学ぶ事ができます。さあ未来への準備を始めましょう!

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Chapter 2 を始める	授業の進め方、評価方法、出欠の扱いなどを説明	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
2	2 動詞の種類と文型	文法解説 Exercises (語彙、並べ替え、英作文、長文読解)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
3	4 助動詞	文法解説 Exercises (語彙、並べ替え、英作文、長文読解)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
4	5 能動態と受動態	文法解説 Exercises (語彙、並べ替え、英作文、長文読解)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
5	9 接続詞	文法解説 Exercises (語彙、並べ替え、英作文、長文読解)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
6	10 前置詞	文法解説 Exercises (語彙、並べ替え、英作文、長文読解)	単語学習 教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
7	11 形容詞・副詞 12 比較	文法解説 Exercises (語彙、並べ替え、英作文、長文読解)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
8	12 比較 授業後、中間テスト	Exercises (語彙、並べ替え、英作文、長文読解) 中間テスト (前半の学習内容の確認)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく) 中間テスト勉強
9	13 不定詞	文法解説 Exercises (語彙、並べ替え、英作文、長文読解)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
10	14 分詞	文法解説 Exercises (語彙、並べ替え、英作文、長文読解)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
11	15 動名詞	文法解説 Exercises (語彙、並べ替え、英作文、長文読解)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
12	16 関係詞	文法解説 Exercises (語彙、並べ替え、英作文、長文読解)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
13	17 仮定法	文法解説 Exercises (語彙、並べ替え、英作文、長文読解)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
14	18 時制の一致・語法	文法解説 Exercises (語彙、並べ替え、英作文、長文読解)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
15	まとめテスト	期末のテスト 学期後半の学習内容の確認と解説	まとめテストに向けて勉強

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Let's Enjoy English	佐藤哲三、佐藤勇治、他 3 名	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (English Central) 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%		
学生への メッセージ	英語辞書を毎回持参すること。 英文法の基本 (解説と exercises を通して)をおさえた後はまとめた英語の文章を読んでいく、これを繰り返すことによって英語の力を身に付けていきます。授業前の予習が大変重要になります。 厭わずこまめに辞書を引きましょう。自分で考え、引いた単語の意味は忘れません。		
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	二
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	猪熊 慶祐
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行う。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超えて課題を提出しなかった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法等の説明	単語学習、自己紹介文
	2	Unit 1 ナスカの地上絵【ミステリー編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
	3	Unit 2 ナスカの地上絵【解決編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
	4	Unit 3 ネス湖とネッシー【ミステリー編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
	5	Unit 4 ネス湖とネッシー【解決編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
	6	Unit 5 魔のパミューダ海域【ミステリー編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
	7	Unit 6 魔のパミューダ海域【解決編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
	8	Unit 7 ヒマラヤの雪男【ミステリー編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
	9	Unit 8 ヒマラヤの雪男【解決編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
	10	Unit 9 消えた乗組員の謎【ミステリー編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
	11	Unit 10 消えた乗組員の謎【解決編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
	12	Unit 11 ミイラの呪い【ミステリー編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
	13	Unit 12 ミイラの呪い【解決編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
	14	Unit 13 ディアトロフ峠殺人事件【ミステリー編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
	15	Unit 14 ディアトロフ峠殺人事件【解決編】	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What Really Happened? -World Mysteries Solved-	Frank Bailey 他	開文社出版
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語帳)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% 課題への取り組み(小テスト、まとめテスト、プレゼンテーション等も含む) 80%
学生へのメッセージ	語学学習はボディメイクと似ています。日々コツコツと鍛錬していけば、必ず向上します。英語も同様です。毎日少しずつ触れて、楽しみながら一緒に学んでいきましょう。
担当者の研究室等	7号館 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは随時行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジュリア クネグアイツ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席の あった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、TOEIC 参考書の学習、英語で自己紹介など	シラバスを読む
2	UNIT 1 Starting a New Life	品詞 (動詞と形容詞が中心)	TOEIC 参考書 50 番まで学習
3	UNIT 2, UNIT 3 Culture, Traveling	比較、不定詞	TOEIC 参考書 100 番まで学習
4	UNIT 4 Volunteer Work	動名詞	TOEIC 参考書 150 番まで学習
5	UNIT 5 Environment	分詞と分詞構文	TOEIC 参考書 200 番まで学習
6	UNIT 6,7 Transportation, Communication	接続詞、前置詞と組表現	TOEIC 参考書 250 番まで学習
7	UNIT 8 Globalization	代名詞	TOEIC 参考書 300 番まで学習
8	UNIT 9 Society	関係代名詞	TOEIC 参考書 350 番まで学習
9	UNIT 10 Technology	関係副詞	TOEIC 参考書 400 番まで学習
10	UNIT 11 Education	時制 (時点)	TOEIC 参考書 450 番まで学習
11	UNIT 12 Business	時制 (時間的な線)	TOEIC 参考書 500 番まで学習
12	UNIT 14 Finance	助動詞	TOEIC 参考書 550 番まで学習
13	UNIT 14 Career	仮定法	TOEIC 参考書 600 番まで学習
14	UNIT 15 Health	受動態	TOEIC 参考書 650 番まで学習
15	終了試験と まとめ	紙ベース (必要に応じてオンライン) 解説	復習

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English grammar for life	Aaron Calcote et all	センゲージラーニング
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の 単語集)	西谷恒志	成美堂
	3	プリント配布		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題(EnglishCentral) ...20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) ...80%
-----------	--

学生へのメッセージ	一緒に楽しく勉強しましょう！ ・教育、社会、ビジネス、ヘルスケア、ショッピングなどの場面において、TOEIC の単語を習得して、基礎的な会話をできるようになりましょう。 ・ビジネス英語 (語彙) もどんどん習得し、グローバル市民として日本や海外で将来的に活躍できるようになりましょう。 ・語彙ポイントの解説 (インプット) をしてから、実践的な課題 (アウトプット) をしていただきます。クラスメートと意見交換も積極的にしていただきます。 ・TOEIC 英語の語彙や英語のフレーズを一つでも多く学ぶこと、英語を好き
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小南 悠
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。(2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の進め方、評価方法などの説明</td> <td>単語学習、自己紹介英作文</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1 Stand by Me</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、復習問題、次回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 2 Jailhouse Rock</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、復習問題、次回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 3 Blowin' in the Wind</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、復習問題、次回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 4 Puff, the Magic Dragon</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、復習問題、次回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 5 I've Gotta Get a Message to You</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、復習問題、次回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 6 Bridge over Troubled Water</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、復習問題、次回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 7 Take Me Home, Country Roads</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、復習問題、次回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 8 Imagine</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、復習問題、次回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 9 I Need to Be in Love</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、復習問題、次回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 10 Honesty</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、復習問題、次回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 11 Hotel California</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、復習問題、次回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 12 I Just Called to Say I Love You</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、復習問題、次回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 13 Pride</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、復習問題、次回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Unit 14 Like a Virgin</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、復習問題</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などの説明	単語学習、自己紹介英作文	2	Unit 1 Stand by Me	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習	3	Unit 2 Jailhouse Rock	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習	4	Unit 3 Blowin' in the Wind	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習	5	Unit 4 Puff, the Magic Dragon	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習	6	Unit 5 I've Gotta Get a Message to You	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習	7	Unit 6 Bridge over Troubled Water	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習	8	Unit 7 Take Me Home, Country Roads	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習	9	Unit 8 Imagine	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習	10	Unit 9 I Need to Be in Love	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習	11	Unit 10 Honesty	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習	12	Unit 11 Hotel California	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習	13	Unit 12 I Just Called to Say I Love You	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習	14	Unit 13 Pride	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習	15	Unit 14 Like a Virgin	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などの説明	単語学習、自己紹介英作文																																																																
2	Unit 1 Stand by Me	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習																																																																
3	Unit 2 Jailhouse Rock	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習																																																																
4	Unit 3 Blowin' in the Wind	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習																																																																
5	Unit 4 Puff, the Magic Dragon	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習																																																																
6	Unit 5 I've Gotta Get a Message to You	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習																																																																
7	Unit 6 Bridge over Troubled Water	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習																																																																
8	Unit 7 Take Me Home, Country Roads	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習																																																																
9	Unit 8 Imagine	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習																																																																
10	Unit 9 I Need to Be in Love	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習																																																																
11	Unit 10 Honesty	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習																																																																
12	Unit 11 Hotel California	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習																																																																
13	Unit 12 I Just Called to Say I Love You	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習																																																																
14	Unit 13 Pride	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習																																																																
15	Unit 14 Like a Virgin	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Enjoying English through Pop Songs</td> <td>Fuyuhiko Sekido 他</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Enjoying English through Pop Songs	Fuyuhiko Sekido 他	朝日出版社	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Enjoying English through Pop Songs	Fuyuhiko Sekido 他	朝日出版社																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	全学共通英語課題 (EnglishCentral) ...20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) ...80%																																																																		
学生へのメッセージ	日々コツコツ勉強していけば、英語力は必ず向上します。一緒に頑張っていきましょう。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 小テストなどのフィードバックは次の授業で行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介 授業の進め方や成績評価についての説明 Checklinkの登録	Unit1の課題
	2	Unit 1	お礼を伝える 現在形 自己紹介をする	Unit2の課題
	3	Unit2	感想を述べる 代名詞 友人を紹介する	Unit3の課題
	4	Unit 3	勤務時間について述べる 前置詞 行動予定について書く	Unit4の課題
	5	Unit4	週末にしたことを述べる 過去形 ある1日を振り返る	Unit5の課題
	6	Unit5	相手を励ます 可算・不可算名詞 必要なものについて書く	Unit6の課題
	7	Unit6	提案する 進行形 健康状態について書く	Unit7の課題
	8	Unit7	助けを求める WH疑問文 人物を紹介する	Unit8の課題
	9	Unit8	パーティに誘う 動名詞・不定詞 好きなことについて書く	Unit9の課題
	10	Unit9	約束する 未来形 未来の自分について書く	Unit10の課題
	11	Unit10	好みを伝える 比較 自分の価値観について書く	Unit11の課題
	12	Unit11	確認する 助動詞 大学の規則について書く	Unit12の課題
	13	Unit12	喜びを伝える 現在完了形 最近したことについて書く	Unit13の課題
	14	Unit 13	感想を述べる 関係詞 人物について書く	Unit14・15の課題
	15	Unit14・15の課題	観光名所の案内 受動態・接続詞 大学について書く	復習

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>English Missions! Basic</td> <td>Robert Hickling, Misato Usukura</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	2	English Missions! Basic	Robert Hickling, Misato Usukura	金星堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂													
	2	English Missions! Basic	Robert Hickling, Misato Usukura	金星堂													
3																	
参考書																	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (EnglishCentral) ...20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) ...80%			
学生への メッセージ	ストーリーを通じて楽しく英語の4技能を学びましょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階 西川研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチュードントアワーにて対応する。			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	勝井 典子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価の仕方、予習・復習の仕方など	予習：テキストにざっと目を通す 復習：自習用音声の使用に慣れる
2	Unit 1 Bohemian Rhapsody	映画「Bohemian Rhapsody」について読み、内容の理解を深める	予習：文章を読み、わからない語彙を調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
3	Unit 1 Bohemian Rhapsody	映画「Bohemian Rhapsody」を視聴し、英語を聴き取り、理解を深める	予習：事前に指定した範囲の映画を視聴しておくことがのぞましい 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
4	Unit 2 Bohemian Rhapsody	映画「Bohemian Rhapsody」について読み、内容の理解を深める	予習：文章を読み、わからない語彙を調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
5	Unit 2 Bohemian Rhapsody	映画「Bohemian Rhapsody」を視聴し、英語を聴き取り、理解を深める	予習：事前に指定した範囲の映画を視聴しておくことがのぞましい 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
6	Unit 3 Bohemian Rhapsody	映画「Bohemian Rhapsody」について読み、内容の理解を深める	予習：文章を読み、わからない語彙を調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
7	Unit 3 Bohemian Rhapsody	映画「Bohemian Rhapsody」を視聴し、英語を聴き取り、理解を深める	予習：文章を読み、わからない語彙を調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
8	Unit 4 Bohemian Rhapsody	映画「Bohemian Rhapsody」について読み、内容の理解を深める	予習：文章を読み、わからない語彙を調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
9	Unit 4 Bohemian Rhapsody	映画「Bohemian Rhapsody」を視聴し、英語を聴き取り、理解を深める	予習：文章を読み、わからない語彙を調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
10	Unit 5 Bohemian Rhapsody	映画「Bohemian Rhapsody」について読み、内容の理解を深める	予習：文章を読み、わからない語彙を調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
11	Unit 5 Bohemian Rhapsody	映画「Bohemian Rhapsody」を視聴し、英語を聴き取り、理解を深める	予習：文章を読み、わからない語彙を調べておく 復習：授業で解説した文の構造や表現を確認する
12	まとめテスト	Unit1~5 の復習テスト	予習：各 Unit で学習したことを確認する 復習：テストで間違えたところを確認する
13	研究発表	学生は、与えられたテーマでプレゼンテーションを行い、お互い評価し合う	予習：プレゼンテーションの準備 復習：プレゼンテーション内容の振り返り
14	研究発表	学生は、与えられたテーマでプレゼンテーションを行い、お互い評価し合う	予習：プレゼンテーションの準備 復習：プレゼンテーション内容の振り返り
15	総括	前期の総括的振り返り、確認テスト	予習：前期全体の復習 復習：前期に苦手だった内容の復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Active English through Movies	塩見佳代子、Matthew Coomber、宮林賀奈子	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
学生へのメッセージ	英米の TV ドラマ、映画、音楽、本、ポップカルチャーなど、エンタテインメントを入りに、普段から生きた英語に触れるようにしてみましょう。きっと楽しく表現力を向上させることができます。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Units 15 & 16	Advice	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	2	Unit 17	Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	3	Unit 18	Invention	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	4	Unit 19	Opinions: the best	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	5	Unit 20	Opinions: good or bad	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	6	Unit 21	Opinions: true or false	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	7	Unit 22	Explanations	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	8	Unit 23	Tall tales	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	9	Unit 24	Advertising	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	10	Unit 25	News	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	11	Unit 26	Evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	12	Unit 27	Research	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	13	Unit 28	Rethinking history	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	14	Unit 29	Future concepts	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	15	Evaluation and review	Evaluation and review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Carnival	Richard Rowat	Weissman Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題(EnglishCentral) ... 20% TOEIC Bridge ... 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) ... 70%
-----------	--

学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、課題のやり方とその効果について	教科書の予習 次週の単語テスト勉強
2	Unit 1 Occupations	単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 1 と通し学習する。	教科書の予習復習(課題提出) 単語テスト勉強
3	Unit 2 At the Dinner Table	単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 2 と通し学習する。	教科書の予習復習(課題提出) 単語テスト勉強
4	Unit 3 Sports	単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 3 と通し学習する。	教科書の予習復習(課題提出) 単語テスト勉強
5	Unit 4 Health	単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 4 と通し学習する。	教科書の予習復習(課題提出) 単語テスト勉強
6	Unit 5 What's on your Playlist?	単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 5 と通し学習する。	教科書の予習復習(課題提出) 単語テスト勉強
7	Unit 6 At the Movies	単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 6 と通し学習する。	教科書の予習復習(課題提出) 中間テスト勉強
8	中間テスト	Unit 1-6の復習テスト 解説	教科書の予習復習(課題提出) 単語テスト勉強
9	Unit 7 Technology in Daily Life	単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 7 と通し学習する。	教科書の予習復習(課題提出) 単語テスト勉強
10	Unit 8 Social Network	単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 8 と通し学習する。	教科書の予習復習(課題提出) 単語テスト勉強
11	Unit 9 Looking on the Bright Side	単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 9 と通し学習する。	教科書の予習復習(課題提出) 単語テスト勉強
12	Unit 10 Love Affairs	単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 10 と通し学習する。	教科書の予習復習(課題提出) 単語テスト勉強
13	Unit 11 Storytelling	単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 11 と通し学習する。	教科書の予習復習(課題提出) 単語テスト勉強
14	Unit 12 The Power of words	単語テスト Listening、Reading、会話、文法などをUnit 12 と通し学習する。	教科書の予習復習(課題提出) まとめテスト勉強
15	Review Test	Unit 7-12の復習テスト まとめ	事前学習 復習テスト勉強

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 2 : Trekking	角山 照彦 他	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法	全学共通英語課題(EnglishCentral) ...20%
------	---------------------------------

(基準)	TOEIC Bridge ...10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) ...70%
学生へのメッセージ	皆さんが社会に旅立つ頃には世界はさらに多様化が進み、海外で働くことや英語を話す同僚と仕事をする機会が増えるでしょう。TOEICを学習することでビジネスシーンで使われる語彙や表現、取引の仕組みなどを学ぶ事ができます。さあ未来への準備を始めましょう！ *授業で使用する教科書、ノートは毎回必ず持参すること。教科書未購入の場合単位認定されないことがあります、気をつけましょう。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Lesson 1 を始める	授業の進め方、評価方法、出欠の扱いなどを説明 小テスト(語彙、フレーズなど)	教科書の予習(Exercisesをする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
2	1 Miracle Cure, or just a Lemon?	英文読解 Exercises(英問英答、語彙、TorF、リスニング)	教科書の予習(Exercisesをする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
3	2 Stolen Goods	英文読解 Exercises(英問英答、語彙、TorF、リスニング)	教科書の予習(Exercisesをする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
4	3 Okinawa Ink	英文読解 Exercises(英問英答、語彙、TorF、リスニング)	教科書の予習(Exercisesをする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
5	4 No More Tears	英文読解 Exercises(英問英答、語彙、TorF、リスニング)	教科書の予習(Exercisesをする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
6	5 The Way of the Pub	英文読解 Exercises(英問英答、語彙、TorF、リスニング)	教科書の予習(Exercisesをする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
7	6 Whodunnit	英文読解 Exercises(英問英答、語彙、TorF、リスニング)	教科書の予習(Exercisesをする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
8	授業後、中間テスト	英文読解 Exercises(英問英答、語彙、TorF、リスニング) 中間テスト(前半の学習内容の確認)	教科書の予習(Exercisesをする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく) 中間テスト勉強
9	7 Checkpoint Charlie and the Berlin Wall	英文読解 Exercises(英問英答、語彙、TorF、リスニング)	教科書の予習(Exercisesをする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
10	8 Queen Victoria's "Gift"	英文読解 Exercises(英問英答、語彙、TorF、リスニング)	教科書の予習(Exercisesをする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
11	9 Two Scottish Heritages	英文読解 Exercises(英問英答、語彙、TorF、リスニング)	教科書の予習(Exercisesをする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
12	10 Do You Believe in Magic?	英文読解 Exercises(英問英答、語彙、TorF、リスニング)	教科書の予習(Exercisesをする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
13	11 That Sinking Feeling	英文読解 Exercises(英問英答、語彙、TorF、リスニング)	教科書の予習(Exercisesをする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
14	12 Famous street Artist's Joke and Gesture	英文読解 Exercises(英問英答、語彙、TorF、リスニング)	教科書の予習(Exercisesをする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
15	まとめテスト	期末のテスト 学期後半の学習内容の確認	まとめテストに向けて勉強

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Everyday History	Jim Knudsen	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (English Central) 20% TOEIC Bridge 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%		
学生への メッセージ	授業には毎回辞書を持参すること。 予習がしてあることを前提に授業をするので、必ず予習しておくこと。前期の教科書に比べ語彙力、読解力、聴解力をアップさせることに重点を置きます。		
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジュリア クレググイッチ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行う。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超えて課題を提出しなかった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>講義の進め方、評価方法等の説明</td> <td>単語学習、自己紹介文</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1 Hobby</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、演習問題</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 2 Travel</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、演習問題</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 3 Sports</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、演習問題</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 4 Culture</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、演習問題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 5 Health</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、演習問題</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 6 Career</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、演習問題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 7 Education</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、演習問題</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 8 Science</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、演習問題</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 9 Business</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、演習問題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 10 Social Issues</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、演習問題</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 11 Natural Disasters</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、演習問題</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 12 International Issues</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、演習問題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 13 Technology</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、演習問題</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Unit 14 Music</td> <td>小テスト、文法、読解、リスニング問題</td> <td>単語学習、演習問題</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法等の説明	単語学習、自己紹介文	2	Unit 1 Hobby	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題	3	Unit 2 Travel	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題	4	Unit 3 Sports	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題	5	Unit 4 Culture	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題	6	Unit 5 Health	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題	7	Unit 6 Career	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題	8	Unit 7 Education	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題	9	Unit 8 Science	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題	10	Unit 9 Business	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題	11	Unit 10 Social Issues	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題	12	Unit 11 Natural Disasters	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題	13	Unit 12 International Issues	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題	14	Unit 13 Technology	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題	15	Unit 14 Music	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法等の説明	単語学習、自己紹介文																																																																
2	Unit 1 Hobby	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題																																																																
3	Unit 2 Travel	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題																																																																
4	Unit 3 Sports	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題																																																																
5	Unit 4 Culture	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題																																																																
6	Unit 5 Health	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題																																																																
7	Unit 6 Career	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題																																																																
8	Unit 7 Education	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題																																																																
9	Unit 8 Science	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題																																																																
10	Unit 9 Business	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題																																																																
11	Unit 10 Social Issues	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題																																																																
12	Unit 11 Natural Disasters	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題																																																																
13	Unit 12 International Issues	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題																																																																
14	Unit 13 Technology	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題																																																																
15	Unit 14 Music	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、演習問題																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Power-Up College English <Basic></td> <td>JACET リスニング研究会</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語帳)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Power-Up College English <Basic>	JACET リスニング研究会	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語帳)	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Power-Up College English <Basic>	JACET リスニング研究会	南雲堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語帳)	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (EnglishCentral) ... 20% TOEIC Bridge ... 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) ... 70%																																																																		
学生へのメッセージ	語学学習はボディメイクと似ています。日々コツコツと鍛錬していけば、必ず向上します。英語も同様です。毎日少しずつ触れて、楽しみながら一緒に学んでいきましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 非常勤講師控室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジュリア クネグアイチ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業がい学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>where are you from?</td> <td>音読、課題、会話</td> <td>TOEIC の語彙 700 まで予習・学習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>how are you doing?</td> <td>音読、課題、会話</td> <td>TOEIC の語彙 750 まで予習・学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>how many classes do you have?</td> <td>音読、課題、会話</td> <td>TOEIC の語彙 800 まで予習・学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>how much food do you need for a party?</td> <td>音読、課題、会話</td> <td>TOEIC の語彙 850 まで予習・学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>how many people are there in your family?</td> <td>音読、課題、会話</td> <td>TOEIC の語彙 900 まで予習・学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>when is report due?</td> <td>音読、課題、会話</td> <td>TOEIC の語彙 950 まで予習・学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>how was your weekend?</td> <td>音読、課題、会話</td> <td>TOEIC の語彙 1000 まで予習・学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>what time is your first class?</td> <td>音読、課題、会話</td> <td>TOEIC の語彙 1050 まで予習・学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>have you ever been to kyoto?</td> <td>音読、課題、会話</td> <td>TOEIC の語彙 1100 まで予習・学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>can I ask you a favor?</td> <td>音読、課題、会話</td> <td>TOEIC の語彙 1150 まで予習・学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>I am going to visit grandparents</td> <td>音読、課題、会話</td> <td>TOEIC の語彙 1200 まで予習・学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>I am on a train</td> <td>音読、課題、会話</td> <td>TOEIC の語彙 1250 まで予習・学習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Speech (Appendix)</td> <td>音読、課題、会話</td> <td>TOEIC の語彙 1300 まで予習・学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>総合的なまとめ</td> <td>音読、課題、会話</td> <td>TOEIC の語彙 1350 まで予習・学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>終了テスト</td> <td>テスト 解説</td> <td>総復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	where are you from?	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 700 まで予習・学習	2	how are you doing?	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 750 まで予習・学習	3	how many classes do you have?	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 800 まで予習・学習	4	how much food do you need for a party?	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 850 まで予習・学習	5	how many people are there in your family?	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 900 まで予習・学習	6	when is report due?	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 950 まで予習・学習	7	how was your weekend?	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 1000 まで予習・学習	8	what time is your first class?	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 1050 まで予習・学習	9	have you ever been to kyoto?	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 1100 まで予習・学習	10	can I ask you a favor?	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 1150 まで予習・学習	11	I am going to visit grandparents	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 1200 まで予習・学習	12	I am on a train	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 1250 まで予習・学習	13	Speech (Appendix)	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 1300 まで予習・学習	14	総合的なまとめ	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 1350 まで予習・学習	15	終了テスト	テスト 解説	総復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	where are you from?	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 700 まで予習・学習																																																																
2	how are you doing?	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 750 まで予習・学習																																																																
3	how many classes do you have?	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 800 まで予習・学習																																																																
4	how much food do you need for a party?	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 850 まで予習・学習																																																																
5	how many people are there in your family?	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 900 まで予習・学習																																																																
6	when is report due?	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 950 まで予習・学習																																																																
7	how was your weekend?	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 1000 まで予習・学習																																																																
8	what time is your first class?	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 1050 まで予習・学習																																																																
9	have you ever been to kyoto?	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 1100 まで予習・学習																																																																
10	can I ask you a favor?	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 1150 まで予習・学習																																																																
11	I am going to visit grandparents	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 1200 まで予習・学習																																																																
12	I am on a train	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 1250 まで予習・学習																																																																
13	Speech (Appendix)	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 1300 まで予習・学習																																																																
14	総合的なまとめ	音読、課題、会話	TOEIC の語彙 1350 まで予習・学習																																																																
15	終了テスト	テスト 解説	総復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Project English</td> <td>Vivian Morroka</td> <td>NANUN-DO</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Project English	Vivian Morroka	NANUN-DO	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Project English	Vivian Morroka	NANUN-DO																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (EnglishCentral) ... 20% TOEIC Bridge ... 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) ... 70%																																																																		
学生へのメッセージ	一緒に楽しく勉強しましょう。 ・TOEIC の 1350 の語彙の取得をめざします (前期の学習からの継続的な取得を目指す) 簡単な会話、英語に自信を持って、積極的に質問をする、意見を述べるなどのスキルを身につけること ・TOEIC、英検に役立つため、一つでも多くの単語やフレーズを学んでいただきたい 質問を積極的にしていただきたい クラスメートとの debate も積極的に取り組んでほしい ・話をきく (受動態) だけでなく、課題、発言、参加型授業をめざします																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小南 悠
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。(2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等
-------------	------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などの説明	単語学習、自己紹介英作文
	2	Area 1 Europe	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習
	3	Area 2 Africa	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習
	4	Area 3 The Middle East	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習
	5	Area 4 South Asia	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習
	6	Area 5 Russia and Its Neighboring Countries	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習
	7	Area 6 East Asia	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、ここまでの授業の復習
	8	中間テスト	授業内テスト 解説	単語学習、復習問題、次回授業の予習
	9	Area 7 Southeast Asia	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習
	10	Area 8 North America	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習
	11	Area 9 Central America and the Caribbean	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習
	12	Area 10 South America	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習
	13	Area 11 The South Pacific and the Antarctic	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、復習問題、次回授業の予習
	14	Area 12 Australia and New Zealand	小テスト、文法、読解、リスニング問題	単語学習、ここまでの授業の復習
	15	期末テスト	授業内テスト 解説	総復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	CLIL Seeing the World through Maps	Shigeru Sasajima 他	三修社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 (EnglishCentral) ...20% TOEIC Bridge ...10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) ...70%
----------	---

学生へのメッセージ	日々コツコツ勉強していけば、英語力は必ず向上します。一緒に頑張ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介 授業の進め方、成績評価の説明 Checklink の登録	Unit1 の課題
	2	Unit1	Welcome to L.A. be 動詞	Unit2 の課題
	3	Unit2	I Love Fruits! 可算・不可算名詞	Unit3 の課題
	4	Unit3	Campus Life 一般動詞	Unit4 の課題
	5	Unit4	Lunchitime 代名詞	Unit5 の課題
	6	Unit5	First Date 過去時制	Unit6 の課題
	7	Unit6	Where's Linda? 進行形	Unit7 の課題
	8	Unit7	Andy's News 未来表現	Unit8 の課題
	9	Unit8	Shopping in Santa Monica 助動詞	Unit9 の課題
	10	Unit9	Moving Day 前置詞	Unit10 の課題
	11	Unit10	A Beautiful View 現在完了	Unit11 の課題
	12	Unit11	Sunday Fun 比較	Unit12 の課題
	13	Unit12	Seeing Stars WH 疑問文	Unit13 の課題
	14	Unit13	Buying Food for a BBQ 動名詞・不定詞	Unit14・15 の課題
	15	Unit14・15	Putting on a New Face New Surprise 接続詞・受動態	総復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	We Love L.A.!	Robert Hickling, Misato Usukura	金星
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (EnglishCentral) ...20% TOEIC Bridge ...10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) ...70%
-----------	---

学生へのメッセージ
L.A. に行った気分になって、楽しく英語の 4 技能を学びましょう。

担当者の研究室等
7 号館 4 階 西川研究室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチュードントアワーにて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	勝井 典子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価の仕方、予習・復習の仕方など	予習: テキストにざっと目を通す 復習: 自習用音声の使用に慣れる
2	Unit 6 The Intern	映画「The Intern」について読み、内容の理解を深める	予習: 文章を読み、わからない語彙を調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
3	Unit 6 The Intern	映画「The Intern」を視聴し、英語を聴き取り、理解を深める	予習: 事前に指定した範囲の映画を視聴しておくことがのぞましい 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
4	Unit 7 The Intern	映画「The Intern」について読み、内容の理解を深める	予習: 文章を読み、わからない語彙を調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
5	Unit 7 The Intern	映画「The Intern」を視聴し、英語を聴き取り、理解を深める	予習: 事前に指定した範囲の映画を視聴しておくことがのぞましい 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
6	Unit 8 The Intern	映画「The Intern」について読み、内容の理解を深める	予習: 文章を読み、わからない語彙を調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
7	Unit 8 The Intern	映画「The Intern」を視聴し、英語を聴き取り、理解を深める	予習: 文章を読み、わからない語彙を調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
8	Unit 9 The Intern	映画「The Intern」について読み、内容の理解を深める	予習: 文章を読み、わからない語彙を調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
9	Unit 9 The Intern	映画「The Intern」を視聴し、英語を聴き取り、理解を深める	予習: 文章を読み、わからない語彙を調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
10	Unit 10 The Intern	映画「The Intern」について読み、内容の理解を深める	予習: 文章を読み、わからない語彙を調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
11	Unit 10 The Intern	映画「The Intern」を視聴し、英語を聴き取り、理解を深める	予習: 文章を読み、わからない語彙を調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
12	まとめテスト	Unit6~10の復習テスト 解説	予習: 各Unitで学習したことを確認する 復習: テストで間違えたところを確認する
13	研究発表	学生は、与えられたテーマでプレゼンテーションを行い、お互い評価し合う	予習: プレゼンテーションの準備 復習: プレゼンテーション内容の振り返り
14	研究発表	学生は、与えられたテーマでプレゼンテーションを行い、お互い評価し合う	予習: プレゼンテーションの準備 復習: プレゼンテーション内容の振り返り
15	総括	前期の総括的振り返り 確認テスト	予習: 前期全体の復習 復習: 前期に苦手だった内容の復習

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Active English through Movies	塩見佳代子、Matthew Coomber、宮林賀奈子	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 (English Central) 20% TOEIC Bridgeのスコア 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
----------	---

学生へのメッセージ	英米のTVドラマ、映画、音楽、本、ポップカルチャーなど、エンタテインメントを入り口に、普段から生きた英語に触れるようにしてみましょう。きっと楽しく表現力を向上させることができます。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	韓国語 I	科目名 (英文)	Korean I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LK01817e1		

授業概要・目的
この授業では、ハングル能力検定 5 級もしくは韓国語能力試験 (TOPIK) 1 級合格に対応できるための「基礎力」を養成することを目的とします (本授業「韓国語 I」で基礎力を養成し、「韓国語 II a」でハングル能力検定 5 級もしくは TOPIK1 級合格水準に達する実力をつけます)。教科書は『チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級』(朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、2021 年)を使用します。教科書に沿って授業を進めていきます。語学としての韓国語の学習はもちろんですが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにします。

到達目標
ハングル能力検定 5 級もしくは韓国語能力試験 (TOPIK) 1 級合格に向けた基礎力を養成する。
①文法事項・単語力 (基本的な文法と表現、単語数約 250 語程度)
②読解力と作文能力
③リスニング力
④発話力 (決まり文句としてのあいさつやあいづち、簡単な質疑応答)

授業方法と留意点
1) 文法事項・語彙の復習の時間をとって着実に学習を重ねて下さい。
2) 進捗については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性があります。
3) 適宜プリントを配布します。
4) フィードバックは基本的に授業内に行います。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス I. ハングルの習おう! 第 1 課 母音字 1	授業の進め方、成績評価、学習方法 母音字 1	文字・語彙の復習 (60 分)
2	I. ハングルの習おう! 第 2 課 子音字 1	平音 1 (初声) 平音 2 (終声)	文字・語彙の予習・復習 (120 分)
3	I. ハングルの習おう! 第 3 課 母音字 2	母音字 2	文字・語彙の予習・復習 (120 分)
4	I. ハングルの習おう! 第 4 課 子音字 2	平音 2 (初声) 激音 2 (初声)	文字・語彙の予習・復習 (120 分)
5	I. ハングルの習おう! 第 5 課 パッチム	終声 (パッチム)	文字・語彙の予習・復習 (120 分)
6	I. ハングルの習おう! 第 6 課 母音字 3	母音字 3	文字・語彙の予習・復習 (120 分)
7	I. ハングルの習おう! 第 7 課 子音字 3	濃音 (初声) 濃音 (終声) 日本語のハングル表記	文字・語彙の予習・復習 (120 分)
8	中間の理解度確認テスト 第 8 課 知っておこう	「I. ハングルの習おう! 第 1 課~7 課」の内容 教室でよく使う表現 分かち書き 発音規則	理解度確認テストの準備 (120 分)
9	II 話してみよう! 第 1 課 こんにちは	丁寧語尾~です、ます (へヨ体)	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)
10	II 話してみよう! 第 1 課 こんにちは	助詞 (〜は)	文字・文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)
11	II 話してみよう! 第 2 課 これは何ですか。	指示詞 (この、その、あの)	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)
12	II 話してみよう! 第 2 課 これは何ですか。	助詞 (〜が) 助詞 (だけ、のみ)	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)
13	II 話してみよう! 第 3 課 アメリカンコーヒー ありますか。	存在詞 ~です、ます (ハムニダ体)	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)
14	II 話してみよう! 第 3 課 アメリカンコーヒー ありますか。	リウル脱落 助詞 (〜と)	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)
15	期末のまとめ	これまでの総復習	文法事項・語彙の復習 (120 分)

関連科目 「韓国語 II a」「韓国語 II b」など韓国語関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第 2 版	油谷幸利ほか編	小学館
2			
3			

評価方法 (基準)	小テスト 25% 中間の理解度確認テスト 25% 期末の理解度確認テスト 50%
学生への メッセージ	当然のことですが、基礎が重要です。文字・語彙・文法事項を確実に予習・復習しながら授業を受けるようにしてください。
担当者の 研究室等	7号館5階 森研究室
備考	質問は、授業の前後の時間やオフィスアワーに受け付けます。Teams やメールで質問してくれてもかまいません。

科目名	韓国語 I	科目名 (英文)	Korean I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	沈 明姫
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LK01817e1		

授業概要・目的	不慣れな姿のハングルを知り韓国語を学ぶことで、日本語と韓国語のもつ類似点、そして同じ漢字文化圏なので、様々な言葉や表現の共通点を発見することが出来る。隣の国、韓国を真の意味で近い国として実感し、韓国の歴史や文化に興味を深めることと、両国がより近い関係に回復できるきっかけとなってほしいと望みます。外国語である日本語を習得する過程から得られた私の経験を踏まえ、初めて韓国語を学習する人でも楽しくやさしく学ぶことが出来るように心掛けます。
到達目標	1. 韓国語の文字であるハングルの読み、書きが出来るようになる。 2. ハングルで自分の名前を覚える。 3. 簡単な挨拶や自己紹介が出来るようになる。
授業方法と留意点	教科書とプリントを配布して授業を行う。必要に応じてビデオ・CDも活用しながら、k-pop や韓国映画、ドラマも紹介する。学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。フィードバックは基本的に授業内に行う。
科目学習の効果 (資格)	韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	韓国語とハングル文字について理解する。	韓国語の歴史、文字構成を説明。授業の進め方についてのガイダンス及び、受講生の希望を伺うなど、韓国語をめぐる受講生とのコミュニケーション。	特になし
2	ハングル 1	基本子音 5 つ、基本母音 6 つを組み合わせて出来る 30 文字を読み書きする。そして 30 文字で出来る単語を学ぶ。	復習：テキスト p 16 - 19 (1 時間) 予習：p 25 (0.5 時間)
3	ハングル 2	p 18 単語テスト (発音記号、意味) 重母音 4 つ、基本子音 5 つを学ぶ。これまで学んだ母音 10 と子音 10 を組み合わせて 100 文字を読み書きの練習 100 文字を使った韓国語の単語を学ぶ。	復習：テキスト p 20 - 27 (1 時間) 予習：p 28 (0.5 時間)
4	ハングル 3	p 25 単語テスト (発音記号、意味) 二重母音 5 つ、激音子音 4 つ、濃音子音 5 つを学び、単語を勉強する。	復習：テキスト p 35 (1 時間) 予習：p 30、p 36 (0.5 時間)
5	ハングル 4	p 35 単語テスト (発音記号、意味) 複雑な二重母音 6 つ、濃音について学ぶ。自分の名前と家族や友達の名 3 をハングルで書いてみる	復習：テキスト p 29 (1 時間) 予習：ひらがな表の発音をハングルに置き換えるプリントを完成する (0.5 時間)
6	子音 19、母音 15 を覚えよう 1	p 29 単語テスト (発音記号、意味) 韓国で使っている外来語を読んで意味を推測してみる。ハングルを使ってラインをする。	復習：テキスト p 36 (1 時間) 予習：スマートフォンでハングルの打ち方を練習する (0.5 時間)
7	子音 19、母音 15 を覚えよう 2	p 36 単語テスト (発音記号、意味) ハングルで出来たアンケート用紙を完成しながら、ラインを行う。	復習：テキスト p 30 (1 時間) 予習：スマートフォンでハングルの打ち方を練習する (0.5 時間)
8	ハングル 5 パッチム パッチムの仕組みを勉強する。	p 30 単語テスト (発音記号、意味) 日本語では使うことの無かった発音を、細かく分析、観察、理解し徹底して練習する。	復習：テキスト p 43 (0.5 時間) 予習：p 44 (0.5 時間)
9	ハングル 5 パッチム パッチムの仕組みを勉強する。	p 43 単語テスト (発音記号、意味) パッチムの難しい外来語を読みながら意味を調べる	復習：テキスト p 44 (0.5 時間) 予習：p 47、p 48 (0.5 時間)
10	ハングル文字の総まとめ	p 44 単語テスト (発音記号、意味) これまで文字を勉強する際に出てきた全ての単語をまとめる。特に難しい発音の二重母音の単語のプリントを読みながら練習する	復習：p18、p25、p29、p 30、p 35、p 36、43、p 44 (2 時間) 予習：p 49 (0.5 時間)
11	韓国の映画を見て、耳から聞こえる韓国語を感じる	ハングル総合単語テスト 「カンナさん大成功です！」 p 49、p 50 単語を辞書で調べる	復習：p 49、p 50 単語を覚える (1 時間)
12	韓国の映画を見て、耳から聞こえる韓国語を感じる	「カンナさん大成功です！」 音読テスト用の文書を配布	予習：音読テスト用の文書を読む練習 (1 時間)
13	第 6 課 こんにちは。	文字を勉強する際に覚えた単語を使って、短い作文をしながら、助詞を勉強する。	復習：テキスト p 55 - 59 (1 時間) 予習：7 種類の助詞表を書く (0.5 時間)
14	前期総合まとめ	基本的な挨拶と簡単な自己紹介。 こんにちは。 お名前は？ 職業は何ですか？ 日本人です。 学生です。 お会い出来て嬉しいです。 前期定期試験の準備	復習：テキスト p 16 - 59 前期授業の中で出てきた単語全てを整理して覚える 自己紹介の会話 音読テストの準備 (3 時間)
15	まとめ	前期定期試験	

関連科目	韓国語基礎会話			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	美しい韓国語 1-1 初級 教科書	韓国語教育開発研究院	EKO ランゲージセンター
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業参加状況、毎回の課題提出、小テスト 50% 音読試験 50%			
学生への メッセージ	語学の勉強において、毎回の授業を欠かさず参加することはとても重要です。したがって、出席のチェックは厳しく行います。 全 15 回の授業中、3 回以上欠席すると単位取得は不可能ですので、ご注意ください。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)			
備考	質問がある場合はメールしてください。 myounghee2018@gmail.com			

科目名	韓国語 I	科目名 (英文)	Korean I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LK01817e1		

授業概要・目的
この授業では、ハングル能力検定 5 級もしくは韓国語能力試験 (TOPIK) 1 級合格に対応できるための「基礎力」を養成することを目的とします (本授業「韓国語 I」で基礎力を養成し、「韓国語 II a」でハングル能力検定 5 級もしくは TOPIK1 級合格水準に達する実力をつけます)。教科書は『チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級』(朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、2021 年)を使用します。教科書に沿って授業を進めていきます。語学としての韓国語の学習はもちろんですが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにします。

到達目標
ハングル能力検定 5 級もしくは韓国語能力試験 (TOPIK) 1 級合格に向けた基礎力を養成する。
①文法事項・単語力 (基本的な文法と表現、単語数約 250 語程度)
②読解力と作文能力
③リスニング力
④発話力 (決まり文句としてのあいさつやあいづち、簡単な質疑応答)

授業方法と留意点
1) 文法事項・語彙の復習の時間をとって着実に学習を重ねてください。
2) 進捗については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性があります。
3) 適宜プリントを配布します。
4) フィードバックは基本的に授業内に行います。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス I. ハングルの習おう! 第 1 課 母音字 1	授業の進め方、成績評価、学習方法 母音字 1	文字・語彙の復習 (60 分)
2	I. ハングルの習おう! 第 2 課 子音字 1	平音 1 (初声) 平音 2 (終声)	文字・語彙の予習・復習 (120 分)
3	I. ハングルの習おう! 第 3 課 母音字 2	母音字 2	文字・語彙の予習・復習 (120 分)
4	I. ハングルの習おう! 第 4 課 子音字 2	平音 2 (初声) 激音 2 (初声)	文字・語彙の予習・復習 (120 分)
5	I. ハングルの習おう! 第 5 課 パッチム	終声 (パッチム)	文字・語彙の予習・復習 (120 分)
6	I. ハングルの習おう! 第 6 課 母音字 3	母音字 3	文字・語彙の予習・復習 (120 分)
7	I. ハングルの習おう! 第 7 課 子音字 3	濃音 (初声) 濃音 (終声) 日本語のハングル表記	文字・語彙の予習・復習 (120 分)
8	中間の理解度確認テスト 第 8 課 知っておこう	「I. ハングルの習おう! 第 1 課~7 課」の内容 教室でよく使う表現 分かち書き 発音規則	理解度確認テストの準備 (120 分)
9	II 話してみよう! 第 1 課 こんにちは	丁寧語尾~です、ます (へヨ体)	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)
10	II 話してみよう! 第 1 課 こんにちは	助詞 (〜は)	文字・文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)
11	II 話してみよう! 第 2 課 これは何ですか。	指示詞 (この、その、あの)	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)
12	II 話してみよう! 第 2 課 これは何ですか。	助詞 (〜が) 助詞 (だけ、のみ)	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)
13	II 話してみよう! 第 3 課 アメリカンコーヒー あります。	存在詞 ~です、ます (ハムニダ体)	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)
14	II 話してみよう! 第 3 課 アメリカンコーヒー あります。	リウル脱落 助詞 (〜と)	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)
15	期末のまとめ (総まとめと理解度確認)	既習文法事項の総確認	文法事項・語彙の復習と理解度確認の準備 (120 分)

関連科目 「韓国語 II a」「韓国語 II b」など韓国語関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第 2 版	油谷幸利ほか編	小学館
2			

	3		
評価方法 (基準)	小テスト 25% 中間の理解度確認テスト 25% 期末の理解度確認テスト 50%		
学生への メッセージ	当然のことですが、基礎が重要です。文字・語彙・文法事項を確実に予習・復習しながら授業を受けるようにしてください。		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考			

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	人形寺 英利子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1822a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な力を養成することに重点を置く。 事実を客観的に説明する方法、引用の方法、意見を論理的に記述する方法、考えをまとめる方法などを学び、わかりやすい文章の書き方を実践的にトレーニングする。
到達目標	他者に伝えることを意識して、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を身につけた上で、文章作成を行う。 数回の課題を提出し、最後にはレポート課題を提出する。 ほぼ毎回、語彙力・表現力を養成する小テストを行う。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	復習：プリント
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	復習：教科書の「はじめに」「第 1 回」「第 2 回」、 プリント
	3	メールの書き方	メールの書き方を学ぶ	配布資料 復習：メールを送る
	4	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ 課題 1 にむけて説明文を書く練習をする	復習：教科書の「第 3 回」、プリント
	5	【課題 1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	復習：教科書「はじめに」「第 1 回」「第 2 回」「第 3 回」、プリント
	6	構成 要約	レポートなどの文章構成を学ぶ 要旨の要約の作成方法を学ぶ	復習：教科書「第 5 回」「第 6 回」、プリント
	7	フィードバック 構成や要約の復習	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す 教科書「第 5 回」「第 6 回」
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	復習：教科書「第 7 回」
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	復習：教科書「第 8 回」、プリント
	10	意見を述べる 構成・要約・引用の復習	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ 課題 2 に向けてこれまでの復習	復習：教科書「第 5 回」～「第 9 回」、プリント
	11	【課題 2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	復習：教科書「はじめに」～「第 10 回」
	12	レポートの書き方 1・2 資料収集の方法 フィードバック	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明 文献の探索について学ぶ 課題 2 のフィードバック	復習：教科書「第 11 回」～「第 13 回」
	13	レポートの作成 フィードバック	レポートの作成 分からない点を質問する	復習：教科書、課題 2 を踏まえて、最終レポートの作成に生かす
	14	【課題 3】レポート 提出	レポートを提出する	予習復習：これまでの小テストを見直し、復習テストに備える
15	レポートの講評 小テストの復習テスト	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習	

関連科目 セミ、卒業研究など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 課題 3 点 (70%)、授業に取り組む姿勢・小テストの復習テスト (30%) により評価する。
課題 3 点を一度でも提出しない場合は不合格となる。
出席・宿題もチェックして加点。
コピーアンドペースト (いわゆるコピペ) は禁止。

学生へのメッセージ 日常会話で使っている日本語 (話し言葉) と、レポートなどで書く日本語 (書き言葉) を使い分けましょう。
これからの大学生活、社会生活のためにも、自分が普段何気なく使っている言葉や自分の考えていることに向き合ってみてください。
宿題が多くて面倒かもしれませんが、取り組んだだけで力が付きます。

担当者の研究室等 非常勤講師室 (7 号館 2 階)

備考 総学習時間の目安は 15 時間。

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1822a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 提出課題については、個別にフィードバックをします。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	1 時間の事前学習を目安とする
4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	1 時間の事前学習を目安とする
5	構成・要約	レポートなどの文章構成・要約を学ぶ	1 時間の事前学習を目安とする
6	フィードバック	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す 1 時間の事前学習を目安とする
7	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	1 時間の事前学習を目安とする
8	文章の引用を練習する	文章の引用を練習する	1 時間の事前学習を目安とする
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	1 時間の事前学習を目安とする
10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	1 時間の事前学習を目安とする
11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習 1 時間の事前学習を目安とする
12	レポートの書き方 1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	1 時間の事前学習を目安とする
13	フィードバック	課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す 1 時間の事前学習を目安とする
14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する 1 時間の事前学習を目安とする
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 1 時間の事前学習を目安とする

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (後期 7 号館 2 階)
備考	事前・事後学習の総時間の目安は、1 5 時間。 メール等での教員との連絡方法については授業で指示する。

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	人形寺 英利子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1822a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な力を養成することに重点を置く。 事実を客観的に説明する方法、引用の方法、意見を論理的に記述する方法、考えをまとめる方法などを学び、わかりやすい文章の書き方を実践的にトレーニングする。
到達目標	他者に伝えることを意識して、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を身につけた上で、文章作成を行う。 数回の課題を提出し、最後にはレポート課題を提出する。 ほぼ毎回、語彙力・表現力を養成する小テストを行う。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	復習：プリント
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	復習：教科書の「はじめに」「第 1 回」「第 2 回」、 プリント
3	メールの書き方	メールの書き方を学ぶ	配布資料 復習：メールを送る
4	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する 方法を学ぶ 課題 1 にむけて説明文を書く練習をする	復習：教科書の「第 3 回」、プリント
5	【課題 1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章 を書く	復習：教科書「はじめに」「第 1 回」「第 2 回」「第 3 回」、プリント
6	構成 要約	レポートなどの文章構成を学ぶ 要旨の要約の作成方法を学ぶ	復習：教科書「第 5 回」「第 6 回」、プリント
7	フィードバック 構成や要約の復習	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す 教科書「第 5 回」「第 6 回」
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	復習：教科書「第 7 回」
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	復習：教科書「第 8 回」、プリント
10	意見を述べる 構成・要約・引用の復習	考察に基づいて意見を述べる方法を学 ぶ 課題 2 に向けてこれまでの復習	復習：教科書「第 5 回」～「第 9 回」、プリント
11	【課題 2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書 く	復習：教科書「はじめに」～「第 10 回」
12	レポートの書き方 1・2 資料収集の方法 フィードバック	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明 文献の探索について学ぶ 課題 2 のフィードバック	復習：教科書「第 11 回」～「第 13 回」
13	レポートの作成 フィードバック	レポートの作成 分からない点を質問する	復習：教科書、課題 2 を踏まえて、最終レポートの 作成に生かす
14	【課題 3】レポート 提出	レポートを提出する	予習復習：これまでの小テストを見直し、復習テス トに備える
15	レポートの講評 小テストの復習テスト	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習

関連科目 セミ、卒業研究など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセ ンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 課題 3 点 (70%)、授業に取り組む姿勢・小テストの復習テスト (30%) により評価する。
課題 3 点を一度でも提出しない場合は不合格となる。
出席・宿題もチェックして加点。
コピーアンドペースト (いわゆるコピペ) は禁止。

学生へのメッセージ 日常会話で使っている日本語 (話し言葉) と、レポートなどで書く日本語 (書き言葉) を使い分けましょう。
これからの大学生活、社会生活のためにも、自分が普段何気なく使っている言葉や自分の考えていることに向き合ってみてください。
宿題が多くて面倒かもしれませんが、取り組んだだけで力が付きます。

担当者の研究室等 非常勤講師室 (7 号館 2 階)

備考 総学習時間の目安は 15 時間。

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1822a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 大学生活、社会人生活において求められる文章表現の基本を確認し、身につけた上で、文章作成を行う。 説明文・論説文・レポートの 3 つの課題を提出する。 不定期に日本語の基礎的語彙力などの小テストを行う。 フィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 教科書第 1 回「文章の書き方 1」	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――
	2	教科書第 2 回「文章の書き方 2」	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	教科書第 3 回「事実と意見」	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	教科書第 4 回【課題 1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題を書く
	5	教科書第 5 回「構成」	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	課題 1 のフィードバック これまでの復習	課題 1 の反省 ここまでの復習問題を解く	課題 1 を見直す これまでの復習
	7	教科書第 6 回「要約」	要旨の要約の作成方法を学ぶ	これまでの復習
	8	教科書第 7 回「文章を引用する」	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	教科書第 8 回「図表を引用する」	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	10	引用の復習 教科書第 9 回「意見の述べ方」	文章と図表資料の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	引用の復習
	11	教科書第 10 回【課題 2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	課題を書く
	12	教科書第 11 回 「レポートの書き方 1」 レポート課題の説明	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の告知と説明	レポートを作成の準備をする
	13	教科書第 12 回 「レポートの書き方 2」 レポートの作成準備	レポート作成の注意点を学ぶ レポートの作成準備	レポートを作成する
	14	課題 2 のフィードバック	課題 2 の反省	課題 2 を見直す
	15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する 小テストの復習テスト	レポート提出 小テストの復習

関連科目 すべての授業の日本語による課題作成

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学日本語教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 課題 2 回 (20%×2)・レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト・復習テスト (30%) により評価する。
課題、レポートがリ評価の場合、再提出となる。
課題とレポートの提出と再提出は、単位取得の必須条件。

学生への 日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に

メッセージ	日本語と向き合ってください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	総学習時間の目安は 60 時間

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	八島 由香
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	授業にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。教科書に沿って授業を進めるため、教科書は毎回持参すること。また、事前・事後学習課題を確認し、毎回しっかりと取り組むこと。 第 2～11 回の授業内で、語彙力を養成する小テストを行う。テストに関するプリントは、初回に配布する。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 文章の書き方 1	本授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	事前課題：シラバスを確認し、教科書の目次に目を通す。 事後課題：教科書「はじめに 文章で伝える」、「第 1 回 文章の書き方 1」を読み、授業内容の復習をする。
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ ※小テスト①の実施	事前課題：教科書「第 2 回 文章の書き方 2」を読み、練習問題を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容の復習をする。
3	事実と意見	事実の意見のかき分けを学ぶ ※小テスト②の実施	事前課題：教科書「第 3 回 事実と意見」を読み、練習問題 1～3 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。
4	説明文を書く【課題①】	必要なことをわかりやすく説明する文章を書く (第 5 回までに提出) ※小テスト③の実施	事前課題：本授業、第 1～3 回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。課題に取り組む。
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ ※小テスト④の実施	事前課題：教科書「第 5 回 構成」を読み、練習問題 1～3 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。
6	要約	文章の要旨を要約する方法を学ぶ ※小テスト⑤の実施	事前課題：教科書「第 6 回 要約」を読み、練習問題 1～6 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。
7	【課題①】 フィードバック	【課題①】の見直しをする ※小テスト⑥の実施	事前課題：本授業、第 5・6 回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された課題、小テストの復習をする。
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ ※小テスト⑦の実施	事前課題：教科書「第 7 回 文章を引用する」を読み、練習問題 1～4 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ ※小テスト⑧の実施	事前課題：教科書「第 8 回 図表を引用する」を読み、練習問題 1・2 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。
10	意見を述べる 論説文を書く【課題②】	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ 資料を引用して意見を述べる文章を書く (第 12 回までに提出) ※小テスト⑨の実施	事前課題：教科書「第 9 回 意見を述べる」を読み、練習問題を解く。教科書「第 10 回 課題②論説文」を読む。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。課題に取り組む。
11	レポートの書き方 レポートを書く	レポートの体裁について学ぶ レポート作成の注意点を教える 【課題③】に取り組む (第 13 回までに提出) ※小テスト⑩の実施	事前課題：教科書「第 11 回 レポートの書き方 1」、「第 12 回 レポートの書き方 2」を読む。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。課題に取り組む。
12	レポートを書く【課題③】	レポートを作成する (第 13 回までに提出)	事前課題：本授業、第 11 回の内容を復習する。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。課題に取り組む。
13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	事前課題：教科書「第 13 回 資料収集の方法」を読み、練習問題を解く。 事後課題：授業内容の復習をする。
14	【課題②】 フィードバック	【課題②】の見直しをする	事前課題：本授業、第 8～10 回の内容を復習する。 事後課題：授業内容・返却された課題の復習をする。
15	【課題③】 フィードバック	【課題③】の見直しをする	事前課題：本授業、第 11 回の内容を復習する。 事後課題：授業内容・返却された課題の復習をする。

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	(摂南大学教育イノベーションセンター編)	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題2回(20%×2)、レポート(30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。			
学生への メッセージ	事前・事後学習や課題が多く、そのうえ小テストも実施される、非常に大変な授業です。けれども、しっかりと取り組めば、読み手を意識した わかりやすい文章を書くスキルが身につくはず。積極的に授業に臨んでください。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	事前・事後学習課題には、しっかりと取り組むこと。なお、事前・事後学習課題の総時間の目安は、15時間である。 提出された課題へのフィードバックは、授業内で行う。			

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	八島 由香
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	授業にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。教科書に沿って授業を進めるため、教科書は毎回持参すること。また、事前・事後学習課題を確認し、毎回しっかりと取り組むこと。 第 2～11 回の授業内で、語彙力を養成する小テストを行う。テストに関するプリントは、初回に配布する。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 文章の書き方 1	本授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	事前課題：シラバスを確認し、教科書の目次に目を通す。 事後課題：教科書「はじめに 文章で伝える」、「第 1 回 文章の書き方 1」を読み、授業内容の復習をする。
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ ※小テスト①の実施	事前課題：教科書「第 2 回 文章の書き方 2」を読み、練習問題を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容の復習をする。
3	事実と意見	事実の意見のかき分けを学ぶ ※小テスト②の実施	事前課題：教科書「第 3 回 事実と意見」を読み、練習問題 1～3 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。
4	説明文を書く【課題①】	必要なことをわかりやすく説明する文章を書く (第 5 回までに提出) ※小テスト③の実施	事前課題：本授業、第 1～3 回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。課題に取り組む。
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ ※小テスト④の実施	事前課題：教科書「第 5 回 構成」を読み、練習問題 1～3 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。
6	要約	文章の要旨を要約する方法を学ぶ ※小テスト⑤の実施	事前課題：教科書「第 6 回 要約」を読み、練習問題 1～6 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。
7	【課題①】 フィードバック	【課題①】の見直しをする ※小テスト⑥の実施	事前課題：本授業、第 5・6 回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された課題、小テストの復習をする。
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ ※小テスト⑦の実施	事前課題：教科書「第 7 回 文章を引用する」を読み、練習問題 1～4 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ ※小テスト⑧の実施	事前課題：教科書「第 8 回 図表を引用する」を読み、練習問題 1・2 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。
10	意見を述べる 論説文を書く【課題②】	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ 資料を引用して意見を述べる文章を書く (第 12 回までに提出) ※小テスト⑨の実施	事前課題：教科書「第 9 回 意見を述べる」を読み、練習問題を解く。教科書「第 10 回 課題②論説文」を読む。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。課題に取り組む。
11	レポートの書き方 レポートを書く	レポートの体裁について学ぶ レポート作成の注意点を教える 【課題③】に取り組む (第 13 回までに提出) ※小テスト⑩の実施	事前課題：教科書「第 11 回 レポートの書き方 1」、「第 12 回 レポートの書き方 2」を読む。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。課題に取り組む。
12	レポートを書く【課題③】	レポートを作成する (第 13 回までに提出)	事前課題：本授業、第 11 回の内容を復習する。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。課題に取り組む。
13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	事前課題：教科書「第 13 回 資料収集の方法」を読み、練習問題を解く。 事後課題：授業内容の復習をする。
14	【課題②】 フィードバック	【課題②】の見直しをする	事前課題：本授業、第 8～10 回の内容を復習する。 事後課題：授業内容・返却された課題の復習をする。
15	【課題③】 フィードバック	【課題③】の見直しをする	事前課題：本授業、第 11 回の内容を復習する。 事後課題：授業内容・返却された課題の復習をする。

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	(摂南大学教育イノベーションセンター編)	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題2回(20%×2)、レポート(30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。			
学生への メッセージ	事前・事後学習や課題が多く、そのうえ小テストも実施される、非常に大変な授業です。けれども、しっかりと取り組めば、読み手を意識した わかりやすい文章を書くスキルが身につくはず。積極的に授業に臨んでください。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	事前・事後学習課題には、しっかりと取り組むこと。なお、事前・事後学習課題の総時間の目安は、15時間である。 提出された課題へのフィードバックは、授業内で行う。			

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	人形寺 英利子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1823a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。考えや経験のまとめ方、他人に読んでもらう文章の書き方、他人に納得してもらう話し方などについて学び、実践する。
到達目標	適切な表現を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い、発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を身につけた上で、ディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。グループワークを通して、論理的に話し合う力を養う。 後半はグループワークが主となるため、出席し、能動的に参加することが必要である。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
科目学習の効果 (資格)	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	レポートの書き方の復習
3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と方法を学ぶ	敬語の復習プリント
5	ディスカッション1 (準備) 課題1のフィードバック	・ディスカッションの資料配付・事前準備 ・課題1の復習	テーマの下調べ 課題1を見直す
6	ディスカッション2 (説明)	・グループ分けとディスカッションの説明・資料配付 ・事前準備・練習	テーマの下調べ
7	ディスカッション3 (実践)	・グループでディスカッションを行う ・ディスカッションの報告文を書く	足りない資料を探す
8	レジュメの書き方	レジュメ (配付資料) の書き方を学ぶ・練習	これまでの復習
9	【課題2】レジュメ作成	ディスカッションの経過をレジュメにまとめる	資料作成の準備
10	プレゼンテーション1 (説明・準備) 課題2のフィードバック	・プレゼンテーションの説明 ・課題②のフィードバックを元にグループレジュメ作成	発表の準備
11	プレゼンテーション2 (準備)	プレゼンテーションの準備 ・読み原稿を作成 ・リハーサルを行う	発表の準備
12	プレゼンテーション3 (本番1)	資料を用いて、プレゼンテーションを行う・聴く	発表の見直し・質疑応答の確かめ・自己評価表提出
13	プレゼンテーション4 (本番2)	資料を用いて、プレゼンテーションを行う・聴く	発表の見直し・質疑応答の確かめ・自己評価表・レポート (報告文) の準備
14	【課題3】報告文	プレゼンテーションの内容をレポート (報告文) にまとめる	レポートの復習
15	課題3の総評 小テストの復習テスト	課題3のフィードバック 小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	ゼミ、卒業研究など
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題3回 (20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格。 グループワークの欠席はやむを得ない場合のみ認める。 コピーアンドペースト (いわゆるコピペ) は禁止。
-----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語 (話し言葉) と、レポートなどで書く日本語 (書き言葉) を区別する必要があります。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、自分が何気なく使っている言葉に向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	総学習時間の目安は15時間。 教員との連絡方法 (メール等) については授業中に指示します。
----	---

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1823a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な文章力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い、まとめた内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーションなどの課題に取り組む。 フィードバックは、授業内で行う。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	レポートの書き方 (2)	資料引用の復習 (文章の引用) 考察・意見の述べ方を確認する	1時間の事前事後学習を目安とする。
3	レポートの書き方 (3)	資料引用の復習 (図表の引用)	1時間の事前事後学習を目安とする。
4	【課題1】レポート	資料を引用して意見を述べる文章を書く	1時間の事前事後学習を目安とする。
5	課題1のフィードバック ディスカッションの準備	課題1のフィードバック ディスカッション資料の要約や問題点の整理を行う。	ディスカッションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
6	ディスカッション (1)	グループ分けをしてディスカッションを行う	ディスカッションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
7	ディスカッション (2)	グループでディスカッションを行う	ディスカッションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
8	課題2 中間報告文	ディスカッションした内容を報告文にまとめる。	報告文の準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
9	フィードバック レジュメの作成	報告文のフィードバック レジュメの作成を行なう	1時間の事前事後学習を目安とする。
10	リハーサル	グループごとにリハーサルを行う	1時間の事前事後学習を目安とする。
11	プレゼンテーション (1)	グループ単位でプレゼンテーションを行う	1時間の事前事後学習を目安とする。
12	プレゼンテーション (2)	グループ単位でプレゼンテーションを行う	1時間の事前事後学習を目安とする。
13	課題3報告文	発表内容を報告文にまとめる	1時間の事前事後学習を目安とする。
14	課題3のフィードバック メールの書き方	課題3のフィードバック メールの書き方の練習	1時間の事前事後学習を目安とする。
15	【復習テスト】	小テストの復習テスト	1時間の事前事後学習を目安とする。小テストの復習

関連科目 すべての授業の日本語による課題作成

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 課題3回 (20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。

学生へのメッセージ 日常会話で使っている日本語 (話し言葉) と、レポートなどで書く日本語 (書き言葉) は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語 (話し言葉、書き言葉) と向き合ってください。

担当者の研究室等 非常勤講師室

備考 事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
教員との連絡方法 (メール等) については授業中に指示する。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	人形寺 英利子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1823a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。考えや経験のまとめ方、他人に読んでもらう文章の書き方、他人に納得してもらう話し方などについて学び、実践する。
到達目標	適切な表現を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い、発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を身につけた上で、ディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。グループワークを通して、論理的に話し合う力を養う。 後半はグループワークが主となるため、出席し、能動的に参加することが必要である。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
科目学習の効果 (資格)	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	レポートの書き方の復習
3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と方法を学ぶ	敬語の復習プリント
5	ディスカッション1 (準備) 課題1のフィードバック	・ディスカッションの資料配付・事前準備 ・課題1の復習	テーマの下調べ 課題1を見直す
6	ディスカッション2 (説明)	・グループ分けとディスカッションの説明・資料配付 ・事前準備・練習	テーマの下調べ
7	ディスカッション3 (実践)	・グループでディスカッションを行う ・ディスカッションの報告文を書く	足りない資料を探す
8	レジュメの書き方	レジュメ (配付資料) の書き方を学ぶ・練習	これまでの復習
9	【課題2】レジュメ作成	ディスカッションの経過をレジュメにまとめる	資料作成の準備
10	プレゼンテーション1 (説明・準備) 課題2のフィードバック	・プレゼンテーションの説明 ・課題②のフィードバックを元にグループレジュメ作成	発表の準備
11	プレゼンテーション2 (準備)	プレゼンテーションの準備 ・読み原稿を作成 ・リハーサルを行う	発表の準備
12	プレゼンテーション3 (本番1)	資料を用いて、プレゼンテーションを行う・聴く	発表の見直し・質疑応答の確かめ・自己評価表提出
13	プレゼンテーション4 (本番2)	資料を用いて、プレゼンテーションを行う・聴く	発表の見直し・質疑応答の確かめ・自己評価表・レポート (報告文) の準備
14	【課題3】報告文	プレゼンテーションの内容をレポート (報告文) にまとめる	レポートの復習
15	課題3の総評 小テストの復習テスト	課題3のフィードバック 小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	ゼミ、卒業研究など
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題3回 (20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格。 グループワークの欠席はやむを得ない場合のみ認める。 コピーアンドペースト (いわゆるコピペ) は禁止。
-----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語 (話し言葉) と、レポートなどで書く日本語 (書き言葉) を区別する必要があります。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、自分が何気なく使っている言葉に向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	総学習時間の目安は15時間。 教員との連絡方法 (メール等) については授業中に指示します。
----	---

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1823a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらおうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。D評価は再提出。3回の課題提出、あるいは再提出は単位取得の必須条件。 語彙力・表現力を養成する小テストを行う。フィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 導入	授業の目的、進め方の説明	———
2	レポートの書き方1	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する 小テスト1	前回の復習
3	レポートの書き方2	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する 小テスト2	前回の復習
4	【課題1】レポート 資料を引用して、意見を述べる	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
5	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	敬語の復習
6	課題1 フィードバック 8回目以後の授業の説明 ディスカッション準備	課題1のフィードバック ディスカッションの前に個人の意見をまとめる 小テスト3	ディスカッションの準備テーマの下調べ 課題1を見直す
7	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う 小テスト4	ディスカッションの復習と予習
8	ディスカッション2	ディスカッションを行う 小テスト5	ディスカッションの復習と予習
9	課題2 ディスカッションの 報告文1	ディスカッションの報告文を作成する 小テスト6	報告文の準備
10	プレゼンテーション準備	プレゼンテーションの資料作成 小テスト7	プレゼンテーション資料の準備
11	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	プレゼンテーションの準備
12	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	プレゼンテーションの準備
13	【課題3】報告文2	グループワークの報告文を作成する	グループワークの復習 グループワーク報告文の準備
14	メールの書き方	メールの書き方やマナーを学ぶ	メールの書き方の復習
15	小テストの復習テスト	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目 すべての授業の日本語による課題作成

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 課題 (20%、20%、30%)、授業への取り組み姿勢・小テスト・復習テスト (30%) により評価する。
課題提出と課題D評価の再提出は単位取得の必須条件となる。

学生へのメッセージ 日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のために、真面目に日本語と向き合ってください。

担当者の研究室等 7号館2階 (非常勤講師室)

備考 事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	八島 由香
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切かなどについて、実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	授業にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。はじめのうちは教科書に沿って授業を進めるため、教科書を持参すること。また、事前・事後学習課題を確認し、毎回しっかりと取り組むこと。 第2～10回の授業内で、語彙力を養成する小テストを行う。テストに関するプリントは、初回に配布する。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 文章の書き方	本授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項、わかりやすい文章の書き方などを確認する。	事前課題：シラバスを確認し、教科書の第1～4回に目を通す。 事後課題：授業内容の復習をする。
2	論説文の書き方	論説文を書くための構成や引用などを確認する。 ※小テスト①の実施	事前課題：教科書の第5～10回に目を通す。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容の復習をする。
3	論説文を書く【課題①】	資料を引用して意見を述べる文章を書く(第4回までに提出) ※小テスト②の実施	事前課題：本授業、第1・2回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。課題に取り組む。
4	ディスカッションとは	ディスカッションの方法を学ぶ 本授業におけるディスカッションのやり方、【課題②】・【課題③】に関する説明 ※小テスト③の実施	事前課題：小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。
5	ディスカッション 1 【課題①】フィードバック	グループディスカッションを行う 【課題①】の見直しをする ※小テスト④の実施	事前課題：ディスカッションの準備をする。小テストに向けた学習をする。 事後課題：ディスカッションの内容をまとめておく。返却された課題・小テストの復習をする。
6	ディスカッション 2	グループディスカッションを行う ※小テスト⑤の実施	事前課題：ディスカッションの準備をする。小テストに向けた学習をする。 事後課題：ディスカッションの内容をまとめておく。返却された小テストの復習をする。
7	ディスカッション 3	グループディスカッションを行う ※小テスト⑥の実施	事前課題：ディスカッションの準備をする。小テストに向けた学習をする。 事後課題：ディスカッションの内容をまとめておく。返却された小テストの復習をする。
8	ディスカッションの報告【課題②】	グループディスカッションの報告文を書く(第8回に提出) ※小テスト⑦の実施	事前課題：自分のグループのディスカッションの内容を振り返っておく。 事後課題：返却された小テストの復習をする。
9	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの方法を学ぶ 本授業におけるプレゼンテーションのやり方、資料作成に関する説明 ※小テスト⑧の実施	事前課題：小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。
10	プレゼンテーション資料の作成 【課題②】フィードバック	プレゼンテーション資料の作成をする 【課題②】の見直しをする ※小テスト⑨の実施	事前課題：プレゼンテーション資料の作成方法を確認する。小テストに向けた学習をする。 事後課題：プレゼンテーション資料を完成させる。返却された課題・小テストの復習をする。
11	プレゼンテーション 1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	事前課題：発表グループは、プレゼンテーションの準備をする。 事後課題：発表グループは、プレゼンテーションの内容をまとめておく。返却された小テストの復習をする。
12	プレゼンテーション 2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	事前課題：発表グループは、プレゼンテーションの準備をする。 事後課題：発表グループは、プレゼンテーションの内容をまとめておく。
13	プレゼンテーション 3	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	事前課題：発表グループは、プレゼンテーションの準備をする。 事後課題：発表グループは、プレゼンテーションの内容をまとめておく。
14	プレゼンテーションの報告【課題③】	プレゼンテーションの内容を文章化する(第14回に提出)	事前課題：自分のグループのプレゼンテーションの内容を見返しておく。 事後課題：今までの授業内容を振り返る。
15	【課題③】フィードバック	【課題②】の見直しをする 授業を振り返る	事前課題：今までの授業内容を振り返る。 事後課題：授業内容・返却された課題の復習をする。

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名

	1	大学生の日本語文章表現	(摂南大学教育イノベーションセンター編)	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。			
学生への メッセージ	事前・事後学習や課題が多く、そのうえ小テストも実施される、非常に大変な授業です。けれども、しっかりと取り組めば、ディスカッションやプレゼンテーションのスキルが身につくはず。積極的に授業に臨んでください。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	事前・事後学習課題には、しっかりと取り組むこと。なお、事前・事後学習課題の総時間の目安は、15時間である。 提出された課題へのフィードバックは、授業内で行う。			

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	八島 由香
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切かなどについて、実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	授業にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。はじめのうちは教科書に沿って授業を進めるため、教科書を持参すること。また、事前・事後学習課題を確認し、毎回しっかりと取り組むこと。 第2～10回の授業内で、語彙力を養成する小テストを行う。テストに関するプリントは、初回に配布する。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前課題	事後課題
1	ガイダンス 文章の書き方	本授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項、わかりやすい文章の書き方などを確認する。	事前課題：シラバスを確認し、教科書の第1～4回に目を通す。	事後課題：授業内容の復習をする。
2	論説文の書き方	論説文を書くための構成や引用などを確認する。 ※小テスト①の実施	事前課題：教科書の第5～10回に目を通す。小テストに向けた学習をする。	事後課題：授業内容の復習をする。
3	論説文を書く【課題①】	資料を引用して意見を述べる文章を書く(第4回までに提出) ※小テスト②の実施	事前課題：本授業、第1・2回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。	事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。課題に取り組む。
4	ディスカッションとは	ディスカッションの方法を学ぶ 本授業におけるディスカッションのやり方、【課題②】・【課題③】に関する説明 ※小テスト③の実施	事前課題：小テストに向けた学習をする。	事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。
5	ディスカッション 1 【課題①】 フィードバック	グループディスカッションを行う 【課題①】の見直しをする ※小テスト④の実施	事前課題：ディスカッションの準備をする。小テストに向けた学習をする。	事後課題：ディスカッションの内容をまとめておく。返却された課題・小テストの復習をする。
6	ディスカッション 2	グループディスカッションを行う ※小テスト⑤の実施	事前課題：ディスカッションの準備をする。小テストに向けた学習をする。	事後課題：ディスカッションの内容をまとめておく。返却された小テストの復習をする。
7	ディスカッション 3	グループディスカッションを行う ※小テスト⑥の実施	事前課題：ディスカッションの準備をする。小テストに向けた学習をする。	事後課題：ディスカッションの内容をまとめておく。返却された小テストの復習をする。
8	ディスカッションの報告【課題②】	グループディスカッションの報告文を書く(第8回に提出) ※小テスト⑦の実施	事前課題：自分のグループのディスカッションの内容を振り返っておく。	事後課題：返却された小テストの復習をする。
9	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの方法を学ぶ 本授業におけるプレゼンテーションのやり方、資料作成に関する説明 ※小テスト⑧の実施	事前課題：小テストに向けた学習をする。	事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。
10	プレゼンテーション資料の作成 【課題②】 フィードバック	プレゼンテーション資料の作成をする 【課題②】の見直しをする ※小テスト⑨の実施	事前課題：プレゼンテーション資料の作成方法を確認する。小テストに向けた学習をする。	事後課題：プレゼンテーション資料を完成させる。返却された課題・小テストの復習をする。
11	プレゼンテーション 1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	事前課題：発表グループは、プレゼンテーションの準備をする。	事後課題：発表グループは、プレゼンテーションの内容をまとめておく。返却された小テストの復習をする。
12	プレゼンテーション 2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	事前課題：発表グループは、プレゼンテーションの準備をする。	事後課題：発表グループは、プレゼンテーションの内容をまとめておく。
13	プレゼンテーション 3	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	事前課題：発表グループは、プレゼンテーションの準備をする。	事後課題：発表グループは、プレゼンテーションの内容をまとめておく。
14	プレゼンテーションの報告【課題③】	プレゼンテーションの内容を文章化する(第14回に提出)	事前課題：自分のグループのプレゼンテーションの内容を見返しておく。	事後課題：今までの授業内容を振り返る。
15	【課題③】 フィードバック	【課題②】の見直しをする 授業を振り返る	事前課題：今までの授業内容を振り返る。	事後課題：授業内容・返却された課題の復習をする。

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	大学生の日本語文章表現	(摂南大学教育イノベーションセンター編)	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。			
学生への メッセージ	事前・事後学習や課題が多く、そのうえ小テストも実施される、非常に大変な授業です。けれども、しっかりと取り組めば、ディスカッションやプレゼンテーションのスキルが身につくはず。積極的に授業に臨んでください。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	事前・事後学習課題には、しっかりと取り組むこと。なお、事前・事後学習課題の総時間の目安は、15時間である。 提出された課題へのフィードバックは、授業内で行う。			

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	LMA1825a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報やデータを取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。データサイエンスに関するエントリーレベルの知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40% を学ぶ。データサイエンスのエントリーレベルの知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境 コンピュータの基礎 関連資格の紹介 データサイエンス	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 e-learning の方法	事前：シラバスの確認 (30 分) 事後：大学の ICT 環境の確認 (60 分)
2	データサイエンスとは 【Word】 Word の基礎スキル	1 データサイエンスとは (イントロ) 文書の新規作成と保存 表示モード・倍率の変更 Window の分割と利用 文字列の削除、コピー、貼付け 文字列の書式設定 段落の書式設定 文書の書式 (テーマ等) 文字列の検索、編集記号の表示、隠し文字	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 1 回 (60 分) 視聴・テスト
3	社会で起きている変化 【Word】 文書の管理 文字、段落の挿入と書式設定	2 社会で起きている変化 (イントロ) 文書のページ設定を行う スタイルセットを適用する ヘッダーやフッターを挿入する、変更する 印刷の設定を変更する 記号や特殊文字を挿入する 文字列を検索する、置換する 文字の効果を適用する 行間、段落間隔、インデントを設定する 書式のコピー/貼付け	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 2 回 (60 分) 視聴・テスト
4	社会で活用されてるデータ 【Word】 セクションの挿入と設定 表やリストの作成と設定	3 社会で活用されているデータ (イントロ) ページ区切りを挿入する 段組みを設定する セクション区切りを設定する 行や列を指定して表を作成する 表のデータを並べ替える セルの余白と間隔を設定する セルを結合する、分割する 列の幅を設定する 箇条書きや段落番号を設定する リストのレベルを変更する 開始する番号の値を設定する	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 3 回 (60 分) 視聴・テスト
5	データ・AI の活用領域 【Word】 グラフィック要素の挿入と書式	4 データ・AI の活用領域 (イントロ) 図形を挿入する 図を挿入する テキストボックスを挿入する SmartArt グラフィックを挿入する 3D モデルを挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスにテキストを追加・変更する 図形にテキストを追加・変更する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 4 回 (60 分) 視聴・テスト
6	【Word】 テスト課題演習	Word 演習テスト	事前：Word の復習 事後：Word の振り返り (30 分)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：PowerPoint の機能を調べる (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (60 分)

8	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備（60分） 事後：PowerPoint 機能の振り返り（30分）
9	データ・AI 利活用のための 技術 【Excel】 Excel の基礎スキル	5 データ・AI 利活用のための技術（イントロ） ブックの作成とテーマの適用 表示倍率の設定 データの移動、コピー、検索、置換 列や行の挿入、削除、コピー、表示設定 ワークシートの編集（追加、削除、移動、コピー、名称、見出し色） ブック内のデータを検索する ページ設定を変更する 行の高さや列の幅を調整する	事前：授業内容の確認（10分） 事後：演習課題の完成・提出（20分） E-第5回（60分）視聴・テスト
10	【Excel】 ワークシートやブックの管理 シート上のデータを操作する	ブックの表示を変更する ワークシートの行や列を固定する 印刷設定を行う 印刷範囲を設定する オートフィル機能でセルにデータを入力する 形式を選択してデータを貼り付ける 複数の列や行を挿入する、削除する セルを挿入する、削除する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
11	【Excel】 セルやセル範囲の表示と操作 データを視覚的にまとめる	セルの配置、文字の方向、インデントの変更 セル内のテキストを折り返して表示する セルを結合する、セルの結合を解除する 数値の書式を適用する 書式のコピー/貼り付け スパークラインを挿入する 組み込みの条件付き書式を適用する 条件付き書式を削除する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
12	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	セルの相対参照、絶対参照、複合参照 SUM、AVERAGE、MAX、MIN 関数の利用 COUNT、COUNTA、COUNTBLANK 関数の利用 IF 関数を使用して条件付きの計算を実行する RIGHT、LEFT、MID 関数の利用 UPPER、LOWER 関数の利用 CONCAT 関数の利用	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
13	【Excel】 グラフの管理	グラフの種類と用途 グラフを作成する ソースデータの行と列を切り替える グラフにデータ範囲（系列）を追加する グラフの要素を追加する、変更する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
14	【Excel】 テスト課題演習	Excel 演習テスト	事前：Excel の復習（60分）
15	データサイエンス・AI 演習	9 データを読む（1） データの代表値 データのばらつき 10 データを読む（2） 相関と因果 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前：E-第9回（60分）視聴・テスト E-第10回（60分）視聴・テスト

関連科目

情報リテラシーII

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1913)	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1912)	富士通 FOM	FOM 出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準） 授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、プレゼンテーション（10%）、e-learning(10%)を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。

学生へのメッセージ 使いこなすには多くの練習時間が必要ですが、多くの先輩が受講の後に独学でMOS（Microsoft Office Specialist：マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格しています。就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。疑問は放置せず何でも質問してください。

担当者の 非常勤講師室（7号館2階）

研究室等	
備考	授業時間外における質問は Teams チャット または学内メールで対応します。即日の返信が無理な場合でもできるだけ迅速な対応を心がけます。必修演習課題の点数はメールにて連絡を行う予定をしています。

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	LMA1825a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報やデータを取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。データサイエンスに関するエントリーレベルの知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40% を学ぶ。データサイエンスのエントリーレベルの知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境 コンピュータの基礎 関連資格の紹介 データサイエンス	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 e-learning の方法	事前：シラバスの確認 (30 分) 事後：大学の ICT 環境の確認 (60 分)
2	データサイエンスとは 【Word】 Word の基礎スキル	1 データサイエンスとは (イントロ) 文書の新規作成と保存 表示モード・倍率の変更 Window の分割と利用 文字列の削除、コピー、貼付け 文字列の書式設定 段落の書式設定 文書の書式 (テーマ等) 文字列の検索、編集記号の表示、隠し文字	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 1 回 (60 分) 視聴・テスト
3	社会で起きている変化 【Word】 文書の管理 文字、段落の挿入と書式設定	2 社会で起きている変化 (イントロ) 文書のページ設定を行う スタイルセットを適用する ヘッダーやフッターを挿入する、変更する 印刷の設定を変更する 記号や特殊文字を挿入する 文字列を検索する、置換する 文字の効果を適用する 行間、段落間隔、インデントを設定する 書式のコピー/貼付け	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 2 回 (60 分) 視聴・テスト
4	社会で活用されてるデータ 【Word】 セクションの挿入と設定 表やリストの作成と設定	3 社会で活用されているデータ (イントロ) ページ区切りを挿入する 段組みを設定する セクション区切りを設定する 行や列を指定して表を作成する 表のデータを並べ替える セルの余白と間隔を設定する セルを結合する、分割する 列の幅を設定する 箇条書きや段落番号を設定する リストのレベルを変更する 開始する番号の値を設定する	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 3 回 (60 分) 視聴・テスト
5	データ・AI の活用領域 【Word】 グラフィック要素の挿入と書式	4 データ・AI の活用領域 (イントロ) 図形を挿入する 図を挿入する テキストボックスを挿入する SmartArt グラフィックを挿入する 3D モデルを挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスにテキストを追加・変更する 図形にテキストを追加・変更する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 4 回 (60 分) 視聴・テスト
6	【Word】 テスト課題演習	Word 演習テスト	事前：Word の復習 事後：Word の振り返り (30 分)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：PowerPoint の機能を調べる (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (60 分)

8	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備（60分） 事後：PowerPoint 機能の振り返り（30分）
9	データ・AI 利活用のための 技術 【Excel】 Excel の基礎スキル	5 データ・AI 利活用のための技術（イントロ） ブックの作成とテーマの適用 表示倍率の設定 データの移動、コピー、検索、置換 列や行の挿入、削除、コピー、表示設定 ワークシートの編集（追加、削除、移動、コピー、名称、見出し色） ブック内のデータを検索する ページ設定を変更する 行の高さや列の幅を調整する	事前：授業内容の確認（10分） 事後：演習課題の完成・提出（20分） E-第5回（60分）視聴・テスト
10	【Excel】 ワークシートやブックの管理 シート上のデータを操作する	ブックの表示を変更する ワークシートの行や列を固定する 印刷設定を行う 印刷範囲を設定する オートフィル機能でセルにデータを入力する 形式を選択してデータを貼り付ける 複数の列や行を挿入する、削除する セルを挿入する、削除する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
11	【Excel】 セルやセル範囲の表示と操作 データを視覚的にまとめる	セルの配置、文字の方向、インデントの変更 セル内のテキストを折り返して表示する セルを結合する、セルの結合を解除する 数値の書式を適用する 書式のコピー/貼り付け スパークラインを挿入する 組み込みの条件付き書式を適用する 条件付き書式を削除する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
12	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	セルの相対参照、絶対参照、複合参照 SUM、AVERAGE、MAX、MIN 関数の利用 COUNT、COUNTA、COUNTBLANK 関数の利用 IF 関数を使用して条件付きの計算を実行する RIGHT、LEFT、MID 関数の利用 UPPER、LOWER 関数の利用 CONCAT 関数の利用	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
13	【Excel】 グラフの管理	グラフの種類と用途 グラフを作成する ソースデータの行と列を切り替える グラフにデータ範囲（系列）を追加する グラフの要素を追加する、変更する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
14	【Excel】 テスト課題演習	Excel 演習テスト	事前：Excel の復習（60分）
15	データサイエンス・AI 演習	9 データを読む（1） データの代表値 データのばらつき 10 データを読む（2） 相関と因果 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前：E-第9回（60分）視聴・テスト E-第10回（60分）視聴・テスト

関連科目

情報リテラシーII

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1913)	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1912)	富士通 FOM	FOM 出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準） 授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、プレゼンテーション（10%）、e-learning(10%)を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。

学生へのメッセージ 使いこなすには多くの練習時間が必要ですが、多くの先輩が受講の後に独学でMOS（Microsoft Office Specialist：マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格しています。就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。疑問は放置せず何でも質問してください。

担当者の 非常勤講師室（7号館2階）

研究室等	
備考	授業時間外での質問等： 本講義は Microsoft Office を活用します。スムーズな質疑応答ができる Microsoft Teams のチャット機能にて問い合わせください。 課題等のフィードバック： 講義の当日、あるいは次回の講義内で解説する予定です。

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	LMA1825a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報やデータを取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。データサイエンスに関するエントリーレベルの知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。データサイエンスのエントリーレベルの知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境 コンピュータの基礎 関連資格の紹介 データサイエンス	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 e-learning の方法	事前：シラバスの確認 (30 分) 事後：大学の ICT 環境の確認 (60 分)
2	データサイエンスとは 【Word】 Word の基礎スキル	1 データサイエンスとは (イントロ) 文書の新規作成と保存 表示モード・倍率の変更 Window の分割と利用 文字列の削除、コピー、貼付け 文字列の書式設定 段落の書式設定 文書の書式 (テーマ等) 文字列の検索、編集記号の表示、隠し文字	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 1 回 (60 分) 視聴・テスト
3	社会で起きている変化 【Word】 文書の管理 文字、段落の挿入と書式設定	2 社会で起きている変化 (イントロ) 文書のページ設定を行う スタイルセットを適用する ヘッダーやフッターを挿入する、変更する 印刷の設定を変更する 記号や特殊文字を挿入する 文字列を検索する、置換する 文字の効果を適用する 行間、段落間隔、インデントを設定する 書式のコピー/貼付け	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 2 回 (60 分) 視聴・テスト
4	社会で活用されてるデータ 【Word】 セクションの挿入と設定 表やリストの作成と設定	3 社会で活用されているデータ (イントロ) ページ区切りを挿入する 段組みを設定する セクション区切りを設定する 行や列を指定して表を作成する 表のデータを並べ替える セルの余白と間隔を設定する セルを結合する、分割する 列の幅を設定する 箇条書きや段落番号を設定する リストのレベルを変更する 開始する番号の値を設定する	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 3 回 (60 分) 視聴・テスト
5	データ・AI の活用領域 【Word】 グラフィック要素の挿入と書式	4 データ・AI の活用領域 (イントロ) 図形を挿入する 図を挿入する テキストボックスを挿入する SmartArt グラフィックを挿入する 3D モデルを挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスにテキストを追加・変更する 図形にテキストを追加・変更する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 4 回 (60 分) 視聴・テスト
6	【Word】 テスト課題演習	Word 演習テスト	事前：Word の復習 事後：Word の振り返り (30 分)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：PowerPoint の機能を調べる (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (60 分)

8	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備（60分） 事後：PowerPoint 機能の振り返り（30分）
9	データ・AI 利活用のための 技術 【Excel】 Excel の基礎スキル	5 データ・AI 利活用のための技術（イントロ） ブックの作成とテーマの適用 表示倍率の設定 データの移動、コピー、検索、置換 列や行の挿入、削除、コピー、表示設定 ワークシートの編集（追加、削除、移動、コピー、名称、見出し色） ブック内のデータを検索する ページ設定を変更する 行の高さや列の幅を調整する	事前：授業内容の確認（10分） 事後：演習課題の完成・提出（20分） E-第5回（60分）視聴・テスト
10	【Excel】 ワークシートやブックの管理 シート上のデータを操作する	ブックの表示を変更する ワークシートの行や列を固定する 印刷設定を行う 印刷範囲を設定する オートフィル機能でセルにデータを入力する 形式を選択してデータを貼り付ける 複数の列や行を挿入する、削除する セルを挿入する、削除する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
11	【Excel】 セルやセル範囲の表示と操作 データを視覚的にまとめる	セルの配置、文字の方向、インデントの変更 セル内のテキストを折り返して表示する セルを結合する、セルの結合を解除する 数値の書式を適用する 書式のコピー/貼り付け スパークラインを挿入する 組み込みの条件付き書式を適用する 条件付き書式を削除する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
12	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	セルの相対参照、絶対参照、複合参照 SUM、AVERAGE、MAX、MIN 関数の利用 COUNT、COUNTA、COUNTBLANK 関数の利用 IF 関数を使用して条件付きの計算を実行する RIGHT、LEFT、MID 関数の利用 UPPER、LOWER 関数の利用 CONCAT 関数の利用	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
13	【Excel】 グラフの管理	グラフの種類と用途 グラフを作成する ソースデータの行と列を切り替える グラフにデータ範囲（系列）を追加する グラフの要素を追加する、変更する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
14	【Excel】 テスト課題演習	Excel 演習テスト	事前：Excel の復習（60分）
15	データサイエンス・AI 演習	9 データを読む（1） データの代表値 データのばらつき 10 データを読む（2） 相関と因果 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前：E-第9回（60分）視聴・テスト E-第10回（60分）視聴・テスト

関連科目

情報リテラシーII

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1913)	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1912)	富士通 FOM	FOM 出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準） 授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、プレゼンテーション（10%）、e-learning(10%)を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。

学生へのメッセージ 使いこなすには多くの練習時間が必要ですが、多くの先輩が受講の後に独学でMOS（Microsoft Office Specialist：マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格しています。就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。疑問は放置せず何でも質問してください。

担当者の 非常勤講師室（7号館2階）

研究室等	
備考	授業時間外における質問は Teams チャット または学内メールで対応します。即日の返信が無理な場合でもできるだけ迅速な対応を心がけます。必修演習課題の点数はメールにて連絡を行う予定をしています。

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	LMA1825a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報やデータを取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。データサイエンスに関するエントリーレベルの知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。データサイエンスのエントリーレベルの知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境 コンピュータの基礎 関連資格の紹介 データサイエンス	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 e-learning の方法	事前：シラバスの確認 (30 分) 事後：大学の ICT 環境の確認 (60 分)
2	データサイエンスとは 【Word】 Word の基礎スキル	1 データサイエンスとは (イントロ) 文書の新規作成と保存 表示モード・倍率の変更 Window の分割と利用 文字列の削除、コピー、貼付け 文字列の書式設定 段落の書式設定 文書の書式 (テーマ等) 文字列の検索、編集記号の表示、隠し文字	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 1 回 (60 分) 視聴・テスト
3	社会で起きている変化 【Word】 文書の管理 文字、段落の挿入と書式設定	2 社会で起きている変化 (イントロ) 文書のページ設定を行う スタイルセットを適用する ヘッダーやフッターを挿入する、変更する 印刷の設定を変更する 記号や特殊文字を挿入する 文字列を検索する、置換する 文字の効果を適用する 行間、段落間隔、インデントを設定する 書式のコピー/貼付け	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 2 回 (60 分) 視聴・テスト
4	社会で活用されてるデータ 【Word】 セクションの挿入と設定 表やリストの作成と設定	3 社会で活用されているデータ (イントロ) ページ区切りを挿入する 段組みを設定する セクション区切りを設定する 行や列を指定して表を作成する 表のデータを並べ替える セルの余白と間隔を設定する セルを結合する、分割する 列の幅を設定する 箇条書きや段落番号を設定する リストのレベルを変更する 開始する番号の値を設定する	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 3 回 (60 分) 視聴・テスト
5	データ・AI の活用領域 【Word】 グラフィック要素の挿入と書式	4 データ・AI の活用領域 (イントロ) 図形を挿入する 図を挿入する テキストボックスを挿入する SmartArt グラフィックを挿入する 3D モデルを挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスにテキストを追加・変更する 図形にテキストを追加・変更する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 4 回 (60 分) 視聴・テスト
6	【Word】 テスト課題演習	Word 演習テスト	事前：Word の復習 事後：Word の振り返り (30 分)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：PowerPoint の機能を調べる (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (60 分)

	8	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備（60分） 事後：PowerPoint 機能の振り返り（30分）
	9	データ・AI 利活用のための 技術 【Excel】 Excel の基礎スキル	5 データ・AI 利活用のための技術（イントロ） ブックの作成とテーマの適用 表示倍率の設定 データの移動、コピー、検索、置換 列や行の挿入、削除、コピー、表示設定 ワークシートの編集（追加、削除、移動、コピー、名称、見出し色） ブック内のデータを検索する ページ設定を変更する 行の高さや列の幅を調整する	事前：授業内容の確認（10分） 事後：演習課題の完成・提出（20分） E-第5回（60分）視聴・テスト
	10	【Excel】 ワークシートやブックの管理 シート上のデータを操作する	ブックの表示を変更する ワークシートの行や列を固定する 印刷設定を行う 印刷範囲を設定する オートフィル機能でセルにデータを入力する 形式を選択してデータを貼り付ける 複数の列や行を挿入する、削除する セルを挿入する、削除する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
	11	【Excel】 セルやセル範囲の表示と操作 データを視覚的にまとめる	セルの配置、文字の方向、インデントの変更 セル内のテキストを折り返して表示する セルを結合する、セルの結合を解除する 数値の書式を適用する 書式のコピー/貼り付け スパークラインを挿入する 組み込みの条件付き書式を適用する 条件付き書式を削除する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
	12	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	セルの相対参照、絶対参照、複合参照 SUM、AVERAGE、MAX、MIN 関数の利用 COUNT、COUNTA、COUNTBLANK 関数の利用 IF 関数を使用して条件付きの計算を実行する RIGHT、LEFT、MID 関数の利用 UPPER、LOWER 関数の利用 CONCAT 関数の利用	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
	13	【Excel】 グラフの管理	グラフの種類と用途 グラフを作成する ソースデータの行と列を切り替える グラフにデータ範囲（系列）を追加する グラフの要素を追加する、変更する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
	14	【Excel】 テスト課題演習	Excel 演習テスト	事前：Excel の復習（60分）
	15	データサイエンス・AI 演習	9 データを読む（1） データの代表値 データのばらつき 10 データを読む（2） 相関と因果 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前：E-第9回（60分）視聴・テスト E-第10回（60分）視聴・テスト

関連科目

情報リテラシーII

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1913)	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1912)	富士通 FOM	FOM 出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準） 授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、プレゼンテーション（10%）、e-learning(10%)を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。

学生へのメッセージ 使いこなすには多くの練習時間が必要ですが、多くの先輩が受講の後に独学でMOS（Microsoft Office Specialist：マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格しています。就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。疑問は放置せず何でも質問してください。

担当者の 非常勤講師室（7号館2階）

研究室等	
備考	授業時間外での質問等： 本講義は Microsoft Office を活用します。スムーズな質疑応答ができる Microsoft Teams のチャット機能にて問い合わせください。 課題等のフィードバック： 講義の当日、あるいは次回の講義内で解説する予定です。

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	LMA1826a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成およびデータの取り扱いを行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できること。情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の応用的な使い方と、それらの連携作業を実施できるようになること。 データサイエンスの次ステップにつながる知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。 データサイエンスの基礎的な知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションと復習	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル Word と Excel の連携	事前：情報リテラシーⅠの復習(50分) 事後：演習課題の完成・提出(40分)
2	データ活用とは 【Word 応用】 効率的な文書の作成と管理 文書の共有と検査	6 データ活用とは (イントロ) 文書内の他の場所にリンクする 文書内の特定の場所やオブジェクトに移動する ページの背景要素を設定する 別のファイル形式で文書を保存する 基本的な文書プロパティを変更する ページの背景色を印刷する 電子文書を共有する 文書を検査する	事前：授業テーマの予習(10分) 事後：演習課題の完成・提出(20分) E-第6回(60分)視聴・テスト
3	データ・AI 利活用の現場 【Word 応用】 表やリストの変換と調整	7 データ・AI 利活用の現場 (イントロ) 文字列に組み込みスタイルを適用する 書式をクリアする 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表全体のサイズを設定する 表を分割する タイトル行の繰返しを設定する 新しい行頭文字や番号書式を定義する アウトラインレベルに応じた番号書式を設定する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習(10分) 事後：演習課題の完成・提出(20分) E-第7回(60分)視聴・テスト
4	データ・AI 利活用の最新動向 【Word 応用】 参考資料の作成と管理	8 データ・AI 利活用の最新動向 (イントロ) 脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する、変更する 引用文献を挿入する 参考文献一覧を挿入する 目次を挿入する ユーザー設定の目次を作成する	事前：授業テーマの予習(10分) 事後：演習課題の完成・提出(20分) E-第8回(60分)視聴・テスト
5	データ・AI を扱う上での留意事項(1) 【Word 応用】 グラフィック要素の変更と設定	13 データ・AI を扱う上での留意事項(1) (イントロ) アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果やスタイルを適用する グラフィック要素を書式設定する SmartArt グラフィックを書式設定する 3D モデルを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を追加する、変更する オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習(10分) 事後：演習課題の完成・提出(20分) E-第13回(60分)視聴・テスト
6	【Word 応用】 文書の共同作業の管理	コメントを追加する コメントを閲覧する コメントに返答する、対処する コメントを削除する 変更履歴を記録する、削除する 変更履歴を閲覧する 変更履歴を承諾する、元に戻す 変更履歴を設定する	事前：授業テーマの予習(60分) 事後：演習課題の完成・提出(30分)
7	【Word 応用】 テスト応用課題演習	Word 応用演習テスト	事前：Word の復習(90分)
8	データ・AI を扱う上での留意事項(2) 【Excel 応用】	14 データ・AI を扱う上での留意事項(2) (イントロ) 名前付き範囲を定義する	事前：授業テーマの予習(10分) 事後：演習課題の完成・提出(20分) E-第14回(60分)視聴・テスト

	名前の定義 テーブルとデータの管理	テーブルに名前を付ける セル範囲から Excel のテーブルを作成する テーブルにスタイルを適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルに行や列を追加する、削除する テーブルスタイルのオプションを設定する 集計行を挿入する、設定する 複数の列でデータを並べ替える レコードをフィルタする	
9	【Excel 応用】 数式における名前の利用 グラフの書式設定	数式の中で名前付き範囲やテーブル名を参照する LEN、RIGHT 関数を利用する TEXTJOIN 関数を利用する グラフシートを作成する グラフのレイアウトを適用する グラフのスタイルを適用する アクセシビリティ向上のため、グラフに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
10	データを説明する	11 データを説明する データを比較するためのグラフ 時間の推移を見せるためのグラフ データ相互の関係を示すためのグラフ データの偏りを示すためのグラフ データの比較 適切なグラフ表現 優れた可視化事例	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：E-第 11 回 (60 分) 視聴・テスト
11	データを扱う	12 データを扱う 売り上げを予測する 顧客層を分析する 顧客満足度を把握する 顧客の不満の要因を探る	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：E-第 12 回 (60 分) 視聴・テスト
12	データを守る上での留意事項とまとめ 【Excel 応用】 名前の利用と表示のカスタマイズ	15 データを守る上での留意事項とまとめ (イントロ) 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ヘッダーやフッターをカスタマイズする ウィンドウの表示を変更する ブックの基本的なプロパティを変更する 数式を表示する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 15 回 (60 分) 視聴・テスト
13	【Excel 応用】 共同作業のための設定 セルのスタイルや書式設定	別のファイル形式でブックを保存する ブック内の問題を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する テキストファイルからデータをインポートする .csv ファイルからデータをインポートする セル内文字方向の傾き設定 セルの書式設定ダイアログボックスから設定する セルのスタイルを適用する セルの書式設定をクリアする	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
14	【Word/Excel 応用】 アウトライン文書作成 Excel データの文書利用	スタイルの適用と設定 アウトラインの表示と利用 文書への Excel 表や Excel グラフの挿入と設定	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
15	【Excel 応用】 テスト応用課題演習	Excel 応用演習テスト	事前：出題範囲の復習 (90 分)

関連科目

情報リテラシー I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1913) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1912) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	授業中の実習課題 (40%)、模擬試験や総合課題などの演習 (40%)、e-learning(20%)を総合的に評価する。 この授業は演習中心のため、出席 (課題提出) が単位取得の必要条件となる。		
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要ですが、多くの先輩が受講の後に独学でMOS (Microsoft Office Specialist : マイクロソフト オフィス スペシャリスト) に合格しています。就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。疑問は放置せず何でも質問してください。		
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館 2階)		
備考	授業時間外の質問は Teams のメッセージ機能またはメールをお願いします。すぐに返信ができない場合がありますが、できるだけ早くご連絡するようにします。		

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	LMA1826a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成およびデータの取り扱いを行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できること。情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の応用的な使い方と、それらの連携作業を実施できるようになること。データサイエンスの次ステップにつながる知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。 データサイエンスの基礎的な知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションと復習	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル Word と Excel の連携	事前：情報リテラシーⅠの復習 (50 分) 事後：演習課題の完成・提出 (40 分)
2	データ活用とは 【Word 応用】 効率的な文書の作成と管理 文書の共有と検査	6 データ活用とは (イントロ) 文書内の他の場所にリンクする 文書内の特定の場所やオブジェクトに移動する ページの背景要素を設定する 別のファイル形式で文書を保存する 基本的な文書プロパティを変更する ページの背景色を印刷する 電子文書を共有する 文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 6 回 (60 分) 視聴・テスト
3	データ・AI 利活用の現場 【Word 応用】 表やリストの変換と調整	7 データ・AI 利活用の現場 (イントロ) 文字列に組み込みスタイルを適用する 書式をクリアする 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表全体のサイズを設定する 表を分割する タイトル行の繰返しを設定する 新しい行頭文字や番号書式を定義する アウトラインレベルに応じた番号書式を設定する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 7 回 (60 分) 視聴・テスト
4	データ・AI 利活用の最新動向 【Word 応用】 参考資料の作成と管理	8 データ・AI 利活用の最新動向 (イントロ) 脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する、変更する 引用文献を挿入する 参考文献一覧を挿入する 目次を挿入する ユーザー設定の目次を作成する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 8 回 (60 分) 視聴・テスト
5	データ・AI を扱う上での留意事項 (1) 【Word 応用】 グラフィック要素の変更と設定	13 データ・AI を扱う上での留意事項 (1) (イントロ) アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果やスタイルを適用する グラフィック要素を書式設定する SmartArt グラフィックを書式設定する 3D モデルを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を追加する、変更する オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 13 回 (60 分) 視聴・テスト
6	【Word 応用】 文書の共同作業の管理	コメントを追加する コメントを閲覧する コメントに返答する、対処する コメントを削除する 変更履歴を記録する、削除する 変更履歴を閲覧する 変更履歴を承諾する、元に戻す 変更履歴を設定する	事前：授業テーマの予習 (60 分) 事後：演習課題の完成・提出 (30 分)
7	【Word 応用】 テスト応用課題演習	Word 応用演習テスト	事前：Word の復習 (90 分)
8	データ・AI を扱う上での留意事項 (2) 【Excel 応用】	14 データ・AI を扱う上での留意事項 (2) (イントロ) 名前付き範囲を定義する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 14 回 (60 分) 視聴・テスト

	名前の定義 テーブルとデータの管理	テーブルに名前を付ける セル範囲から Excel のテーブルを作成する テーブルにスタイルを適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルに行や列を追加する、削除する テーブルスタイルのオプションを設定する 集計行を挿入する、設定する 複数の列でデータを並べ替える レコードをフィルタする	
9	【Excel 応用】 数式における名前の利用 グラフの書式設定	数式の中で名前付き範囲やテーブル名を参照する LEN、RIGHT 関数を利用する TEXTJOIN 関数を利用する グラフシートを作成する グラフのレイアウトを適用する グラフのスタイルを適用する アクセシビリティ向上のため、グラフに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
10	データを説明する	11 データを説明する データを比較するためのグラフ 時間の推移を見せるためのグラフ データ相互の関係を示すためのグラフ データの偏りを示すためのグラフ データの比較 適切なグラフ表現 優れた可視化事例	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：E-第 11 回 (60 分) 視聴・テスト
11	データを扱う	12 データを扱う 売り上げを予測する 顧客層を分析する 顧客満足度を把握する 顧客の不満の要因を探る	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：E-第 12 回 (60 分) 視聴・テスト
12	データを守る上での留意事項とまとめ 【Excel 応用】 名前の利用と表示のカスタマイズ	15 データを守る上での留意事項とまとめ (イントロ) 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ヘッダーやフッターをカスタマイズする ウィンドウの表示を変更する ブックの基本的なプロパティを変更する 数式を表示する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 15 回 (60 分) 視聴・テスト
13	【Excel 応用】 共同作業のための設定 セルのスタイルや書式設定	別のファイル形式でブックを保存する ブック内の問題を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する テキストファイルからデータをインポートする .csv ファイルからデータをインポートする セル内文字方向の傾き設定 セルの書式設定ダイアログボックスから設定する セルのスタイルを適用する セルの書式設定をクリアする	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
14	【Word/Excel 応用】 アウトライン文書作成 Excel データの文書利用	スタイルの適用と設定 アウトラインの表示と利用 文書への Excel 表や Excel グラフの挿入と設定	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
15	【Excel 応用】 テスト応用課題演習	Excel 応用演習テスト	事前：出題範囲の復習 (90 分)

関連科目

情報リテラシー I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1913) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1912) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	授業中の実習課題 (40%)、模擬試験や総合課題などの演習 (40%)、e-learning(20%)を総合的に評価する。 この授業は演習中心のため、出席 (課題提出) が単位取得の必要条件となる。		
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。 多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。		
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館 2階)		
備考	授業時間外に質問したい場合、Teams のチャット機能で対応します		

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	LMA1826a1		

授業概要・目的	大学生生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成およびデータの取り扱いを行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できること。情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の応用的な使い方と、それらの連携作業を実施できるようになること。 データサイエンスの次ステップにつながる知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。 データサイエンスの基礎的な知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションと復習	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル Word と Excel の連携	事前：情報リテラシーⅠの復習 (50 分) 事後：演習課題の完成・提出 (40 分)
2	データ活用とは 【Word 応用】 効率的な文書の作成と管理 文書の共有と検査	6 データ活用とは (イントロ) 文書内の他の場所にリンクする 文書内の特定の場所やオブジェクトに移動する ページの背景要素を設定する 別のファイル形式で文書を保存する 基本的な文書プロパティを変更する ページの背景色を印刷する 電子文書を共有する 文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 6 回 (60 分) 視聴・テスト
3	データ・AI 利活用の現場 【Word 応用】 表やリストの変換と調整	7 データ・AI 利活用の現場 (イントロ) 文字列に組み込みスタイルを適用する 書式をクリアする 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表全体のサイズを設定する 表を分割する タイトル行の繰返しを設定する 新しい行頭文字や番号書式を定義する アウトラインレベルに応じた番号書式を設定する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 7 回 (60 分) 視聴・テスト
4	データ・AI 利活用の最新動向 【Word 応用】 参考資料の作成と管理	8 データ・AI 利活用の最新動向 (イントロ) 脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する、変更する 引用文献を挿入する 参考文献一覧を挿入する 目次を挿入する ユーザー設定の目次を作成する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 8 回 (60 分) 視聴・テスト
5	データ・AI を扱う上での留意事項 (1) 【Word 応用】 グラフィック要素の変更と設定	13 データ・AI を扱う上での留意事項 (1) (イントロ) アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果やスタイルを適用する グラフィック要素を書式設定する SmartArt グラフィックを書式設定する 3D モデルを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を追加する、変更する オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 13 回 (60 分) 視聴・テスト
6	【Word 応用】 文書の共同作業の管理	コメントを追加する コメントを閲覧する コメントに返答する、対処する コメントを削除する 変更履歴を記録する、削除する 変更履歴を閲覧する 変更履歴を承諾する、元に戻す 変更履歴を設定する	事前：授業テーマの予習 (60 分) 事後：演習課題の完成・提出 (30 分)
7	【Word 応用】 テスト応用課題演習	Word 応用演習テスト	事前：Word の復習 (90 分)
8	データ・AI を扱う上での留意事項 (2) 【Excel 応用】	14 データ・AI を扱う上での留意事項 (2) (イントロ) 名前付き範囲を定義する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 14 回 (60 分) 視聴・テスト

	名前の定義 テーブルとデータの管理	テーブルに名前を付ける セル範囲から Excel のテーブルを作成する テーブルにスタイルを適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルに行や列を追加する、削除する テーブルスタイルのオプションを設定する 集計行を挿入する、設定する 複数の列でデータを並べ替える レコードをフィルタする	
9	【Excel 応用】 数式における名前の利用 グラフの書式設定	数式の中で名前付き範囲やテーブル名を参照する LEN、RIGHT 関数を利用する TEXTJOIN 関数を利用する グラフシートを作成する グラフのレイアウトを適用する グラフのスタイルを適用する アクセシビリティ向上のため、グラフに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
10	データを説明する	11 データを説明する データを比較するためのグラフ 時間の推移を見せるためのグラフ データ相互の関係を示すためのグラフ データの偏りを示すためのグラフ データの比較 適切なグラフ表現 優れた可視化事例	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：E-第 11 回 (60 分) 視聴・テスト
11	データを扱う	12 データを扱う 売り上げを予測する 顧客層を分析する 顧客満足度を把握する 顧客の不満の要因を探る	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：E-第 12 回 (60 分) 視聴・テスト
12	データを守る上での留意事項とまとめ 【Excel 応用】 名前の利用と表示のカスタマイズ	15 データを守る上での留意事項とまとめ (イントロ) 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ヘッダーやフッターをカスタマイズする ウィンドウの表示を変更する ブックの基本的なプロパティを変更する 数式を表示する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 15 回 (60 分) 視聴・テスト
13	【Excel 応用】 共同作業のための設定 セルのスタイルや書式設定	別のファイル形式でブックを保存する ブック内の問題を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する テキストファイルからデータをインポートする .csv ファイルからデータをインポートする セル内文字方向の傾き設定 セルの書式設定ダイアログボックスから設定する セルのスタイルを適用する セルの書式設定をクリアする	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
14	【Word/Excel 応用】 アウトライン文書作成 Excel データの文書利用	スタイルの適用と設定 アウトラインの表示と利用 文書への Excel 表や Excel グラフの挿入と設定	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
15	【Excel 応用】 テスト応用課題演習	Excel 応用演習テスト	事前：出題範囲の復習 (90 分)

関連科目

情報リテラシー I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1913) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1912) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	授業中の実習課題 (40%)、模擬試験や総合課題などの演習 (40%)、e-learning(20%)を総合的に評価する。 この授業は演習中心のため、出席 (課題提出) が単位取得の必要条件となる。		
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要ですが、多くの先輩が受講の後に独学でMOS (Microsoft Office Specialist : マイクロソフト オフィス スペシャリスト) に合格しています。就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。疑問は放置せず何でも質問してください。		
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)		
備考	授業時間外の質問は Teams のメッセージ機能またはメールをお願いします。すぐに返信ができない場合がありますが、できるだけ早くご連絡するようにします。		

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	LMA1826a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成およびデータの取り扱いを行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できること。情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の応用的な使い方と、それらの連携作業を実施できるようになること。 データサイエンスの次ステップにつながる知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。 データサイエンスの基礎的な知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションと復習	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル Word と Excel の連携	事前：情報リテラシーⅠの復習 (50 分) 事後：演習課題の完成・提出 (40 分)
2	データ活用とは 【Word 応用】 効率的な文書の作成と管理 文書の共有と検査	6 データ活用とは (イントロ) 文書内の他の場所にリンクする 文書内の特定の場所やオブジェクトに移動する ページの背景要素を設定する 別のファイル形式で文書を保存する 基本的な文書プロパティを変更する ページの背景色を印刷する 電子文書を共有する 文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 6 回 (60 分) 視聴・テスト
3	データ・AI 利活用の現場 【Word 応用】 表やリストの変換と調整	7 データ・AI 利活用の現場 (イントロ) 文字列に組み込みスタイルを適用する 書式をクリアする 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表全体のサイズを設定する 表を分割する タイトル行の繰返しを設定する 新しい行頭文字や番号書式を定義する アウトラインレベルに応じた番号書式を設定する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 7 回 (60 分) 視聴・テスト
4	データ・AI 利活用の最新動向 【Word 応用】 参考資料の作成と管理	8 データ・AI 利活用の最新動向 (イントロ) 脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する、変更する 引用文献を挿入する 参考文献一覧を挿入する 目次を挿入する ユーザー設定の目次を作成する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 8 回 (60 分) 視聴・テスト
5	データ・AI を扱う上での留意事項 (1) 【Word 応用】 グラフィック要素の変更と設定	13 データ・AI を扱う上での留意事項 (1) (イントロ) アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果やスタイルを適用する グラフィック要素を書式設定する SmartArt グラフィックを書式設定する 3D モデルを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を追加する、変更する オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 13 回 (60 分) 視聴・テスト
6	【Word 応用】 文書の共同作業の管理	コメントを追加する コメントを閲覧する コメントに返答する、対処する コメントを削除する 変更履歴を記録する、削除する 変更履歴を閲覧する 変更履歴を承諾する、元に戻す 変更履歴を設定する	事前：授業テーマの予習 (60 分) 事後：演習課題の完成・提出 (30 分)
7	【Word 応用】 テスト応用課題演習	Word 応用演習テスト	事前：Word の復習 (90 分)
8	データ・AI を扱う上での留意事項 (2) 【Excel 応用】	14 データ・AI を扱う上での留意事項 (2) (イントロ) 名前付き範囲を定義する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 14 回 (60 分) 視聴・テスト

	名前の定義 テーブルとデータの管理	テーブルに名前を付ける セル範囲から Excel のテーブルを作成する テーブルにスタイルを適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルに行や列を追加する、削除する テーブルスタイルのオプションを設定する 集計行を挿入する、設定する 複数の列でデータを並べ替える レコードをフィルタする	
9	【Excel 応用】 数式における名前の利用 グラフの書式設定	数式の中で名前付き範囲やテーブル名を参照する LEN、RIGHT 関数を利用する TEXTJOIN 関数を利用する グラフシートを作成する グラフのレイアウトを適用する グラフのスタイルを適用する アクセシビリティ向上のため、グラフに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
10	データを説明する	11 データを説明する データを比較するためのグラフ 時間の推移を見せるためのグラフ データ相互の関係を示すためのグラフ データの偏りを示すためのグラフ データの比較 適切なグラフ表現 優れた可視化事例	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：E-第 11 回 (60 分) 視聴・テスト
11	データを扱う	12 データを扱う 売り上げを予測する 顧客層を分析する 顧客満足度を把握する 顧客の不満の要因を探る	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：E-第 12 回 (60 分) 視聴・テスト
12	データを守る上での留意事項とまとめ 【Excel 応用】 名前の利用と表示のカスタマイズ	15 データを守る上での留意事項とまとめ (イントロ) 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ヘッダーやフッターをカスタマイズする ウィンドウの表示を変更する ブックの基本的なプロパティを変更する 数式を表示する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 15 回 (60 分) 視聴・テスト
13	【Excel 応用】 共同作業のための設定 セルのスタイルや書式設定	別のファイル形式でブックを保存する ブック内の問題を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する テキストファイルからデータをインポートする .csv ファイルからデータをインポートする セル内文字方向の傾き設定 セルの書式設定ダイアログボックスから設定する セルのスタイルを適用する セルの書式設定をクリアする	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
14	【Word/Excel 応用】 アウトライン文書作成 Excel データの文書利用	スタイルの適用と設定 アウトラインの表示と利用 文書への Excel 表や Excel グラフの挿入と設定	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
15	【Excel 応用】 テスト応用課題演習	Excel 応用演習テスト	事前：出題範囲の復習 (90 分)

関連科目

情報リテラシー I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1913) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1912) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	授業中の実習課題 (40%)、模擬試験や総合課題などの演習 (40%)、e-learning(20%)を総合的に評価する。 この授業は演習中心のため、出席 (課題提出) が単位取得の必要条件となる。		
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。 多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。		
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館 2階)		
備考	授業時間外に質問したい場合、Teams のチャット機能で対応します		

科目名	キャリアデザイン I	科目名 (英文)	Career Planning I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LCA1827a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>よくなることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。 																																																																		
授業方法と留意点	<p>講義には積極的な態度で受講すること。 なお、学籍番号により担当教員が異なるため、各自自身の担当教員・クラスを確認すること。 また、教員により課題の提出方法が異なることもあるので注意すること。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ようこそ、摂南大学へ</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か? 何故必要なのか? ・公と私について考える </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること (事前: 0.5 時間) </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>さあ始めよう! 大学生活を</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶ意味について考えること (事前: 0.5 時間) </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>摂南大学</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・学生生活における目標を考える </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること (0.5 時間) ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること (事後: 0.5 時間) ・大学生活での目標を考えること (0.5 時間) </td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>自己効力感を高めよう</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・設定された個人ワークに取り組むこと (事後: 2 時間) </td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>SDGs について考えよう グループ課題の設定</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs とは何かについて予習しておくこと (事前: 0/5 時間) ・グループで課題に取り組むこと (2 時間) </td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>社会は君を待っている</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で求められる人材について考えること (事後: 0.5 時間) </td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>社会の仕組み①</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (事後: 0.5 時間) </td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>社会の仕組み②</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (事後: 0.5 時間) </td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分づくり①</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (事前: 0.5 時間) </td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>自分づくり②</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (事後: 0.5 時間) </td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>スケジューリング術</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること (事後: 0.5 時間) </td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ビブリオバトル</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (事前: 1 時間) </td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>グループ課題の発表会</td> <td>グループ課題の発表会</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること (事前: 0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (事後: 0.5 時間) </td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>グループ課題の発表会</td> <td>・グループごとのプレゼンテーション</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること (0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (事後: 0.5 時間) </td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>講義のおさらい</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・講義 4 で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること (0.5 時間) ・期末レポートを作成すること (1.5 時間) </td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か? 何故必要なのか? ・公と私について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること (事前: 0.5 時間) 	2	さあ始めよう! 大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶ意味について考えること (事前: 0.5 時間) 	3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・学生生活における目標を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること (0.5 時間) ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること (事後: 0.5 時間) ・大学生活での目標を考えること (0.5 時間) 	4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された個人ワークに取り組むこと (事後: 2 時間) 	5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs とは何かについて予習しておくこと (事前: 0/5 時間) ・グループで課題に取り組むこと (2 時間) 	6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で求められる人材について考えること (事後: 0.5 時間) 	7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (事後: 0.5 時間) 	8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (事後: 0.5 時間) 	9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (事前: 0.5 時間) 	10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (事後: 0.5 時間) 	11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること (事後: 0.5 時間) 	12	ビブリオバトル	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (事前: 1 時間) 	13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること (事前: 0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (事後: 0.5 時間) 	14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること (0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (事後: 0.5 時間) 	15	講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 4 で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること (0.5 時間) ・期末レポートを作成すること (1.5 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か? 何故必要なのか? ・公と私について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること (事前: 0.5 時間) 																																																																
2	さあ始めよう! 大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶ意味について考えること (事前: 0.5 時間) 																																																																
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・学生生活における目標を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること (0.5 時間) ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること (事後: 0.5 時間) ・大学生活での目標を考えること (0.5 時間) 																																																																
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された個人ワークに取り組むこと (事後: 2 時間) 																																																																
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs とは何かについて予習しておくこと (事前: 0/5 時間) ・グループで課題に取り組むこと (2 時間) 																																																																
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で求められる人材について考えること (事後: 0.5 時間) 																																																																
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (事後: 0.5 時間) 																																																																
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (事後: 0.5 時間) 																																																																
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (事前: 0.5 時間) 																																																																
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (事後: 0.5 時間) 																																																																
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること (事後: 0.5 時間) 																																																																
12	ビブリオバトル	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (事前: 1 時間) 																																																																
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること (事前: 0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (事後: 0.5 時間) 																																																																
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること (0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (事後: 0.5 時間) 																																																																
15	講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 4 で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること (0.5 時間) ・期末レポートを作成すること (1.5 時間) 																																																																
関連科目	<p>キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ</p>																																																																		

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 (30%)、グループ課題(20%)、最終レポート (50%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山) 7号館階 教育イノベーションセンター (水野)			
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 なお、課題の提出方法は教員により異なる (Moodle か Web フォルダー等) ので各教員の指示に従うこと。			

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名 (英文)	Career Planning II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LCA1828a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。 受講クラスは学籍番号によって異なるので注意すること。 ※2021年度以前の学生は再履修クラスで受講すること。
科目学習の効果(資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生生活1年目で経験したことを思い出しておくこと(事前:1時間) ・配布したレジュメを見直すこと(事後:0.5時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしてまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後:2時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べる(事後:0.5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べる(0.5時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後1時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後:0.5時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後:0.5時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前:0.5時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5時間)
13	自分を高める⑤	・講義⑨⑩⑪の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前:1時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題について調べる(事前:0.5時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5時間)

関連科目 キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) グループワーク(20%)、授業参加度(30%)、レポート(50%)を総合的に評価する。

学生への 来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加す

メッセージ	ること。
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (石井) 7号館3階 教育イノベーションセンター (水野・津村)
備考	

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名 (英文)	Career Planning II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LCA1828a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。 受講クラスは学籍番号によって異なるので注意すること。 ※2021年度以前の学生は再履修クラスで受講すること。
科目学習の効果(資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生生活1年目で経験したことを思い出しておくこと(事前:1時間) ・配布したレジュメを見直すこと(事後:0.5時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしてまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後:2時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べる(事後:0.5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べる(0.5時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後1時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後:0.5時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後:0.5時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前:0.5時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5時間)
13	自分を高める⑤	・講義⑨⑩⑪の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前:1時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題について調べる(事前:0.5時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5時間)

関連科目 キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) グループワーク(20%)、授業参加度(30%)、レポート(50%)を総合的に評価する。

学生への 来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加す

メッセージ	ること。
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (石井) 7号館3階 教育イノベーションセンター (水野・津村)
備考	

科目名	エンプロイメントデザイン I	科目名 (英文)	Employment Design I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LCA1829a1		

授業概要・目的	この科目は学生が「協働作業」「意思決定」「創造的志向」「探求」など、エンプロイアビリティ（将来社会に出て仕事をする際に必要な能力）の獲得の必要性を認識するための科目である。 また、大教室での多くの学生と共に話を聴き、理解しようとする態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を行うことで、自分には思いつかなかった考え方に気づくようになることが期待される。
到達目標	講義、個人ワーク、グループワークを通じて、目標と手段、意思決定や探求に向けて試行錯誤することができるようになることが目標である。
授業方法と留意点	「学びを通じて学び方を学ぶ」姿勢をもつことを心がける。また、講義で出た課題を実践し、振り返ることが課題となることもあるため、メモを取る習慣を身に付ける。 この科目は1年生向けの科目で、2022年度入学生のみ履修ができる。 また、履修上限は200名とする。

科目学習の 効果（資格）	
-----------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	私がNO.1プロジェクト①	<ul style="list-style-type: none"> 今、自分が属しているコミュニティにおいて、何かで「NO.1になる」ための計画を立て、実践する 	<ul style="list-style-type: none"> 設定した課題を実践すること(2時間)
3	私がNO.1プロジェクト② 中間振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 講義3で設定した個別の課題の経過、結果をグループで共有する 	<ul style="list-style-type: none"> グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること(0.5時間)
4	仕事で使うスキルについての解説	<ul style="list-style-type: none"> 定量、定性分析の概説、定量分析の3つの場面の概説 自身の意見を発することの大事さを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 講義内容を振り返ること(0.5時間)
5	私がNO.1プロジェクト③最終 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 講義3で設定した個別の課題の結果の振り返り、共有 	<ul style="list-style-type: none"> グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること 第一回課題「NO.1プロジェクトの振り返り」レポートを作成すること(2時間)
6	仕事で使うスキル① 数字を用いて意思決定を行う①	<ul style="list-style-type: none"> 損益分岐点を使った意思決定方法を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
7	仕事で使うスキル② 数字を用いて意思決定を行う②	<ul style="list-style-type: none"> 機会費用と埋没費用を使った意思決定、重み付けを使った意思決定の方法を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容を振り返り、日常生活で活かせる場面を考えること(1時間)
8	仕事で使うスキル③ 自身の意見を発信することを学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 意見と他者に同意する・反対することのみとの違いを理解する 自分の意見を発信するためのスキルを学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること(1時間)
9	仕事で使うスキル④ 議論を進めるファシリテーションの基本	<ul style="list-style-type: none"> グループで議論する際の基本的なスキルを学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること(1時間)
10	仕事で使うスキル⑤ 創造的思考法を用いる	<ul style="list-style-type: none"> アサンプションスマッシングなどアイデアを出すために思考を拡散させる技法を用いてグループワークを行う 	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること(1時間)
11	グループでリサーチプロポーザル (研究計画書)を作ろう	<ul style="list-style-type: none"> グループワーク「グループで課題研究のためのリサーチプロポーザル(研究計画書)」の作成 	<ul style="list-style-type: none"> グループで課題に取り組むこと(2時間)
12	担当講師のキャリアについて①	<ul style="list-style-type: none"> 担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく 	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
13	担当講師のキャリアについて②	<ul style="list-style-type: none"> 担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく 	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
14	グループで研究計画書を発表	<ul style="list-style-type: none"> 講義10で取り組んだ課題をグループごとに発表する 	<ul style="list-style-type: none"> 自グループ、及び他グループの発表内容を振り返ること 第二回課題「グループレポート」提出(0.5時間)
15	講義のまとめ(担当:教育イノベーションセンター)	<ul style="list-style-type: none"> エンプロイメントデザインIの振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> 講義全体を振り返ること 第三回課題「講義の最終レポート」を作成すること(2時間)

関連科目	キャリアデザインI・キャリアデザインII・エンプロイメントデザインII
------	-------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	毎回のミニツッパーパー (15%)、グループワーク (10%)、グループレポート (10%)、個人レポート 3 回 (65%) を総合的に判断する。		
学生への メッセージ	自身の将来の職業選択を考えるために、様々な課題を真摯な態度で聴いてほしい。 また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切に、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。		
担当者の 研究室等	7号館 5階 教育イノベーションセンター (石井) 7号館 3階 教育イノベーションセンター (水野)		
備考	教科書：各回、必要に応じ、プリント配布。 参考書：各回、必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。 中間課題の評価基準・書き方に関する注意事項は講義内またはポータルサイト/Teams で伝達する。		

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LPH1833a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。

授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。感染症対策の観点から、更
----------	---

科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。
--------------	--------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	事前：授業概要・目的などを学習する (30分) 事後：本実習の理解を深める (30分)
	2	・軽運動	ストレッチ、軽度のエクササイズ	事前：ストレッチ等を行い授業の準備を行う (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
	3	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分)
	4	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分)
	5	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)
	6	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
	7	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
	8	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
	9	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
	10	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
	15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：全授業の総括 (30分)

関連科目	生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25% ※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
-----------	---

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 感染予防の観点から予定通りに開講できない種目もあり得ますので、ご了承ください。
-----------	--

	1回目のガイダンス時に感染症対策に関する内容もお伝えしますので、1回目の授業に必ず出席してください。 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)
担当者の 研究室等	総合体育館1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LPH1833a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。

授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。感染症対策の観点から、更
----------	---

科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。
--------------	--------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
	2	・軽運動	ストレッチ、軽度のエクササイズ	事前：ストレッチ等を行い授業の準備を行う（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
	3	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30分） 事後：自身の体力についての振り返り（30分）
	4	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30分） 事後：自身の体力についての振り返り（30分）
	5	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（30分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30分）
	6	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
	7	・基本技術（基礎編1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
	8	・基本技術（基礎編2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
	9	・基本技術（応用編1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
	10	・基本技術（応用編2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
	15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：全授業の総括（30分）

関連科目	生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25% ※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
-----------	---

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 感染予防の観点から予定通りに開講できない種目もあり得ますので、ご了承ください。
-----------	--

	1回目のガイダンス時に感染症対策に関する内容もお伝えしますので、1回目の授業に必ず出席してください。 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)
担当者の 研究室等	総合体育館1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LPH1834a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。

授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。感染症対策の観点から、更
----------	---

科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。
-------------	--------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る
3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り
4	・基本技術（基礎編1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
5	・基本技術（基礎編2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
6	・基本技術（応用編1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
7	・基本技術（応用編2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
15	・ゲーム ・2年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2年次ガイダンス等を行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25% ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
----------	--

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 感染予防の観点から予定通りに開講できない種目もあり得ますので、ご了承ください。 1回目のガイダンス時に感染症対策に関する内容もお伝えしますので、1回目の授業に必ず出席してください。
-----------	--

	実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)
担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LPH1834a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。

授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。感染症対策の観点から、更
----------	---

科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。
--------------	--------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る
3	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り
4	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
5	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
6	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
7	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
15	・ゲーム ・2年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2年次ガイダンス等を行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25% ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
-----------	--

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。感染予防の観点から予定通りに開講できない種目もあり得ますので、ご了承ください。1回目のガイダンス時に感染症対策に関する内容もお伝えしますので、1回目の授業に必ず出席してください。
-----------	--

	実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)
担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ (コースに適したもの)

科目名	地域と私	科目名 (英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: A○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01452a1, L科: LL01354a1, D科・S科: IL01361a1, P科: YL01417a2, J科: JL01363a1, W科: WL01342a1, N科: NL01343a1		

授業概要・目的	<p>地域に関わるさまざまな視点を学び、それについて他者と対話することを通じて、受講生一人ひとりがこれから地域とどのように向き合い、どのように行動していくかを考えていきます。 本講義は、対話、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に取り入れながら進めます。</p> <p>SDGs—1, 3, 4, 5, 7, 8, 9, 10, 11, 13, 14, 15, 17</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域が抱えるさまざまな課題を把握する。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループにおける自分の役割を理解しながら活動できる。 ・地域の担い手としての自覚を持ち、自身と地域との今後の関わり方を具体的に描くことができる。 																		
授業方法と留意点	<p>グループでの対話や発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。 グループワークで学習を進めますので、グループのメンバーに迷惑がからぬよう責任のある行動をしてください。</p> <p>講義は基本的に土曜日に不定期開催します。なお、講義の日程は変更となる場合があります。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><4月9日(土) 1～3限> 第1回 「地域と私」への取り組み方; オリエンテーション 授業の進め方/ひとこと自己紹介 第2回 地域との関わり方 ～『調査されるという迷惑』を読む～ グループディスカッション/教室内での共有 第3回 地域のいまとその担い手 地域福祉の視点から概説/グループディスカッション/教室内での共有</p> <p><4月23日(土) 1～3限> 第4回 インタビューにチャレンジ ～聴く、掘り下げる、まとめる～ グループづくり/グループ内での相互インタビュー/インタビューで聴いた内容をメモする 第5回 質的データの分析にチャレンジ メモの内容を整理する/分析する 第6回 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」をグループ、教室でシェアしよう 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」について教室内プレゼンテーション&ディスカッション</p> <p><5月21日(土) 1, 2限> 第7回 地域に関するテーマを選定しよう 『地域』に関する文献の整理』についてのグループ内プレゼンテーション/グループで取り組むテーマの決定/グループワークの実施スケジュールの検討 第8回 グループワークについてシェアしよう グループワークテーマの教室内での共有・対話</p> <p><6月4日(土) 1, 2限> 第9回 グループワークに「具体的な地域」の視点を盛り込もう 「地域と防災」を例に考える/選定したテーマを「具体的な地域」から考える 第10回 グループワークに「担い手」の視点を盛り込もう テーマごとに「登場人物」を考える</p> <p><6月18日(土) 1, 2限> 第11回 グループワークの中間報告会 第12回 大学生は地域のためになにができるかを考えよう 地域と学生の協働的実践について概説/地域の担い手としての大学生の可能性/地域の担い手としての大学生の強みと弱みについて考える 個人ワーク/グループディスカッション/教室内での共有</p> <p><7月16日(土) 1～3限> 第13回 最終報告会① 第14回 最終報告会② 第15回 講義のふりかえり</p>																		
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>学びレポート(個人ワーク) 30% 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」『地域』に関する文献の整理」成果物(個人ワーク) 20% 学びのグループワークレポート 30%</p>																		

	最終報告会でのプレゼンテーション 20% (ルーブリック評価) なお、60%で合格とする。
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。
担当者の 研究室等	7号館3階 上野山研究室
備考	

科目名	地域実習	科目名 (英文)	Introductory Training for Regional Study
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎, 古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1～TT01465a1, L科: LT01366a1～LT01370a1, D科・S科: IT01371a1～IT01375a1, J科: JT01374a～JT01378a1, W科: WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	地域での課題を発見し、それを解決できる力を養うには、まず「地域」というものを体験を通じ理解することから始まります。本科目は、ソーシャルイノベーション副専攻課程1年次の必修科目で、主としてフィールドワークを中心に授業を実施します。また、本科目は2年次の「摂南大学PBLプロジェクト」、3年次の「地域貢献実践演習」等の基礎となる科目として位置づけられています。地域の人々とのコミュニケーションや協働を通じて、目標の設定から達成までの過程を体験学習により学び、地域での課題等について理解を図ります。																
到達目標	①地域での実態を理解する。 ②チームで働く意義を理解する。 ③役割行動のあり方について理解する。 ④地域の方々とのコミュニケーションができるようになる。																
授業方法と留意点	教室での授業とグループワーク、フィールドワークです。通年授業なので毎週、教室で授業があるのではなく、詳しいスケジュールは第1回授業で案内します。																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	1 チーム10名以内のチームを作り、地域での活動に取り組みます。 1. 年間計画を作成する。 2. 役割を決める。 3. 地域等で活動を行う。 4. 活動報告をまとめ、ふりかえる。 5. スケジュール管理をする。 6. 課題があれば、チームで話し合い解決に導く。 上記の1～6の活動を通じて自分たちの計画を自ら評価したり改善したりしながら、当初に設定した目標を達成できるよう、チームで協力して計画を実行していきます。第1回授業は4月12日(火)6時間目です。この時に詳しい内容やスケジュールを説明し、受講者がどの取組内容に参加するかなどを決定します。 この授業の実習先は寝屋川市の社会教育施設を予定しています。社会教育施設とは図書館、博物館、体育館、ホールなど市民なら誰でも学習にいくことのできる公的施設のことです。このような施設に実習にいくことによって市民が社会教育に参加する意義や運営の課題などを学んでいきます。 【前期】 開講時間はいずれも6時間目です。通年授業なので毎週教室で授業があるのではなく、前期は2週間に1回程度です。実習や実習先挨拶以外の日は学内教室での授業です。具体的な日には調整中ですので、第1回授業で案内します。 第1回「ガイダンス (授業概要の説明)」 第2回「寝屋川市の現状を考える(1)」 第3回「寝屋川市の現状を考える(2)」 第4回「寝屋川市まちあるき」(学外) 第5回「社会教育とは(1)」 第6回「社会教育とは(2)」 第7回「まちあるき報告会」 第8回「実習先挨拶」(学外) 第9回「実習先挨拶の結果報告とそのふりかえり」 第10回～第18回 「実習」(学外)(主に夏季休暇中に行います) 【後期】 後期の詳しい日程・発表方法等は改めてお知らせします。 第19回「実習ふりかえり(1)」 第20回「実習ふりかえり(2)」 第21回「全体報告会」																
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	提出物(20%)、活動への参画の程度(40%)、最終報告プレゼンテーション(20%)、最終レポート(20%)																
学生へのメッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみましよう!																
担当者の研究室等備考	朝田研究室 1号館7階																

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)	科目名(英文)	Overseas Study for Global Citizenship(Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,J科:DP1◎,W科:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,J科:JT01374a1~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習(応用)での学びに生かすことが期待される。</p> <p>なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMPの必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。TOEIC(英語の場合)の得点アップなど、客観的指標での成果も得る。 英語力または現地言語の能力が不十分、現地事情の理解が不十分などの理由で、「理想とするレベルでの相互理解や信頼関係の構築には至らなかった」という挫折体験も得る。挫折体験と、その体験を帰国後の学びに生かすための計画を自身の言葉で説明できる。 <p>※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。</p>			
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 グローバル・シチズンシップ副専攻課程を履修する学生の履修を想定しているが、そうでない学生が本科目を単独で履修することもできる。 年度末にあたる2~3月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。 			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会~事前授業~現地派遣~事後授業のサイクルが、年間2回実施される。()内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の2~3月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 募集説明会:4月中旬(9月下旬~10月上旬) 事前授業10回:6月中下旬~7月下旬(11月~2月) 現地派遣:2週間程度 8月中旬~9月上中旬(2月中下旬~3月下旬) 事後授業5回(成果報告会含む):9月~10月中旬(3月~4月下旬) <p>【注意】新型コロナウイルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。詳細は随時ポータルサイトで連絡します。</p> <p>本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしないといけない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の2~3月に現地派遣されるプログラムの場合、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地で必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップであるECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALLの英語e-learningサービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまてはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるように行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書(レポート)および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p>			
関連科目	グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)			
学生への メッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。			
担当者の 研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は2号館2階グローバル教育センター(旧：国際交流センター)まで			
備考				

科目名	体験型特別実習	科目名(英文)	Experience-Based Training Program
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	沖中 美喜
ディプロマポリシー(DP)	DP3o, DP4o, DP8Δ		
科目ナンバリング	LDL1565a0		

授業概要・目的	観光立国を目指す日本において、エアラインの役割はますます重要となってきた。 まず、交通インフラの拠点である空港の役割を把握する。そして、航空機を運航するための機能と多様な職種の役割、協力を理解し、さらに、お客様満足「安全」「安心」「定時制」「快適性」「顧客満足」を得るための努力を理解する。 その後の空港研修により、授業で得た知識を実際の目で確認するとともに、将来の就業意識を高める。 なお、この科目は、航空会社の客室乗務員として現業部門を担当した教員による、パッケージプログラム実習・演習科目の一つです。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> エアラインの仕事の多様性を理解する。 空港見学により、1機の飛行機を飛ばすために各部門がどのように連携し、どのような想いを持っているのか感じ取る。 自らの将来像を描く。 																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 本学内での事前・事後授業と中部空港研修(2泊3日)による。 空港見学の際は、細かい身だしなみ基準に従うこと。 ※実習に参加可能な人数に制限がありますので、注意してください。(詳細は事前の説明会にて) プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは授業のなかで実施する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	事前事後授業と空港研修39時間から成る。 <ul style="list-style-type: none"> 説明会 事前授業 2日間 <ol style="list-style-type: none"> ①オリエンテーションとマナー ②エアラインの現状 ③空港の役割 ④GSの仕事 ⑤グランドハンドリングとオペレーション ⑥CAの仕事 神戸・関空・伊丹の3空港について自主学習 中部空港研修(2泊3日でGSの仕事を体験) 研修報告会 																
関連科目	ホスピタリティ論 エアラインビジネス論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	小レポート20%, 自主学習レポート30%, 授業への参加態度30%, プレゼンテーション20%																
学生へのメッセージ	空港の裏側は普段見ることができません。グランドスタッフが、CAがどのように働いているのか見てみませんか。ホスピタリティ産業の最前線の現場を知るいい機会です。																
担当者の研究室等	7号館4階(エアライン・ホスピタリティプログラムルーム)																
備考																	

科目名	体験型特別実習	科目名 (英文)	Experience-Based Training Program
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP3o, DP4o, DP8Δ		
科目ナンバリング	LDL1565a0		

授業概要・目的	<p>本学部のパッケージプログラムは、学生の主体性・自主性を喚起し、将来のキャリアについて体系的に学ぶことを目的としている。この「体験型特別実習 B」科目では、学生自身が主体的に計画、参加した社会的活動についてその活動内容や成果を日誌やプレゼン、レポートの形式（授業内容の項目で詳述）で事後に報告し、審査を経て単位を取得するが認定される。ここでいう社会的活動とは、上で述べたパッケージプログラムの趣旨に合致する授業外の研究活動やインターンシップ、ボランティア活動などを指す。事後申請型の科目なので事前に履修登録は行わない。</p> <p>この科目は、パッケージプログラムの実習・演習科目の一つです。</p>																
到達目標	<p>事前授業によってこの科目の趣旨と評価基準を十分理解したうえで、自ら立てた活動計画に基づいて活動できる自主性、積極性の獲得を目指す。さらにその活動内容とそこで得られたものについて詳細かつ分かりやすく表現できる力をつける。</p>																
授業方法と留意点	<p>学内で行われる事前授業や事後授業の実施日は追ってポータル等で案内する。単位申請の対象となるのは申請時から遡って2年以内の活動（ただし、本学在学中のものに限る）とする。また、事前授業や事後授業、単位申請の受け付け、審査、認定はすべて外国語学部が行うが、活動そのものには関与しないので、活動への申し込みや先方への問い合わせも学生自身が行い、主催団体等の規定やスケジュールに従いながら行動すること。</p> <p>プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは授業のなかで実施する。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業は以下の順に進める。単位申請は事前、事後すべての授業への参加を条件とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 事前授業（4月～5月） 本科目の申請対象となる活動について、必要時間数や安全面での注意事項などについて理解する。科目の趣旨や到達目標、申請方法、評価の方法や基準、事後授業のスケジュール、さらに日誌ノートの書き方などについて学ぶ。 活動への参加（時期は活動によって異なる） 主催団体等の広報資料を集めるなどして、自分で活動計画を立てたうえで、活動に必要な手続きを進める。主催団体等によるガイダンスや審査を経て活動に参加することになれば、現地での滞在期間に日誌を書く。 事後授業（11月上旬予定） 審査のスケジュールや方法について学び、プレゼンテーションやレポート作成作業に備える。また、日誌など単位申請に必要な文書について確認し、不備があれば指導を受ける。 事後授業2（11月下旬予定） 申請者が現地で活動した内容やその成果を示す写真や映像を用いながら報告を行う。中西および数名の学部教員が審査に当たる。このあと、参加した活動の内容やそこで得られた成果をテーマとして2,000字程度のレポートを指定された締め切り日までに提出する。なお、ここでのプレゼンテーションやレポートが活動を主催する団体が求めるとは別のものであることに注意。 事後授業3（2月上旬予定） プレゼンテーションやレポートの審査にあたった教員が講評を行う。 																
関連科目	体験型特別実習 A, 海外実習, 海外インターンシップなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	事前事後授業での取り組み、日誌（60%）、プレゼンテーション、レポート（40%）をもとに総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等備考	7号館5階（浅野研究室）																

科目名	世界を学ぶ	科目名(英文)	Learning about the World
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	加来 奈奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1566a0		

授業概要・目的	<p>本学部で学ぶ前提として、世界と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けることを目的とする。現下の国際情勢は、一層混迷の度合いを深めている。今後、世界が向かう先を考える上で足掛かりになるのは、世界各地の地理、歴史、文化に関する基礎的な知見である。それを得ることで、私たちは自らと世界のあいだの距離を測り、世界にかかわる道を拓くことができる。本授業では、講義と演習を交互に組み合わせ、単なる知識の修得に留まらず、自らの言葉で発信できるようにする。</p>																		
到達目標	<p>世界と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けられる</p>																		
授業方法と留意点	<p>3クラスに分かれて行う。各クラスとも3名の教員が交替で担当する。 1回目は導入、14・15回目はまとめとする。 2～5回、6～9回、10～13回はそれぞれテーマに沿った講義と演習を組み合わせた授業を行う。 数名ずつに分かれてのグループでの作業やディスカッションが中心となる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>第1回 授業・進め方の説明 Teamsの説明 導入のレポートをまとめる。</p> <p>※第2～13回は、クラスによって順番が異なる。</p> <p>第2～5回 (担当：加来) 世界の食文化を、各地域の歴史、地理、観光、経済など様々な面から考える。世界の食文化を概観したうえで、特定の地域に関する食文化や食材について深く調べ、発表・議論する。この過程で、世界の食文化の多様性を理解するとともに、食を通して見える世界を捉える。</p> <p>第6～9回 (担当：橋本) 世界を理解する上で欠かせない「人種」概念について考える。人種やそれに関連する語が日本においてどのように使われているのかについて調べ、発表・議論する。そして、人種概念が誤って使われている事例や近年の動きをもとに、多様な人々が暮らしている世界の理解を深める。</p> <p>第10～13回 (担当：森) 日本と東アジア諸国(諸地域)―南北朝鮮、中国、台湾―の関係を考えてみる。キーワードは「歴史(主に近現代史)」と「記憶」である。東アジアにおいてキーポイントとなった重要な出来事や人物が、それぞれの国・地域で現在どのように記憶され語られているのか。共通点と違いを見つけ出し、その理由を考察してみる。</p> <p>第14回 これまでの学習を振り返りディスカッションする。 第15回 前回のディスカッションを踏まえて、レポートをまとめる。</p> <p>事前事後学習では、ディスカッションやプレゼンの準備を進める、レポートをまとめることが必要である。</p>																		
関連科目	<p>日本を学ぶ すべてのプロジェクト科目</p>																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>演習での取り組み60%(20%×3)、初回課題10%、最終課題30%</p>																		
学生へのメッセージ	<p>考えて意見を言ってみたり、他人の話を聞いてみたり、楽しんで取り組んでみましょう。</p>																		
担当者の研究室等	<p>加来(7号館4階) 橋本(7号館4階) 森(7号館5階)</p>																		
備考	<p>事前事後学習時間の目安は60時間。</p>																		

科目名	世界を学ぶ	科目名(英文)	Learning about the World
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1566a0		

授業概要・目的	<p>本学部で学ぶ前提として、世界と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けることを目的とする。現下の国際情勢は、一層混迷の度合いを深めている。今後、世界が向かう先を考える上で足掛かりになるのは、世界各地の地理、歴史、文化に関する基礎的な知見である。それを得ることで、私たちは自らと世界のあいだの距離を測り、世界にかかわる道を拓くことができる。本授業では、講義と演習を交互に組み合わせ、単なる知識の修得に留まらず、自らの言葉で発信できるようにする。</p>																		
到達目標	<p>世界と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けられる</p>																		
授業方法と留意点	<p>3クラスに分かれて行う。各クラスとも3名の教員が交替で担当する。 1回目は導入、14・15回目はまとめとする。 2～5回、6～9回、10～13回はそれぞれテーマに沿った講義と演習を組み合わせた授業を行う。 数名ずつに分かれてのグループでの作業やディスカッションが中心となる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>第1回 授業・進め方の説明 Teamsの説明 導入のレポートをまとめる。</p> <p>※第2～13回は、クラスによって順番が異なる。</p> <p>第2～5回 (担当：加来) 世界の食文化を、各地域の歴史、地理、観光、経済など様々な面から考える。世界の食文化を概観したうえで、特定の地域に関する食文化や食材について深く調べ、発表・議論する。この過程で、世界の食文化の多様性を理解するとともに、食を通して見える世界を捉える。</p> <p>第6～9回 (担当：橋本) 世界を理解する上で欠かせない「人種」概念について考える。人種やそれに関連する語が日本においてどのように使われているのかについて調べ、発表・議論する。そして、人種概念が誤って使われている事例や近年の動きをもとに、多様な人々が暮らしている世界の理解を深める。</p> <p>第10～13回 (担当：森) 日本と東アジア諸国(諸地域)―南北朝鮮、中国、台湾―の関係を考えてみる。キーワードは「歴史(主に近現代史)」と「記憶」である。東アジアにおいてキーポイントとなった重要な出来事や人物が、それぞれの国・地域で現在どのように記憶され語られているのか。共通点と違いを見つけ出し、その理由を考察してみる。</p> <p>第14回 これまでの学習を振り返りディスカッションする。 第15回 前回のディスカッションを踏まえて、レポートをまとめる。</p> <p>事前事後学習では、ディスカッションやプレゼンの準備を進める、レポートをまとめることが必要である。</p>																		
関連科目	<p>日本を学ぶ すべてのプロジェクト科目</p>																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>演習での取り組み60%(20%×3)、初回課題10%、最終課題30%</p>																		
学生へのメッセージ	<p>考えて意見を言ってみたり、他人の話を聞いてみたり、楽しんで取り組んでみましょう。</p>																		
担当者の研究室等	<p>加来(7号館4階) 橋本(7号館4階) 森(7号館5階)</p>																		
備考	<p>事前事後学習時間の目安は60時間。</p>																		

科目名	世界を学ぶ	科目名(英文)	Learning about the World
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1566a0		

授業概要・目的	<p>本学部で学ぶ前提として、世界と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けることを目的とする。現下の国際情勢は、一層混迷の度合いを深めている。今後、世界が向かう先を考える上で足掛かりになるのは、世界各地の地理、歴史、文化に関する基礎的な知見である。それを得ることで、私たちは自らと世界のあいだの距離を測り、世界にかかわる道を拓くことができる。本授業では、講義と演習を交互に組み合わせ、単なる知識の修得に留まらず、自らの言葉で発信できるようにする。</p>																		
到達目標	<p>世界と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けられる</p>																		
授業方法と留意点	<p>3クラスに分かれて行う。各クラスとも3名の教員が交替で担当する。 1回目は導入、14・15回目はまとめとする。 2～5回、6～9回、10～13回はそれぞれテーマに沿った講義と演習を組み合わせた授業を行う。 数名ずつに分かれてのグループでの作業やディスカッションが中心となる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>第1回 授業・進め方の説明 Teamsの説明 導入のレポートをまとめる。</p> <p>※第2～13回は、クラスによって順番が異なる。</p> <p>第2～5回 (担当：加来) 世界の食文化を、各地域の歴史、地理、観光、経済など様々な面から考える。世界の食文化を概観したうえで、特定の地域に関する食文化や食材について深く調べ、発表・議論する。この過程で、世界の食文化の多様性を理解するとともに、食を通して見える世界を捉える。</p> <p>第6～9回 (担当：橋本) 世界を理解する上で欠かせない「人種」概念について考える。人種やそれに関連する語が日本においてどのように使われているのかについて調べ、発表・議論する。そして、人種概念が誤って使われている事例や近年の動きをもとに、多様な人々が暮らしている世界の理解を深める。</p> <p>第10～13回 (担当：森) 日本と東アジア諸国(諸地域)―南北朝鮮、中国、台湾―の関係を考えてみる。キーワードは「歴史(主に近現代史)」と「記憶」である。東アジアにおいてキーポイントとなった重要な出来事や人物が、それぞれの国・地域で現在どのように記憶され語られているのか。共通点と違いを見つけ出し、その理由を考察してみる。</p> <p>第14回 これまでの学習を振り返りディスカッションする。 第15回 前回のディスカッションを踏まえて、レポートをまとめる。</p> <p>事前事後学習では、ディスカッションやプレゼンの準備を進める、レポートをまとめることが必要である。</p>																		
関連科目	<p>日本を学ぶ すべてのプロジェクト科目</p>																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>演習での取り組み60%(20%×3)、初回課題10%、最終課題30%</p>																		
学生へのメッセージ	<p>考えて意見を言ってみたり、他人の話を聞いてみたり、楽しんで取り組んでみましょう。</p>																		
担当者の研究室等	<p>加来(7号館4階) 橋本(7号館4階) 森(7号館5階)</p>																		
備考	<p>事前事後学習時間の目安は60時間。</p>																		

科目名	日本を学ぶ	科目名(英文)	Learning about Japan
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1567a0		

授業概要・目的	本学部で学ぶ前提として、日本の文化・社会と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けることを目的とする。国際社会を学ぶ上で、自らの立ち位置である日本について知ることは必須である。地理、歴史、社会、文化といったさまざまな視角から日本について学び、世界の国々と比較することで社会や人について考察を深める。本授業では講義と演習を交互に組み合わせ、単なる知識の取得に留まらず、自らの言葉で発信できるようにする。																		
到達目標	日本の文化・社会と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けられる。																		
授業方法と留意点	3クラスに分かれて行う。各クラスとも3名の教員が交替で担当する。 1回目は導入、14・15回目はまとめとする。 2～5回、6～9回、10～13回はそれぞれテーマに沿った講義と演習を組み合わせた授業を行う。 数名ずつに分かれてのグループでの作業やディスカッションが中心となる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>第1回 授業・進め方の説明 Teamsの説明 導入のレポートをまとめる</p> <p>※第2～13回は、クラスによって順番が異なる。</p> <p>第2～5回 (有馬) 「日本の風景」をテーマとする。風景と言ってもさまざまな角度から考えることができる。日本の原風景、ふるさとの風景、日常の風景、未来の風景等々。風景と風土の関連も重要な問題となる。風景から見えてくる日本についてともに考えていく。</p> <p>第6～9回 (田中) 「日本人と労働」というテーマで考える。歴史上、人間はさまざまな形で働き続けてきたが、現代社会で私たちが働くときには、法に定められたルールに従わなければならない。そこにはどのようなルールが、なぜ存在しているのか。主として労働法の観点から、「日本で働くこと」について考えていく。</p> <p>第10～13回 (橋本) 「日本人と信仰」というテーマで考える。しばしば日本人は信仰心が薄いと指摘され、また宗教を忌避する若者も多い。一方で冠婚葬祭や祭りは、宗教と深く関わっている。様々な材料から、日本人と信仰について考えていく。</p> <p>第14回 これまでの学習を振り返り、ディスカッションする。 第15回 前回のディスカッションを踏まえて、レポートをまとめる。</p> <p>事前事後学習では、ディスカッション、プレゼンの準備や、レポートの作成に取り組む。</p>																		
関連科目	世界を学ぶ すべてのプロジェクト科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	演習での取り組み60% (20%×3)、初回課題10%、最終課題30%																		
学生へのメッセージ	自分の意見を言ったり、他人の考えに耳を傾けたり、楽しんで取り組んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	有馬 (7号館4階) 田中 (7号館4階) 橋本 (7号館4階)																		
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。																		

科目名	日本を学ぶ	科目名(英文)	Learning about Japan
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1567a0		

授業概要・目的	本学部で学ぶ前提として、日本の文化・社会と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けることを目的とする。国際社会を学ぶ上で、自らの立ち位置である日本について知ることは必須である。地理、歴史、社会、文化といったさまざまな視角から日本について学び、世界の国々と比較することで社会や人について考察を深める。本授業では講義と演習を交互に組み合わせ、単なる知識の取得に留まらず、自らの言葉で発信できるようにする。																		
到達目標	日本の文化・社会と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けられる。																		
授業方法と留意点	3クラスに分かれて行う。各クラスとも3名の教員が交替で担当する。 1回目は導入、14・15回目はまとめとする。 2～5回、6～9回、10～13回はそれぞれテーマに沿った講義と演習を組み合わせた授業を行う。 数名ずつに分かれてのグループでの作業やディスカッションが中心となる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>第1回 授業・進め方の説明 Teamsの説明 導入のレポートをまとめる</p> <p>※第2～13回は、クラスによって順番が異なる。</p> <p>第2～5回 (有馬) 「日本の風景」をテーマとする。風景と言ってもさまざまな角度から考えることができる。日本の原風景、ふるさとの風景、日常の風景、未来の風景等々。風景と風土の関連も重要な問題となる。風景から見えてくる日本についてともに考えていく。</p> <p>第6～9回 (田中) 「日本人と労働」というテーマで考える。歴史上、人間はさまざまな形で働き続けてきたが、現代社会で私たちが働くときには、法に定められたルールに従わなければならない。そこにはどのようなルールが、なぜ存在しているのか。主として労働法の観点から、「日本で働くこと」について考えていく。</p> <p>第10～13回 (橋本) 「日本人と信仰」というテーマで考える。しばしば日本人は信仰心が薄いと指摘され、また宗教を忌避する若者も多い。一方で冠婚葬祭や祭りは、宗教と深く関わっている。様々な材料から、日本人と信仰について考えていく。</p> <p>第14回 これまでの学習を振り返り、ディスカッションする。 第15回 前回のディスカッションを踏まえて、レポートをまとめる。</p> <p>事前事後学習では、ディスカッション、プレゼンの準備や、レポートの作成に取り組む。</p>																		
関連科目	世界を学ぶ すべてのプロジェクト科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	演習での取り組み60% (20%×3)、初回課題10%、最終課題30%																		
学生へのメッセージ	自分の意見を言ったり、他人の考えに耳を傾けたり、楽しんで取り組んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	有馬 (7号館4階) 田中 (7号館4階) 橋本 (7号館4階)																		
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。																		

科目名	日本を学ぶ	科目名(英文)	Learning about Japan
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1567a0		

授業概要・目的	本学部で学ぶ前提として、日本の文化・社会と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けることを目的とする。国際社会を学ぶ上で、自らの立ち位置である日本について知ることは必須である。地理、歴史、社会、文化といったさまざまな視角から日本について学び、世界の国々と比較することで社会や人について考察を深める。本授業では講義と演習を交互に組み合わせ、単なる知識の取得に留まらず、自らの言葉で発信できるようにする。																		
到達目標	日本の文化・社会と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けられる。																		
授業方法と留意点	3クラスに分かれて行う。各クラスとも3名の教員が交替で担当する。 1回目は導入、14・15回目はまとめとする。 2～5回、6～9回、10～13回はそれぞれテーマに沿った講義と演習を組み合わせた授業を行う。 数名ずつに分かれてのグループでの作業やディスカッションが中心となる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>第1回 授業・進め方の説明 Teamsの説明 導入のレポートをまとめる</p> <p>※第2～13回は、クラスによって順番が異なる。</p> <p>第2～5回 (有馬) 「日本の風景」をテーマとする。風景と言ってもさまざまな角度から考えることができる。日本の原風景、ふるさとの風景、日常の風景、未来の風景等々。風景と風土の関連も重要な問題となる。風景から見えてくる日本についてともに考えていく。</p> <p>第6～9回 (田中) 「日本人と労働」というテーマで考える。歴史上、人間はさまざまな形で働き続けてきたが、現代社会で私たちが働くときには、法に定められたルールに従わなければならない。そこにはどのようなルールが、なぜ存在しているのか。主として労働法の観点から、「日本で働くこと」について考えていく。</p> <p>第10～13回 (橋本) 「日本人と信仰」というテーマで考える。しばしば日本人は信仰心が薄いと指摘され、また宗教を忌避する若者も多い。一方で冠婚葬祭や祭りは、宗教と深く関わっている。様々な材料から、日本人と信仰について考えていく。</p> <p>第14回 これまでの学習を振り返り、ディスカッションする。 第15回 前回のディスカッションを踏まえて、レポートをまとめる。</p> <p>事前事後学習では、ディスカッション、プレゼンの準備や、レポートの作成に取り組む。</p>																		
関連科目	世界を学ぶ すべてのプロジェクト科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	演習での取り組み60% (20%×3)、初回課題10%、最終課題30%																		
学生へのメッセージ	自分の意見を言ったり、他人の考えに耳を傾けたり、楽しんで取り組んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	有馬 (7号館4階) 田中 (7号館4階) 橋本 (7号館4階)																		
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。																		

科目名	諸言語論講	科目名(英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2Δ, DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1633c0		

授業概要・目的	インドネシア語、スペイン語、中国語の入門およびそれらを使う地域の文化についてそれぞれ5週にわたって学ぶ。これにより、3言語のうちのいずれか一つを1年次後期以降も継続して学ぶための関心を深め、世界の言語や文化の多様性に意識を向けることを目指す。																
到達目標	それぞれの言語の発音や文字表記、挨拶や自己紹介などの初歩的な表現と語彙を学び、その背景となる文化と結びつけながら各地域への関心を深めることができる。また、ここで得た知識や関心をもとに、語圏の歴史や文化に関する基礎的な事項を調べるスキルを身につけることができる。																
授業方法と留意点	学年全体を6つのクラスに分割したうえ、それぞれのクラスでインドネシア語、スペイン語、中国語の授業にアクティブラーニングの手法を取り入れながら行う。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。インドネシア語担当：金子、スペイン語担当：藤井、中国語担当：中西。 第1週～第5週→第6週～第10週→第11週～第15週 Aクラス インドネシア語 → スペイン語 → 中国語 Bクラス 中国語 → インドネシア語 → スペイン語 Cクラス スペイン語 → 中国語 → インドネシア語 Dクラス インドネシア語 → スペイン語 → 中国語 Eクラス 中国語 → インドネシア語 → スペイン語 Fクラス スペイン語 → 中国語 → インドネシア語																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	インドネシア語・スペイン語・中国語をそれぞれ5回ずつ下記の内容について学ぶ。 第1回目：その言語が使われる地域・歴史・生活について知る 第2回目：その言語の音と文字に触れたり日常のあいさつを体験する 第3回目：その言語で文を組み立てて自分を表現する 第4回目：その言語で身の回りの物や行動を表現する 第5回目：第1回～第4回で学んだことの振り返りとこの5回を範囲とするテスト ※それぞれの言語特有の事情により、上とは違った順で授業を行うことがある。また、授業終わりに小テストを実施したりレポートの提出を求めることもある。 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 予習・復習をする 事前事後学習は1回あたり1時間を目安とする。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(40%)、各言語で実施するテスト(20%×3)																
学生へのメッセージ	日本語と英語以外の言語にも触れることで今まで知らなかった世界が見えてくるはずです。この授業がその入り口になることを願っています。																
担当者の研究室等	中西研究室(7号館3階)																
備考	1年次後期では3つの言語のうちどれかを選択したうえで3回の必修科目を履修します。そのためこの科目の授業が終了する7月下旬に言語選択調査を実施し、これらの科目は自動履修になります。なお調査の結果、学年全体で選択言語に極端な偏りがあった場合は、選択理由や適性(この科目の成績)をもとに後期に履修する言語を調整することもあります。																

科目名	諸言語論講	科目名(英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP2Δ, DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1649e0		

授業概要・目的	インドネシア語、スペイン語、中国語の入門およびそれらを使う地域の文化についてそれぞれ5週にわたって学ぶ。これにより、3言語のうちのいずれか一つを1年次後期以降も継続して学ぶための関心を深め、世界の言語や文化の多様性に意識を向けることを目指す。																
到達目標	それぞれの言語の発音や文字表記、挨拶や自己紹介などの初歩的な表現と語彙を学び、その背景となる文化と結びつけながら各地域への関心を深めることができる。また、ここで得た知識や関心をもとに、語圏の歴史や文化に関する基礎的な事項を調べるスキルを身につけることができる。																
授業方法と留意点	<p>学年全体を6つのクラスに分割したうえ、それぞれのクラスでインドネシア語、スペイン語、中国語の授業にアクティブラーニングの手法を取り入れながら行う。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。インドネシア語担当：金子、スペイン語担当：藤井、中国語担当：中西。</p> <p>第1週～第5週→第6週～第10週→第11週～第15週</p> <p>Aクラス インドネシア語 → スペイン語 → 中国語 Bクラス 中国語 → インドネシア語 → スペイン語 Cクラス スペイン語 → 中国語 → インドネシア語 Dクラス インドネシア語 → スペイン語 → 中国語 Eクラス 中国語 → インドネシア語 → スペイン語 Fクラス スペイン語 → 中国語 → インドネシア語</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>インドネシア語・スペイン語・中国語をそれぞれ5回ずつ下記の内容について学ぶ。</p> <p>第1回目：その言語が使われる地域・歴史・生活について知る 第2回目：その言語の音と文字に触れたり日常のあいさつを体験する 第3回目：その言語で文を組み立てて自分を表現する 第4回目：その言語で身の回りの物や行動を表現する 第5回目：第1回～第4回で学んだことの振り返りとこの5回を範囲とするテスト</p> <p>※それぞれの言語特有の事情により、上とは違った順で授業を行うことがある。また、授業終わりに小テストを実施したりレポートの提出を求めることもある。</p> <p>【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 予習・復習をする 事前事後学習は1回あたり1時間を目安とする。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(40%)、各言語で実施するテスト(20%×3)																
学生へのメッセージ	日本語と英語以外の言語にも触れることで今まで知らなかった世界が見えてくるはずです。この授業がその入り口になることを願っています。																
担当者の研究室等	藤井研究室(7号館5階)																
備考	1年次後期では3つの言語のうちどれかを選択したうえで3回の必修科目を履修します。そのためこの科目の授業が終了する7月下旬に言語選択調査を実施し、これらの科目は自動履修になります。なお調査の結果、学年全体で選択言語に極端な偏りがあった場合は、選択理由や適性(この科目の成績)をもとに後期に履修する言語を調整することもあります。																

科目名	諸言語論講	科目名(英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー(DP)	DP2△, DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1649e0		

授業概要・目的	インドネシア語、スペイン語、中国語の入門およびそれらを使う地域の文化についてそれぞれ5週にわたって学ぶ。これにより、3言語のうちのいずれか一つを1年次後期以降も継続して学ぶための関心を深め、世界の言語や文化の多様性に意識を向けることを目指す。																
到達目標	それぞれの言語の発音や文字表記、挨拶や自己紹介などの初歩的な表現と語彙を学び、その背景となる文化と結びつけながら各地域への関心を深めることができる。また、ここで得た知識や関心をもとに、語圏の歴史や文化に関する基礎的な事項を調べるスキルを身につけることができる。																
授業方法と留意点	<p>学年全体を6つのクラスに分割したうえ、それぞれのクラスでインドネシア語、スペイン語、中国語の授業にアクティブラーニングの手法を取り入れながら行う。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。インドネシア語担当：金子、スペイン語担当：藤井、中国語担当：中西。</p> <p>第1週～第5週→第6週～第10週→第11週～第15週</p> <p>Aクラス インドネシア語 → スペイン語 → 中国語 Bクラス 中国語 → インドネシア語 → スペイン語 Cクラス スペイン語 → 中国語 → インドネシア語 Dクラス インドネシア語 → スペイン語 → 中国語 Eクラス 中国語 → インドネシア語 → スペイン語 Fクラス スペイン語 → 中国語 → インドネシア語</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>インドネシア語・スペイン語・中国語をそれぞれ5回ずつ下記の内容について学ぶ。</p> <p>第1回目：その言語が使われる地域・歴史・生活について知る 第2回目：その言語の音と文字に触れたり日常のあいさつを体験する 第3回目：その言語で文を組み立てて自分を表現する 第4回目：その言語で身の回りの物や行動を表現する 第5回目：第1回～第4回で学んだことの振り返りとこの5回を範囲とするテスト</p> <p>※それぞれの言語特有の事情により、上とは違った順で授業を行うことがある。また、授業終わりに小テストを実施したりレポートの提出を求めることもある。</p> <p>【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 予習・復習をする 事前事後学習は1回あたり1時間を目安とする。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(40%)、各言語で実施するテスト(20%×3)																
学生へのメッセージ	日本語と英語以外の言語にも触れることで今まで知らなかった世界が見えてくるはずです。この授業がその入り口になることを願っています。																
担当者の研究室等	インドネシア語：金子研究室(7号館5階)																
備考	1年次後期では3つの言語のうちどれかを選択したうえで3回の必修科目を履修します。そのためこの科目の授業が終了する7月下旬に言語選択調査を実施し、これらの科目は自動履修になります。なお調査の結果、学年全体で選択言語に極端な偏りがあった場合は、選択理由や適性(この科目の成績)をもとに後期に履修する言語を調整することもあります。																

科目名	諸言語論講	科目名(英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2Δ, DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1649e0		

授業概要・目的	インドネシア語、スペイン語、中国語の入門およびそれらを使う地域の文化についてそれぞれ5週にわたって学ぶ。これにより、3言語のうちのいずれか一つを1年次後期以降も継続して学ぶための関心を深め、世界の言語や文化の多様性に意識を向けることを目指す。																
到達目標	それぞれの言語の発音や文字表記、挨拶や自己紹介などの初歩的な表現と語彙を学び、その背景となる文化と結びつけながら各地域への関心を深めることができる。また、ここで得た知識や関心をもとに、語圏の歴史や文化に関する基礎的な事項を調べるスキルを身につけることができる。																
授業方法と留意点	<p>学年全体を6つのクラスに分割したうえ、それぞれのクラスでインドネシア語、スペイン語、中国語の授業にアクティブラーニングの手法を取り入れながら行う。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。インドネシア語担当：金子、スペイン語担当：藤井、中国語担当：中西。</p> <p>第1週～第5週→第6週～第10週→第11週～第15週</p> <p>Aクラス インドネシア語 → スペイン語 → 中国語 Bクラス 中国語 → インドネシア語 → スペイン語 Cクラス スペイン語 → 中国語 → インドネシア語 Dクラス インドネシア語 → スペイン語 → 中国語 Eクラス 中国語 → インドネシア語 → スペイン語 Fクラス スペイン語 → 中国語 → インドネシア語</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>インドネシア語・スペイン語・中国語をそれぞれ5回ずつ下記の内容について学ぶ。</p> <p>第1回目：その言語が使われる地域・歴史・生活について知る 第2回目：その言語の音と文字に触れたり日常のあいさつを体験する 第3回目：その言語で文を組み立てて自分を表現する 第4回目：その言語で身の回りの物や行動を表現する 第5回目：第1回～第4回で学んだことの振り返りとこの5回を範囲とするテスト</p> <p>※それぞれの言語特有の事情により、上とは違った順で授業を行うことがある。また、授業終わりに小テストを実施したりレポートの提出を求めることもある。</p> <p>【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 予習・復習をする 事前事後学習は1回あたり1時間を目安とする。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(40%)、各言語で実施するテスト(20%×3)																
学生へのメッセージ	日本語と英語以外の言語にも触れることで今まで知らなかった世界が見えてくるはずです。この授業がその入り口になることを願っています。																
担当者の研究室等	中西研究室(7号館3階)																
備考	1年次後期では3つの言語のうちどれかを選択したうえで3回の必修科目を履修します。そのためこの科目の授業が終了する7月下旬に言語選択調査を実施し、これらの科目は自動履修になります。なお調査の結果、学年全体で選択言語に極端な偏りがあった場合は、選択理由や適性(この科目の成績)をもとに後期に履修する言語を調整することもあります。																

科目名	諸言語論講	科目名(英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP2Δ, DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1649e0		

授業概要・目的	インドネシア語、スペイン語、中国語の入門およびそれらを使う地域の文化についてそれぞれ5週にわたって学ぶ。これにより、3言語のうちのいずれか一つを1年次後期以降も継続して学ぶための関心を深め、世界の言語や文化の多様性に意識を向けることを目指す。																
到達目標	それぞれの言語の発音や文字表記、挨拶や自己紹介などの初歩的な表現と語彙を学び、その背景となる文化と結びつけながら各地域への関心を深めることができる。また、ここで得た知識や関心をもとに、語圏の歴史や文化に関する基礎的な事項を調べるスキルを身につけることができる。																
授業方法と留意点	学年全体を6つのクラスに分割したうえ、それぞれのクラスでインドネシア語、スペイン語、中国語の授業にアクティブラーニングの手法を取り入れながら行う。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。インドネシア語担当：金子、スペイン語担当：藤井、中国語担当：中西。 第1週～第5週→第6週～第10週→第11週～第15週 Aクラス インドネシア語 → スペイン語 → 中国語 Bクラス 中国語 → インドネシア語 → スペイン語 Cクラス スペイン語 → 中国語 → インドネシア語 Dクラス インドネシア語 → スペイン語 → 中国語 Eクラス 中国語 → インドネシア語 → スペイン語 Fクラス スペイン語 → 中国語 → インドネシア語																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	インドネシア語・スペイン語・中国語をそれぞれ5回ずつ下記の内容について学ぶ。 第1回目：その言語が使われる地域・歴史・生活について知る 第2回目：その言語の音と文字に触れたり日常のあいさつを体験する 第3回目：その言語で文を組み立てて自分を表現する 第4回目：その言語で身の回りの物や行動を表現する 第5回目：第1回～第4回で学んだことの振り返りとこの5回を範囲とするテスト ※それぞれの言語特有の事情により、上とは違った順で授業を行うことがある。また、授業終わりに小テストを実施したりレポートの提出を求めることもある。 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 予習・復習をする 事前事後学習は1回あたり1時間を目安とする。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(40%)、各言語で実施するテスト(20%×3)																
学生へのメッセージ	日本語と英語以外の言語にも触れることで今まで知らなかった世界が見えてくるはずです。この授業がその入り口になることを願っています。																
担当者の研究室等	藤井研究室(7号館5階)																
備考	1年次後期では3つの言語のうちどれかを選択したうえで3回の必修科目を履修します。そのためこの科目の授業が終了する7月下旬に言語選択調査を実施し、これらの科目は自動履修になります。なお調査の結果、学年全体で選択言語に極端な偏りがあった場合は、選択理由や適性(この科目の成績)をもとに後期に履修する言語を調整することもあります。																

科目名	諸言語論講	科目名(英文)	
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー(DP)	DP2Δ, DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1649e0		

授業概要・目的	インドネシア語、スペイン語、中国語の入門およびそれらを使う地域の文化についてそれぞれ5週にわたって学ぶ。これにより、3言語のうちのいずれか一つを1年次後期以降も継続して学ぶための関心を深め、世界の言語や文化の多様性に意識を向けることを目指す。																
到達目標	それぞれの言語の発音や文字表記、挨拶や自己紹介などの初歩的な表現と語彙を学び、その背景となる文化と結びつけながら各地域への関心を深めることができる。また、ここで得た知識や関心をもとに、語圏の歴史や文化に関する基礎的な事項を調べるスキルを身につけることができる。																
授業方法と留意点	<p>学年全体を6つのクラスに分割したうえ、それぞれのクラスでインドネシア語、スペイン語、中国語の授業にアクティブラーニングの手法を取り入れながら行う。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。インドネシア語担当：金子、スペイン語担当：藤井、中国語担当：中西。</p> <p>第1週～第5週→第6週～第10週→第11週～第15週</p> <p>Aクラス インドネシア語 → スペイン語 → 中国語 Bクラス 中国語 → インドネシア語 → スペイン語 Cクラス スペイン語 → 中国語 → インドネシア語 Dクラス インドネシア語 → スペイン語 → 中国語 Eクラス 中国語 → インドネシア語 → スペイン語 Fクラス スペイン語 → 中国語 → インドネシア語</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>インドネシア語・スペイン語・中国語をそれぞれ5回ずつ下記の内容について学ぶ。</p> <p>第1回目：その言語が使われる地域・歴史・生活について知る 第2回目：その言語の音と文字に触れたり日常のあいさつを体験する 第3回目：その言語で文を組み立てて自分を表現する 第4回目：その言語で身の回りの物や行動を表現する 第5回目：第1回～第4回で学んだことの振り返りとこの5回を範囲とするテスト</p> <p>※それぞれの言語特有の事情により、上とは違った順で授業を行うことがある。また、授業終わりに小テストを実施したりレポートの提出を求めることもある。</p> <p>【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 予習・復習をする 事前事後学習は1回あたり1時間を目安とする。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(40%)、各言語で実施するテスト(20%×3)																
学生へのメッセージ	日本語と英語以外の言語にも触れることで今まで知らなかった世界が見えてくるはずです。この授業がその入り口になることを願っています。																
担当者の研究室等	インドネシア語：金子研究室(7号館5階)																
備考	1年次後期では3つの言語のうちどれかを選択したうえで3回の必修科目を履修します。そのためこの科目の授業が終了する7月下旬に言語選択調査を実施し、これらの科目は自動履修になります。なお調査の結果、学年全体で選択言語に極端な偏りがあった場合は、選択理由や適性(この科目の成績)をもとに後期に履修する言語を調整することもあります。																

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー(本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育(ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用方法)の実施 ・レポートの書き方(パソコンによる文章作成) ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー(本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育(ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用方法)の実施 ・レポートの書き方(パソコンによる文章作成) ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他</p> <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー(本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育(ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用方法)の実施 ・レポートの書き方(パソコンによる文章作成) ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー(本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育(ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用方法)の実施 ・レポートの書き方(パソコンによる文章作成) ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他</p> <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー(本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育(ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用方法)の実施 ・レポートの書き方(パソコンによる文章作成) ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柏原 郁子
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー(本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育(ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用方法)の実施 ・レポートの書き方(パソコンによる文章作成) ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他</p> <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー(本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育(ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用方法)の実施 ・レポートの書き方(パソコンによる文章作成) ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー(本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育(ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用方法)の実施 ・レポートの書き方(パソコンによる文章作成) ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー(本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育(ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用方法)の実施 ・レポートの書き方(パソコンによる文章作成) ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																		
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー(本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育(ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用方法)の実施 ・レポートの書き方(パソコンによる文章作成) ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー(本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育(ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用方法)の実施 ・レポートの書き方(パソコンによる文章作成) ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他</p> <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー(本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育(ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用方法)の実施 ・レポートの書き方(パソコンによる文章作成) ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー(本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育(ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用方法)の実施 ・レポートの書き方(パソコンによる文章作成) ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他</p> <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー(本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育(ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用方法)の実施 ・レポートの書き方(パソコンによる文章作成) ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他</p> <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー(本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育(ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用方法)の実施 ・レポートの書き方(パソコンによる文章作成) ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合えることができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)																			
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)																			
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)																			
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)																			
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合えることができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)																			
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)																			
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)																			
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)																			
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)																	
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)																			
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)																			
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)																			
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柏原 郁子
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合えることができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)																			
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	加来 奈奈
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)																			
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他 </p> <p>【事前・事後学習】 <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 </p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)																			
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			